令 和 4 年

会津美里町議会会議録

（含：決算特別委員会）

定例会 9 月会議

9 月 5 日開議～ 9 月 27 日散会

会津美里町議会

令和４年会津美里町議会定例会９月会議会議録目次

第１日　９月５日（月曜日）

○議事日程 …… 1
○本日の会議に付した事件 …… 1
○出欠席議員 …… 2
○説明のため出席した者 …… 2
○事務局職員出席者 …… 2
開　　議　（午前１０時００分） …… 3
○開議の宣告 …… 3
○諸般の報告 …… 3
○会議録署名議員の指名 …… 5
○議案の上程及び提案理由の説明 …… 5
○決算審査概要報告 …… 9
○請願の常任委員会付託について …… １１
○決算特別委員会の設置について …… １１
○議案の決算特別委員会付託について …… １２
○散会の宣告 …… １２
散　　会　（午前１０時４７分） …… １２

決算特別委員会第１日　９月５日（月曜日）

○出欠席委員 …… １３
○説明のため出席した者 …… １３
○事務局職員出席者 …… １４
開　　会　（午前１１時００分） …… １５
○開議の宣告 …… １５
○認定第１号 …… １５
○散会の宣告 …… １５
散　　会　（午前１１時２１分） …… １５

第２日　９月６日（火曜日）

○議事日程 …… １７
○本日の会議に付した事件 …… １７

○出欠席議員 ……１８
○説明のため出席した者 ……１８
○事務局職員出席者 ……１８
開　　議　（午前１０時００分） ……１９
○開議の宣告 ……１９
○一般質問 ……１９
長　嶺　一　也　君 ……１９
山　内　　豪　君 ……３２
大　竹　　惣　君 ……４１
荒　川　佳　一　君 ……５６
星　　次　君 ……６６
○延会の宣告 ……８４
延　　会　（午後　４時３８分） ……８５

第３日　９月７日（水曜日）
○議事日程 ……８７
○本日の会議に付した事件 ……８７
○出欠席議員 ……８８
○説明のため出席した者 ……８８
○事務局職員出席者 ……８８
開　　議　（午前１０時００分） ……８９
○開議の宣告 ……８９
○一般質問 ……８９
根　本　謙　一　君 ……８９
村　松　　尚　君 ……１０１
渋　井　清　隆　君 ……１１３
○散会の宣告 ……１２１
散　　会　（午後　１時３３分） ……１２１

第４日　９月９日（金曜日）
○議事日程 ……１２３
○本日の会議に付した事件 ……１２３
○出欠席議員 ……１２５

○説明のため出席した者 ……１２５
○事務局職員出席者 ……１２５
開　　議　（午前１０時００分） ……１２６
○開議の宣告 ……１２６
○報告第１３号の議題、説明、質疑 ……１２６
○報告第１４号の議題、説明、質疑 ……１３２
○報告第１５号の議題、説明、質疑 ……１３３
○報告第１６号の議題、説明、質疑 ……１３４
○議案第５８号の議題、説明、質疑、討論、採決 ……１４７
○日程の追加 ……１５４
○議案第５９号　令和４年度会津美里町一般会計補正予算（第４号）の議案撤回の件 ……１５５
○日程の追加 ……１５５
○議案第６０号　令和４年度会津美里町国民健康保険特別会計補正予算（第２号）の議案撤回の件 ……１５６
○日程の追加 ……１５６
○議案第６１号　令和４年度会津美里町介護保険特別会計補正予算（第２号）の議案撤回の件 ……１５７
○日程の追加 ……１５７
○議案第６２号　令和４年度会津美里町後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）の議案撤回の件 ……１５８
○日程の追加 ……１５８
○議案第６３号　令和４年度会津美里町工業団地造成事業特別会計補正予算（第２号）の議案撤回の件 ……１５９
○日程の追加 ……１５９
○議案第６４号　令和４年度会津美里町住宅用地造成事業特別会計補正予算（第１号）の議案撤回の件 ……１５９
○日程の追加 ……１６０
○議案第６５号　令和４年度会津美里町水道事業会計補正予算（第２号）の議案撤回の件 ……１６０
○日程の追加 ……１６１
○議案第６６号　令和４年度会津美里町下水道事業会計補正予算（第２号）の議案撤回の件 ……１６１
○日程の追加 ……１６２
○議案第６７号　令和４年度永井野財産区特別会計補正予算（第１号）の議案撤回の件 ……１６２

○同意第２号の議題、質疑、討論、採決 ……１６３
○諮問第２号の議題、採決 ……１６３
○諮問第３号の議題、採決 ……１６３
○総括質疑 ……１６４
○議案の常任委員会付託について ……１６７
○散会の宣告 ……１６７
　　散　　会　（午後　３時１３分） ……１６７

　　決算特別委員会第２日　９月１２日（月曜日）
○出欠席委員 ……１６９
○説明のため出席した者 ……１６９
○事務局職員出席者 ……１７１
　　開　　議　（午前１０時００分） ……１７２
○開議の宣告 ……１７２
○認定第１号 ……１７２
○延会の宣告 ……２１６
　　延　　会　（午後　３時０４分） ……２１６

　　決算特別委員会第３日　９月１３日（火曜日）
○出欠席委員 ……２１７
○説明のため出席した者 ……２１７
○事務局職員出席者 ……２１８
　　開　　議　（午前１０時００分） ……２１９
○開議の宣告 ……２１９
○認定第１号 ……２１９
○延会の宣告 ……２４３
　　延　　会　（午後　１時１６分） ……２４３

　　決算特別委員会第４日　９月２１日（水曜日）
○出欠席委員 ……２４５
○説明のため出席した者 ……２４５
○事務局職員出席者 ……２４６
　　開　　議　（午前１０時００分） ……２４８

○開議の宣告 ……２４８
○認定第１号 ……２４８
○延会の宣告 ……２８６
延　　会　（午後　２時３４分）……２８６

決算特別委員会第５日　９月２２日（木曜日）

○出欠席委員 ……２８７
○説明のため出席した者 ……２８７
○事務局職員出席者 ……２８８
開　　議　（午前１０時００分）……２８９
○開議の宣告 ……２８９
○認定第１号 ……２８９
○延会の宣告 ……３１３
延　　会　（午前１１時５５分）……３１３

決算特別委員会第６日　９月２６日（月曜日）

○出欠席委員 ……３１５
○説明のため出席した者 ……３１５
○事務局職員出席者 ……３１６
開　　議　（午後　２時００分）……３１７
○開議の宣告 ……３１７
○認定第１号 ……３１７
○閉会の宣告 ……３１９
閉　　会　（午後　２時２７分）……３１９

第５日　９月２７日（火曜日）

○議事日程 ……３２１
○本日の会議に付した事件 ……３２１
○出欠席議員 ……３２２
○説明のため出席した者 ……３２２
○事務局職員出席者 ……３２２
開　　議　（午前１０時００分）……３２３
○開議の宣告 ……３２３

○常任委員会委員長の報告 ……３２３
○決算特別委員会委員長の報告 ……３２６
○認定第１号の議題、討論、採決 ……３２６
○認定第２号の議題、討論、採決 ……３２７
○認定第３号の議題、討論、採決 ……３２７
○認定第４号の議題、討論、採決 ……３２８
○認定第５号の議題、討論、採決 ……３２９
○認定第６号の議題、討論、採決 ……３２９
○認定第７号の議題、討論、採決 ……３３０
○認定第８号の議題、討論、採決 ……３３０
○認定第９号の議題、討論、採決 ……３３１
○議案第５４号の議題、討論、採決 ……３３１
○議案第５５号の議題、討論、採決 ……３３２
○議案第５６号の議題、討論、採決 ……３３３
○議案第５７号の議題、討論、採決 ……３３３
○請願第１号の議題、討論、採決 ……３３４
○日程の追加 ……３３４
○発議第３号の議題、説明、質疑、討論、採決 ……３３５
○散会の宣告 ……３３６
散　　会　（午前１１時３５分） ……３３６

定 例 会 ９ 月 会 議

(第 １ 号)

令和４年会津美里町議会定例会９月会議

議事日程　第１号

令和４年９月５日（月）午前１０時００分開議

諸般の報告

①議長の報告（出席した会議等別紙のとおり）

②議長の提出物の報告（別紙のとおり）

③説明員の報告（別紙のとおり）

④一部事務組合議会結果報告

・会津若松地方広域市町村圏整備組合議会議員の報告

⑤町長の行政報告

第１　会議録署名議員の指名

第２　議案の上程及び提案理由の説明

第３　決算審査概要報告

第４　請願の常任委員会付託について

第５　決算特別委員会の設置について

第６　議案の決算特別委員会付託について

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

○出席議員（１６名）

１番	櫻井幹夫君	９番	渋井清隆君
２番	大竹惣君	１０番	星次君
３番	渡辺葉月君	１１番	堤信也君
４番	荒川佳一君	１２番	根本謙一君
５番	山内豪君	１３番	根本剛君
６番	長嶺一也君	１４番	横山義博君
７番	村松尚君	１５番	鈴木繁明君
８番	小島裕子君	１６番	横山知世志君

○欠席議員（なし）

○説明のため出席した者

町長	杉山純一	君	
副町長	佐々木吉一	君	
総務課長	金子吉弘	君	
政策財政課長	國分利則	君	
会計管理者	松本由佳里	君	
町民税務課長	猪俣利幸	君	
健康ふくし課長	平山正孝	君	
産業振興課長	小林隆浩	君	
建設水道課長	鈴木明利	君	
教育長	歌川哲由	君	
こども教育課長	渡部雄二	君	
生涯学習課長	福田富美代	君	
代表監査委員	小島隆一	君	

○事務局職員出席者

事務局長	児島隆昌	君	
総務係長	歌川和仁	君	

開　議　　（午前１０時００分）

○開議の宣告

○議長（横山知世志君）　ただいまから令和４年会津美里町議会定例会９月会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりであります。

○諸般の報告

○議長（横山知世志君）　日程に入ります前に、諸般の報告を行います。

議長の報告、議長の提出物の報告、説明員の報告は別紙のとおりであります。

次に、一部事務組合議会結果報告を行います。

会津若松地方広域市町村圏整備組合議会に関する報告を７番、村松尚君、報告願います。

村松君。

〔７番（村松　尚君）登壇〕

○７番（村松　尚君）　会津美里町議会からは、１番、櫻井幹夫議員、２番、大竹惣議員が派遣されておりますが、私が代表し、６月会議以降の会津若松地方広域市町村圏整備組合の報告をいたします。なお、以降は整備組合と省略させていただきます。

整備組合議会定例会が８月16日から24日までの日程で開催されました。案件は、管理者提出案件11件、議会側提出案件１件の計12件でありました。

初めに、議案第９号　整備組合職員の育児休暇等に関する条例の一部を改正する条例ですが、この案件は地方公務員の育児休暇に関する法律や人事院規則の改正に伴い、職員の育児休暇に係る取得回数、取得要件等について所要の改正を講じようとするものでした。

次に、議案第10号　整備組合消防機関設置条例の一部を改正する条例ですが、これは現在建設中の会津美里消防署の移転に伴い、現在の消防署の位置から建設中の住所へと位置の変更を行うものであります。

議案第11号　令和４年度整備組合一般会計補正予算（第１号）ですが、これは歳入歳出予算の補正で、第１条、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ４億5,210万9,000円を増額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ89億4,755万5,000円とするものでありました。次に、債務負担行為ですが、第２条において、地方自治法第214条の規定により債務を負担できる事項、期間及び限度額は第２表、債務負担行為によるとの説明がありました。今回の補正予算において、債務負担行為はごみ処理施設運転管理業務委託において、令和４年度から令和８年度まで７億6,641万4,000円の債務負担行為を設定しました。

議案第12号は、整備組合水道用水供給事業会計補正予算（第１号）であります。これは、第２条において職員の人事異動に伴う人件費の調整により増額補正をし、また第３条において令和４年度をもって現在の馬越浄水場及び送水施設運転、維持管理業務委託の契約期間が終了することから、新たな

契約の締結に向け２億5,620万円の債務負担行為を設定するものです。

次の議案第13号は、令和３年度整備組合水道用水供給事業剰余金の処分についてであります。これは、地方公営企業法第32条第２項の規定に基づき、令和３年度整備組合水道用水供給事業会計決算に基づく剰余金を処分するものです。

次に、報告第３号　令和３年度整備組合水道用水供給事業会計継続費精算報告書についてですが、これは令和２年、３年度に行った随田・揚岐水管橋耐震化事業に関し、地方公営企業法第18条の２第２項の規定に基づき報告するものでありました。

次の報告第４号　令和３年度整備組合一般会計継続費繰越計算書でありますが、これは令和元年度から令和４年度の沼平第３最終処分場整備事業及び令和３年、４年度の会津美里消防署建設事業に関して、地方自治法施行令第145条第１項の規定に基づき報告するものでありました。

続いて、報告第５号　令和３年度整備組合水道用水供給事業会計繰越計算書についてですが、これは令和３年、４年度の事業であります取水ポンプ場電気設備等更新事業について、地方公営企業法施行令第18条の２第１項の規定により報告するものでありました。

次の報告第６号　令和３年度整備組合水道用水供給事業会計に基づく資金不足比率についてですが、これは地方公共団体の財政の健全化に関する法律第22条の規定に基づき、組合が経営する公営企業の資金不足比率について報告するものでありました。

次に、承認第２号　令和３年度整備組合一般会計歳入歳出決算の認定についてですが、これは令和３年度整備組合一般会計歳入歳出決算について、地方自治法第233条第３項の規定に基づき、その認定を求めるものでありました。

続いて、承認第３号　令和３年度整備組合水道用水供給事業会計決算の認定についてですが、これは令和３年度整備組合水道用水供給事業会計決算について、地方公営企業法第30条第４項の規定に基づき認定を求めるものでありました。

最後に、議会側提出案件の報告第２号　監査の結果報告ですが、これは監査委員より監査の結果報告があったもので報告するものでありました。

それぞれ提出案件は、委員会所管別審査付託書のとおりに付託され、最終日に各委員会より委員長報告がありましたが、各委員会において若干の質疑はありましたが、特に異論はなく、可決されたとの報告でありました。

委員長報告後、委員長に対し若干の質疑はありましたが、特に異論はなく、委員長報告のとおり案件全てを承認いたしました。

以上で６月会議以降の会津若松地方広域市町村圏整備組合の報告を終わります。

なお、資料は議会事務局に提出してありますので、御覧ください。

○議長（横山知世志君）　次に、町長の行政報告でありますが、お手元に配付いたしました報告書のとおりであります。

以上をもって諸般の報告を終わります。

○会議録署名議員の指名

○議長（横山知世志君）　日程第１、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、本町議会会議規則第127条の規定により、

４番　　荒　川　佳　一　君

５番　　山　内　　豪　君

の両名を指名いたします。

○議案の上程及び提案理由の説明

○議長（横山知世志君）　日程第２、議案の上程及び提案理由の説明を行います。

本会議に送達されました事件は、会津美里町長より、報告第13号から報告第16号まで、認定第１号から認定第９号まで、議案第54号から議案第67号まで、同意第２号、諮問第２号、諮問第３号の計30議案であります。

お諮りいたします。本日は、議案を別紙付議事件一覧表のとおり上程し、提案者からの説明を求めたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

よって、ただいま宣告のとおり議事を進行いたします。

提案者から提案理由の説明を求めます。

町長、杉山純一君。

〔町長（杉山純一君）登壇〕

○町長（杉山純一君）　本日、令和４年会津美里町議会定例会９月会議の再開に当たり、議員各位におかれましては、ご参集を賜り、ありがとうございます。本定例会にご提案申し上げます報告４件、認定９件、議案14件、同意１件、諮問２件の提案理由をご説明申し上げます。

初めに、報告第13号は、株式会社会津美里振興公社経営状況報告についてであります。本件は、株式会社会津美里振興公社代表取締役から、令和３年度事業報告及び決算、令和４年度事業計画及び予算について報告がありましたので、地方自治法第243条の３第２項の規定により、報告するものであります。

次の報告第14号は、会津美里町一般会計継続費の精算報告についてであります。本件は、令和３年度に終了した新鶴こども園整備事業及び学校給食センター改築事業に係る継続費の精算について、地方自治法施行令第145条第２項の規定により報告するものであります。

次の報告第15号は、地方公共団体の財政の健全性に関する比率の報告についてであります。本件は、

令和３年度の決算に基づき算定した実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率及び将来負担比率並びに資金不足比率について、地方公共団体の財政の健全化に関する法律第３条第１項及び第22条第１項の規定により報告するものであります。

次の報告第16号は、会津美里町教育委員会点検・評価の報告についてであります。本件は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第１項の規定により、令和３年度の会津美里町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について行った点検及び評価の結果について報告するものであります。

次の認定第１号から認定第９号までは、令和３年度一般会計、各特別会計、水道事業会計及び下水道事業会計の決算認定についてであります。地方自治法第233条第３項及び地方公営企業法第30条第４項の規定により、監査委員の意見をつけて議会の認定をお願いするものであります。なお、それぞれの会計の詳細につきましては、主要施策の成果に関する説明書のとおりであります。

まず、認定第１号は、令和３年度会津美里町一般会計歳入歳出決算認定についてであります。歳入歳出予算現額139億1,000万3,000円に対し、収入済額は136億971万854円、支出済額は131億3,757万1,098円であり、歳入歳出差引残額は４億7,213万9,756円であります。

次の認定第２号は、令和３年度会津美里町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定についてであります。歳入歳出予算現額24億2,191万6,000円に対し、収入済額は24億3,180万6,179円、支出済額は22億7,747万6,588円であり、歳入歳出差引残額は１億5,432万9,591円であります。

次の認定第３号は、令和３年度会津美里町介護保険特別会計歳入歳出決算認定についてであります。歳入歳出予算現額31億9,327万9,000円に対し、収入済額は31億9,618万8,450円、支出済額は29億3,238万8,832円であり、歳入歳出差引残額は２億6,379万9,618円であります。

次の認定第４号は、令和３年度会津美里町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定についてであります。歳入歳出予算現額２億5,245万1,000円に対し、収入済額は２億5,183万3,572円、支出済額は２億5,154万5,879円であり、歳入歳出差引残額は28万7,693円であります。

次の認定第５号は、令和３年度会津美里町工業団地造成事業特別会計歳入歳出決算認定についてであります。歳入歳出予算現額7,123万8,000円に対し、収入済額は7,145万2,740円、支出済額は6,807万7,604円であり、歳入歳出差引残額は337万5,136円であります。

次の認定第６号は、令和３年度会津美里町住宅用地造成事業特別会計歳入歳出決算認定についてであります。歳入歳出予算現額760万8,000円に対し、収入済額は760万6,242円、支出済額は737万9,500円であり、歳入歳出差引残額は22万6,742円であります。

次の認定第７号は、令和３年度会津美里町水道事業会計決算認定についてであります。収益的収入及び支出は、収入予算額が４億8,488万9,000円に対し、決算額は４億9,058万8,313円、支出予算額は４億2,588万3,000円に対し、決算額は４億1,066万5,459円であります。

次に、資本的収入及び支出は、収入予算額が１億1,994万8,000円に対し、決算額は１億1,969万

6,255円、支出予算額は２億3,140万3,000円に対し、決算額は２億2,860万6,958円で、資本的収入額が資本的支出額に不足する額１億891万703円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額と過年度分損益勘定留保資金で補填いたしました。

次の認定第８号は、令和３年度会津美里町下水道事業会計決算認定についてであります。収益的収入及び支出は、収入予算額が５億9,180万3,000円に対し、決算額は５億9,146万575円、支出予算額は５億8,894万7,000円に対し、決算額は５億7,741万3,142円であります。

次に、資本的収入及び支出は、収入予算額が３億3,095万3,000円に対し、決算額は２億7,982万1,300円、支出予算額は４億6,449万3,000円に対し、決算額は３億7,935万9,251円で、翌年度繰越額に係る財源充当額2,700万円を除いた資本的収入額が資本的支出額に不足する額１億2,653万7,951円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額と過年度分損益勘定留保資金、当年度分損益勘定留保資金で補填いたしました。

次の認定第９号は、令和３年度永井野財産区特別会計歳入歳出決算認定についてであります。歳入歳出予算現額18万円に対し、収入済額は17万7,647円、支出済額は15万1,781円であり、歳入歳出差引残額は２万5,866円であります。

次の議案第54号は、会津美里町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例であります。本案は、地方公務員の育児休業等に関する法律の改正に伴い、常勤職員及び非常勤職員の育児休業の取得要件等が緩和されたため、取得しやすい勤務環境の整備に関し所要の改正を行うものであります。

次の議案第55号は、会津美里町税条例等の一部を改正する条例であります。本案は、地方税法等の一部改正に伴い、個人住民税等の税制上の措置等について所要の改正を行うものであります。

次の議案第56号は、会津美里町地方活力向上地域における固定資産税の不均一課税に関する条例の一部を改正する条例であります。本案は、総務省令の一部改正に伴い、不均一課税の適用期間等について所要の改正をするものであります。

次の議案第57号は、会津美里町議会議員及び会津美里町長の選挙における選挙運動の公営に関する条例の一部を改正する条例であります。本案は、公職選挙法施行令の一部を改正する政令の公布に伴い、公費負担額の規定について所要の改正をするものであります。

次の議案第58号は、会津美里町温泉施設等条例を廃止する条例であります。本案は、新鶴温泉健康センター及び宿泊研修施設ほっとぴあ新鶴の民間法人への譲渡見込み並びに高田温泉あやめの湯の施設の老朽化や温泉温度の低下及び温泉湧出量の減少等により温泉施設としての維持が困難なことから、本条例を廃止するものであります。

次の議案第59号は、令和４年度会津美里町一般会計補正予算（第４号）であります。既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ13億143万円を追加し、歳入歳出予算の総額を137億7,771万5,000円とするものであります。

次の議案第60号は、令和４年度会津美里町国民健康保険特別会計補正予算（第２号）であります。

既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ4,604万5,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を23億8,956万4,000円とするものであります。

次の議案第61号は、令和４年度会津美里町介護保険特別会計補正予算（第２号）であります。既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ１億8,823万8,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を32億8,766万7,000円とするものであります。

次の議案第62号は、令和４年度会津美里町後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）であります。既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ23万6,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を２億7,099万円とするものであります。

次の議案第63号は、令和４年度会津美里町工業団地造成事業特別会計補正予算（第２号）であります。既定の歳入歳出予算の総額１億766万7,000円のうちで歳入を補正するものであります。

次の議案第64号は、令和４年度会津美里町住宅用地造成事業特別会計補正予算（第１号）であります。既定の歳入歳出予算の総額2,177万6,000円のうちで歳入を補正するものであります。

次の議案第65号は、令和４年度会津美里町水道事業会計補正予算（第２号）であります。今回の補正予算の内容は、収益的収入の予定額を14万9,000円増額し、収益的収入合計で４億7,150万8,000円とし、収益的支出の予定額を８万3,000円減額し、収益的支出合計で４億2,927万2,000円とするものであります。また、資本的支出の予定額を92万1,000円減額し、資本的支出合計で２億3,506万3,000円とするものであります。

次の議案第66号は、令和４年度会津美里町下水道事業会計補正予算（第２号）であります。今回の補正予算の内容は、収益的収入の予定額を17万4,000円減額し、収益的収入合計で５億8,910万4,000円とし、収益的支出の予定額を182万1,000円増額し、収益的支出合計で５億9,104万1,000円とするものであります。また、資本的収入の予定額を1,686万2,000円減額し、資本的収入合計で２億8,089万8,000円と資本的支出の予定額を441万7,000円増額し、資本的支出合計で４億2,692万5,000円とするものであります。

次の議案第67号は、令和４年度永井野財産区特別会計補正予算（第１号）であります。既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ１万9,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を19万9,000円とするものであります。

次の同意第２号は、会津美里町教育委員会委員の任命につき同意を求めることについてであります。本案は、本町教育委員会の委員の小関れい子氏が令和４年９月30日をもって任期満了となりますが、再任をしたいので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第４条第２項の規定により、議会の同意を求めるものであります。

次の諮問第２号は、人権擁護委員候補者の推薦についてであります。本諮問は、現委員の菊地まき子氏が令和４年12月31日をもって任期満了となることから、新たに兼子美千子氏を候補者として推薦したいので、人権擁護委員法第６条第３項の規定により議会の意見を求めるものであります。

次の諮問第３号は、人権擁護委員候補者の推薦についてであります。本諮問は、現委員の星貴代子氏が令和４年12月31日をもって任期満了となることから、引き続き候補者として推薦したいので、人権擁護委員法第６条第３項の規定により、議会の意見を求めるものであります。

私からは以上であります。審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○12番（根本謙一君）　今の町長の説明の中で、諮問第２号ですけれども、任期満了日が12月31日になっているはずですけれども、説明では２月31日というふうに聞こえております。確認の上、よろしくお願いします。

○議長（横山知世志君）　12月と聞こえました。そちらのほうからもそのように説明したという返事であります。

○12番（根本謙一君）　そうですか。分かりました。こちらで２人やっぱり２月としか聞こえていなかったようなので。すみません。ありがとうございます。

○議長（横山知世志君）　これをもって提案理由の説明を終わります。

○決算審査概要報告

○議長（横山知世志君）　日程第３、決算審査概要報告を議題といたします。

代表監査委員、小島隆一君、報告願います。

小島監査委員。

〔代表監査委員（小島隆一君）登壇〕

○代表監査委員（小島隆一君）　改めておはようございます。令和３年度の決算審査の内容につきまして、その概要について報告をさせていただきます。

まず、会津美里町歳入歳出決算及び基金の運用審査意見書の１ページをお開きください。審査の対象は、一般会計歳入歳出決算から始まり、国民健康保険特別会計から永井野財産区特別会計歳入歳出決算までの会計決算についてであります。

さらに、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書、財産に関する調書について、去る８月１日から８月８日までの期間にわたり、私と山内委員の２名により審査を実施いたしました。

２ページでございます。審査の手続につきましては、各会計の歳入歳出決算書をはじめとした関係書類について、決算書、その他関係書類が法令に適合し、正確かつ適法に執行されているかについて、記載されておりますような内容に着目しながら審査を実施したものであります。審査の結果につきましては、記載のとおり各会計歳入歳出決算書、同事項別明細書、実質収支に関する調書、財産に関する調書について、関係法令に準拠して作成されており、その計数は関係帳簿、その他証書類等と照合精査した結果、誤りがないものと認めたものであります。

３ページ目です。審査意見の総括であります。（１）が一般会計及び特別会計の総決算額及び前年

度との比較、（２）は特別会計の各会計別の歳出決算と前年度との比較であります。予算額に対し、歳入額と歳出額が幾らだったのか、差引金額は幾らになったのかについて表示しております。令和２年度に比較して大きく金額が減少しておりますが、主な理由としましては新型コロナウイルス感染症緊急経済対策として実施されました１人10万円の特別定額給付金がなくなったことによるものであります。特別会計では、工業団地造成事業について、令和２年度にはあった売払収入がなかったことによる減額であります。住宅用地造成事業では、１件の販売実績があったことによる増額となっております。

４ページでございます。会計別の指摘事項であります。まず、一般会計の決算状況でございます。歳入歳出差引額は、前年度比3,330万3,000円増の４億7,213万9,000円。実質収支は、前年度比888万8,000円増の４億1,440万6,000円。単年度収支は、前年度より4,665万5,000円減の888万8,000円。実質単年度収支については、前年度比１億700万3,000円増の７億2,614万9,000円となっております。財政構造の弾力性を表す経常収支比率については、前年度より2.4ポイント下がり、86.7％となりました。

５ページでございます。歳入と歳出のそれぞれの決算状況であります。歳入につきましては、不納欠損額が前年度比大きく増えております。収入未済額につきましては、反対に１億816万8,000円ほど減少しまして、5,931万6,000円となっております。歳出につきまして大きく減っている理由としましては、先ほど申しました定額給付金がなくなったことによるものであります。

６ページでございます。一般会計のまとめでございます。歳入歳出差引額、実質収支は前年度を上回っております。単年度収支は黒字とはなりましたが、大きく下がっております。経常収支比率は86.7％となりました。令和元年度をピークとして改善傾向にありますが、一般的に70から80％が適正水準と言われておりますので、引き続き改善に努めていただきたいと思います。

次に、地方公共団体の財政の健全化に関する法律の規定に基づく財政健全化審査結果につきましては意見書のとおりであり、審査に付された健全化判断比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類はいずれも適正でありました。実質公債費比率は、３か年平均は5.2％と同率となりましたが、単年度では5.28％となり、前年度より0.31％上がっております。公債費の後年度負担に留意し、長期財政計画に基づいた健全な財政運営に努めていただきたいと思います。

将来負担比率は、将来負担額が充当可能額を下回ったため算定されませんでした。不納欠損額、収入未済額の仕組みについては、町内各課が連携し、取組の強化を図ることを望むものであります。

６ページ中段からは、特別会計と企業会計の決算状況であります。主な会計について説明をさせていただきます。まず、国民健康保険特別会計についてでございます。調定額に対する保険税の収入率が前年度から1.4％アップし、86.9％となりました。ここ数年、収納率の着実な向上が見られ、これとともに収入未済額も毎年減少してきております。さらなる徴収率向上に向けた取組の強化推進を図るとともに、保険給付費の抑制に向けた各種事業の展開に努めていただきたいと思います。

次に、介護保険特別会計についてでございます。調定額に対する保険税の収入率は99％となっております。保険給付費については毎年増加傾向にあることから、介護予防事業の強化とともに、保健事業との連携も図りながら、その抑制に取組を図っていただきたいと思います。

８ページでございます。水道事業会計について、収益的収支の純利益は7,674万731円となりました。これに伴い、未処分利益剰余金も２億5,997万2,648円となりました。給水戸数が前年度より52戸増え、年間総配水量も増加しましたが、有収水量は減少し、有収率は前年度に比べ4.46％減少して76.02％となりました。特に高田地域では8.52％の減少が見られるなど、老朽化、経年劣化による漏水対策なども今後の経営の効率化、安定化にとって重要項目の一つとなっており、経営戦略計画の着実な取組を進めていただきたいと思います。

下水道事業についてでございます。収益的収支の純利益は1,153万4,638円となりました。これに伴い、未処分利益剰余金も1,396万3,036円となりました。公共下水道の整備率は、全体計画のうち88.7％まで整備が進んでおりますが、施設の利用状況や適正規模を示す施設利用率は34.37％にとどまっております。接続率の向上に向けた一層の取組に努めていただきたいと思います。

９ページ目でございます。財産に関する調書について。奨学資金貸付基金など３つの貸付基金を除いた基金総額については２億9,877万3,000円ほど積み増しされまして、年度末残高は89億9,820万3,000円となっております。今後とも設置目的に沿って適切な積立てを行うとともに、効率的な管理、運用に努めていただきたいと思います。

以上、簡潔ではございますが、令和３年度の決算審査の概要報告とさせていただきます。

○議長（横山知世志君）　以上で決算審査概要報告を終わります。

○請願の常任委員会付託について

○議長（横山知世志君）　日程第４、請願の常任委員会付託についてを議題といたします。

お諮りいたします。本件は、別紙請願文書表のとおり常任委員会に付託したいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

よって、本件は別紙請願文書表のとおり常任委員会に付託することに決しました。

○決算特別委員会の設置について

○議長（横山知世志君）　日程第５、決算特別委員会の設置についてを議題といたします。

令和３年度会津美里町一般会計歳入歳出決算認定については、議長と議会選出監査委員を除く議員全員で構成する決算特別委員会を設置して審議することにしたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

よって、令和３年度会津美里町一般会計歳入歳出決算認定については、決算特別委員会を設置して審議することに決しました。

お諮りいたします。決算特別委員会の正副委員長につきましては、委員会条例第９条の規定により、委員会の互選によると規定されておりますが、議会運営委員会で協議済みの正副委員長のとおりにしたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしでございますので、決算特別委員会委員長を10番、星次君、副委員長は６番、長嶺一也君にお願いいたします。

○議案の決算特別委員会付託について

○議長（横山知世志君）　日程第６、議案の決算特別委員会付託についてを議題といたします。

お諮りいたします。本件は、別紙審査付託表のとおり決算特別委員会に付託したいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

よって、本件は別紙審査付託表のとおり決算特別委員会に付託することに決しました。

○散会の宣告

○議長（横山知世志君）　以上で本日の議事日程は全部終了いたしました。

本日はこれで散会いたします。

散　会　　（午前１０時４７分）

決 算 特 別 委 員 会

（第　１　日）

令和４年会津美里町議会（決算特別委員会）

第１日

令和４年９月５日（月）午前１１時００分開会

委員長　星　　次　君　　副委員長　長　嶺　一　也　君

○出席委員（１４名）

１番	櫻井幹夫君	９番	渋井清隆君
２番	大竹　惣君	１０番	星　次君
３番	渡辺葉月君	１１番	堤　信也君
４番	荒川佳一君	１２番	根本謙一君
６番	長嶺一也君	１３番	根本　剛君
７番	村松　尚君	１４番	横山義博君
８番	小島裕子君	１５番	鈴木繁明君

○欠席委員（なし）

○説明のため出席した者

町長	杉山純一	君	
副町長	佐々木吉一	君	
総務課長	金子吉弘	君	
政策財政課長	國分利則	君	
町民税務課長	猪俣利幸	君	
健康ふくし課長	平山正孝	君	
会計管理者	松本由佳里	君	
建設水道課長	鈴木明利	君	
教育長	歌川哲由	君	
こども教育課長	渡部雄二	君	
生涯学習課長	福田富美代	君	
代表監査委員	小島隆一	君	

○事務局職員出席者

事務局長	児島	隆	昌	君
総務係長	歌川	和	仁	君

開　会　　（午前１１時００分）

○副委員長（長嶺一也君）　ただいまから令和４年会津美里町議会定例会９月会議決算特別委員会を開会いたします。

○委員長（星　　次君）　それでは、ただいま副委員長のほうから開会の宣言があったとおりでございますが、決算特別委員会をただいまから開きたいと思います。

なお、この決算委員会については次年度の予算に反映されるべき決算委員会でございますので、皆さん方の審議のほどよろしくお願い申し上げ、委員長の挨拶にいたします。

これから本日の会議を開きます。

本委員会に付託された案件は、認定第１号　令和３年度会津美里町一般会計歳入歳出決算認定についての１議案であります。

お諮りいたします。説明の方法については、説明員は着席のまま、歳入については政策財政課長より事項別明細書にて要点のみ説明を受け、歳出についてはあらかじめお手元に配付した資料をもって説明に代えたいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○委員長（星　　次君）　異議なしと認めます。

よって、ただいま宣告のとおり議事を進めてまいります。

認定第１号　令和３年度会津美里町一般会計歳入歳出決算認定についてを議題といたします。

ここで、当局より内容の説明を求めます。

歳入について、政策財政課長、説明願います。

政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　それでは、認定第１号　令和３年度会津美里町一般会計歳入歳出決算認定についてご説明いたします。

認定第１号　令和３年度会津美里町一般会計歳入歳出決算書　歳入　　（数字説明）

○委員長（星　　次君）　説明が終わりました。

以上で本日の日程は全部終了いたしました。

よって、本日はこれで散会いたします。

散　会　　（午前１１時２１分）

定 例 会 ９ 月 会 議

(第 ２ 号)

令和４年会津美里町議会定例会９月会議

議事日程　第２号

令和４年９月６日（火）午前１０時００分開議

第１　一般質問

本日の会議に付した事件

　　議事日程に同じ

○出席議員（１６名）

１番	櫻井幹夫君	９番	渋井清隆君
２番	大竹惣君	１０番	星次君
３番	渡辺葉月君	１１番	堤信也君
４番	荒川佳一君	１２番	根本謙一君
５番	山内豪君	１３番	根本剛君
６番	長嶺一也君	１４番	横山義博君
７番	村松尚君	１５番	鈴木繁明君
８番	小島裕子君	１６番	横山知世志君

○欠席議員（なし）

○説明のため出席した者

町長	杉山純一	君
副町長	佐々木吉一	君
総務課長	金子吉弘	君
政策財政課長	國分利則	君
会計管理者	松本由佳里	君
町民税務課長	猪俣利幸	君
健康ふくし課長	平山正孝	君
産業振興課長	小林隆浩	君
建設水道課長	鈴木明利	君
教育長	歌川哲由	君
こども教育課長	渡部雄二	君
生涯学習課長	福田富美代	君
選挙管理委員会書記長（兼）	金子吉弘	君
代表監査委員	小島隆一	君
選挙管理委員会委員長	小沼會志	君

○事務局職員出席者

事務局長	児島隆昌	君
総務係長	歌川和仁	君

開　議　　（午前１０時００分）

○開議の宣告

○議長（横山知世志君）　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりであります。

○一般質問

○議長（横山知世志君）　日程第１、一般質問を行います。

通告順に発言を許します。

通告第１号、６番、長嶺一也君。

〔６番（長嶺一也君）登壇〕

○６番（長嶺一也君）　６番、長嶺一也でございます。通告に従い、学力向上と部活動の地域移行の２つの事項について質問いたします。

まず初めに、児童生徒の学力向上についてであります。本年７月末に令和４年度全国・学力学習状況調査、以下、全国学力テストといいます、の結果が公表されました。これを見ると、本県は、国語、算数・数学、理科の３科目とも全国平均を下回り、特に中学３年の数学は大きく下回っており、昨年の38位から43位に順位を下げてしまいました。これら結果を踏まえ、県義務教育課より、令和４年度授業改善グランドデザイン、全国学力・学習状況調査の結果分析と学力向上の方策も同時期に公表されたところであります。一方、本年２月には、令和３年度ふくしま学力調査分析報告書が公表されました。そこで、次の４点について伺います。

全国学力テストの本町の結果と県平均との比較はどのようなものだったのかお尋ねします。

次に、教育長は昨年の就任以来、本町児童生徒の学力向上に鋭意取り組んできたところでありますが、全国学力テストの本町の結果を踏まえ、課題をどのように捉えているのかお尋ねします。

次に、一方では、県教育委員会は非認知能力や学習方略の課題克服を通して、学力の向上に取り組むとうたっておりますが、本町では子供の学力向上のために、本町が推進する幼小中一貫教育の推進と併せ、具体的にどのように取り組んでいく考えなのかお尋ねします。

次に、令和３年度の県内児童生徒の読書調査結果を見ると、読書量が平成16年度以降、最多となったことは喜ばしい結果であります。ふくしま学力調査分析報告書でも、読書の冊数が多いほど国語の学力が高い傾向にあると分析しています。この結果は、国語だけでなく、各教科の文章問題の正答率向上にもつながると考えます。そこで、学力向上には継続して読書する環境づくりも重要と考えますが、学校の取組状況と読書活動を推進するための今後の取組をお尋ねします。

次に、中学部活動の地域移行についてであります。公立学校の部活動の地域移行が教員の働き方改革も考慮しながら、生徒にとって望ましい部活動実現のため、いよいよ本格的に待ったなしの状況になってきたと考えております。国より地域移行を来年度から３年間で進める期間設定もされたものの、

課題山積で、３年は長いようで短い期間と言わざるを得ないと考えます。課題は、国の有識者会議等で挙げられただけでも、指導者の確保、部活動の受皿、中体連の運営の在り方、保護者の経済的負担、指導者に対する謝金や施設の賃借料などの財源確保、都市部と過疎地域との格差、従来の教員が行ってきた部活動における教育的指導の確保、将来的に平日も実施していく体制づくりなど、数えれば切りがないのが実情だと思います。一方、専門的な指導を受けることができ、競技力向上が期待できると歓迎する声もあることも事実です。地域移行について、現在、町教育委員会では暗中模索の状況かと思いますが、それを具体化するため、予算確保も含め、一日も早く取り組む必要があると考えます。そこで、次の３点について伺います。

過疎地域である本町は、地域移行を実現するに当たり、どのような課題があると考えているのかお尋ねします。

次に、それら課題を踏まえ、どのようなスケジュールで地域移行を進めていく考えなのかお尋ねします。

地域移行については、本町だけの問題ではなく、市町村をまたいだ、広域的に関係機関が連携しなければクリアできない問題であり、先ほど言ったとおり、３年という短い期間で方向性を決めていくことは困難と考えます。国は、関係機関の連絡調整役のコーディネーターを配置し、体制整備を進めると言ってはおりますが、町教育委員会として広域的課題をどのように克服し、取り組んでいく考えなのかお尋ねします。

以上で質問を終わります。

○議長（横山知世志君）　教育長、答弁、歌川哲由君。

〔教育長（歌川哲由君）登壇〕

○教育長（歌川哲由君）　６番、長嶺議員の一般質問にお答えいたします。

初めに、学力向上についてでありますが、１点目の全国学力テストの本町の結果と県平均との比較につきましては、各教科の平均正答率を県平均と比較しますと、小学校国語が２ポイント、算数は４ポイント、理科は２ポイント下回っております。また、中学校国語は１ポイント下回っておりますが、数学は１ポイント上回っており、理科が県平均と同じという結果でありました。

２点目の全国学力テストの本町の結果と課題につきましては、各教科の平均正答率が、小学校では県平均を下回っており、中学校では県平均レベルでありますが、さらなる学力の向上を図っていかなければならないと認識しております。また、各教科の結果を分析してみますと、成果を上げている学校や教科も見られる反面、さらなる対策を要する教科も見られますので、各学校において結果を精査し、必要な対策を取ることが大切だと考えております。

３点目の学力向上と幼小中一貫教育の推進につきましては、ＩＣＴ機器を活用し、ＡＩドリルによる演習を充実させ、学習内容の定着を図ってまいります。また、人材育成プロジェクトに掲げる小中一貫教育の推進により、中学校教員の小学校への乗り入れ事業の拡充を進めるなど、小学校高学年に

おける教科担任制を充実させ、専門的指導による学力の向上を図ってまいります。加えて、幼児期からの一貫した美里っ子育成のための園小中連携プログラムを各園小中学校で実践し、非認知能力を中心とした学びの基礎力の育成を図ってまいる考えであります。

４点目の読書活動に係る学校の取組状況と推進のための取組につきましては、現在町内各学校においては、全校一斉読書の時間を設け、子供たちの読書習慣を身につけさせるとともに、図書支援員の巡回により、学校図書館の良好な読書環境の整備に努めております。また、読書の魅力を伝えるための活動としましては、地域住民の読書ボランティアや児童生徒の図書委員による本の紹介や読み聞かせなども行っております。さらには、中学校の国語の授業では、ビブリオバトルで本への興味関心を高める取組も行っております。今後も学校図書館の有効活用を図り、各学校における読書活動の推進に努めてまいります。

次の中学校部活動の地域移行についてでありますが、１点目の本町における地域移行の課題につきましては、スポーツ庁及び文化庁がそれぞれ設置した運動部、文化部活動の地域移行に関する検討会議の提言において11項目の課題が示されておりますが、本町においては特に地域移行の受皿となる組織や団体及び指導者の質と量の確保が課題であると捉えております。さらには、他地域での活動への参加による広域的な移動手段の整備が大きな課題であると認識しております。

２点目の地域移行のスケジュールにつきましては、運動部、文化部活動の地域移行に関する検討会議の提言において、令和５年度からの３年間を休日の部活動の地域移行改革集中期間とし、地域移行の達成時期を令和７年度末を目途として示していますが、合意形成や条件整備等のためにさらに時間を要する場合には、環境が整い次第、順次移行していくものとしております。本町におきましては、昨年度から地域学校協働活動推進事業により、専門的な指導者の派遣を始めており、本年度はさらに拡充しております。また、総合型地域スポーツクラブや各種団体との協議を行うとともに、小中学生と保護者へのアンケート調査を実施し、部活動に対する意識やニーズを把握してまいります。休日の部活動の地域移行を段階的に試行しながら、令和７年度中の地域移行を目指してまいります。

３点目の広域的課題への取組につきましては、生徒のニーズに応じて、全てのスポーツ競技種目や文化的活動の環境を整えることは困難であり、広域的な連携が必要になると思われます。当面の間は市町村を超えた合同部活動の実施や他市町村と共同での受皿づくりも検討するなど、国や県の動向を見定めながら、部活動の地域移行を本町の実情に合うよう整備してまいる考えであります。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　長嶺一也君。

○６番（長嶺一也君）　丁寧な答弁ありがとうございました。再質問をさせていただきます。

まず、中学校の部活動の地域移行については、町として方針は定まっていない中での答弁ではありましたが、再質問させていただきます。

まず、中学生の成長期には、運動能力の伸び代を確保しつつ、特定の競技を専門的に打ち込むこと

をしないほうが、高校進学後、専門種目の運動能力が高まると言われております。したがって、生涯スポーツを推進する上でも、週末は平日の部活動以外の競技に親しむことも重要と考えますが、見解を尋ねます。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。

長嶺議員ご指摘のとおり、生徒の運動能力の発達に関しては、特定の種目に限定しないやり方も当然ありまして、欧米などでは一般的になっているかというふうに認識しております。そもそも部活動は国の指針でなく、学校が強制するものではなく、生徒の興味関心、能力、個性伸長のために、生徒個々が主体的に選択して行うものとされておりますが、本町をはじめ、県内でもほぼ中学校の全てが強制的に部活動に加入させている状況がまだ見られるところであります。それを踏まえまして、本町ではまず生徒の主体的判断による個性伸長のための部活動の選択というのが大切かというふうに思っておりますので、地域移行の前段といたしまして、来年度以降、主体的に部活動を選択できる環境をつくってまいりたいというふうに考えておりますが、一方では、そのようにした後、運動を全くしなくなる子供が出るなどの危惧もございますので、何らかの個性伸長の取組を家庭等でしながら、部活動に加入しないことも選択の一つとなるような道を探ってまいりたいというふうに考えているところであります。

○議長（横山知世志君）　長嶺君。

○６番（長嶺一也君）　今ほどの教育長の答弁で、運動をしない生徒が発生するのではないかというようなお話がございました。最近では子供の肥満が問題視されております。コロナで自宅に籠もりがちな児童生徒が増えて、肥満の子供が増えて、それが成人病の予備群みたいな形になっているというのも危惧されておりますが、そういったことのないように、子供の運動プログラムとか自宅での運動プログラムなんかも必要と思いますが、それについてはどのようにお考えなのかお聞かせください。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。

生涯スポーツの観点からも、進んで健康づくりのために運動する環境をつくっていく、あるいはそういう意識をつくっていくということは大変大事だというふうに思っております。子供たちにとっても運動の重要性が引き続き認識できるように、学校教育の中できちんと教育していくべきというふうに考えておりますし、基本的にはスポーツ、運動の保障は、やっぱり学校体育の中でできるのが理想かというふうに思っております。さらに、自分なりに選択して運動したいという子供が主体的に地域のスポーツクラブに入ったり、あるいは地域の大人と一緒に運動して余暇を楽しんだり、技術を向上させたりするという環境を将来的につくっていくことが大切かというふうに考えております。

○議長（横山知世志君）　質問者に申し上げます。若干通告と外れる部分が見受けられますので、注意していただきたい。

長嶺君。

○６番（長嶺一也君）　地域移行になったとき、学校の体育館や運動場は使用できなくなるのか、ちょっとお尋ねします。子供の移動負担を考えると、在籍している学校で活動させてほしいと思いますが、見解を尋ねます。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　ただいまのご質問でございますが、部活動の地域移行に当たりまして、学校の体育施設、これも地域の中で十分有効に活用していくことは大事なことというふうに考えております。学校管理上の問題がありますが、社会体育施設の利用の見直しとともに、学校体育施設についても社会体育の中でうまく使えるような仕組みをつくりながら、有効に活用してまいる考えでございます。

○議長（横山知世志君）　長嶺君。

○６番（長嶺一也君）　引き続き有効に活用するようにお願いします。

あと、地域移行を推進するに当たり、地域学校協働本部と学校運営協議会が担う役割も増えるものと考えます。そこで、地域移行に関し、学校を核とした地域づくりをどのように推進していくのかお尋ねします。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　地域移行の中で、今お尋ねの地域学校協働活動であったり、あるいは学校運営協議会の機能が大切ということでありましたが、地域でのスポーツ環境をつくっていくためにということでよろしいでしょうか。

〔「はい、そうです」と言う人あり〕

○教育長（歌川哲由君）　それでは、私、非常にそれは大事な観点かというふうに思っておりまして、学校運営協議会は学校経営のブレーンという意味でちょっと置いておきまして、地域学校協働活動は、本町でも既に昨年度から一部部活動に取り入れておりますけれども、地域人材を学校の部活動に派遣しながら専門的指導を受けられるような環境をつくっていくことは、今後も地域移行までの過渡的な機能ではありますけれども、必要なものというふうに考えておりまして、今年度も町内全ての中学校に拡充しましたし、来年度以降もさらなる拡充を目指してまいりたいというふうに考えております。

○議長（横山知世志君）　長嶺一也君。

○６番（長嶺一也君）　部活動の地域移行につきましては、単に地域に移行するのではなくて、地域と一体となった部活の地域移行ではないかなというふうに私は考えております。使える地域資源は全て使わないと、地域移行へのソフトランディングというのができないのかなと思っております。地域のマンパワーの活用が必須と考えますが、見解をどのように考えているのかお尋ねします。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　部活動の地域移行に当たりましては、地域の受皿づくり、そして指導者の

質と量の確保が何より大切でございますので、地域の様々なスポーツ関係団体、それから様々な、学校の教員も含めて、指導者と思われるものに当たりながら、良好な環境をつくってまいりたいというふうに考えております。

○議長（横山知世志君）　長嶺議員。

○６番（長嶺一也君）　それでは、ありがとうございました。地域移行につきましては質問を終わりたいと思います。

学力向上についての質問をさせていただきます。本町の学力テストの結果をどのように評価して、どのような課題があって、どのように対処していく考えなのか、改めてお聞かせください。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。

先ほどの答弁でも申し上げましたけれども、平均点ではありますが、県の平均や、あるいは全国のものと比較しますと、小学校では全教科下回っておりますし、中学校ではほぼ同レベルというふうな状況でございますので、やはり全体的にはさらなる学力の伸長が必要ですので、力を入れてまいりたいというふうに思っております。ただ、課題については、全てに共通するようなものもございますけれども、各学校や、あるいは各学校の教科に特化した課題もございますから、そういうものを学校において十分に分析しながら、必要な対策を講じていくよう校長等には指導しているところでございます。今後、分析による各学校の対応の状況につきまして、指導主事が各学校を巡回しまして、その効果とか内容を検証して、必要な指導助言に当たり、学力向上に向かっていきたいというふうに思っているところでございます。

○議長（横山知世志君）　長嶺議員。

○６番（長嶺一也君）　分かりました。ふくしま学力調査結果から、学力の伸びには、学習以外にも学校生活や自宅での過ごし方と関係があったり、学校単位で差があったりすると分析しております。学力が大きく伸びた学校の事例を活用することが必要と考えますが、見解をお伺いします。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。

議員ご指摘のとおり、学力向上に対するその好事例、これをやはり収集、普及することは大変大切であるというふうに思っております。広くは県教育委員会が県内全般にそういうふうな研修会等を設けながら、あるいは国立教育政策研究所の研究員などを招きながら、学調の結果と、今後力を入れていくべきことについての研修会なんかもしておりますので、そういう機会に各学校の研修担当者が参加しながら情報を共有する、それから先ほど申し上げました繰り返しになりますが、各学校ごとの実態がございますから、それを学校ごとに詳しく分析しながら、その分析結果に合った対応を取っていくというのがやっぱり何より大切かなというふうに思っているところでございます。

○議長（横山知世志君）　長嶺議員。

○６番（長嶺一也君）　学力の低下の一つに、コロナ禍で友達と遊べない、楽しいはずの給食も黙食のためにおいしく感じないなど、学校生活の楽しさが減少し、勉強に対する意欲も低下した可能性があると研究分析結果も報道されておりました。学習意欲低下を解消することも学力向上につながると思いますが、見解をお伺いいたします。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。

コロナ禍の影響によるというふうなお話でございましたけれども、私どもそういうエビデンスは持っておりませんが、そういうふうなご指摘があるということでございます。学習意欲の向上という部分では、大きく私は２つの観点があるというふうに思っておりまして、１つはコロナ禍であったり様々な学校や家庭での環境を乗り越えながら学びに向かうようなやっぱりスタイルをつくってあげるというのが大事ですので、学校での学習は授業は普通どおりやっておりますけれども、議員６月議会でもご質問いただいて、コロナ禍によるストレス解消をどうしていくのだというふうなお話がありましてお答えさせていただきましたけれども、やはり学校がめり張りをつけて、昼休みもっと自由に遊んだり、子供たちが伸び伸びと生活できるような環境をつくっていくということが、学校生活を楽しんで、学びに向かうやっぱり基本的な力になっていくのかなというふうに思っています。加えまして、家庭学習も大事ですから、やはり県が出している家庭学習スタンダードなんかに基づきながら、自分の家庭学習をマネジメントする力をつけてやることも大事だというふうに思っています。

それから、もう一つの側面としては、やはり将来にわたって自分の学びを続けていくような、そういう力をつけてやるためには、私はキャリア教育がすごく大事だなというふうに考えております。幼児期から自分の趣味嗜好を分析したり、自己分析したりしながら、将来の夢を持って、その夢を実現するために今どんな学びをしていけばいいのか、どんな進路を取ればいいのかというようなことを現在小中学校でもやっておりますけれども、県では国の指針に基づきまして、キャリアパスポートと申しまして、自分のそういう履歴を記録しながら、小学校、中学校、高校まで持ち上がるようなシステムをつくっておりますけれども、そういうことにも基づいて、学びを止めない、将来にわたって自分の目標に向かって学び続けるような環境をつくってやることが、学習意欲、モチベーションをつくっていくことにとっては非常に大切かなというふうに考えているところであります。

○議長（横山知世志君）　長嶺君。

○６番（長嶺一也君）　今ほどの答弁、学習意欲低下についてなのですが、本町では、学習意欲低下の事象は発生しないという理解でよろしいのですか。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　コロナ禍による学習意欲の低下という部分につきましては、それに特化した調査はしておりませんので、現実的にエビデンスは持ってございません。ただ、全国学力・学習状況調査の中で質問紙調査という、質問に答えるような調査がございまして、それによっては、昨年度

の全国学力テストの成績はそれなりに高い学校の子供たちが、学校が楽しくないと回答しているような比率が増えたり、何らかの影響はあるのだろうというふうには考えております。

○議長（横山知世志君）　長嶺君。

○６番（長嶺一也君）　分かりました。ありがとうございました。

教員の資質向上についてお伺いします。今の教員は、私が学生の頃の時代と違って、教えることばかりではなくて、教えるに当たって、いろいろと覚えることがたくさんあると思います。小学生からの英語教育、あとタブレット端末の活用の教育、電子教科書の活用など、教える時間よりはるかに多い時間を確保して、未来を担う子供のために先生方は勉強していると思います。

そこでお聞きしますが、教員のさらなる資質向上をどのように図っていくのかお尋ねします。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。

ご指摘のとおり、教員は、教育公務員特例法にも明記されているとおり、絶えず研究と修養に努めなければならないというふうな法律の定めがございます。様々な研修が行われておりますが、基本的に教員、県費負担教職員の研修というのは、任命権者である福島県教育委員会の権限の下に行われております。私ども市町村といたしましても、その研修を後押ししたり、参加しやすい体制をつくったりというふうなことで支援をしていくことは当然でありますが、主に私どもができるのは、校内での研修の充実というふうに考えております。各小中学校におきましては、毎年子供の実態改善のために研究テーマを立てて、それに向けて全教員が研修計画に基づいて授業をつくり、そしてみんなに見てもらって改善をしていくというふうな取組をして、年度末にはその成果を論文にまとめるような取組を校内でしております。そういうことを活性化しながら教員の指導力向上を図っていきたいというふうに思っていますし、加えてやっぱり何より大切なのは、日頃の教育活動の中での研修、お互いに教え合う学び合う、ＯＪＴ、オン・ザ・ジョブ・トレーニングの中で、やはり先輩後輩関係なく、お互い学び合う環境をつくっていくのが大事だというふうに思っておりますので、園長先生や校長先生の中でも申し上げておりますが、校内研修の充実については、指導主事あるいは学校経営アドバイザーの巡回指導なんかも含めながら、今後さらに力を入れていきたいというふうに考えております。

○議長（横山知世志君）　長嶺君。

○６番（長嶺一也君）　引き続き、教員の資質向上に努めていただければというふうに思います。

あと、最近の新聞報道に、教員免許に10年の有効期限を設けた制度が廃止になるという記載がございました。

○議長（横山知世志君）　それ通告していないでしょう、教員試験の件は。

○６番（長嶺一也君）　振りの部分です。

○議長（横山知世志君）　そうか。はい、どうぞ。

○６番（長嶺一也君）　更新講義も受講しなくてもよくなりまして、教員の資質低下につながるので

はないかと心配しております。そこで、よりよい教員の指導法を構築して、授業の質を高めることが重要と考えますが、本町の一貫教育を推進するに当たって、どのように指導法を構築していくのかお尋ねします。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　確かに教員免許更新制度につきましては、７月の国会におきまして廃止されまして、現在国は中央教育審議会特別委員会の中で、新たな研修制度について、研修指針の改善であったり、それからガイドラインの案をつくったりしておりますけれども、恐らくそれに基づいて、来年４月の実施に向けて、これから具体的な方策が練り上げられていくものと認識しております。それに従っていくということになりますけれども、私は教員免許更新制そのものが本当に有効であったかの検証も含めて、これは賛否両論、様々ございますけれども、なくなったから急に教員の質が低下するというふうには個人的には考えておりません。先ほど申しましたとおり、校内での研修体制などを維持しながら、教員の磨き合い、これをやっぱりつくっていって、資質を向上させていくのがやっぱり一番大切かなというふうに考えているところでございます。

○議長（横山知世志君）　長嶺君。

○６番（長嶺一也君）　ありがとうございました。

読書の取組についてお聞きしたいと思います。子供の感性を豊かにする上でも、読書の習慣化は重要であると考えます。各学校での読書活動の取組の成果を教育長はどのように評価しているのかお尋ねします。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。

先ほど申しました全国学力・学習状況調査の質問紙調査の中に、読書に関する項目も若干ございます。例えば学校の授業以外で１日にどれくらい本を読みましたかとか、それからよく問題になる１か月の読書冊数何冊でしょうかというふうな質問とかあるわけですけれども、押しなべて全国の学習状況調査では、ほぼ私は県、全国と変わらないような数値が出ているというふうに思いますけれども、別な調査ではやはり、特に中学生において読書の時間が少なかったり、それからその必要性、読書そのものが楽しくないというふうな回答をしている生徒の比率が若干県や全国より高いというふうな状況があります。今後とも、確かに読書は非常に読解力の基礎になる大事なものかというふうに思っておりますので、その充実に向けて様々な対策を講じていきたいというふうに思っております。特に幼児教育と連携した小中一貫教育の充実において、私は幼児期からの読み聞かせ等の、やっぱり読書に親しむ、本に親しむ、そういうふうな環境をつくってやることが非常に大事だというふうに思っています。先ほどもお答えいたしましたが、ボランティアによる読み聞かせなども充実している小学校もございますので、町内全ての小学校でさらにそういうボランティア、読み聞かせなどが充実されるようにしたり、それから中学校においてやっぱり読書から離れる傾向がありますので、やはり先ほど申

しましたビブリオバトルとか、様々な取組を通して、本に親しむ中学生を少しでも多くやっぱりつくっていくべきというふうに考えております。
○議長（横山知世志君）　長嶺君。
○６番（長嶺一也君）　引き続き取り組んでいただければというふうに思います。
　感性を豊かにしまして、ディベートのような対話を通して様々な考えを共有しながら探求する学習も重要と言われております。しかしながら、コロナ禍では対話も制限されます。どのようにこの感性を豊かにしたい、子供の対話の時間がなかなか少なくなっている中で、学力向上に関しまして、そういった対話ができるような環境づくりをどのように取り組んでいくのか、いっているのか、ちょっとお聞きしたいと思ったのですが。
○議長（横山知世志君）　教育長。
○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。
　コロナ禍によりまして、直接的な対話等の学習は少なくなっている現状はあるかというふうに思っております。よく言われる、現在取り沙汰されている令和の日本型教育で取り上げられております個別最適な学びと協働的な学びというふうなフレーズがございますけれども、協働的な学びは大事だというふうに思っています。これは、直接対話することだけでなくて、一つの例えば学習課題に対して探求的に協働で作業して学習を進めることであったり、様々なやり方があるというふうに思っています。加えまして、対話が制限される中で、ＩＣＴ機器を使いまして、１つのスプレッドシート、画面の中に児童生徒が自由に自分の意見を書き出して、お互いが画面上で意見を共有したりとかいう学びは当然できますし、やっているところも少しございます。今後はそういうふうなＩＣＴ機器の活用なども含めて、コロナ禍でできない学習活動を補いながら、充実した共同的な学びができるよう、学校にも指導してまいりたいというふうに考えております。
○議長（横山知世志君）　長嶺君。
○６番（長嶺一也君）　読書活動の中で子供が読みたい本、教員とかボランティア等が読ませたい本、この２つは多少の相反するものがあると思いますが、どのように折り合いをつけて読書活動の指導をしているのかお聞きします。
○議長（横山知世志君）　教育長。
○教育長（歌川哲由君）　学校によって取組は様々だというふうに思っていますけれども、これまでの私ども経験とか、あと実際やっている学校などの様子をお話しいたしますと、読んでほしい本、これを例えば学級ごとに学級の文庫としてそろえて、学級の中で自由に見れるようにしたり、それから必ず読んでほしい本のコーナーをつくったりとか、あるいは読書感想文に書くためのシリーズのこの本の中から書いてほしいというふうなものを提示したりとか、様々なやり方があろうかというふうに思います。朝の読書活動など10分間の毎日読書活動をやっているような学校では、最低これだけは全員が読んでほしいなんていう図書を指定しているところもございますし、そのようにして、やっぱり

読ませたい本も読ませる、そして読みたい本も読ませるというふうな環境づくりは大切かなというふうに考えております。

○議長（横山知世志君）　長嶺君。

○６番（長嶺一也君）　ご承知のとおり、ウクライナ問題、それに伴う物価高騰問題、福島原発の処理水の海洋放出問題など、様々な社会課題について子供たちが適切に捉え、自ら考える力の育成に向け、教育現場において新聞の積極的活用を訴える新聞社の社説がありました。読書活動と新聞活用は、子供たちが社会に関心を持つ上で良い案内役となるとも書いてありました。特に中学生には、最近耳にする地政学を学んでほしいと思います。実は最近「13歳からの地政学―カイゾクとの地球儀航海」という本を読みまして、恥ずかしながら初めて地政学という言葉を知った次第でございます。私が尋ねたいのは、日本新聞協会指定、ＮＩＥ、ニュースペーパー・イン・エデュケーションの実践校である会津若松市の小金井小学校や大戸中学校などの有効な実践事例を本町小中学校でも取り入れているのかについてお答えください。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。

現在、町内の学校においては、ＮＩＥ教育の指定校を受けたりして、新聞を無料でたくさん頂けるわけですけれども、そういうものを実践している学校はないというふうに認識しております。各学校においては、図書館等で、子供新聞であったり一般的な新聞であったりを閲覧できるように置いておきながら見てもらうというのが一般的なやり方かなというふうに思っています。自治問題に関しましては、例えば総合的な学習の時間であったり、あるいは社会科の授業であったり、関連するところで、子供たちの興味関心に応じながら適切に取り扱っているものと認識しております。

○議長（横山知世志君）　長嶺君。

○６番（長嶺一也君）　子供が社会に出てからも対応できるような教育についても取り組んでいただければというふうに思います。

子供の学力向上には様々な指導が手法があると思いますが、教員がそれを一つ一つ行うには必然的に限界があると思います。限られたマンパワーの中で各小中学校における学力向上の取組が有効に機能するためには、教育長の統率力にかかっていると思います。県教育庁勤務も経験された教育長でもありますので、教育行政にはたけていると思います。改めて、学力向上に係る教育長の所信をお聞かせください。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　ありがとうございます。お答え申し上げます。

学力は、やはり生きる上でなくてはならないものというふうに思っておりますが、学力にも様々な側面がございます。定義もございます。私がよく申し上げているのは、例えば中学校３年生卒業時の出口でやはり学力が必要であると、進路選択のために。そのために、今必要な学力をトレーニングし

てつけてやるのも非常に大切なものだというふうに認識しております。これに当たっては、当然、小中学校の授業力の向上であったり、それから子供たちの家庭学習と相まった学びの連続性をつくりながら学力を高めていくということは大事だというふうに認識しております。一方では、人材育成プロジェクトに掲げましたように、私は小さい頃からのやっぱり非認知能力などの育成によって、学びの基礎力をしっかりつくってやるというのが大事だというふうに思います。非常に時間がかかるわけでありますが、やはり根気強く取り組む力であったり、協同して学ぶ力であったり、失敗してもへこたれない力であったり、コミュニケーション力であったり、自己肯定感であったりとか、そういうものを身につけながら、加えて先ほども申しましたが、幼児期からの読み聞かせなどによる、やはり読解力の育成、これは何より大事かなというふうに考えております。そういうものを通して、今後本町の子供たちの学力向上に努めてまいりたいというふうに思っております。

これは一例になりますけれども、今年度の全国学力・学習状況調査の小学校の算数の問題で、オレンジジュースを２人で分けたときに、その果汁の割合はどうなりますかという問題がありました。変わらない。２分の１になる、増えるとかって選択肢があったわけですが、全国の正答率が２割ちょっとです。本町は18、19％であります、８割の子供たちが。これ実生活では、２人にオレンジジュース分けたらば、濃さが半分になって味が薄くなるという体験をしている子供は誰もいないわけです。ただ、果汁の割合という定義だったり、そういうものがしっかりと理解されていない、あるいは読めていないからそういう間違いが起こるということもあります。これ私非常に特徴的ないい問題だったなというふうに思っているのですけれども、そういうことを頭に置きながら、子供たちに学ぶための本当の基礎の力をつけてやるというのがやっぱり大事だというふうに考えているところであります。

○議長（横山知世志君）　長嶺君。

○６番（長嶺一也君）　子供の学力向上につきましては、例えば予算つけたから、次の年からどんと向上するというものではなくて、長期間のスパンがないと効果が見えてこないものであります。そういった中で、教育長の考えと同じベクトルを、校長以下、全ての教員が同じ方向を向かないと、学力向上もうまく機能していかないのかなというふうに思いますが、その辺の同じベクトルで取り組んでいくためにどういったことが必要なのかお聞かせください。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。

やはり共通の認識に立つというのを大事にしていきたいと思います。それはやっぱりゴールを、いわゆる目標を一緒に持って、その目標に向かって同じ取組をできるだけしていくというのが大事かなと思っています。ですから、人材育成プロジェクトにつきましても、各こども園等でも教員に私からレクチャーさせていただきましたし、７校の小中学校の全教員にもオンラインで思いを述べましたし、今後、夏休みにこども園のリーダー的な教員を集めて研修会やりました。町内４つのこども園の教員たちが同じスタンスに立つというのも大事だと思います。そこでもやっぱりもっともっと顔を合わせ

て話し合っていく必要があるというふうな認識を得られましたし、今後こども園の先生方からも、小中学校との連携がすごく大事だというふうな話も出てまいりました。この秋にも小中学校とこども園の先生方が集まって、様々な情報交換をしながら連携を深めて、子供の連続した学びをつくっていくためにどうしたらいいのかというふうな協議の場を設けたいというふうに考えております。やはり幼児期から一貫した教育をつくっていくためには、幼小中の教員が、幼児教育に関わる教員、小中学校教育に関わる教員が連携して、同じ歩調で事に当たっていくという体制をつくっていくのが何より大事かなというふうに思っているところであります。

○議長（横山知世志君）　長嶺君。

○６番（長嶺一也君）　先ほどのふくしま学力調査の分析報告の結果なのですけれども、コロナで多分２年ほどできなかったというふうに何か書いてあったような気もするのですが、今回やったので、学力調査ができたので、前回の調査結果と比較ができたというふうな新聞報道だったのですが、こういった同じ児童生徒の継続的な学力の、こういった同じような学力調査をやった上で、その学力の伸び、あとは低下というのが分析結果として見られるかと思うのですけれども、そのような一人の児童生徒を継続して追いかけて調査するということにつきましてはどのような形でやっているのか、ちょっとお聞きしたいのですが。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　ふくしま学力調査においてということでしょうか。

〔「はい」と言う人あり〕

○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。

ご存じのとおり、全国学力・学習状況調査というのが毎年違う子供たちであるはずの小学校６年と中学校３年をテストの調査対象にして、その平均点がどうこうというような議論をしているわけでありますけれども、私も県の教育委員会に行ったときに、そういう平均点議論から脱却して、今議員がご指摘なされました子供たち一人一人の変容を捉えていこうと。そのためにはどういう方法がいいのだというふうなことを議論しまして、たまたま埼玉県で取り入れていた埼玉方式と今言われておりますけれども、その学力調査が子供たちをずっと追いかけて、経年での学力の変化を見ていくという調査があったので、それを導入したところであります。

これにつきましては、子供たち一人一人にも保護者にもその結果を返しておりますし、教員も当然見ております。子供たちが学力調査で前年度からどれくらい伸びたか、あるいは伸びなかったか、少し下がってしまったかというふうな結果を見て、自省することもできますが、やっぱり私は教員が見ながら、自分の指導のやっぱり反省材料に使っていくというのが一番大事かなと思いますし、それから個別最適な学びをつくっていくためには、子供たち一人一人のそういう学習の状況であったりつまずきであったりというものを調査結果から分析して、できるだけ日頃の授業の中で改善に向けたフォローアップができる、それがやっぱり大切かなというふうに考えております。各学校には分析結果が

行って、分析が進んでいると思いますが、今後指導主事の巡回訪問など含めて、その改善状況であったり取組についても私どもで精査しながら、必要な指導をしてまいりたいというふうに考えております。

○議長（横山知世志君）　長嶺君。

○６番（長嶺一也君）　ありがとうございました。以上で質問を終わります。

○議長（横山知世志君）　これで長嶺一也君の質問は終わりました。

ここで11時10分まで休憩いたします。

休　憩　　（午前１０時５４分）

再　開　　（午前１１時１０分）

○議長（横山知世志君）　再開します。

次に、通告第２号、５番、山内豪君。

〔５番（山内　豪君）登壇〕

○５番（山内　豪君）　一般質問通告書に基づき、２つに分けて質問をいたします。よろしくお願いします。

まず、１つ目でございますが、コロナ禍の稲作の考え方についてでございます。コロナ禍での米の消費量は最悪で、米価にはっきりと表れています。そのような中で、今年の稲作は昨年にも増して生産費の値上がりや米価の下落が予想されております。我が町は、幸い直播の先進的地域でもありますので、生産費の減少に寄与しておりますが、全体ではまだまだではないかと思われます。このままでは、農業者は再生産ができない赤字拡大経営になってしまいます。また、年齢も高齢となり、後継者もいない状態が現状です。

そこで提案ですが、昨年の会津美里町稲作経営継続支援金のような補助制度により、農業者への手厚い支援が必要と考えますが、町の所見を伺います。

また、米の消費拡大策として、米粉の増産に補助金が必要と考えますが、所見を伺います。

そして、ふるさと納税のヒット商品が数多く出ればと考えますが、町の所見をお伺いします。

２問目でございますが、新鶴温泉健康センター及び宿泊研修施設ほっとぴあ新鶴周辺の整備についてでございます。今般、新鶴温泉健康センター及び宿泊研修施設ほっとぴあ新鶴に買手の希望者が出ているとのこと、また相手は新鶴温泉をよく知っており、会社も申し分ない優良企業と聞いております。今後は、私どもの要望事項を出していくことが肝要かと考えます。例えば今はやりのテント宿泊、テントサウナ、ソロキャンプ、キャンピングカー宿泊等々。宿泊施設は、２人をコンセプトに、家族宿泊やペット宿泊等々の誘客対策が必要と思います。また、近くに400メートルのトラックがあり、大学等の合宿に最適と思われます。10月１日からの只見線全線開通と同時に、海外旅行客に視野を広く持ってもらうようＰＲしたらよいと思いますが、所見を伺います。

また、片側２車線化が計画されている新鶴インターの最大限活用も必要です。直売所の新設やパイプハウス直売所からの簡易道の駅の検討が必要です。所見を伺います。

また、ブドウ直売所の集約の検討が必要です。中田観音周辺の整備についても同じです。ワイン直売所、食事どころの利用や桐げた・桐たんす直売所、薬用ニンジンの１日体験研修やブドウ１日体験研修など、数多くのメニューを提示して誘客対策になるかと思いますが、町の所見をお聞かせください。

以上２点について質問をいたします。よろしくお願いします。

○議長（横山知世志君）　答弁、町長、杉山純一君。

〔町長（杉山純一君）登壇〕

○町長（杉山純一君）　５番、山内議員の一般質問にお答えいたします。

初めに、コロナ禍の稲作の考え方についてでありますが、１点目の農業者への手厚い支援につきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大により米価が大幅に下落し、さらに世界情勢の不安定化による原材料の高騰に伴い農業生産費が著しく高騰し、農業者は非常に厳しい経営状況に置かれていると認識しております。町としましては、昨年度は、令和元年と令和２年の収入を比較し10％以上減少した認定農業者に対し、認定農業者等経営継続支援金の交付や、主食用米作付農家に対し、営農意欲の喚起と次期作の負担を軽減するために稲作経営継続支援金を交付しました。さらに、燃油の高騰対策として、使用料を抑制するための資材等の導入費用について、園芸施設燃油価格高騰対策緊急支援事業補助金を交付し、支援を行ってまいりました。また、今年度においては、農業生産費が高騰していることから、認定農業者等農業生産費高騰対策支援金を交付し、肥料、飼料、資材費、光熱動力費の高騰に係る支援を行ってきたところであり、さらに春肥の値上がり分の支援として、肥料高騰緊急対策事業補助金の交付に向け準備を進めているところであります。現段階で、米の仮渡金について公表されておりませんが、米価の下落については、まずは収入保険やナラシ対策などの既存の制度を活用いただくよう周知しているところであり、稲作に依存しない複合経営の推進を図ってまいります。また、生産費の高騰については、今後も継続することが見込まれることから、令和４年度産米の仮渡金の状況や国、県の動向を注視しながら、農業経営の安定化に資する必要な支援に努めてまいります。

２点目の米粉増産に係る補助金につきましては、米粉を使った商品が流通し消費されることは米の消費拡大につながるものと考えますが、米粉の需要については不透明なことから、利用方法や売り先を確保した上での取組が必要になると考えております。補助金については、町農産物販路拡大促進事業補助金で農産物を活用した商品開発等に対する補助を行っていることから、現行の町補助金や県の補助金により農業者の取組を支援できるものと考えております。

３点目の農産物加工品の返礼品につきましては、消費者と生産者をつなげるきっかけとなり、返礼品を通してブランド力や知名度を高めることが期待できます。さらには、本町農業者の所得向上につながることから、今後も農産物加工などの取組について、様々な機会で支援を行ってまいります。

次の新鶴温泉健康センター及び宿泊研修施設ほっとぴあ新鶴周辺の整備についてでありますが、１点目の新鶴温泉周辺施設の利活用と只見線再開通に伴う海外へのＰＲにつきましては、新鶴温泉については現在民間事業者への譲渡を進めておりますが、売却後も譲渡先法人との連携は欠かせないと考えております。誘客対策として、新鶴温泉と周辺の運動施設やアウトドア施設を連携し、お互いの長所を相乗効果として発揮できるような活用方法を提案してまいります。また、只見線の魅力の発信につきましては、ＳＮＳアプリであるインスタグラム上で展開しております。国内はもとより、海外に向けても情報発信が可能であり、台湾などの只見線人気を支える手段の一つとなっております。本町でもフォトコンテストを実施し、只見線をはじめ、町内の絶景や観光情報を発信しておりますので、今後も継続してまいります。

２点目の新鶴インター活用と直売所の検討につきましては、新鶴地域にはブドウや野菜の直売所が点在し、それぞれが個性を生かした経営をしております。直売所の集約や新設の必要性を含めまして、まずは直売所の皆様の声を聞き取りながら、新鶴地域にふさわしい販売形態について検討を進めてまいります。

３点目の新鶴温泉周辺施設の誘客対策につきましては、新鶴温泉の周辺にはワイナリーをはじめとする農業施設や運動施設など、多くの観光資源が点在しておりますので、それらを連結させて、四季折々の体験を盛り込んだ様々なメニューを用意し、観光拠点として新鶴温泉を活用していただくことでさらなる誘客に努めてまいります。

私からは以上です。

○議長（横山知世志君）　山内君。

○５番（山内　豪君）　１点目のコロナ禍の稲作の考え方についての中で、今まで米の消費拡大関係でコシヒカリ一辺倒というような流れの中でやっていたわけなのですが、このコシヒカリについても、今セブンイレブン・ジャパンとか、そういうところと大口契約がされる中で、そちらのほうに品物が行って、大変喜ばれている現状がございます。ただ、あくまでも震災前だとそのような状況でよかったのですが、震災があって値段ががくんと下げられてしまったという経過があるのです。そういうような状況の中で、米の消費拡大、コシヒカリというような流れはもうそろそろ手を切って、新しい品種を模索していくというのがよろしいかと思うのですが、それらの考え、町としてはどういうふうな考えをお持ちかお聞かせ願いたい。

○議長（横山知世志君）　山内議員に申し上げます。その辺は通告載っていないのだけれども、もう少し要点を絞ってお願いできますか。

○５番（山内　豪君）　はい。今、各種の補助金なりなんなりが稲作に対してあるのですが、そのような稲作関係について、助成金関係で新たに見られる部分としてどういうのがあるか、聞かせていただければと思うのですが。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　補助金につきましては、稲作の直接の米価下落に対する補助というのはなかなかないのですけれども、やっぱり園芸農業ですか、そういったことに転換するようなものに対して補助金などをいろいろ用意してございます。
○議長（横山知世志君）　山内君。
○５番（山内　豪君）　私が言っているような稲作に対しての補助は今のところ、そうはないというようなことで、園芸のほうにシフトしたらというような内容だったと思うのですが、それを新たに稲作としてまたこの米価下落の中で考えられないかというようなことを言っているわけでございますので、もう一度答弁をお願いしたいと思います。
○議長（横山知世志君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　米価下落というものは本当にありませんが、新たな品種に対する開発ですか、そういった補助ですとか、あとは昨年度行いました継続給付金のような、意欲を持って生産していただくための継続の給付金ですとか、そういったもの必要なものについては行っていきたいというふうには考えております。あと、具体的……すみません、ちょっと休議お願いします。
○議長（横山知世志君）　休憩します。

休　憩　　（午前１１時２８分）

再　開　　（午前１１時２９分）

○議長（横山知世志君）　再開します。
産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　失礼しました。今ほどの質問については、いわゆる現状をもう打破し、チャレンジするような農家を応援する補助というのをこれからも進めてまいります。

〔何事か言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　ちょっと待って。
産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　新たな品種などに、これから水稲を作付するとか、そういったような挑戦とかに対しての補助なども行っていきたいというふうに思っております。
○議長（横山知世志君）　山内君。
○５番（山内　豪君）　私の質問に対して３点お答えしてもらえばよかったのを、私もそれた質問をちょっとしてしまって大変申し訳なかったのですが、元に戻したいと思いますので、よろしいですか、議長。
○議長（横山知世志君）　元にというのは。
○５番（山内　豪君）　元にというのは、私の３点の質問の中に戻したいというようなことなのですが。

○議長（横山知世志君）　もちろん通告書に沿って質問してください。
○５番（山内　豪君）　はい分かりました。
　はっきり申し上げて、今、農業者は大変困っております。そんな中で、やっぱりきちんとした補助制度、そういうものが農業者は必要だなということを思っておりますので、そこに対する補助というか、何らかの補助を必要であるということと、あと全体的に会津を見た場合に、他町村に比して負けるような施策というのはちょっと考えにくいものですから、やっぱり同じく肩を並べるような補助制度も必要かというふうに思いますので、その辺をご検討、検討というか、補助制度を導入してもらえればというところでございます。１点目はそういう内容でございます。
○議長（横山知世志君）　答弁必要でしょう。その分も答弁必要でしょう。まずそれいきましょう。
　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　お答えさせていただきます。
　当然米価は本当に下がっておりまして、そして逆に肥料ですとかそういったものは大幅に上昇しておりますので、やはりその肥料の高騰に対する助成ですとか、あとはこういった農業資材の高騰等は今後も続くと思いますので、低コストに対する補助のようなものは行っていかなければいけないと考えております。
○議長（横山知世志君）　よろしいですか。山内君。
○５番（山内　豪君）　稲作経営継続の補助も含めた中で、今年度も多大なる助成を、支払いを農業者にやっていかなくてはならないと思いますので、どうかその辺よろしくお願いしたいと思います。
　２点目お伺いします。米粉の消費拡大というようなことで書いたわけでございますが、米粉については、今小麦粉に代わって米粉の時代というような流れの中で、米粉をいかにＰＲなり、米粉をいかに作っていくかというのが必要かと思いますが、この辺の考え方をお聞かせ願いたいというところでございます。
○議長（横山知世志君）　産業振興課長、小林隆浩君。
○産業振興課長（小林隆浩君）　米粉につきましては、米粉用米というのはＪＡで集荷がされていないという状況でして、確かに原材料価格は小麦粉も、実は米粉もそれほど変わってはいないのですが、ところが店頭というのですか、お店で並ぶときは、流通にも原因があると思うのですが、流通のコストで本当に米粉のほうが小麦粉より２倍３倍高いような状況となっております。ですから、やはり消費、米粉を活用に当たっては、やはり議員おっしゃったとおり、まず出口というのですか、どのようにして売るかという、あとは六次化製品とかということにもなると思いますが、どういったような製品にして売るかということも含めて調査を行った上で、あとＰＲなども行っていく必要があると考えております。
○議長（横山知世志君）　山内君。
○５番（山内　豪君）　例えば米粉ラーメンとか、米粉のいろいろ商品あるのですが、それらの全然

消費が伸びないとか、そういうようなことで、今、米粉に対してもっともっと関心を持って、いかに拡大、米粉をいかに作っていくかということと、さらにはそれをいかに商品化していくかということを真剣になって考えていただければ消費拡大にも寄与すると思いますが、いかがでしょうか。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　町のほうには現在でも農産物販路拡大支援事業補助金というのがございまして、農産物の原料を加工して六次化にするための機械ですとか、そういったものを購入する助成ですとか、それを首都圏等に行って、マルシェなどを行って、実際に直売してみるといったような、そういうような助成もありますので、そういったものをもっとＰＲしまして、米粉活用の宣伝につなげていきたいと思います。

○議長（横山知世志君）　山内君。

○５番（山内　豪君）　地産地消も兼ねますと、米粉パンなんていうのも商品化の一つだと思うのですが、米粉パンについては通告にはないのですが、学校給食等に当然入れてなりなんなりというようなことでやっていきたい、いかねばというふうにお願いしたいわけなのですが、その辺は米粉パンとかそういうものに関してどうでしょうか。

○議長（横山知世志君）　ちょっと今の、給食に関しては答えられないと思うのですが、米粉のパンに関しての見解は。

　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　今の質問につきましては、やはりいろいろ資料とかを見ますと、パンですとか、ケーキですとか、それこそカップヌードルのような麺にも一部練り込むとか、いろんな手法があるようでございます。いろんな可能性もあると思いますので、今後調査なり研究なりしていきたいと思います。

○議長（横山知世志君）　山内君。

○５番（山内　豪君）　米粉も重要な消費拡大の一策だと思いますので、どうかその辺取組をもう少し多角的に考えて導入してもらいたいというふうに思います。

　さらに、最後にふるさと納税の考え方についてちょっとお尋ねしたいのですが、今まで先ほど申し上げましたとおり、米は20年くらいコシヒカリ一辺倒で会津地方きたわけでございますが、これにまず、これを補うというか勝るものとしましては、今、「福、笑い」というような形でコシヒカリの先を行くのではないかというような品種がやっと出ました。それを、どうして伸びないかというか、どうして作付が増えないかといいますと、ＧＧＡＰ、ＧＡＰ、これが問題あって、なかなかそれを取れないと。取れた人には種をおあげしますよということなのですが、今、ふるさと納税の中で湯川村とかいろいろかなりの金額を上げているのですが、会津美里についてもふるさと納税の金額を上げるには、この「福、笑い」という品種を取り組むということにどのようにお考えか、お聞かせ願えればというふうに思います。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　ふるさと納税でやはり実績を上げていくためには、本当にいろいろな品種なり商品、返礼品なり、いろいろ数多くの、数豊富なほうがよいに決まっていますので、こういったような本当に魅力的なようなお米とかがあれば、そういったものも検討させていただきたいと思います。
○議長（横山知世志君）　山内君。
○５番（山内　豪君）　ＧＧＡＰ取れるには、相当数の農家の賛同を得ないとなかなか難しいものありますが、ほかに先駆けてやるには、今、米に関してはこの「福、笑い」だけしかないと思います。そういうことで、価格もかなり取れると思いますし、さらには粒張りもよく、短稈で倒伏しにくいというような、かなり作っていても作りやすい品種かなというふうに思いますので、どうかこの辺を一緒になって農家の方たちに推奨して、美里のふるさと納税品の一つとして加えていただければというふうに思いますが、最後になりますけれども、この辺の見解をお願いします。
○議長（横山知世志君）　政策財政課長、國分利則君。
○政策財政課長（國分利則君）　ただいまご提案の、ふるさと納税について活用したらというご提案でございます。確かにそういった魅力的なお米であれば、当然寄附される方も増えるのかなと思っております。ぜひ関係課、産業振興課のほうともよく話し合いながら、そういった新たな品種、さらにはおいしいお米をＰＲして、米の消費拡大、さらにはふるさと納税の拡大というのに取り組んでまいりたいと思います。
○議長（横山知世志君）　山内君。
○５番（山内　豪君）　それでは、新鶴温泉の関係に移ります。
　この新鶴温泉の提案しました内容の中で、まだはっきりしない点が多々あると思います。これは売却するかしないかも含めた内容でございますけれども、今でも売却するしないにかかわらず、整備しなければならない部分が、キャンプ関係のところとか、いろいろあるわけでございますが、この内容の中で、誘客を狙って進む中で、まずキャンプの考え方、こういうものは町としてはどう考えているかをお伺いします。
○議長（横山知世志君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　キャンプにつきましては、現在、町全体としては蓋沼森林公園ですとかせせらぎ公園などもキャンプ場があって、今すごいお客さん、コロナ禍でもあり、にぎわっている状況です。ふれあいの森公園の中にもキャンプ場は、バンガローとかキャンプできるようなものもありますので、そういったものもＰＲできれば、お客さんは呼ぶことができるのではないのかなというふうには考えております。
○議長（横山知世志君）　山内君。
○５番（山内　豪君）　只見線開通に向けての考え方でございますが、只見線の関係については後ほ

ど同僚議員が質問すると思いますので、それにお任せしますが、考え方として、特に台湾とかその辺のほうからかなり人気がある只見線だということも含めると、新鶴、根岸、この辺の駅も含めた中で、整備もっとしていったらどうかというふうに思うのですが、その辺を町としてどう考えているかお聞かせ願いたい。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　駅周辺の整備につきましては、やはり今鉄道写真愛好家の方たち、撮り鉄と言われる人たちですが、そういった方もかなりの数の方がうちの町にお見えになられて、いろいろ消費というのですか、お昼を食べたりですとか、何か物を買ったりとか、消費なども効果が見られます。そういう中で、やはりまずはそういった方々が本当に撮影スポットとなるような、きれいないい写真が撮れるように、邪魔なところは、邪魔な木が茂っていてちょっと写真のスポットに邪魔なところなどは、やはり所有者の同意を得まして、了解を得まして、そういったところは伐採するとか、そういう撮影スポット的なところは本当にきれいにしたいというふうに考えております。

○議長（横山知世志君）　山内君。

○５番（山内　豪君）　台湾とか海外の人に対する写真とかそういうのはいいのですが、そういう魅力の写真ばかりではなくて、誘客の数拡大に向けて、私が言っているような内容ではどうでしょうかというところもあるのですが。要は、今答弁の中で写真とかそういうふうなことを言われましたけれども、そういうのも含めた中で、海外とかそういうものの誘客をもっと拡大する方策としてどうでしょうかということを質問しているのですが。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　質問にお答えさせていただきます。

やはり当然直売所、そういったものにつきましては、今現在はそれぞれに点在する、個性を生かしたような経営を行っているということになりますが、お客様のやっぱり利便性とか、そういうのも考えて、今後この直売所の集約とか、これ当然直売所の方とまずは話し合う必要がありますが、そういったところでそういったようなことができるのであれば、直売所、集約的なものですとか、そういった観光客の拠点となるような……

〔何事か言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　ちょっと待って。

〔「海外誘客……」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　台湾を含めた海外の誘客……

〔「直売所の答えを言っているみたいですので、申し訳ございません」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　町長、杉山純一君。

○町長（杉山純一君）　お答えをさせていただきます。

只見線、ようやく10月１日の開通に向けて只見線の活性化協議会も含めていろいろな協議を進めております。その中で、台湾からの観光客、特に三島町と金山町が今までの関係を通して、特に景観が優れているということで、今、台湾の観光客が多く入っています。これ全線開通となりますと、当然若松から乗車すれば、本郷、高田、根岸、これが駅となってきます。そういった中で、我が町に降りて観光していただけるようなこともこれから期待されるところですから、そういったところも含めて、只見沿線の町村とも連携をして、観光客、台湾とか外国人の誘客にも努めていければなというふうに考えております。

○議長（横山知世志君）　山内君。

○５番（山内　豪君）　分かりました。

次に、今先走って答弁していただいた直売所の関係についてお聞きしたいのですが、直売所関係については、ここに道の駅と書きましたけれども、簡易道の駅みたいな内容でも十分なところがあると思います。その辺も含めて検討されるかどうだかお伺いいたします。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　簡易道の駅等の検討とかにつきましては、今後というのですか、やはり新鶴温泉に集客というのですか、周辺の集客を図るためにもこういったことができるかどうかということで、地域の方の意見なども聞きながら調査してまいりたいと思います。

○議長（横山知世志君）　山内君。

○５番（山内　豪君）　次に、薬用ニンジンというのはもう県下では当然新鶴しかないのですが、新鶴というか、美里地区しかないのですが、全国でも３か所だったのです。これがほとんど廃れて、新鶴でも２戸の農家が作っているのです、薬用ニンジンを。そういうもので、その品物を見せたりとか、栽培履歴を見たりとか、そういう形を取って、観光農業という内容とか、体験農業とか、そういうものにつなげて、やはり誘客というか、お客様を増やすというような意味でも、そういうような内容も必要かと思いますので、それについてはどうでしょうかということでございます。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　今ほどの質問に対しましては、当然新鶴地域の農作物、薬用ニンジンもそうですが、ブドウとか、あとそういったほかのいろんな野菜等もございますので、そういったもの、やっぱり農業体験など、今そういったものが観光客としても人気ありますので、そのようなものを観光資源として生かして集客を行っていきたいと思います。

○議長（横山知世志君）　お諮りいたします。

間もなく昼食の時刻となりますが、山内豪君の質問が終了するまで延刻したいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　それでは、山内豪君の質問が終了するまで延刻いたします。

山内君。

○５番（山内　豪君）　例えば桐げたも新鶴に１軒しかないのです、店屋さんって。これも、年齢のせいで、もう廃れてしまうのではないかと思うのですが、この桐げた関係についても、今徳島県とかそっちのほうに、もう品物としては行っているのです。だから、その辺も含めた中で、桐げたの体験や、あとはたんす屋も１軒ございますので、どうかその辺と連携を取って、体験、研修なりなんなりというか、そういうものを含めたらどうかなと思うのですが、どうでしょうか。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　観光の体験メニューにつきましては、当然お客様のニーズもありますので、そういったものも調査しまして、新鶴温泉を中心としたツアーを施設ごとに用意したいというふうに考えておりますので、そういった体験ツアーができるのであれば、調査、実施できるかどうか、そうした研究なども行っていきたいと思います。

○議長（横山知世志君）　山内君。

○５番（山内　豪君）　先ほどコロナ禍での稲作の考え方につきまして、もうちょっと深掘りしようかなと思ったのですが、同僚議員が同じような内容で聞きますので、それにお任せするようにして、私の質問はこれで終わりたいというふうに思います。どうもありがとうございました。

○議長（横山知世志君）　これで山内豪君の質問は終わりました。

ここで午後１時まで休憩いたします。

休　憩　　（午前１１時５５分）

再　開　　（午後　１時００分）

○議長（横山知世志君）　再開いたします。

次に、通告第３号、２番、大竹惣君。

〔２番（大竹　惣君）登壇〕

○２番（大竹　惣君）　それでは、通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

質問事項１、コミュニティ・スクールについてであります。今年度からコミュニティ・スクールが設置され、町民の意見を学校側に伝えやすい環境づくりを行いました。このコミュニティ・スクールの学校運営協議会において、保護者からの意見要望が上がっているのか、活発な議論が行われているのか、その実績を示してください。

質問事項２、地域子供の未来応援交付金について。現在、全国的に社会問題となっております子供の貧困問題について２点伺います。

①、本町においての子供の貧困問題に対する実態調査を行っているのかを伺います。

２点目、国の令和３年度12月補正予算において、新たな事業を創設した地域子供の未来応援交付金、深刻化している子供の貧困問題には国も力を入れてきております。本町においてこの交付金を活用す

る考えがあるのかを伺います。

質問事項３、町の観光振興と只見線の利活用について伺います。2011年７月に発生した新潟・福島豪雨により甚大な被害を受け、運転を中止しておりました只見線が、今年10月１日より全線で運転を再開いたします。本町においても、この只見線の沿線自治体であり、重要な観光資源でもあります。これを今後どのように利活用していくかを論点に、観光振興について４点伺います。

１点目、只見線の乗車率は低いですが、撮り鉄の方々が本町を訪れ、食事を取るなどの経済効果をもたらしております。宿泊やお土産、ご当地グルメなどの提案をして、さらなる波及効果を生み出すように努力すべきであると思いますが、考えを伺います。

２点目、本町における只見線のビュースポットは、１、寺崎の踏切、２、寺崎南東のカーブ、３、雀林踏切、４、根岸駅、５、高田前川原から宮里間の鉄橋であると聞きました。これらのビュースポット周辺の草刈りや駐車場等の整備、そして発信をすべきだと思いますが、考えを伺います。

３点目、只見線ファンの方に聞きますと、車窓からの景色もすばらしいが、雑草や雑木が邪魔して見えないところが多いようです。車窓からの景色を意識した景観の整備や、歳の神を電車が通る時間に実施してもらうなどの工夫をし、魅力の増進を図る必要があると思いますが、考えを伺います。

４点目、本町は豊かな観光資源に恵まれておりますが、十分に生かせていないのが現状です。観光で成功している自治体の先進事例を聞いたところ、魅力ある観光地に必要な事項を挙げますと、１、住民が主役で、観光地として町民の皆さんの意識改革、２、お金が町に落ち、町民の皆さんへの恩恵となる仕組みづくり、３、只見線の各駅で下車したくなるポイントの発掘、散策マップの作成、４、駅から観光名所や食事どころへの案内と二次交通の整備、５、フレイル予防事業の利活用、歩く、電車に乗るをセットにする、６、観光地のプロガイドの育成、７、トイレの整備等になると考えます。これらの項目について、町としてはどこまでできているのか、また今後目指していく考えがあるのかを伺います。

質問事項４、投票所入場券の送付遅延について。７月に行われた参議院議員選挙の投票所入場券の郵送が遅く、期日前投票ができるようになってからも届くまでかなり時間がかかり、町民の方々から改善すべきとの声が上がっております。つきましては、なぜ遅くなってしまったのかを示してください。また、今後の改善策はあるのかを伺います。

○議長（横山知世志君）　答弁、町長、杉山純一君。

〔町長（杉山純一君）登壇〕

○町長（杉山純一君）　２番、大竹議員の一般質問にお答えいたします。

なお、コミュニティ・スクール及び地域子供未来応援交付金につきましては教育長から、投票所入場券の送付遅延につきましては選挙管理委員会委員長から答弁しますので、よろしくお願いいたします。

初めに、町の観光振興と只見線の利活用についてでありますが、１点目の撮り鉄の経済効果対策に

つきましては、只見線を台湾など世界に売り出す立て役者として、撮り鉄と呼ばれる鉄道ファンの影響力は非常に大きいと認識しております。今後は、本町を訪れる鉄道ファンを満足させるような、買う、食べるという分野の強化も必要と思われますので、鉄道ファンのニーズの調査から取り組んでまいります。

２点目の只見線のビュースポットの整備につきましては、只見線活用の一つとして、鉄道ファンに向けてのビュースポットの整備、発信は欠かせないものと考えます。まずは周辺の地権者や安全面の調査から実施してまいります。

３点目の車窓からの景観の整備につきましては、支障となっている現場の確認を実施するとともに、只見線通過に合わせた催事やイベントが実現可能かどうかの調査から進めてまいります。

４点目の魅力ある観光地に必要な事項の１つ目、観光地としての意識改革につきましては、住民の観光地としての意識は薄いと思われますので、体験型ツアーの成功例などを宣伝し、観光業として成り立つことをアピールしてまいります。

２つ目の恩恵を受ける仕組みづくりにつきましては、ソフト面を中心に、町の魅力を押し出した体験型ツアーの充実化を図ってまいりますが、物販や飲食面での強化も必要でありますので、観光協会や商工会と連携をして取り組んでまいります。

３つ目の駅で下車させる魅力の発掘と散策マップの作成につきましては、まち歩きを目的とした散策マップは既に作成されており、観光協会のホームページからもダウンロードが可能となっております。駅からの散策にも十分対応しておりますので、今後も散策マップの充実を図ってまいります。また、駅で下車させる魅力の発掘につきましては、宮川千本桜のライトアップや伊佐須美神社の風鈴など新しい取組を中心に、県が広域的に取り組んでいるホームページと観光協会のＳＮＳを活用して、只見線の魅力を発信してまいります。

４つ目の駅から観光案内と二次交通の整備につきましては、ＳＮＳアプリのインスタグラムを活用し、観光名所や飲食店への案内を充実させていくとともに、二次交通対策として、ＡＩ配車が可能となるデマンド交通の活用に取り組んでまいります。

５つ目のフレイル予防事業につきましては、健康のためにフレイル予防の視点を観光に取り組むことは新たなニーズの創出へつながるものと思われますので、只見線と温泉施設を組み合わせたプランを検討してまいります。

６つ目のプロガイドの育成につきましては、満足度の高いツアーを提供するために、観光ガイドのプロ化は必要と思われます。名物ガイドは誘客にも貢献しますので、計画的に育成を進めてまいります。

７つ目のトイレの整備につきましては、観光地においては特に清潔さが求められておりますので、今後も清潔なトイレの整備に努めてまいります。

最後に、本町にとっての只見線は、通勤通学の生活インフラとしての役割が大部分でありますが、

再開通により、観光面においてもさらなる利活用を進めてまいります。

私からは以上です。

○議長（横山知世志君）　答弁、教育長、歌川哲由君。

〔教育長（歌川哲由君）登壇〕

○教育長（歌川哲由君）　２番、大竹議員の一般質問にお答えいたします。

初めに、コミュニティ・スクールについてでありますが、町では保護者及び地域住民等による学校運営の参画や学校運営の支援、協力を促進することにより、学校と地域住民との信頼関係を深め、学校運営の改善に取り組むことを目的としてコミュニティ・スクール化を図るため、学校運営協議会を中学校区ごとに設置しております。現在までの学校運営協議会の開催実績につきましては、高田中学校区は１回、本郷中学校区は２回、新鶴中学校区は１回であります。学校運営協議会では、学校運営に関する基本的な方針の承認、運営に関する意見や職員の任用に関する意見の申出、さらに学校運営等に関する評価等を行うこととされており、第１回目の会議では組織編成や学校運営の基本方針を主な議題として開催されております。第２回目を行ったところでは、学校評価を基に学校運営の改善や、目指す子供像などについて委員から多くの意見が述べられたと報告を受けております。

次の地域子供の未来応援交付金についてでありますが、１点目の子供の貧困問題に対する実態調査につきましては、小中学校の児童生徒が経済的理由により就学困難な場合は、就学援助費の受給申請手続をしていただき、その過程で実態を把握しているところであります。さらに、スクールソーシャルワーカーを配置し、奨学資金などの学習支援相談や保護者の就労支援相談を通して実態を把握し、自立するための情報提供など、環境面でのサポートをしているところであります。

２点目の地域子供の未来応援交付金の活用につきましては、子供の居場所づくりや学習支援を実施している地域のボランティア団体と交付金の活用について協議を行いましたが、事業への応募には至りませんでした。今後も、対象となる団体へ事業内容の周知を図ってまいる考えであります。

私からは以上であります。

○議長（横山知世志君）　答弁、選挙管理委員会委員長、小沼會志君。

〔選挙管理委員会委員長（小沼會志君）登壇〕

○選挙管理委員会委員長（小沼會志君）　２番、大竹議員の一般質問にお答えいたします。

投票所入場券の送付遅延についてでありますが、１点目の遅くなった理由につきましては、これまでも本町におきましては公職選挙法施行令第31条に規定する「選挙の期日の公示又は告示の日以後できるだけ速やかに」を遵守するとともに、選挙権のない方への入場券の送付を防止するため、公示または告示の日に入場券を引き渡しておりましたが、郵便局の配達業務の見直しにより、郵便物引渡しの２日後以降から配達となること、さらには土日の配達業務を行わないことから、公示日の６月22日水曜日に引き渡した入場券が翌週６月27日月曜日から配達されるということになったものであります。なお、送付遅延によりまして町民の皆様方にご心配をおかけしたことにつきましては、選挙管理

委員会としておわびを申し上げます。

２点目の今後の改善策につきましては、郵便局の配達業務の見直しを踏まえ、引渡日を早めることで、公示日または告示日の日から速やかに配達されるよう調整してまいります。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　大竹議員。

○２番（大竹　惣君）　それでは、質問事項１から再質問をさせていただきます。

答弁によりますと、コミュニティ・スクールの学校運営協議会は、現段階で本郷中学校区では２回、ほかの学校区では１回しか行われておりませんが、学校によって回数に差があるのはなぜか、その理由を伺います。

○議長（横山知世志君）　こども教育課長、渡部雄二君。

○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまの再質問でございますが、本町の学校運営協議会につきましては、中学校区ごとでの設置となっておりまして、地域によってそれぞれ学校を取り巻く環境であったり抱える課題も異なってまいりますので、会議の日程であったり、その内容についても異なっている状況でございます。

○議長（横山知世志君）　大竹君。

○２番（大竹　惣君）　学校によって課題や様々な運営状況が違うということで、誤差があるということだと思うのですけれども、確かにそのとおりで、学校、学期ごとに、学校によっても違いますし、そして学期ごとにも様々な行事や学習内容などの変化なんてありますけれども、そのたびに様々な問題などが出てくると思います。現段階では２回と、ほかは１回ということで差がありますけれども、年間を通してこの学校運営協議会は何回行うことが目安になっているのかを伺います。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。

学校運営協議会は、課長答弁のとおり、それぞれの運営協議会の独自性を優先しているところでございます。設置前につきましては、一応モデルケースとして年５回程度の開催がいいのではないかということで提示はしておりますが、具体的には各学校運営協議会の計画に任せているところでございます。なお、町としましては、３つの学校運営協議会を連絡する会議も設定しておりますので、今後進展を見ながら、調整が必要な部分は調整を図ってまいりたいというふうに考えてございます。

○議長（横山知世志君）　大竹君。

○２番（大竹　惣君）　しっかり注視していただいて、調整が必要な場合は調整をしっかりやっていただきたいと思います。

そして、答弁の中で学校運営協議会の２回目を行った本郷地区ではなのですけれども、この学校運営の改善や目指す子供像になどについて多くの意見が述べられたとありますが、その具体的な内容を伺います。

○議長（横山知世志君）　こども教育課長。
○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまの再質問でございますが、実際に２回目の会議におきましては、出席者を３つのグループに分けまして、熟議という形で、ワークショップに近いような形でございますが、そういった状況で、目指す子供像についていろいろ話合いを行ったところでございます。その中では、やはり本郷地域が好きである子供であったりとか、コミュニケーション能力が高い子供とか、思いやりのある子供とか、そういったものが主な意見として出されたということで報告を受けております。また、学校運営の改善についてということにつきましては、学校評価に対するアンケートをデータで提示しただけでございまして、実際に学校運営の改善についての具体的な中身につきましては３回目の会議で提示されるということで報告を受けているところでございます。
○議長（横山知世志君）　大竹君。
○２番（大竹　惣君）　学校運営協議会の一つの重要な目的としましては、やっぱり学校運営の改善の部分であると思いますので、今度3回目から実施するということなので、しっかりやっていただきたいと思います。
　それでは、学校運営協議会の構成員は保護者などに公表しているのかを伺います。
○議長（横山知世志君）　こども教育課長。
○こども教育課長（渡部雄二君）　学校運営協議会の委員を保護者などに周知しているかというご質問でございますが、７校確認したところ、学校によっては既に学校だよりとか、そういったものによってお知らせしている学校もあるのですが、中にはまだお知らせをしていない学校もございます。ただ、周知していない学校につきましても、次回の会議等で周知をする予定ということで、７校全てが公表する予定だということで話を聞いているところでございます。
○議長（横山知世志君）　大竹君。
○２番（大竹　惣君）　実際私のほうに学校運営協議会に意見や要望を出したいのですけれども、委員が誰だか分からないので困っているというお話がありましたので、今の答弁の中で７校全てしっかりと周知を図るということだったので安心しました。引き続き学校運営協議会において現場の声が学校運営に反映される環境づくりを期待しまして、この質問事項１の質問を終わります。
　それでは、質問事項２の再質問に移らせていただきます。現在就学援助を受けている世帯の数、そしてその実績を示してください。
○議長（横山知世志君）　こども教育課長。
○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまの再質問でございますが、世帯の数ではなくて生徒の数は把握しているのですが、それでもよろしいでしょうか。
〔「はい、ありがとうございます」と言う人あり〕
○こども教育課長（渡部雄二君）　令和３年度の実績でございますが、小中学校合わせて166人で、金額につきましては1,386万7,178円でございます。

○議長（横山知世志君）　大竹君。
○２番（大竹　惣君）　その就学援助を受ける子供たちというか、その世帯というか、それはコロナ前と後では変化があったのか伺います。
○議長（横山知世志君）　こども教育課長。
○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいま令和３年度の実績の数値を申し上げましたが、コロナ前の平成31年度と比較をしたところ、実際令和３年度のほうが金額としては少なくなっております。といいますのも、生徒数自体が減少しておりますので、金額も併せて減っているという状況でございます。ただ、全児童生徒数に対する就学援助を受給した割合ということで捉えれば、やはり令和３年度のほうが若干増加しております。ただ、それがイコールコロナによる影響かどうかというのは判断ができないところでございます。
○議長（横山知世志君）　大竹君。
○２番（大竹　惣君）　この子供の貧困問題に関しては、やはりコロナ後のほうが全国的には増えているという認識ではありましたけれども、本町においては微増なぐらいなのかなという感触ではあります。引き続きしっかりと観察して、対応していただきたいと思います。
　それでは、地域子供の未来交付金についてお話しします。この地域子供の未来応援交付金をＮＰＯ、ボランティア団体などに活用について協議を行いましたが、事業への応募には至りませんでしたという答弁がありましたが、その応募に至らなかった理由などを伺います。
○議長（横山知世志君）　こども教育課長、渡部雄二君。
○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまの再質問でございますが、私どものほうで本郷地域でボランティア活動をされている団体の方にこの交付金についてご紹介をしたところではございますが、そのボランティア団体の方につきましては、実際今生協さんから助成というかをいただいて活動されているということで、その助成だけで十分そのボランティア活動は成り立っていくということで、この交付金の活用について見送ったということで確認をしています。
○議長（横山知世志君）　大竹君。
○２番（大竹　惣君）　この地域子供の未来応援交付金を所管のほうからしっかりとＮＰＯ法人などに紹介をしていくという、そういう姿勢があるというのは分かりましたので、引き続きそういったボランティア団体が出てきたら案内をしていただきたいと思います。
　それで、関連してですけれども、今まで子ども食堂を設置してほしいという要望があったのか。あと、学校やそういったソーシャルワーカーなどのそういうところも、相談において子ども食堂をぜひ美里町でも設置してほしいというような要望が今まで上がってきたのか、それを伺います。
○議長（横山知世志君）　こども教育課長。
○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまの子ども食堂を設置してほしいという要望があったのかというご質問でございますが、町のほうに直接そういった声は届いておりませんし、改めて学校に本

格的な調査をしたわけではございませんが、学校からもそういった要望があったということは聞いておりません。

○議長（横山知世志君）　大竹君。

○２番（大竹　惣君）　そういう相談がないということは、本町の現在の環境では子ども食堂のニーズはあまりないというふうに感じますけれども、子供の貧困に関しましてはしっかりと今後も実態調査をしながら備えていくべきと思いますが、その辺所感をもう一度伺います。

○議長（横山知世志君）　こども教育課長。

○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまのご質問でございますが、確かに全国的にそういった、子ども食堂のニーズがありまして、近隣であっても若松市であったり坂下町なんかでもそういった取組をされている法人等があるのは確認しておりますので、今後そういったニーズが町内でも出てくるかどうかというのは、事前に社会福祉協議会であったり、いろんな団体と情報を取りながら対応してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　大竹君。

○２番（大竹　惣君）　この子供の貧困については、国の未来にも関わる重大な問題であります。本町は教育改革を重点プロジェクトと上げておりますので、今後も実態調査をしっかりと行って、本町の子供の貧困はもう限りなくゼロにするというような気持ちで、そういうことになりますように期待しまして、この質問を終わります。

続いて、質問事項３の再質問に移らせていただきます。まず１点目の、鉄道ファンを満足させるような、買う、食べるという分野の強化が必要だという答弁をいただきましたが、確かにそのとおりでありまして、本町でしか買えないお土産やご当地グルメなどがないのが現状であります。町の商工業者と連携して、Ｂ級グルメなどの開発やお土産の開発、ほかの自治体ではお土産などでご当地キティやキューピー等のご当地物の販売をしているところありますが、そういったグッズの開発依頼などをこれからは速やかに進めることが必要だと考えますが、現段階ではそういった話合いの予定があるのかを伺います。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　質問にお答えさせていただきます。

お客さんが来ていただければ当然売れるメニューですか、満足いただけるお土産なり、食べ物なりの開発なりブラッシュアップというのは当然必要だと思いますので、そういったようなことで、今年度より観光関係者で組織する観光まちづくり推進協議会のほうに、お菓子組合の代表の方ですとか、あと飲食店組合の代表の方なども入っていただいて、いろいろ今後の推進について議論していくようなことになっております。また、観光協会の商品開発部でもこういった話合いを進めていく予定です。こういったことでファンを満足させるようなお土産なりを、食べ物なりを作っていきたいと考えてお

ります。
○議長（横山知世志君）　大竹君。
○２番（大竹　惣君）　ただいまの答弁を聞きますと、実際に商工業者やそういう関係者や関係団体と連携して商品開発などを行う、計画があるというふうに感じましたので、その成果を楽しみにしております。
　続いて、２点目に移ります。只見線のビュースポットの整備、発信につきましては、周辺の地権者や安全面の調査から実施してまいりますとの答弁をいただきました。おおむね前向きな答弁と受け取りますが、今回上げた５か所の中でも整備しやすい場所から段階的に進めていくべきだと思います。10月１日の全線開通に向けて、今只見線が注目されているうちに速やかに整備を進めるべきかと思いますが、その辺の所感を伺います。
○議長（横山知世志君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　ただいまの質問につきましては、当然ビュースポットの整備というのは進めていくということで、ただし再開に間に合わせるのはなかなか難しいと思いますので、これから、数か所の目標を定めて、まずは調査から進めていきたいと考えております。
○議長（横山知世志君）　大竹君。
○２番（大竹　惣君）　全線開通の10月１日、間に合わせるというのは時間的にも厳しいというのは分かりますけれども、只見線の熱が冷めやらぬうちに、やっぱり迅速に整備されたほうが、少しでも観光に対する効果が高くなると思いますので、少しでも早く行動を起こしていただきたいと思うのですけれど、もう一度その考え方を伺います。
○議長（横山知世志君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　ご提言のとおり、撮り鉄の方などの意見なども聞きまして、本当にスピード感を持って進めていきたいと思います。
○議長（横山知世志君）　大竹君。
○２番（大竹　惣君）　それでは、３点目に移ります。
　車窓からの景観の整備につきましては、実際に鉄道ファンからの意見を聞きながら進めていただくことが必要だと思います。その鉄道ファンの方々の要望調査を行うべきだと思いますけれども、その考えを伺います。
○議長（横山知世志君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　こちらも当然鉄道ファンの方々の要望を受けながら進めるというのは、そういった進め方をしたいと考えております。具体的には、只見線のフォトコンテスト等を行っておりますので、そういった写真を応募した方ですとか、やはり鉄道ファンなどから直接本当に聞き取りをしまして、車窓からの景観の整備に取り組んでいきたいと思います。
○議長（横山知世志君）　大竹君。

○２番（大竹　惣君）　続いてまた３点目の景観の整備の部分に当たるのですけれども、歳の神のイベントのことを通告しましたけれども、この沿線地区の実施時刻を電車に合わせていただくことをお願いしていって、官民一体となって盛り上げることが必要だと思います。少しでも多くの沿線地区の理解と協力を得るために、積極的に町のほうからアプローチをしていくべきだと思いますが、考えを伺います。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　この歳の神につきましては、電車の走っているところから見えるという場所というのがまず前提になりますので、そういったところ、本当に地区の区長さんなりに確認しまして、そういうところで見えるようなところで、本当電車の時間も限られていますので、そういう時間にやっていただけるかとか、そういうことをやっぱり聞き取りから、などのことを聞き取ることから始めて、そういった歳の神など本当に電車から見えたらきれいでしょうし、また撮影スポットにもなると思いますので、そういったところを進めていきたいと考えております。

○議長（横山知世志君）　大竹君。

○２番（大竹　惣君）　おおむね前向きな回答だと感じました。地権者との交渉や地区との話合いなど、やることは多いですけれども、限られた予算の中で観光のソフト面の充実を図るためには、こういったものの積み重ねが必要だと思います。積極的に進めていただき、官民一体となって成功させることを期待します。

それでは、４点目に移ります。①の部分にまず再質問させていただきます。答弁にありました住民の観光地としての意識が低いということは、確かに多くの町民においてはそのとおりだと思います。答弁にあったように、体験型ツアーの成功例の宣伝も必要でありますが、広報などを利用した町民意識の醸成なども必要かと思います。本町の町民は、幸いながら親切な方が多いので、観光客が困っていたら積極的に案内していただくとか、挨拶などの声かけを積極的にお願いしたりなど、町全体の取組が観光地としての魅力をつくっていくと思いますが、その辺の考えを伺います。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　観光地としての魅力を町全体でつくるための取組につきましては、まず住民に対しては、やはりご意見のとおり、広報の掲載なども含めて意識の醸成は必要であるというふうに考えております。また、実際に観光客、本当に誘客を何とか、観光誘客頑張りまして、本当にそういった方がもっとこの町に来ていただいて、やはりいろいろ買っていただいたり食べていただいたりしてお金を落としていただくということも併せてやっていくことによって、町の住民意識の醸成というのも、そういうこともつながってくるのかなというふうに考えております。

○議長（横山知世志君）　大竹君。

○２番（大竹　惣君）　様々な視点で住民の方々の意識向上を目指していただきたいと思います。

続いて、②の恩恵を受ける仕組みづくりについては１点目の質問と重複する部分があるので、今回

は省略します。

それでは、③の散策マップにつきましては、現状のものにさらに磨きをかけることも必要だと思います。実際にそのマップを利用した観光客に改善点などを聞き出すことも必要であると思いますが、そういった意見、要望を調査する取組があるのかを伺います。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　要望を調査する取組につきましては、実際にこの散策マップとか使っていただいた方からアンケートなどですとか、実際に声を聞いて情報を収集するのが一番だと考えておりますので、そういったことをしながら、観光客の方に余計満足していただけるような散策マップのブラッシュアップにつなげていきたいと思います。

○議長（横山知世志君）　大竹君。

○２番（大竹　惣君）　しっかりと満足度調査などを行っていただいて、少しでもよい散策マップを作っていただきたいと思います。

続いて、駅で下車させる魅力の発掘の部分で、宮川千本桜のライトアップや伊佐須美神社の風鈴など、新たな取組を中心に、ＳＮＳや県のホームページを活用して発信しますという答弁がありましたが、イベントの発信の中で大切なのがタイミングだと思います。現在の旅行の計画を立てる方というのは、旅行の実施日の二、三か月前に立てるというのが多いと聞きました。イベントが行われる二、三か月前にそのイベントの告知を重点的に行うことが効果的であると思います。今後こういったことも視野に入れて発信すべきだと思いますが、考えを伺います。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　ただいまのご質問につきましては、今の町の観光誘客を図る上でも、やはりホームページなどによる情報発信というのは本当に最重要の取組ということで行っておりまして、観光協会のホームページも今年、昨年度くらいから一新しまして、できるだけそこをプラットフォームということで、そこにアクセスいただければ、とりあえず町の観光情報は全て分かるということで役割を果たしております。そういうところで、そういったホームページのところで、年間スケジュールが確定しているものは早め早めの情報発信に努めまして、あとは本当にどんどん情報を、できるだけ最新の情報をどんどん出していくことが本当に観光振興を図る上で重要なことだというふうに認識しております。

○議長（横山知世志君）　大竹君。

○２番（大竹　惣君）　ここの部分の論点としましては、通年を通してイベントがちゃんとホームページに紹介されているということだと思うのですけれども、その部分はももちろんありきの話なのですけれども、イベントが行われる二、三か月前にそのイベントの重点的な発信というのですか、ちょっとした強いアピールをすべきだという部分を論点にちょっと伺いました。もう一度答弁お願いします。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　イベントにつきましては、本当に皆さん、直前ではなくて、本当に二、三か月前にイベントの告知を行うということで取り組んでまいります。
○議長（横山知世志君）　大竹君。
○２番（大竹　惣君）　それでは、④、二次交通の部分に移ります。二次交通につきましては、本町では観光スポット同士が離れて点在している中で、自転車も必要だと思いますけれども、自転車などだけでは難しくて、確かにデマンド交通を活用するのが現実的かと思います。ＡＩ配車が可能になるデマンド交通の活用に取り組みますという答弁がありましたが、具体的にＡＩによってどのように観光に生かせるのかを伺います。
○議長（横山知世志君）　政策財政課長、國分利則君。
○政策財政課長（國分利則君）　ただいまのご質問でございますが、ＡＩによるどのような活用ということでございますが、現在その活用に向け、システムの開発なり、今整備をしているところでございます。
　まず、どのようにしてやるのかということでございますが、まずはスマホ、これまでは電話のみの予約でございましたが、これからスマホのほうにアプリをダウンロードしていただきまして、そこから配車の予約なりができるというのがまず大きな１点でございます。あともう一つ観光で大事なことは、例えば只見線を利用した場合、当然列車の発車時間、さらには到着時間というのが大事になってくると思います。ですから、今の予約ですとなかなかその辺の発車に間に合わせる時間帯、さらには到着する時間帯に間に合わせるような仕組みづくりがなかなか難しかった。この新しいシステムでは、予約する際に、例えば只見線の駅に、例えば高田駅に何時に着きたいのだというのを入力していただければ、では何時にここまでというようなことで、逆にそういった予約方法ができますので、ですからそういった観光にアクセス、いわゆる公共交通のアクセスにも非常に便利になると。
　あともう一点は、さらにスマホで予約しますので、自宅にいながら事前に、例えば先ほど言った何か月前というような周知というのがありましたけれども、例えば１か月前に自分はここに行きたいので、事前に予約、そういったことですることもできますので、観光客の方に関しても利活用が図れるのではないかと思っております。
　あともう一点、さらにこれまでは現金のみの支払いということでございましたが、今後キャッシュレスというのも今導入する予定にしておりますので、いわゆる予約の方法の改善、さらには支払いの方法も改善されますので、大いに利活用に期待されるということで考えております。
○議長（横山知世志君）　大竹君。
○２番（大竹　惣君）　このＡＩ配車については多くの可能性が秘められていると感じました。今後も利活用していって、少しでも観光に寄与していくことを期待します。
　続いて、⑤に移ります。フレイル予防事業の活用につきましてもおおむね前向きな答弁だと思いま

す。只見線と温泉施設を組み合わせたプランなどを検討するとの答弁がありましたが、具体的なプランが創造できているなら伺います。
○議長（横山知世志君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　フレイル予防事業に関しての具体的プランまではまだ出来上がっておりませんが、フレイル予防の観点につきましては、我が町の新たな観光ニーズの喚起にはなると思われます。ご提案いただきましたように、散策ですとか、あとはグルメスポットなど、そういったものをいろいろ入れまして、あと温泉なども入れまして、本当に魅力のあるプランをつくっていきたいと考えております。
○議長（横山知世志君）　大竹君。
○２番（大竹　惣君）　まずは根岸駅で降りて、ほっとぴあ新鶴まで歩き、宿泊するなんていうのも簡単に思いつきましたけれども、例えば本郷駅で降りて瀬戸町の散策や、高田駅で降りて商店街を通って伊佐須美神社まで行くなど、様々な距離に応じた多様なコースづくりなども検討して、例えば切符を見せたら値引きがあるなどの様々な工夫が凝らせると思います。これにつきましては今後調査研究の必要があるとは思いますけれども、もう一度その方向性として考えを伺います。
○議長（横山知世志君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　ご提言のとおり、この事業につきましては、どちらかというとうちの町も二次交通もちょっと不得意な部分ではあるのですが、そういった問題解決にも本当に大きく役立ちますので、そういったものを積極的に調査研究していきたいと思います。
○議長（横山知世志君）　大竹君。
○２番（大竹　惣君）　積極的に調査研究をして、ぜひ実現させていただきたいと期待しております。
　続いて、⑥に移ります。プロガイドの育成につきましても計画的に進めますという答弁をいただきましたけれども、プロガイドの募集から研修までの具体的な育成プランなどがあるのか伺います。
○議長（横山知世志君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　プロガイドの育成につきましては、今現在ボランティアガイドとしましてお客様から評判のよいような方もいらっしゃいます。ただし、今現在、ちょっと報酬とかもボランティアの範囲ということで、やっぱりもうちょっとレベルアップといいますか、人数的にはもう少し多く、内容的にもいろいろレベルを上げていただくと、余計観光客のお客さんから満足度が上がるのかなというふうに考えております。ここにつきましては、本当に今後もガイドさんの量、質の向上に当たりまして、やはり報酬面から含めまして、研修とかそういうものをしっかりやって、プロガイドの育成につなげていきたいというふうに考えております。
○議長（横山知世志君）　大竹君。
○２番（大竹　惣君）　今の答弁ですと、今のところははっきりしたような具体的なプランはなかったけれども、今後しっかりと計画を立てていきたいというような受け取り方でよろしいでしょうか。

もう一度答弁お願いします。
○議長（横山知世志君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　ちょっと具体的な育成プランというのがはっきり決まっているわけではないですが、こういったことでしっかり育成プランをつくって取り組んでいきたいと考えております。
○議長（横山知世志君）　大竹君。
○２番（大竹　惣君）　それでは、⑦に移ります。トイレの整備につきましては、日本の観光地の優れた部分の一つであるのがやはりトイレが清潔であることであります。しかしながら、本町のトイレ整備は少し遅れているところもあると思います。このトイレの整備は予算もかかり、簡単なことではないとは思いますが、トイレがきれいなことは観光地としての最低条件になりますので、計画的に予算を入れて整備していくことが必要であると考えますが、所感を伺います。
○議長（横山知世志君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　トイレの整備につきましては、おっしゃるとおり、清潔なトイレというのは必要ですので、ただ一度に全部きれいにするとか、そういうこともなかなか困難だと思いますので、清掃回数を増やしたりしてきれいにしておくことと、やはり計画的に、利用度ですとか必要度の高いトイレ、そういったところに集約を図ったり、そういう整備をしたりということで進めていきたいと考えております。
○議長（横山知世志君）　大竹君。
○２番（大竹　惣君）　トイレの整備につきましては、町の場合は産業振興課の所管の部分と建設水道課の所管の部分もありますし、予算もかかるということで、ここではっきりと答弁をするのは難しいところがあるかもしれませんけれども、今町長もいらっしゃいますので、町長にもちょっとお尋ねしたいと思いますけれども、まずトイレの整備についても観光振興の一つの手段としてどういくのか所感を伺いたいのと、あと本町の観光振興についてはまだまだ課題が山積しておりますが、観光協会の方々や産業振興課の職員と様々な今回お話をした中で、とても前向きで、この町の観光を何とかして盛り上げたいという強い熱意を感じました。そういった熱意に応えることができれば、可能性は無限大だと思います。一連の質問を通して、今後町としてこの観光振興にさらに力を入れていく考えがあるのか、町長のお考えを伺います。
○議長（横山知世志君）　町長、杉山純一君。
○町長（杉山純一君）　質問にお答えさせていただきたいと思います。
　トイレの整備につきましては、今課長が申し上げたとおり、観光地のやっぱりトイレというのは清潔がモットーであるというふうに思いますので、そういうふうに努力してまいりたいというふうに思います。
　あと、観光振興に力を入れるということは大事なことだというふうに思いますし、観光地として我

が町は様々なものがありますから、そういった核として、より多くの方がこの町へおいでいただいて観光していただく、いい思い出をつくっていただくということには力を入れてまいりたいというふうに思います。

○議長（横山知世志君）　大竹君。

○２番（大竹　惣君）　町長自身も本町の観光振興の課題にしっかりと向き合うという姿勢は十分に今の答弁で感じました。これまでのやり取りで、所管のほうでも自信を持って積極的に動いてくれることを期待し、今回のこの観光に関する質問は終わります。

続いて、質問事項４に移ります。さきの参議院選挙での投票所入場券が届くのが遅かったのは土日のタイミングとか郵便局の作業的なタイミングの変化などが全て悪い方向に重なったものだとも推察されますが、答弁にもあったように、役場から引渡しをするタイミングを早めることができれば同じようなことはなくなると思います。実際に他町村ではかなり早めに引渡しをしているところも多いようです。確認の意味でお聞きしますが、早速次回の選挙から引渡しの時期を早めることを考えているのかをもう一度伺います。

○議長（横山知世志君）　選挙管理委員会書記長、金子吉弘君。

○選挙管理委員会書記長（金子吉弘君）　今回の配達の遅延の反省を踏まえまして、早速でありますが、郵便局としっかりと打合せをさせていただきました。その結果、やはり今郵便局の働き方改革もございまして、なかなかいわゆる入場券をある程度告示日の前に頂かないと、告示日からの配達がなかなか難しいというふうなことがございました。ですので、我々といたしましては、準備を早めに進めまして、告示日のせめて２日前から郵便局のほうにお渡しできるように準備を進めていって、今後このような問題が二度と起こらないように万全を期してまいりたいというふうに考えております。

○議長（横山知世志君）　大竹君。

○２番（大竹　惣君）　しっかり対応していただいて、今後はこのような投票所入場券の送付が大幅に遅くなることがなくなることを期待しております。

また、今回の一般質問への答弁書を見ましたら、とても丁寧に書き込まれておりまして、こちら側の意図を酌み取り、真摯に答えているという印象を受けました。今後もこのような丁寧な答弁をいただき、スムーズな進行ができることを期待します。

以上で私の一般質問を終わります。

○議長（横山知世志君）　これで大竹惣君の質問は終わりました。

ここで２時10分まで休憩いたします。

休　憩　　（午後　１時５７分）

再　開　　（午後　２時１０分）

○議長（横山知世志君）　再開します。

次に、通告第４号、４番、荒川佳一君。

〔４番（荒川佳一君）登壇〕

○４番（荒川佳一君）　私の一般質問に入る前に、通告書の訂正をお願いいたします。質問事項１の２ページ目、14行目の最初の１文字、急ぐという文字なのですが、「急」を削除願います。よろしくお願いします。

それでは、通告に従いまして質問をさせていただきます。まずは、質問事項第１のコロナ禍における町農業の現状と対策についてであります。本町では感染拡大警報が８月に発令され、日々、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、町でも感染者が増加している。コロナウイルスの長期化の影響などで農産物の需要の減少が見込まれる。中でも町主要作物の米の需給環境は特に悪化しており、外食需要の大幅な減少などで米の在庫が大きく膨れ上がり、過剰米による米価の見通しが立たない状況です。2020年産会津コシヒカリの価格は、１俵当たり１万3,600円であったが、農林水産省の資料によると、2022年６月末、全国の民間在庫数が170万トンを超えており、2021年産米１俵当たりの約１万1,000円に引き続きまして、2022年産米も安価が予想される。米価が9,000円台になれば、物財費に食い込み、米の生産意欲をなくす価格であり、このことが続けば、機械購入や施設整備の投資ができず、農家は稲作から撤退するかもしれません。特に大規模経営ほど影響が大きく、経営が破綻すれば町内の農地が守れず、耕作放棄地が増えて、農業崩壊になってしまいます。そこで、町の農業の現状をどのように把握しているのか、今後の対策について伺います。

①、新型コロナウイルス感染症の拡大による町内の農業経営の影響を町では把握しているのか。また、著しく収益が落ち込んでいる農業経営者に対する支援について、定例会８月会議において肥料高騰緊急対策事業補助金が新たに予算措置されたが、農業者に対する支援は十分と考えているのか伺います。

②、農業を町の基幹産業として今後も振興していくためには、農業が職業として選択し得る魅力とやりがいのあるものになることが重要です。町の農業を守るため、認定農業者を増やすよう条件の見直し等を行い、認定農業者の確保に努める考えはあるのか伺います。

③、本年度の農業に関する全体の補助金の予算執行状況を伺います。また、効果的なことは、米価下落に対し単価の補助をすることであり、町単独でもぜひ予算化しなければならないと考える。さらには、国のホームページ等を確認すると、該当する補助金があるので、県と十分に協議し、予算確保する考えはあるか伺います。

④、米価の上昇が期待できない現在、低コストの農業経営が必要と考えるが、有効な対策はあるのか。町として今後の対策について伺います。

次に、質問事項２の職員出前講座の現状及び効果について質問いたします。職員出前講座は、町民の方が主催する学習会、集会などに集落やグループの求めに応じて職員を講師として派遣し、町政に関する情報を提供することで、町の仕事や将来について共に学び合う講座として有効である。職員が

講師となり、自分の仕事のことを人前で話すということは、多くのことを学ぶ機会となります。仕事に対する理解力や研究能力を深めることはもちろんですが、人前で話すスピーチ力、表現、プレゼンテーション能力の向上、町民からの情報収集を習得する能力や、質問などに関して瞬時に分析し回答できる能力及び調査分析力の向上につながるものと考える。なお、出前講座に派遣する職員の講師料は無料で、土日祝日以外であれば出前講座が可能と聞いております。そこで、職員出前講座の現状及び効果について伺います。

①、この出前講座はすばらしい制度であります。今まで年間の出前講座の主な内容及び回数と参加人数を伺います。

②、職員出前講座を行った結果、依頼した方々からどのような感想があったのか。また、町にとってどのような効果があったのか伺います。

③、出前講座のさらなるＰＲと若手職員の講座講師の起用の考え方について伺います。

次に、質問事項３の職員定数適正化計画について質問いたします。通常は職員の業務時間は８時30分から17時15分で、残業もなく、雇用も安定し、保障されている仕事と捉える方が多いと思いますが、実際は社会情勢の急速な変化に対応するため、職員は法令遵守で公平公正な業務を執行し、多岐にわたる地域の課題、業務に取り組んでいる。しかし、町職員の人員は、職員適正化計画により、町村合併から年々減少し続け、その結果、職員一人一人が担う業務量は増大しているため、現在の職員数で本当にきめ細やかな住民サービスができるのか伺います。

以上３点、よろしくお願いします。

○議長（横山知世志君）　答弁、町長、杉山純一君。

〔町長（杉山純一君）登壇〕

○町長（杉山純一君）　４番、荒川議員の一般質問にお答えいたします。

初めに、コロナ禍における町農業の現状と対策についてでありますが、１点目の農業者への支援につきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大により、米価が大幅に下落し、さらに農業用資材や肥料の高騰が続き、農業者の皆さんは非常に厳しい経営状況に置かれていると認識をしております。今後、交付予定の費用高騰緊急対策事業補助金については、令和４年作付分の春肥の高騰分に対しての支援であり、現在秋肥の価格も高騰していることから、肥料価格の推移や国や県の動向を注視しながら、適切な支援を実施してまいります。

２点目の認定農業者の認定条件の見直し、確保につきましては、認定農業者の認定条件は農業経営基盤強化促進法に基づき、効率的かつ安定的な農業経営の目標等を市町村の基本構想で定めており、認定を受ける場合は農業者が５年後の農業経営を見据え農業経営改善計画書を作成し、所得目標や就業時間などについて、基本構想で定めた基準を満たすことが認定の条件としております。本町の場合は所得目標を320万円、年間就業時間を1,900時間としており、この基本構想は県の基本方針を基に、地域の状況を踏まえ策定したもので、なりわいとして農業を行う上で重要な目標値であるため、現段

階で認定の条件を見直すことは考えておりません。また、認定農業者の確保については、新規就農者に対し、認定期間が終了した際、認定農業者への切替えを誘導しているところであり、今後も窓口や座談会等で認定農業者制度を周知し、担い手の確保に努めてまいります。

３点目の町補助金の執行状況と米価の下落に対する補助金につきましては、まず農業費全体の補助金の執行状況については、８月30日現在で34.8％の執行率となっております。また、米価の下落に対する補助金については、収入保険やナラシ対策で収入を補填する制度が構築されていることから、米価の下落に対する補助金は考えておりません。ただし、国、県の補助金で稲作経営を支援する機械購入や施設整備に対する補助金があることから、安定的な農業経営を支援するため、国、県の補助金についても周知してまいります。

４点目の農業生産の低コスト化につきましては、農業生産費の高騰は今後もしばらく続くことが予想されることから、コストを抑制することが農業経営の維持につながるものと考えております。町としましても土壌診断に基づいた適正施肥や省力的な栽培方法、スマート農業技術の活用など、関係機関と連携し、農業の低コスト化の普及、推進に努めてまいります。

次の職員出前講座の現状及び効果についてでありますが、１点目の出前講座の実績等につきましては、まず主な講座の内容でありますが、暮らしに関する分野では「ごみ減量化の取組」や「自主防災組織」など、健康、福祉に関する分野では「保健師・栄養士による健康アドバイス」や「認知症を正しく知ろう」、その他、産業経済や学習関連など様々な講座メニューを用意しております。講座の実施回数でありますが、令和３年度においては25回開催し、304名の方が参加され、過去５年間の実績では、年平均の開催回数が21回、参加人数は388名であります。

２点目の依頼された方々の感想や効果につきましては、町の行っている事業について詳しく知ることができた、町の制度を再確認するきっかけになったなどの感想をいただいております。町への効果でありますが、参加された方々へより詳しく情報を提供できるため、町政に対する関心や町民参加意識が高まり、協働によるまちづくりの推進が図られることが出前講座の効果であると考えております。

３点目の講座のＰＲと若手職員の起用につきましては、広報紙やホームページにおいて講座の種類や内容をお知らせしているところでありますが、町公式ラインの活用やまちづくり活動団体等への周知など、今後幅広くＰＲに努めてまいりたいと考えております。また、若手職員の講師への起用につきましては、内容によりますが、講師を務めている講座もございます。若手職員が講師となり直接町民の方々へ説明することは、職員の説明能力の向上につながるものであるため、今後も積極的に進めてまいりたいと考えております。職員出前講座につきましては、合併後、平成19年度から事業を開始し、メニューにつきましても毎年見直しを行い、充実を図っております。今後も分かりやすく親しみやすい町政の実現を目指し、進めてまいりたいと考えております。

次の職員定員適正化計画についてでありますが、本町では合併時300名在籍していた職員数を削減し、現在209名体制で行政サービスを展開しております。職員の定員適正化に向けましては、業務の

効率化を図り、定期的な組織機構改革や退職者を上回らない新規採用数の調整、さらには業務のアウトソーシングなどを積極的に取り入れながら、これまで90名を超える人員削減を行ってまいりました。しかしながら、住民ニーズは年々複雑多様化しており、そうしたニーズに対応していく必要があります。また、新型コロナウイルス感染症への対応や、ここ数年の社会保障分野を中心とした子ども・子育て対策における給付事業、さらにはコロナ関連事業などの新たな事業が増え、事務処理に時間を費やしていることから、住民に寄り添った、きめ細やかなサービスの提供は厳しさを増してきておりますが、現状の定数の中で対応しているところであります。継続した住民サービスを行っていくためにも一定程度の職員数を確保していく必要があり、今後定年延長を考慮した定員適正化計画の見直しを進めてまいりますので、その中で財政状況を踏まえつつ、ウィズコロナ時代に適応できるよう、業務範囲の見直しや真に必要な事業を取捨選択しながら、十分な住民サービスを提供できる人員体制の確保に努めてまいります。

私からは以上でございます。

○議長（横山知世志君）　荒川君。

○４番（荒川佳一君）　それでは、再質問をしたいと思います。先ほど同僚議員の質問に対する答弁で、米価の考え方については大体分かりやすい内容でありましたが、私からもお聞きしますので、よろしくお願いしたいと思います。

それでは、コロナウイルスの感染症の拡大に伴いまして、食用米の価格下落に対しまして、どのような考えを町は持っているのか。町の基幹産業でもある農業に対しまして、町はどのように支援していくのか。もう一度、具体的に、どういうふうにしてやるのか。あと、内容によっては、何か肥料の補助を具体的に考えているということでありましたが、それについて、その詳しい内容をもう一度お願いしたいと思います。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　お答えさせていただきます。

まず、米価に対する補助金につきましては、これは収入保険やナラシ対策で収入補填をする制度がありますので、こういった米価下落に対する補助金は考えておりません。しかしながら、６月の会議で肥料高騰緊急対策事業補助金ということで新たに予算を措置しまして、これから交付する予定でありますが、これは春の肥料の高騰分ということですので、当然今、秋になってきまして、肥料高騰がさらに本当に大きくなってきていますので、こういったものに対して、国のほうは本当に今度は、春は県でしたが、国のほうが助成制度を用意しております。そういったこともありまして、当然国の制度を活用して、肥料高騰の助成などは行っていきたいというふうに考えております。

あと、農業に対してどのような支援をしていくとかということにつきましては、やはり稲作に依存しないような、やっぱり複合経営というのですか、そういったものを推進するための補助とか、そういったものを考えております。

○議長（横山知世志君）　荒川君。
○４番（荒川佳一君）　今ほどの答弁の中でちょっと気になったことがあるのです。価格保障ということで言われましたが、価格としての内容的なやつで、これについては過去の収入から現在の今年度の収入という形に、それで計算することになるのです。そうすると、昨年かなり落ち込んだ値段になっているのです。先ほど私申し上げましたように、１万1,000円ということの数字が出ております。今年も同じ金額が予想されると。それ以下になる可能性もあるのですけれども、予想されると。そうした場合に、今の価格保障したとしても、前の価格にはならない。それに、９割掛けて補償されるので、100％補償にはならないということで理解しているのですけれども、それでよろしかったでしょうか。
○議長（横山知世志君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　制度としてはそういう制度でございます。
○議長（横山知世志君）　荒川君。
○４番（荒川佳一君）　そうであれば、価格保障は確かに、大きく変われば、例えば収穫がゼロになれば、今８割方、75％ぐらい補償されるのですけれども、実際のところは今の２、３割の減であれば、価格保障されても、その金額に全然追いつかない金額になってしまうのです。去年ですか、去年、おととしあたりはよかったのですけれども、今年もどうなるか分かりませんが、今年の補償ということになりますと、かなりそのメリットはないのではないかなと思って心配しております。
　それで、実際何らかの方法ちょっとないですか。実際、本当に困っているのです。というのは、今の米の価格、先ほどの反当たり、１俵当たり１万1,000円だとすると、10俵取っても11万になるのです。今、米作ったときに幾らくらい経費がかかるか、課長分かりますか。
○議長（横山知世志君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　10アール当たりということでよろしいでしょうか。大体資料とかいろいろ見ますと10万から11万程度というふうには認識しております。
○議長（横山知世志君）　荒川君。
○４番（荒川佳一君）　そうであれば、今計算しますと、10万から11万という話しされましたよね。そうすれば、完全に赤字になるのではないですか、米が11万なので。実際のところ、米取れる人は、農家やっている人は分かるのですけれども、10俵を取るにはかなりの努力が必要なのです。ましてや、私直播の組合のほうやっているのですけれども、直播の場合については、実際９俵から９俵半なのです。そうした場合、このまま作っていくと、農家の方々、かなりやめられる人が多くなってくるのではないかなと思われます。
　そこで、先ほどにも申し上げましたように、答弁あったように、園芸作物に移行したらどうだという話も聞きました。でも、実際園芸作物に新たにチャレンジする。どうなると思いますか。チャレンジするということは、全然知識もなく、町のほうで何も手助けもなく、園芸作物に切り替えたらどう

だというような無責任な言い方はちょっとどうかなと思うのですが、その辺根拠とか何かありますか。
○議長（横山知世志君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　町の、例えば認定農家の認定に当たりましても、やっぱり複合経営とかを進めているところありますので、そういったところで支援なりなんなりということは行っていく必要があると考えております。
○議長（横山知世志君）　荒川君。
○４番（荒川佳一君）　それは技術的な支援ということでしょうか、それとも何か金銭的な支援をするということなのでしょうか、その辺どうですか。
○議長（横山知世志君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　技術的な支援も必要になるでしょうし、あとは昨年度から稲作、昨年度とかそうですけれども、稲作経営支援継続支援金とか、そういったような、例えば10アール当たり昨年は3,000円とか出しましたが、そういった助成も行っておりますので。本当に必要な場合は適正な支援を行っていかなければならないと考えております。
○議長（横山知世志君）　荒川君。
○４番（荒川佳一君）　そうしますと、先ほど園芸作物ということで、確かに園芸作物ですが、かなり収穫は上がると思います。ということは、反当たり、物によっては500万から300万くらい収入が上がる、これ反当たりなので10アール当たりになりますけれども、その金額になるかと思うのですが、ただ、私もちょっと去年から初めてやってみたのですけれども、なかなかうまく作物がつくれないのです。それは、もう少しいろいろ勉強しなければならないことなのかなと思うのですけれども、今後、今言ったように進めるに当たりまして、何らかの支援する、例えば研修でも構わないのですけれども、そういうメニューを新たにつくっていただいて、初めてやる農家の人を、例えば水稲の農家の人なのですけれども、そういう方々に例えばそういう指導をするとか、こういうふうな方法があるとか。ただ、今言ったように園芸作物に切り替えればいいというような、そういうことで言われても、なかなかやるに当たっても施設を設備、ハウスを造って、どうなるか分からないわけなのです、今言ったように。何らかそれで今後仕事で職業として頑張りたいという農家の人がほとんどだと思うのです。ので、そういう方々を本当に支援するような、本当に親身になった考えで、町のほうも基幹産業でもあるわけですから、十分に対応のほうをお願いしたいということで思っております。その辺どうでしょう。
○議長（横山知世志君）　質問者に申し上げます。もう少し簡潔明瞭にお願いしたいと思います。
　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　確かに無責任に勧めているわけではございませんが、制度とかいろいろ用意してあります。ですし、今のご意見なども参考にしまして、今後認定農業者とか、そういう担い手は本当に増加というのですか、そういう取組が必要になりますので、今後進めさせていただき

たいと思います。
○議長（横山知世志君）　荒川君。
○４番（荒川佳一君）　それでは、②番に移りたいと思います。
　それでは、このままでは認定農業者が増えるどころか減り続けるのではないかなと心配しております。認定農業者の目標人数ということで、町では上げているわけなのですけれども、私知っている範囲で申し上げますと、276名を目標にしております。今後どのように増やしていくのか。先ほど私が申し上げましたように、条件緩和、兼業農家の人も認定農業者となれるような、そのような条件を、もう少し優しくしていただけないかなということで考えているのですが、その点どうでしょうか。
○議長（横山知世志君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　ただいまの質問につきましては、まず認定農業者を増やすための手段としましては、新規就農者を確保するですとか、地域で説明会なりしたときに制度を周知するとか、そういった地道な取組も必要ではないかと思っております。
　また、制度の緩和につきましては、やはり先ほども町長答弁で申しましたが、一定の収益が、収入というのですか、上げることができないと、なりわいとして農業を行っていくわけにはいきませんので、今のところ緩和は考えておりません。しかしながら、来年４月より農業経営基盤強化促進法の一部改正が施行されますので、農業を担う方が経営規模の大小や個人、法人にかかわらず、雇用されている農業者に従事している人、農作業の受託サービスを提供する人など、こういった方を農業経営基盤強化促進法の中の基本構想に位置づけまして、担い手の確保に努めたいと考えております。特に多様な担い手を確保するために、休日農業者ですとか、今回の法律の中で半農半Ｘなんて言っているのですが、そういう方も担い手として確保したいというふうには考えております。
○議長（横山知世志君）　荒川君。
○４番（荒川佳一君）　でも、やっぱりなかなか担い手農業者になれるというのは本当に。ほかから来れば別です。ほかから来て、私は担い手になります、農地もある程度準備できます、借りることもできます、農地余っているわけですからそれはできます。それなのですけれども、やっぱりなかなか担い手というか認定農業者を増やして、５年間ずっと、ここずっと今の美里町で農業を続ける意識を持ってやるというような人を育てていかないと、農業、今度衰退してしまいます、本当に。そこを何とか町のほうでも、ここが一番力の入れるところなのです。その辺どうでしょうか。答えてみてください。
○議長（横山知世志君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　おっしゃることは十分理解しましたので、先ほども申しましたが、農業経営基盤強化促進法が一部改正されますので、そういうところで基本構想とかに、作成に当たりまして、そういった意見なども参考にさせていただきたいと思います。
○議長（横山知世志君）　荒川君。

○４番（荒川佳一君）　では、なおその辺は期待して待っていたいと思います。

時間もなくなりますので、それでは３番飛ばして４番に行きたいと思います。４番の化学肥料の使用量については、有機農法肥料ということで使用するために、コスト縮減という形にはならないと思いますけれども、ほかにコスト縮減の方法ということで考えられるのは、直播栽培と慣行栽培ということで比較しますと、先ほど課長の答弁にありましたように、10万から11万くらいの経費がかかるということなのです。実際のところ、密苗の栽培ということでも今のコスト縮減ということでも対応することも可能かと思います。町のほうでぜひ直播のほう、密苗もコスト縮減にもなりますので、収入が入らないということであれば、支出を抑えるしかないのです。そういうことで推進していただけないでしょうか。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　議員おただしのとおり、本当に米の値段はなかなか上がることは難しいですし、肥料高騰とかそういったことも、やっぱり来年度以降も続くというふうにも、当面続くと言われておりますので、やっぱり生産コストを下げるということは大事なことだと思いますので、生産コストを下げるための取組に対する何か支援とか、そういったものは調査検討させていただきたいと思います。

○議長（横山知世志君）　荒川君。

○４番（荒川佳一君）　それでは、質問事項の２番のほうに移りたいと思います。

それでは、先ほど答弁あったように、介護予防講座などの介護、福祉に関する講座や後期高齢者医療制度について講座を開く場合、高齢者や家族がいると思うのです、ほとんどは。そのためには、自宅でも講座が可能かどうか、あとは人数の制限があるのかどうか確認します。

○議長（横山知世志君）　政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　質問事項２点でございますが、まず自宅での開催が可能かどうかというご質問ですが、全てこれまでの実績で自宅でやったかどうかのちょっと実績というか、今資料ございませんのでお答えはできませんが、まず開催するには、やはりある程度の人数が必要ですので、やはり地区の集会所、さらにはそういった何か集まれるところで開催しているというのが現状でございます。なお、現状今コロナ禍でもございまして、やはり自宅で例えば複数の方がいらして、コロナのいろいろ影響もございますので、やはり現段階ではちょっと自宅は難しいのかなというふうに思ってございます。

○議長（横山知世志君）　荒川君。

○４番（荒川佳一君）　高齢者、やっぱりなかなか集会所まで、集会所といっても、皆さんからすればすぐ先のほうにすぐにあるということで、歩いて行けるということでもありますので、本来ならば家族の中で一応お話を聞きたいという方がちょっと私の耳にも入ってきていますので、ぜひその辺検討していただければなと思います。

○議長（横山知世志君）　政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　確かにそういったなかなか表に出れない方もいらっしゃるということは承知してございます。実はこの事業の目的の一つとして、確かに町の事業を職員が実際説明をして理解をしていただくというのもありますが、そういった出かける機会、例えば地域の中で今なかなかそういった集まる機会ございませんので、そういった方が例えば集まっていただいて、町の同じこういった説明を受けて、地域のコミュニティーの一環にもなると考えてございますので、そういった確かになかなか出れない方の対策というのは必要と思いますけれども、そういった趣旨をご理解いただいて、今後も事業は継続させていただきたいと思いますが、今ご提案のありましたそういった方の対応についてはちょっと検討させていただきたいと思います。
○議長（横山知世志君）　荒川君。
○４番（荒川佳一君）　では、なおひとつよろしくお願いしたいと思います。
　それでは、最後になります。それでは、合併当初から減り続けました。計画どおりに進んでいることはよく分かりました。今の職員定数適正化計画に沿ってやっていることはよく分かったのですが、先ほどの答弁の中で、定年延長を見据えた定員適正化計画の見直しということでの答弁がありましたが、どのように見直しをしていくのか、具体的にちょっとお聞かせ願いたいと思います。
○議長（横山知世志君）　総務課長、金子吉弘君。
○総務課長（金子吉弘君）　ただいまのおただしでございます。定年延長を見据えた適正化計画の見直しというふうなご質問かというふうに思います。定員の適正化計画につきましては、合併後、第４次計画といたしまして、令和３年、昨年の４月に策定をいたしました。それで、令和９年４月１日時点で職員数を207名とする目標職員数を定めてございます。定年延長につきましては、現行の60歳から65歳に定年が延長になるものでございまして、来年４月１日から２年に１歳ずつ段階的に定年が延長されるようになります。令和13年度に65歳定年が正式に施行されるというふうな形になってございます。そうしますと、１年置きに退職者が出ないというふうな状況が発生いたしますので、こうした状況を踏まえまして、やはり改めて退職者と新規職員のバランスを考えた採用というものを、目指していかなければいけないというふうに思っております。それにつきましては、業務量等を踏まえて、ある程度一時的な増員なんかも考えながら進めていかないと、なし得ないというふうに思っておりますので、そういった改革をしていくというふうな流れになります。
　以上でございます。
○議長（横山知世志君）　荒川君。
○４番（荒川佳一君）　そうしますと、来年から人数が増え、１年ごとになるかということなのですけれども、そうしますと、それは増えるということではなくて、人数は変わらないということで、新たに採用人数が、採用試験がなく、採用するのがなくなる年があるということで、そういうふうに理解していいと思うのですが、そうすると、定数が207名にするということですと、まだ人数減るよう

な計画でいるということなのですけれども、そうしたときに、職員にしわ寄せが来ないのかどうか。今現在超過勤務というか、残業をかなり一生懸命やっている職員がいるかと思うのですが、そうしないと間に合わないのでやるしかないと思うのです。そうしたときに、何かあったときに、例えば心の病ではないのですけれども、そういうことになったときに、町としては対応できるのかどうか。過剰な過労ですか、過労という形にならないのかどうか、その辺考えをお聞かせください。

○議長（横山知世志君）　総務課長。

○総務課長（金子吉弘君）　再度のおただしでございますが、ちょっと先ほどの答弁で、私ちょっと紛らわしいことを言ってしまいましたが、２年に１歳ずつ段階的に定年が延長になるということで申し上げましたが、その間、２年に一遍しか採用しないということではなくて、やはり空洞化を防ぐためにも毎年毎年の採用というのはしていく必要があるというふうに考えております。その中で、一時的に定員が上回る場合もございますので、そういった部分で、最終的には令和13年以降、調整をさせていただくというふうな、まず流れになります。

先ほどの207名、さらに２名減った中での業務の対応でございますが、これにつきましては、今なかなかコロナの関係の業務があったり、さらには毎年、委譲事務なんかも下りてきているふうな部分がございまして、職員のなかなか業務というのは増えている状況でございます。ただし、そういったいわゆるちょっと他律的な業務といいますか、ふだんちょっとなし得ない通常業務以外の業務というのが相当増えてきておりますので、そういった部分の対応といたしまして、会計年度任用職員さんを採用させていただきまして、そこでしっかりと対応していくというふうな形になります。決して職員のほうにしわ寄せが行くというふうなことはあってはならないというふうに私思っておりますので、その辺についてはしっかりと各所属のほうで職員のそういう健康状態をしっかりと把握した上で、業務のほうを進めてまいりたいというふうに考えているところでございます。

○議長（横山知世志君）　荒川君。

○４番（荒川佳一君）　やはり会計年度任用職員というのはすごく大事だと思うのです。ぜひその辺を十分に配置のほうをしまして、職員に負担にならないような形で進めていただきたいと思います。また、有給休暇のほうも、これ取っていない方もいるのかなと。ただ、夏季休暇については皆さん９月までなので、まだ残っている方もいるかと思うのですが、夏季休暇については必ず取るような形で、有給休暇もできれば残さないような形で、職員のほうの健康管理、十分やっていただきたいと思いますので、その点最後にひとつよろしくお願いします。

○議長（横山知世志君）　総務課長。

○総務課長（金子吉弘君）　ただいまの休暇のおただしでございます。これにつきましては、労働基準法等が改正されまして、年次有給休暇につきましては最低でも５日は取りなさいというふうな指導がされております。ちなみに、我が町の職員の休暇状況でございますが、令和３年度におきましては職員１人当たりの年間の平均取得日数が10.34日になっておりまして、この労働基準法の指針は一応

はクリアはしてございますが、ただし、やはり年々業務量というのは増えておりますので、そういった意味でしっかりと職員の健康管理状況を見極めるというのは非常に大事だというふうに思っておりますので、十分職員の健康状態に配慮しながら、いい業務ができるように努めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（横山知世志君）　荒川君。

○４番（荒川佳一君）　分かりました。これで私の一般質問を終わります。

○議長（横山知世志君）　これで荒川佳一君の質問は終わりました。

ここで３時15分まで休憩いたします。

休　憩　　（午後　３時０３分）

再　開　　（午後　３時１５分）

○議長（横山知世志君）　再開します。

次に、通告第５号、10番、星次君。

〔10番（星　　次君）登壇〕

○10番（星　　次君）　それでは、一般質問に入る前に、文字の訂正をお願いいたします。質問事項１点目の（２）番です。重機オペレーターの職務体制について、「カジュウ」を荷物の荷にやったのですが、これは過ぎるという字に訂正をお願いいたします。

それでは、通告に従いまして一般質問をさせていただきます。１つ目、冬期間の除雪対策と安全の確保についてであります。昨年は例年にないような豪雪により、町民の生活にも影響を及ぼし、毎日除雪、排雪や屋根の雪下ろし等で大変ご苦労がありました。また、町当局や重機オペレーターの方々には早朝からの除雪作業に従事されまして、本当にご苦労さまでした。そこで、次の３点について伺います。

（１）、昨年度の除雪作業を踏まえての反省すべき点と、点検検討課題をどのように評価し、今年度にその解決策を生かすのか、見解を伺います。

（２）、重機オペレーターの職務体制について、過重に負担となってはいないのか（１人当たりの受け持つ距離や勤務時間、休憩時間）、現状を把握しての待遇改善と職員採用（確保）について伺います。

（３）、町道除雪路線の追加は可能なのか、また除雪路線に入っていない町道を個人が長年機械を使用して実施しているわけですが、この方々への燃料費の補助を出すべきであると考えるが、見解を伺います。

次に２点目、教職員の働き方改革について質問いたします。文部科学省や福島県教育委員会では、教職員の働き方改革について指針を出しておりますが、本町における教職員の働き方の実態はどのように認識しておられるのか、改革については進んでいるのか、課題としては何なのか、実態把握と今

後の改善策について見解を伺います。

少子化に伴っての児童生徒の減少傾向はあるものの、デジタル化に伴う授業での操作技術のマスターに、先生方は多くの時間を費やし、本来の授業に影響が出ているのではないかと推測しますが、現状認識と今後の働き方の方針について伺います。

３点目、ＪＲ只見線の活性化についてであります。令和４年３月会議においても一般質問を行いましたが、このときにはコロナ感染防止対策のために紙ベースでの答弁であり、かみ合わない点が多々ありましたので、再度質問をいたします。今年10月１日の開通に向け、奥会津４町村では只見線の活性化のため、乗車率の増加や誘客につながる様々な活動を展開しております。本町においては映画の上映を開催しましたが、ほかに話題となるような催事が行われたのか伺います。

また、今後町として誘客に向けての対策と、町民を対象とした活動展開や乗車率の向上、アップのための周知と宣伝活動が必要不可欠と考えるが、所見を伺います。

さらに、児童生徒や保護者の方々へ只見線の魅力や再開通に至った経緯等について、学校で伝えることで郷土愛や乗車率アップにつながるのではないかと考えるが、所見を伺います。

以上３点について、よろしくお願いいたします。

○議長（横山知世志君）　答弁、町長、杉山純一君。

〔町長（杉山純一君）登壇〕

○町長（杉山純一君）　星議員の一般質問にお答えいたします。

なお、教職員の働き方改革及びＪＲ只見線の活性化のうち学校関連につきましては教育長から答弁しますので、よろしくお願いいたします。

初めに、冬期間の除雪対策と安全の確保についてでありますが、１点目の反省点、検討課題及び解決策につきましては、昨年度のような大雪による除雪の遅れや、実際には既に除雪を行っていますが、その後の短時間集中的な降雪により除雪がまだ来ていないのではなどと町民から寄せられる苦情、要望などに対し、除雪オペレーターの状況や位置確認に時間を要し、苦情対応に遅れが生じたことが反省すべき点であり、検討課題であると考えております。対応策としましては、新たに導入する除雪管理システムにより、各除雪車の運行軌跡、通過時間、現在地などを職員がパソコンの画面にてリアルタイムで確認することができるため、除雪オペレーターとの連携がよりスムーズとなることから、題解決につながるものと考えております。

２点目の重機オペレーターの職務体制につきましては、各除雪センターの班長、副班長を中心に、路線の幅員や距離、除雪機械の性能を考慮し、それぞれの受け持つ区間を決めており、勤務時間は通常で午前８時30分から午後５時15分まで、早出勤務は午前７時から午後３時45分となり、休憩時間はそれぞれ１時間を設けております。また、待遇改善については、給与面においては経験年数によるものや職責によるもの、さらには時間外勤務手当等により算出されており、毎年近隣市町村の給与体系調査を行い、適正な設定であると認識しているところであります。

次に、職務体制の改善に向けた対応策につきましては、今年度から除雪オペレーターの確保に向け大型特殊免許及び作業免許取得における補助制度を設けたことにより、現在例年以上の応募があり、改善が見込まれるものと考えております。

３点目の路線の追加及び燃料費補助につきましては、毎年自治区長からの要望により、現地調査を実施した上で適正と認められた場合のみ路線の追加をしております。また、除雪路線に入っていない町道の個人機械を使用しての実施については、現在全ての町道が除雪路線とはなっていないため、今年度、自治区長を通して実施している箇所の状況把握に努め、現地の確認を行い、今後検討してまいります。

次のＪＲ只見線の活性化についてでありますが、１点目の話題となるような催し事の実施状況につきましては、これまでの取組として、昨年度から、会津西陵高校と連携した活動において本町の魅力発信と高校生の立場から只見線を応援し、地域貢献につなげられる事業を検討してまいりました。検討の結果、10月１日に運行する再開通記念列車で生徒が乗客へ会津本郷駅の小皿やパンフレットを配布することを決定しております。また、７月２日にはじげんホールにおいて、只見線を舞台にした映画の上映や只見線のパネル展を実施し、運行の列車へ映画の看板を掲示しながら手を振る活動を行っております。

現在の取組としましては、全線再開通を記念し、町観光協会とタイアップした只見線全線再開通記念フォトコンテストを開催しており、多くの方より写真の応募をいただいているところであります。また、有名な映画のロケ地となった会津高田駅において、ロケ地看板の設置や花壇の整備を全線開通に向けて取り組んでいるところであります。10月１日には沿線市町村が復旧に対する感謝の気持ちを伝え、只見線沿線の元気を発信し、只見線の再開を盛り上げるため、再開記念イベント記念列車に手を振ろうを企画しておりますので、多くの町民と共に笑顔で手を振る活動を実施してまいりたいと考えております。

２点目の今後の対策等につきましては、県及び只見線利活用推進協議会、沿線市町村等と連携し、第２期只見線利活用推進計画の策定を民間の方々の意見を取り入れ、進めているところであります。町としましても、只見線の魅力を伝え、利活用を推進するため、今後とも県、沿線自治体と連携をし、只見線ガイドブックに観光名所や飲食店などを掲載するとともに、町内の様々な活動団体や会津西陵高校とも連携し、只見線の活性化に向けた事業を継続的に進めてまいりたいと考えております。

私からは以上でございます。

○議長（横山知世志君）　答弁、教育長、歌川哲由君。

〔教育長（歌川哲由君）登壇〕

○教育長（歌川哲由君）　10番、星議員の一般質問にお答えいたします。

初めに、教職員の働き方改革についてでありますが、１点目の教職員の働き方の実態把握と今後の改善策につきましては、本町におきましても、休日の部活動を含めた実労働時間の縮減が大きな課題

であり、昨年７月に勤務時間の上限に関する規則を町教育委員会として制定し、各学校に周知徹底したところであります。また、校務支援システムにより超過勤務時間を把握し、上限を超える職員については指導主事が訪問し面談するなど対応しているところでありますが、依然として教職員の献身的な働きによって学校現場が支えられている実態があると認識しております。さらに、新型コロナウイルス感染症対策により、教職員への負担が増加しておりますが、現在スクールサポートスタッフやＩＣＴ支援員の配置、地域学校協働活動推進事業による学校運営の支援などを行うことにより、負担軽減のための対策を講じているところであります。今後も学校業務の役割分担と適正化を図りながら、必ずしも教職員が担う必要のない業務を削減していくとともに、業務の効率化を図ってまいる考えであります。

２点目のデジタル化に伴う現状認識と今後の働き方の方針につきましては、国のＧＩＧＡスクール構想スタートから２年目となりますタブレット端末の扱い等に慣れない教員にとりましては、デジタル化が進む中でＩＣＴ機器を活用した事業づくりは大きな負担であると認識しております。そのため、ＩＣＴ支援員による校内研修やソフトウエアの活用研修会などを通して、より効果的、効率的な活用の仕方を身につけていただくなど、教員の負担感の軽減を図っているところであります。また、今後の展望といたしましては、ＩＣＴを活用した業務負担軽減を実践している全国の好事例を参考にし、教員が子供と向き合う時間を生み出せるよう、教員の業務負担の軽減を図ってまいる考えであります。

次のＪＲ只見線の活性化についてでありますが、現段階において一部の学校では総合的な学習の時間で只見線の歴史や役割について取り上げているところであります。今後とも関連のある学習において取り上げられるよう、学校に依頼してまいります。また、関係機関から只見線に関する広報依頼等があった場合は積極的に協力してまいります。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　星君。

○10番（星　　次君）　再質問させていただきます。

町民から寄せられた苦情、要望について、これについてその都度対応していると思うのですが、早朝はいいのです。朝は除雪の規定どおりに除雪しますが、午後の部、特に５時以降の帰ってくる、町民が自宅に帰っている時間に、昨年度みたいに急激に降った場合の体制がなっていないのです。その辺の反省はどうだったのですか。その反省のために、今度はこういうふうな除雪管理システムでやるという考えだと思うのですが、その辺をもっと詳しくちょっと教えてください。

○議長（横山知世志君）　建設水道課長、鈴木明利君。

○建設水道課長（鈴木明利君）　ただいまのご質問でございますけれども、早朝については、ご存じのとおり、暗いうちから除雪をしておりまして、それ以降の５時以降ということでございますが、その５時以降の降雪につきましては、今現在、よほどの降雪がない限り対応していないというところでございます。今後につきましては、人員体制もございますが、その点について協議してまいりたいと

いうふうに思っております。
○議長（横山知世志君）　星君。
○10番（星　　次君）　その対応していないというのは、何か理由があったのですか。できない理由というのはあるの。
○議長（横山知世志君）　建設水道課長。
○建設水道課長（鈴木明利君）　できない理由といいますと、１点としましては、次の日の除雪に備えるということでありまして、５時と言いましたのは17時以降ということでよろしいですよね。
〔「うん」と言う人あり〕
○建設水道課長（鈴木明利君）　17時以降につきましては休息時間ということでございまして、多く雪が降った場合については、早朝、深夜１時、２時から出動ということもございますので、それに備えるという意味で、そのような時間には除雪はできていないというところでございます。
○議長（横山知世志君）　星君。
○10番（星　　次君）　それについては、町採用の重機オペレーターだけなのか、民間の委託した路線についてのオペレーターもそれと同じようにやっているのか、その辺を伺います。
○議長（横山知世志君）　建設水道課長。
○建設水道課長（鈴木明利君）　それにつきましては、町直営のオペレーター、そしてまた民間に委託している業者、ともに同じというふうに認識しております。
○議長（横山知世志君）　星君。
○10番（星　　次君）　最後ちょっと聞こえないんですが、最後はっきりと。
○建設水道課長（鈴木明利君）　町直営と民間とも同じく対応しているというところでございます。
○議長（横山知世志君）　星君。
○10番（星　　次君）　分かりました。
　それで、町はやっていないけれども、ほかの町村はやっているのです。隣の会津坂下、会津若松。若松とか、喜多方とか、そういうところに勤めている人は、美里に来ると全然除雪していないって、何だべって、こうなってしまうのです。ほかの町村はやって、きれいなのに。そういう改善する考えありますか。
○議長（横山知世志君）　建設水道課長。
○建設水道課長（鈴木明利君）　それにつきましても他町村の実態を調査しまして、あとは先ほども申しましたが、オペレーターの人員確保ということで、今年度も補助事業といいますか助成金を出して、免許取得ということで人員確保に努めているところでございますので、それら全体を踏まえまして、そのような体制づくりもしていきたいというふうに思っております。
○議長（横山知世志君）　星君。
○10番（星　　次君）　それでは、オペレーターの確保について、答弁にはありますが、近隣町村の

実態を把握して対応しているのだというふうなことが書かれていますが、なぜ美里には職員集まらないのですか。待遇が悪いからでないのですか。

○議長（横山知世志君）　建設水道課長。

○建設水道課長（鈴木明利君）　待遇の面でございますけれども、待遇の面につきましても、近隣町村、先ほど町長の答弁にもございましたとおり、近隣町村の実態調査をしまして、適正な賃金であるというところで確認をしているところでございまして、オペレーターの確保についてですが、今現在、今年度でありますけれども、今年度はそのような、先ほど申しましたような育成事業ということで助成金を出すということもございまして、今現在のところ新規で応募が例年より多くあるというような状況でございます。

○議長（横山知世志君）　星君。

○10番（星　　次君）　答弁書には、確保に向けて大型特殊免許、作業免許の補助制度、これをつくったということは非常に評価しますが、これ応募して、何人が今行っているのですか、これから行く予定なのですか、その辺お願いします。

○議長（横山知世志君）　建設水道課長。

○建設水道課長（鈴木明利君）　今現在ですが、３名の方の応募がございました。あと、それ以外に、今現在ですが、免許取得とは別に、５名の新規の方の応募がございます。あとは１名の方の問合せということで、今現在新規で応募があった方については８名というところでございます。

○議長（横山知世志君）　星君。

○10番（星　　次君）　それでは、８名の方、採用した場合、今までできなかったオペレーター、除雪機の２人体制、業者２人体制というのは可能に考えておりますか、その辺どうです。

○議長（横山知世志君）　建設水道課長。

○建設水道課長（鈴木明利君）　２人体制ということでございますが、その２人体制で臨むべき路線につきましては、県道と町道の主要路線というふうに考えております。あとはロータリー車、大型ロータリー車の場合は２人体制ということで今現在もう実施しておりますし、８名が今年例えば全員採用になったというところであっても、その前の昨年まで32名の方が除雪に従事していただいたわけなのですが、継続してやっていただけるかどうかというところで、今現在ちょっと辞めたい、体の不調もあって辞めたいという方も何名かございますので、一応全ての方が更新していただけるとは限らないものですから、実際もうちょっとお時間をいただいて、職員、オペレーターの人数の確保に向けてやった上で、その辺の調整というのはしてまいりたいというふうに思っております。

○議長（横山知世志君）　星君。

○10番（星　　次君）　課長は既にご存じだと思うのですが、現在の重機は、除雪車は２人体制の補助椅子が必ずあるのです。それは何でというふうに、課長分かっていても、採用がない、できないから１人体制だと。危険だから２人体制になって助手席もあるのです。それを早急に解消すべく努力が

必要だと思うのです。だから、８月会議でも上がっていましたが、専決処分、これ４件もあったのです。これは、町民の財産に損害を与えた、損壊させたという、非常にあってはならないことなのです。これはゼロにすべきなのです。これが２人体制で補助者がいれば、解消できることになるのです。その辺の考え方をお願いします。

○議長（横山知世志君）　建設水道課長。

○建設水道課長（鈴木明利君）　今議員おっしゃったとおり、２人体制になれば、あらゆる面で事故回避とか、そのようなことが少なくなるというという可能性としてはあると思います。しかし、今実際の中で、実際そのオペレーターがいる中で、本当に作業を町民のために除雪をして道を空けなければならないという使命がございますので、それに向かってやるためには、一刻も早くやるためには、１人でやらざるを得ないという場合もあろうかと思います。そのためにバックモニターなりドライブレコーダーなり、そういうもので一応今のところ対応しているというところでございます。

　そしてまた、８月会議で事故等についてありました。確かに事故を起こして、いろいろそういう賠償問題というふうになってきまして、重々反省しております。その辺につきましてもオペレーターのほうに、除雪前にもう一度徹底して、そのようなことについてはあってはならないということをお話をした上で作業に、シーズンに入っていただくということでお願いしたいと思っております。

○議長（横山知世志君）　星君。

○10番（星　　次君）　それで、オペレーターの定年制は廃止になったのですが、私は今まで従事していた人、ベテランの人を、やっぱり初心者というか、経験の浅い人に助手席に乗っていただいて、指導してやるという手もあるのではないかと思うのですが、やっぱりこの辺の活用、ベテランの人の活用というのは考えるべきだと思うのですが、課長の考えをお願いします。

○議長（横山知世志君）　建設水道課長。

○建設水道課長（鈴木明利君）　確かに今までオペレーターとして従事していただいて定年になったということでありましたが、定年制は廃止になりましたけれども、お辞めになった方について、重機を運転するということだけではなく、そのような助手的なところをサポートしていただけるというような場合もあろうかと思います。その辺についてもいろいろ今後検討してまいりたいというふうに思います。

○議長（横山知世志君）　星君。

○10番（星　　次君）　だからそういう方々が、やっぱりテクニックというか分かっているのです。だから、今、新採用が８人いるという、幾ら資格は取っても、なかなかそういうふうな細かいところなんていう、作業というのはやっぱり経験が物を言いますので、この方々に、採用できなかったら、12月始まる前に、１日でもいいのですが、出発式のときでもいいのですが、この方々から技術指導を受けるとか、講話を聞くとかというふうなことの開催が大事でないかと思うのですが、そういう考えは課長持っていますか。

○議長（横山知世志君）　建設水道課長。
○建設水道課長（鈴木明利君）　そのような今までの経験者に、今までの経験談とか、いろいろこういう場合にはというところで講話的なところも確かにいいのかなというふうに、今お聞きして思いました。それらについても今後いろいろ検討してまいりまして、事故のないように除雪作業ができるように、いろいろ考えながら対応してまいりたいというふうに思います。よろしくお願いします。
○議長（横山知世志君）　星君。
○10番（星　　次君）　今課長は検討と言っていますが、検討する余地がないのです。やっぱり今年度は必ず開催して、そういう技術をマスターして、町民に安心してもらうという方策は取るべきだと思うのです。検討したって、今年やらなくて、来年を検討しますか。そうではないと思うのです。予算がないのですか。その辺、課長、詳しくちょっと。
○議長（横山知世志君）　建設水道課長。
○建設水道課長（鈴木明利君）　今、毎年なのですが、除雪が始まりまして、12月１日に出陣式がございます。その日に安全講習会、そこにつきましては警察署員の方に来ていただいて、あとは操作の説明ということで、機械のメーカーの方に来ていただいて実施、これについては毎年やってございます。その上での経験者、そういうベテランの方についての講話とかということになりますと、なかなか時間的に、いろいろ12月始まってから、あとそれ以前に来ていただくということになりますと、なかなか事前に来ていただくということになるとオペレーターの方々たちに、なかなか一緒に同じ時間でということも難しいと思います。あとは12月になってしまいますと予定がびっちり今度組まれておりますので、そのような状況の中で、できれば開催したいなというふうな形で検討してまいりたいというふうに申し上げたつもりなのですが、その辺をご理解していただきたいと思います。
○議長（横山知世志君）　星君。
○10番（星　　次君）　前向きにひとつ実施されるようにお願いしたいと思います。
　それと、答弁書の中に、新たに除雪管理システムということで、職員のパソコンからリアルタイムでやることができるというこのシステムは、隣の昭和村で採用した遠隔操作みたいな感じなのか、それともただ除雪車がどこにいて、どんなあれって、そんな程度なのですか。その辺ちょっともう少し詳しく。
○議長（横山知世志君）　建設水道課長。
○建設水道課長（鈴木明利君）　このシステムは、重機に実際にシガーライターのところに機械を差しまして、そうするとそこから今度ＧＰＳ、発信装置なのですけれども、それをもって今現在地とか、あとはどこをどういうふうに何時に走ったかというところがこちらのパソコン、町のほうのシステムの中で見れるということなのです。議員おっしゃいました昭和村の遠隔操作とはまた別のところでありまして、そのような機械をつけることによって、何時に例えばどこを除雪していたということで、よくある苦情が、夜中に、夜中早出、２時、３時に早出をして除雪をしたのですけれども、それから

物すごい雪が降って、また出勤時間の５時、６時頃になったらもういっぱい積もってしまったと。除雪が来ていないのではないのかというような苦情があるのです。その場合、実際にその機械がどういうふうに除雪をしたか、何時にそこを、例えばそういう連絡があった箇所について通過したかというところもパソコン上で見れますし、今どこにその機械がいるかというところも見れるので、苦情があったところにちょっとそこを早めに除雪してくださいとかという指示が今度は早くできるというようなシステムになります。

○議長（横山知世志君）　星君。

○10番（星　　次君）　それは、職員の単なる管理しやすいような、オペレーターと重機の管理しやすいようなシステムではないのですか。これは、雪がいっぱい降る地区とそうでない、例えば平たん地というか山沿いと、全然違うのです。動きが鈍いとかなんとかといったって、そこを管理するだけでは意味がないのではないですか。やっぱり昭和村のように、オペレーターの職員が採用が少ないのだったら、そういう遠隔操作できるようなそれも取り入れるとか、やっぱりそういう計画を持って、やらないでは、ただこれだけでシステムで金使っているというよりも、職員が事務室にいないで、当局が執務時間中は道路パトロールするとか、そういうふうな町民の声を聞くとか、そういうのがあって、初めて行政の優しさ、行政の親切さが出てくると思うのです。その辺はどうですか。

○議長（横山知世志君）　建設水道課長。

○建設水道課長（鈴木明利君）　実際にそのシステムに頼る部分と、実際にそういうふうにパトロールをしまして町民の方からの意見をいただいたり、町民の方の実際どのような状況かというところで動くということも当然いたします。しかし、今ちょっと私説明の仕方が下手で申し訳ないのですが、今現在問題となっているところの多くが対応の遅さ、例えば苦情を言われたときの対応の遅さが問題かなというところを実感しております。そこを、対応が、このシステムを入れますと、今現在どこどこにいるとか、何時にそこを通過したとかというところが把握できますので、そこで対応を早くできるというふうに私たちは理解しまして、このシステムの導入ということに踏み切ったわけでございます。

○議長（横山知世志君）　星君。

○10番（星　　次君）　分かりました。

　それでは、再質問の中のオペレーターの勤務体制について若干伺いたいと思うのですが、早朝の場合は超過勤務手当で対応するのではないかなと思いますが、その場合、休憩時間終わってきてから休憩時間が１時間というふうにこれではなっていますけれども、相当な、朝２時から出て帰ってきて、休憩時間１時間、これはちょっときついのではないですか。その辺の改善は考えているのですか。その辺をお願いします。

○議長（横山知世志君）　建設水道課長。

○建設水道課長（鈴木明利君）　一応勤務時間としましては、通常は、答弁にもございました８時半

から17時15分までということでございまして、あとは早出をした場合に、その場合については７時から15時45分、午後の３時45分までというところで勤務時間としております。そこで、ある意味早めに帰っていただいて休んでいただく、家でゆっくり休んでいただくという意味で、早く出た場合についてはそこでも休憩を取っていただけると。あとは当然、その１時間の休憩でございますけれども、それはその勤務時間内で取っていただくことになりますけれども、一応班長、副班長に、大変信頼の置ける方が班長、副班長おりますので、体調管理等、そしてまたそういう休息等についても随時、適時取っていただくというようにしておりますので、あとは我々も、除雪が続いた場合についてはサブセンター等を巡回しまして、オペレーターの方の疲れの度合い、状況等を把握するためにいろいろコミュニケーションを取っておるつもりでございますので、その辺で疲れの状況等を把握しておって、休憩をなるべくそういう取っていただくというふうにしております。

○議長（横山知世志君）　星君。

○10番（星　　次君）　オペレーターの方々は、早朝からやって、疲れて帰ってきて、これは待機時間って思っているのです、体を休める時間ということで、再出動のために。これ休憩時間１時間だからということで、あとは家に帰ってというと、全然賃金が発生しないわけです。やっぱりこの辺は改善する事項があるのではないかと思うのです。

実は、前なのですが、今の横山議長が産業建設常任委員長のときに、議会の常任委員会とオペレーターの方々の意見交換会やったのです。そのときにオペレーターの方々からこういう問題が出てきまして、その問題を意見として町当局に出した、私の記憶ではあるのですけれども、やっぱりこの町としても、オペレーターの方々との意見交流会というのはやっているのか、やっていないのか、ただ命令だけなのか、その辺を教えてください。

○議長（横山知世志君）　建設水道課長。

○建設水道課長（鈴木明利君）　先に申し上げますけれども、待機時間、賃金が発生しないということの待機時間というのは、今申し上げました勤務時間の中でということではないですよね。

○10番（星　　次君）　それとは別に、勤務時間だと働かなくてはならないでしょう。

○建設水道課長（鈴木明利君）　勤務時間の中で１時間休憩を取っていただくということでございますけれども、待機時間というのはそれ以外の時間ということで理解してよろしいのでしょうか。

〔何事か言う人あり〕

○建設水道課長（鈴木明利君）　待機時間については、当然待機、自宅で待機という場合でありますので、勤務時間外の出動していない場合については当然賃金は発生いたしません。あと、そこから例えば早出の場合、早く出動した場合については当然時間外労働ということで、その勤務時間外の労働については超勤、時間外労働分の賃金は当然発生します。ということで、それは置いておきます。

それで、オペレーターさんとの意見交換ということでございますけれども、実際、令和２年度と令和３年度の勤務時間を変更しております。それについてはオペレーターさんとの意見交換の中でこの

ように変えたということなのですが、ちなみに令和２年度までですと、早出をした場合については５時から13時45分ということで勤務時間を決めておりました。それが、令和３年度については７時から15時45分ということで２時間ずれました。それについては、なぜそれをずらしたかといいますと、地区３地区ございます。高田、本郷、新鶴地区ございまして、そこで若干早出をする時間によって、ちょっと不具合が生じたということもあったのです。それをオペレーターさんたちは知っていたというところもあったのですが、その辺の意見を取り入れまして、令和３年度からはそのような勤務時間を変更したということもございますし、いろいろと意見交換はしているつもりでございます。

○議長（横山知世志君）　星君。

○10番（星　　次君）　今年度もやっぱり１回程度、始まる前にそういう意思確認というか、給与体系の部分なので、その辺しっかりとやっていただきたいと思います。

　あと、距離の問題、１人当たりの距離が毎年毎年距離が延びてくるというふうなことも言われているのです。この辺は、やっぱり業者委託できる部分があれば、もっと業者の活用をして、少しでも。距離が長ければ、１人当たりの稼働時間も長くなるし、早朝なんか時間がかかって、除雪できなくて、通勤する方々、町民もいるので、その辺の距離の、もっとできる、距離をもっと縮める、そういう努力も欲しいと思うのですが、その辺どうですか。

○議長（横山知世志君）　建設水道課長。

○建設水道課長（鈴木明利君）　先ほど町長答弁にもございましたとおり、オペレーターの受け持つ範囲ということでありますけれども、それについては距離だけではなくて、道路の幅、幅員、そしてまたいろいろ交通状況等を踏まえた上で、班長、あとは副班長が中心となって、受け持つ路線を決めております。あとは当然年々長くなっていくというのが実際どうだか、ちょっとそこまでは把握しておりませんが、経験年数が長くなっていけば、若干ちょっと長くなっている場合もあるのかなというふうにも思われますが、なるべくそういうものも踏まえて、あとは道路状況等も踏まえて距離を決めているということでございますので、それらについては我々が口出しできないのです。もうちょっと、一応路線としてこの人に対してこの方についてはこの距離ができるというところで、実際見た上で判断した上でそういう受け持つ路線をオペレーターの中で決めているということですので。あとは業者、民間のほうに委託できないかということですけれども、令和、平成、すみません、ちょっとお待ちください……実際になのですが、平成29年度については、路線、路線を工区と言っておりますけれども、10工区を民間委託していたのです。それをいろいろオペレーター等の不足等によりまして、２工区、今現在、令和３年度においては12工区まで増やしております。２工区増やしております。その２工区増やす中で、あとはそれについては建設業組合の方との話合いの中でいろいろ意見交換をさせていただいたという経緯もございますが、それによって、あと話をしていく中では、これ以上は、町の業者としては委託路線として受け持つことはまず無理であろうというような回答を今のところ受けております。

○議長（横山知世志君）　星君。
○10番（星　　次君）　課長が把握しているとおり、ベテランの方が毎年増えるのです。やっぱり班長、副班長というのですか、その方々で決めるものですから、あなたはもう少しできないかと、じゃやりますと、こうなるのです。その辺も今後改善できる部分あれば改善して、やっぱりよりよい除雪体制、生活路線の確保ということでお願いしたいと思います。
それでは、次に移りたいと思います。教職員の働き方改革についてでありますが、町はＩＣＴを活用した校務効率化に取り組む学校のための教員業務支援員が配置されていると思うのですが、有効に活用されていると思っておるのか、見解を伺いたいと思います。
○議長（横山知世志君）　教育長。
○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。
校務支援システムにつきましては各校に導入されておりますけれども、学校の使い方は様々、少し違うところがございますけれども、例えば出退勤務時間の管理であったり、児童生徒の出席統計であったり、それから特に中学校においては、いわゆる成績処理、そして通知表等に記載する学期末評定の処理であったり、あるいは学校に残す児童生徒の教育活動の記録である指導要録の作成等に活用されておりまして、使い方は若干違いますが、それぞれ有効に活用されている状況があるというふうに認識しております。
○議長（横山知世志君）　星君。
○10番（星　　次君）　それで、今有効に活用されているという教育長の認識ですが、改善点とかそういう点、例えばもう少し人員を確保してほしいとかと、そういう考え方、足りないとか、そういう点はありますか。
○議長（横山知世志君）　教育長。
○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。
現在導入しております校務支援システムは、県教委が推奨して県で導入したものも、同時に市町村でもできる限り導入してくださいということで紹介されて導入されているわけなのですが、今様々な校務支援システムがありまして、乱立している状況でございます。それで、私どもが導入しているものが、これが本当に先生方の助けになるすばらしいシステムかというと、過不足も相当ございます、機能的にも。それから、先生方も使いこなせているかというと、そうではない部分もございます。課題としては、基本的な情報を入力するための業務が、教頭とか教務主任とか一部の管理権限を付与された教員に偏る傾向がございます。ですから、そういう管理権限をほかの教員等に広げられるかどうか、システム構築の会社と相談をしている状況でございます。
それからもう一つは、コンピューターのシステム上によって行われるものですので、その校務支援システムが、例えば教員の机の上にあれば、そこに戻れないと操作できないという課題がございます。現在、教職員にも１人１台タブレットは付与しておりますけれども、例えば学級に行って、手元のタ

ブレットで入力されている子供の出欠状況を把握できるとか、そういうネット上の構成が異なることによって、校務支援システムと、それからタブレット端末の載っかっているネットワークシステムが共通でない部分がございます。ですから、そういう不便もございますから、共通のものとして使えるようにどうしたらなるのか、これもやっぱりシステム開発の会社と今後相談しながら、利便性を高める必要があると思います。

この今各学校に導入されている校務支援システムは、全国的に見ても私は過渡期にあるものというふうに思っております。今後、多分数年後には、いわゆるクラウド上に全てのデータが上がって、どこからでも管理権限者が入り、パスワードを使ってアクセスできる、操作できる、情報を取れる、そういうものに成長していくことを期待しながら、ただ今ある校務支援システムについても予算をかけて導入しているわけですので、十分活用できるようにしていかなければならないというふうに考えております。

○議長（横山知世志君）　星君。

○10番（星　　次君）　答弁書ではデジタル化が進む中、ＩＣＴの機器活用した授業づくりは大きな負担であると認識しておりますというふうに答弁なさっております。そこで、この負担になっているというような認識ですが、やっぱり学校の先生方も過労働、労働が過ぎている過労働となっていると思うのです。それで、その多忙な時間が蓄積されて、精神的な先生方の不安定や、いじめの早期発見を見逃したりはしていないのかという心配もされるわけです。それと、あと学校の業務、パソコン操作をマスターするために、学校内でマスターするために、学校の業務を家庭に先生方持っていって仕事をしているというふうなことはないのか。その辺が私はちょっと危惧するところなのですが、そういう町の教育委員会として実態調査をしたことがあるのか、今後やるのか、その辺の教育長の見解をちょっとお伺いします。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。

まず、教員のＩＣＴ化による多忙の状況の把握ということでございますけれども、これはやはり得意な教員、それから不得意な苦手としている教員もおりますので、ひとえに多忙だというのか、あるいは苦手だからこそ多忙感を持っているのかというのはまたちょっと違う部分がございまして、なかなか実態調査が難しいところだというふうには認識しております。ただ、町教育委員会としても、各校のＩＣＴ教育担当者を集めて、部会等を持って情報交換等しておりますが、今後とも苦手な先生に校内でいろいろと得意な人が教える、それから予算いただいておりますＩＣＴの支援員が教える等の環境をつくりながら、先生方の能力向上に努めていきたいと思っていますが、それによって、今教育活動が阻害され、あるいはできなくなるような状況まではないというふうに私としては認識しておるところであります。

それから、そういうことを考えますと、家庭の業務の持ち帰りというのは、これは働き方改革の議

論の中でもかなり議論された中身でありますけれども、教員そもそも、ご存じのとおり、勤務時間という概念はあっても超過勤務という概念は今までない業界、世界でございまして、教員は、午前中の答弁でも申しましたが、絶えず研究と修養に努めなければならないということで、勤務時間外でも教育の向上のために自分自身で研修しなければならないというふうな明記もございます。ですから、それが業務なのか、業務外の自己の研鑽のためなのかという区別もございますが、やはり家に帰って明日の授業のため、未来の子供たちのために自分が勉強していくということは、やはり教員としては必要な姿勢の一つなのかなというふうに思っています。ただそれが、やらなければならないものが学校で終わらずに、家に持ち帰って何らかの業務を行わなければならないという環境は、少しでも解消していかなければならないというふうに考えているところであります。

なお、学校の教員の服務監督権というのは学教法によりまして校長の権限でございますけれども、さらに職務上の上司としての教育委員会の服務監督権もございますから、校長を指導しながら各学校の業務の軽減に今後も努めていきたいというふうに考えております。

○議長（横山知世志君）　星君。

○10番（星　　次君）　昨日の新聞報道、民報のを見ると、教員の有資格者が受験するための要件なのですが、あまり先生方が多忙で、私は資格は持っているけれども、県教委のそういう採用試験は受けたくないという方が随分いらっしゃるというふうな新聞報道であります。だから、児童生徒がその当時の先生方の働き方を見ていると思うのです。先生は大変だなというふうな部分があって、そういうふうに意識がなっていると思うのですが、やっぱり働き方改革はもっと改善されるのか、それともこのまま教育長はいろいろな点を見直しながら進めていくという考えなのか、その辺ひとつお願いします。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。

結論から申し上げますと、今後とも業務改善による働き方改革というのは推進していかなければならないものというふうに考えております。国においても今全国的ないわゆる教員不足の中で、文部科学省もかなり頭を痛めておりますし、今星議員ご指摘のとおり、昨日の新聞報道にもありましたけれども、いわゆる休眠状態の教員免許所有者を教壇に立たせるような取組をすべきだというふうな有識者の見解も載っておりましたけれども、今、多分行政としましては、私どももそうですけれども、校長もそうですけれども、県の教育委員会もそういう人材の発掘には汗をかいていることというふうに思っております。現在本町においては、例えば教員不足で先生がいないという状況は、長期間はございません。ただ、今ちょっと休職の者の補充教員、１人まだ入らないところございますけれども。ただ、全県的には、昨日の新聞報道にもあったとおり、160名の教員が不足している状況が今年度見られるということであります。今後この解消に当たっては、やはり働き方改革によって、教員が魅力ある職業だという後ろ姿を未来の教員になる児童生徒にやっぱり見せていく必要があるというふうに思

います。そういう環境がつくれるように、学校と協力しながら業務改善に当たっていきたいというふうに考えております。

○議長（横山知世志君）　星君。

○10番（星　　次君）　働き方改革に伴って、中学校における部活動が民間指導者や団体への移行になっていくというふうになっておりますが、美里町教育委員会の実態、スムーズにこういう移行できるのか、それともももう既にそういう手だてはやっているのか、その辺をお願いいたします。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　午前中も別の議員のご質問にお答えしたところではございますけれども、部活動の地域移行に関しましては、現在地域学校協働活動という、また生涯学習課所管になりますけれども、地域の人材をボランティアとして、何らかの手当ては教育委員会が用意しておりますけれども、学校教育活動に入っていただいて支援いただく、そういうシステムを利用して、昨年度末に高田中学校卓球部の指導に入っていただきました。まだまだ回数は少ないのでありますが、今年はこれを拡充して、本郷中学校における焼き物の指導であったり、それから新鶴中学校におけるバドミントンの指導であったりということで、徐々に拡充していくところでございます。来年度も、これ県からの補助がありますので、県の予算についてはもっと拡充しておきたいという希望を既に出しております。部活動を地域移行していく、その過渡期において、やはりこういうふうな取組は今後も必要かなというふうに思っています。

ただ、将来像というところを見ますと、やっぱり教員の働き方改革だけではなくて、地域住民を含めたよりよいスポーツ環境であったり文化活動環境をつくっていくということで、もう部活動はないものとして、地域で大人が一緒に、子供と一緒にスポーツをしたり、あるいは文化活動に興じたりする、そういう環境を将来的に私はつくっていく必要があるのだろうというふうに考えているところでございます。

○議長（横山知世志君）　星君。

○10番（星　　次君）　それは教育長の将来像だと思うのですけれども、今直近でそういうふうに部活動を移行するわけです。そのために民間ボランティアとかで団体に依頼するわけですが、なかなかその受皿となる団体とか指導者が、身分の保障とか、そういう保障、それから賃金の問題とか、そういういろんな問題を課題解決が解決されないで引き受けるという実態は、やっぱりこの受皿の方がいなくなってしまうのではないかなと思うのですが、その辺の受皿の整備というのは当然県の教育委員会とか示すと思うのですが、その辺の情報をちょっとあったら教えてください。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。

いわゆる地域における指導者の身分であったり、あるいは手当の保障であったりというところのご質問だというふうに認識しましたけれども、まずどんな方が受皿、指導者として適していくのか。私

はやっぱりある程度、例えばコーチのちゃんとした資格のある方とか、もう国の提言でもそう申しておりますけれども、やはりきちんと資格を持つのが大事だと思います。現在スポーツ少年団の指導者の資格が必要でございますけれども、そういう方とか、総合型地域スポーツクラブの担当で資格のある方なんかが指導するような環境をつくっていくことも大事ですし、それから教員で、部活動はなくなりますけれども、地域において子供の指導に専門的な立場から当たりたいという教員については、いわゆる兼職兼業の届けをしていただいた上で従事していただくということができるというふうに考えております。場合によっては、ここはなかなか難しいかもしれませんけれども、大学等の高等教育機関で学ぶ学生であったり、場合によっては地元の高校生の競技にたけた子供たちが、何らかの資格を保有しながら中学生を教える、あるいは一緒に活動するなんていう環境もつくっていくことが必要かというふうに思っております。

それから、手当の保障については、これやっぱり無給というわけにはいかないというふうに考えておりますので、例えば現在ある総合型地域スポーツクラブの中に子供が入って活動するためには、当然クラブの入会料であったり、年間の会費であったり、あるいは何かの参加料であったりとお金は必ず発生するものと思っています。それから、教えるコーチにも当然その分のやはり手当は支払わなければならない、そして兼職兼業で当たる教員にも手当は払わなければならないというふうに思っています。国においては今何らかの予算的措置を講じなければならないというふうには言っておりますが、それがまだ国においても現実的にどのような財源からどのように手当を出していくのかということについては明らかになっているところではありませんが、国のそういう支援を受けながら、地方自治体としても、町としても、保護者の負担過重にならないように、そういう金銭面の手当ても構築していく必要があるというふうに考えているところであります。

○議長（横山知世志君）　星君。

○10番（星　　次君）　この働き方改革は、町教育委員会もそうですが、学校にとっても、先生方、それから子供にとっても本当に大事だというふうには思っていますので、やっぱり今教育長が答弁した内容をこれからも継続して、先生方の働き方改革に向けて、とても重要ななるように、健康面も先生方ありますし、そういうふうに負担とならないように、少しやっぱり努力していただきたいなというふうに思います。

それでは、３点目の只見線の活性化についてお伺いいたします。答弁によりますと、いろいろ催事やったように、ここには答弁書書かれております。それで、再質問しますが、高田駅においてロケ地の看板設置や花壇の整備は、これはどこがやるのですか、町が主体でやるのですか、その辺教えてください。

○議長（横山知世志君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　看板の設置と花壇の整備でございますが、町が直接実施するものではございません。ただ、町は、そういった財政的な支援とか後方支援ということでやっております。

ちなみに、花壇につきましては、町と今会津西陵高校、旧大沼高校と一緒に活動しておりますので、そこの中で西陵高校生徒が整備をするということで進んでおります。
○議長（横山知世志君）　星君。
○10番（星　　次君）　そのロケ地の看板というのはどこですか。
○議長（横山知世志君）　政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　当町も映画を中心として活動しております団体でございます。
○議長（横山知世志君）　星君。
○10番（星　　次君）　それで、どこの駅だか分からないのですが、昨年度から会津西陵高校と本町の魅力発信と只見線を応援して活動しているのだというふうに答弁しておりますが、具体的にどのような魅力発信と、只見線を応援しているのか、その辺ちょっと教えていただきたいと思います。
○議長（横山知世志君）　政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　ただいまの質問、西陵高校生の取り組む事業ということでよろしいでしょうか。
○議長（横山知世志君）　星君。
○10番（星　　次君）　この答弁書には会津西陵高校と連携した活動というのは、町が入っているのではないですか、町。町と高校でないのですか、地元高校。その辺ちょっと教えてください。
○議長（横山知世志君）　政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　会津西陵高校と町が一緒になって連携して取り組んできた事業でございます。昨年度から、まず町が今回只見線が再開通しますよというようなことを説明させていただいて、高校の中で自分たちで自らどういったことができるのか、どういったことがやりたいのかというのを、いわゆる授業の一環として取り組んできました。そこの中で、高校生自ら、それでは今、町をどういった状況なのか、町の魅力を自分たちでまずは発見することから始めようということで、いろいろな調査研究をしたところです。そこの中で、結果的に今年まとまりましたが、会津本郷焼というのがあるのではないかなと。そこのいろいろこれまでの本郷焼の伝統なり、今そういうのを自分たちで学習しまして、その魅力をこういった再開通に合わせて乗客の方に知らしめたらどうだろうということで、高校生が企画、さらには決定した内容ということでございます。
○議長（横山知世志君）　星君。
○10番（星　　次君）　私の考えとしては、町はこの10月１日の只見線開通に向けて、本気度が希薄になっていると思うのです。奥会津の４町村の、見てください。課長もご存じとは思うのですが、柳津町なんか、柳津駅買ったのです。そこに魅力発信のちゃんとカフェをそこに併設したりとか、いろいろ各町村でやっているのです。美里町は町主催で、これ答弁書見ると、やっていないのです。高校生と連携したとか。看板。右側のこれは前も出たのですが、新富座歩む会とかというふうに、団体、これは民間のボランティア団体です。花壇も高校生だと。町は、では一体何をやるのですか。そこを

聞きたいのです、私は。町の本気度。

○議長（横山知世志君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　ただいま議員のおただしでございますが、今、柳津町の例とかいろいろ話ありましたが、確かに町が直接こういった施設を借り上げて何かをするとか、そういったことについては町は取り組んでおりませんが、先ほど申しましたように例えば西陵高校との連携した事業ということで、議員お伺いは多分高校生のほうに丸投げしたようなイメージ持たれるのではないでしょうか。そうではなくて、この結論に至るまで、我々職員が高校に出向いていろいろな、授業ではございませんが、町の状況、さらには町の観光はこうなのですよということをいろいろそこの中で話し、町も直接高校生と対話しながらこういった経過になったわけでございます。結果的には西陵高校生が自ら考えたことと答弁いたしましたが、そこの過程においては町も積極的に予算、さらには時間を費やしてこういったことになったということをまずご理解いただきたいと思います。

あと、看板の話でございますが、確かに看板についても町が直接ではございません。しかし、これに至るまでは、当然町もＪＲといろいろ交渉を現在しておりますので、当然その団体なり丸投げということではございません。確かに最終的に設置はその団体でございます。町の実績には上がらないのかもしれませんが、町もいろいろそこに取り組んで、その運営なりも取り組んでおりますので、実際町がやっていないのではないかと、そういう解釈ではないのかなと。町としてはやっているということで認識をしております。ただ、ご指摘のように奥会津の４町村ほどやっていないのではないかということは、確かにそういった面はあるということでは思っています。ただ、町長答弁の中にありましたように、今フォトコンテストをやったり、いろいろな町としてできる限りのことをやっているということでご理解いただきたいと思います。

○議長（横山知世志君）　星君。

○10番（星　　次君）　課長の判断では町は一生懸命やっているのだという判断ですが、町民は何やっているのだと、町は一つもやっていないのではないかって、こういう町民の声なのです。だから、そこに温度差があるのです。やっぱり町民も抱き込んで、そういうやっぱり活動を一緒になって起こさないと、町民に伝わってこないのです。これだけの魅力ある会津美里なのに、何だべって。では、課長は、今までのこの答弁書の中での部分で、会津美里町に只見線乗車した人が降りて、町なか散策というか、さっきの同僚議員の質問にもあったのですが、各３町村とも、４つの駅あるのですが、その４つの駅に降りて、このだけのイベント、誘客だけでできるというふうに確信持っているのですか、その辺教えて。

○議長（横山知世志君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　まず、基本的にこの只見線再開通の最大の目的としましては、今回全ての路線において再開通いたしますので、まず10月１日に向けて、まず全員でそういった復興なり復旧を祝おうと、まずここが１点でございます。当然そこの中で、美里町として、では美里町の駅に

降りていただいて、美里町を訪れていただくと、それも非常に大事だと思います。ただ、それ以前に、今回只見線の１つつながっておりますので、沿線の市町村と連携して、まずは只見線全体としての取組ということでまずは進めていくというふうに考えております。そこの中では県、さらには活性化の協議会がございますので、そこの中でいろいろな活動を町も含めてやっているということでございます。

当町の単独の取組ということでございますが、確かに議員ご指摘のように、例えば駅を降りて、そこから観光客なりが町に訪れたらどうなのだという話でございます。確かにそういった観光客は、詳細はつかんでおりませんが、そんなに多くはないと認識しております。当然町民の方につきましては、この只見線は観光路線というよりは生活路線です。朝の通勤、通学、特にやはり高田駅においては西陵高校生が一番の利用されているものと思っています。そのために、先ほど言った高校との連携をして、より高校生の皆さんがこの只見線を身近に感じていただいて、その感じていただいた中で、例えば家族なり友人に話していただければ、効果が上がるのではないかということで連携した事業でございますので。ただ、こういった町への観光対策は非常に大切と思っておりますので、その辺は観光部門とよく連携しながら取り組んではいきたいと考えております。

○議長（横山知世志君）　星君。

○10番（星　　次君）　時間がないので、最後に町長にお願いしたいのですが、只見線の手を振る会というの、２か月前だか何かやって、町長もそこに参加したというふうな報道がされておりますが、私は非常にいいことだなと思ったのです。これを美里の４つの駅で手を振る。只見線の手を振る。10月１日に100人体制で４つの駅に100人集めて手を振る会をやろうというふうな、発想的な、そういう町長のやっぱりリーダーシップが必要だと思うのです。町長が声かければ100人集まるというのは、町は本気だというふうなことをやっぱりいろんな団体、町民に呼びかけたら、恐らく可能だと思うのです。だから、そういうふうに、美里はやっぱり各駅でそういう手を振る、やってもらったというだけでも魅力の発信だと思うのですが、その辺の町長の考え、お願いします。

○議長（横山知世志君）　町長。

○町長（杉山純一君）　ありがとうございます。その１日の全線開通に向けては、今産業振興課の課長とも、その手を振る活動がありますので、それは駅ということではありませんでしたけれども、実施しようという話はしておりました。今議員のほうからそういう提案もいただきましたから、その点も含めてしっかり話し合って、実現できるように努力します。

○議長（横山知世志君）　星君。

○10番（星　　次君）　それでは、以上で一般質問を終わります。

○議長（横山知世志君）　これで星次君の質問は終わりました。

○延会の宣告

○議長（横山知世志君）　お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会したいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認め、本日はこれにて延会いたします。

延　会　　（午後　４時３８分）

定 例 会 ９ 月 会 議

(第　３　号)

令和４年会津美里町議会定例会９月会議

議事日程　第３号

令和４年９月７日（水）午前１０時００分開議

第１　一般質問

本日の会議に付した事件

　議事日程に同じ

○出席議員（１６名）

１番	櫻井幹夫君	９番	渋井清隆君
２番	大竹惣君	１０番	星次君
３番	渡辺葉月君	１１番	堤信也君
４番	荒川佳一君	１２番	根本謙一君
５番	山内豪君	１３番	根本剛君
６番	長嶺一也君	１４番	横山義博君
７番	村松尚君	１５番	鈴木繁明君
８番	小島裕子君	１６番	横山知世志君

○欠席議員（なし）

○説明のため出席した者

町長	杉山純一	君
副町長	佐々木吉一	君
総務課長	金子吉弘	君
政策財政課長	國分利則	君
会計管理者	松本由佳里	君
町民税務課長	猪俣利幸	君
健康ふくし課長	平山正孝	君
産業振興課長	小林隆浩	君
建設水道課長	鈴木明利	君
教育長	歌川哲由	君
こども教育課長	渡部雄二	君
生涯学習課長	福田富美代	君
代表監査委員	小島隆一	君

○事務局職員出席者

事務局長	児島隆昌	君
総務係長	歌川和仁	君

開　議　　（午前１０時００分）

○開議の宣告

○議長（横山知世志君）　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりであります。

○一般質問

○議長（横山知世志君）　日程第１、昨日に引き続き一般質問を行います。

通告第６号、12番、根本謙一君。

〔12番（根本謙一君）登壇〕

○12番（根本謙一君）　それでは、私の通告してあることについて、ご質問させていただきたいと思います。

まず、大きい１番目でございます。国の介護保険制度改定議論に向けて。７月14日、新聞報道により、2024年春の介護保険制度改定に向けた国の議論が始まったと知りました。５月に財務省の財政制度等審議会の提言には、軽度者（要介護１、２）の地域支援事業への移行、利用者負担の見直し（原則２割負担)、ケアマネジメントの利用者負担の導入などが盛り込まれたと言っております。これらは介護崩壊を加速させる動きであるとして、警鐘を鳴らす有志者の課題解説記事を載せておりました。2015年の地域医療介護総合確保推進法に基づく医療、介護保険改革が始まって以来、介護制度改定では一貫して保険給付の範囲の抑制と利用者負担の増額が進んで、要支援１、２の一部を介護保険から切り離して市町村が行う介護予防・日常生活支援総合事業に段階的に移行してきました。年々複雑化する介護保険制度以上に分かりにくいのが総合事業と言われております。切れ目のないサービスをうたう総合事業のキーワードは、地域の支え合いと住民主体の多様なサービスですが、透けて見えるのはコストの節減と費用の効率化であり、当初から批判があって、2024年改定ではそれに加え、認定者の４割近くを占める要介護１、２の人たちにも軽度者として介護保険から切り離し、自助と互助を中心とする総合事業に移行しようとする動きとなっております。各自治体によって質も内容もばらばらな総合事業で、どんなケアマネジメントができるのかという懸念に加え、要介護１、２で急増する認知症の利用者への対応が未資格者にも任されることとも言っております。認知症のケアは相当な技術を要しており、軽度の時期の対応がその後の重症化に大いに関わるとされております。また、有識者は論点として、介護の社会化の理念が失われ、家庭に逆戻りと現場から批判が上がる、利用者負担の見直し（原則２割負担）やケアマネジメントの利用者負担の導入という自己負担が倍になることで利用控えが必至問題も提起されておりました。次期制度改正は、厚生労働省社会保障審議会での議論を経て2023年の通常国会に法案が提出され、そして2024年４月の施行を目指すスケジュールで進むので、総合事業は運営に当たる市町村からの意見も国の議論に影響を与えることから、利用者、家族の立場から移行の影響と実現性を問う声を市町村に上げてほしいと呼びかけておりました。私は、町として

しっかりと現場等の声を聞いて実態、実情を把握、分析、評価し、しかるべき機会を捉えて住民に寄り添った意見、要望を出していくべきと考えております。

そこで、上記を踏まえ、次について所見を伺います。①、2024年度介護保険制度改定に向けて、町当局の準備等について現時点での認識はいかがか。

②、一定の評価ありと聞く本町の高齢者福祉、介護保険事業上の課題認識はいかがか。

③、福島県一認知症に優しい町の実現を目指して施策事業を展開している本町でありますが、何が福島県一なのか分かりづらいので、伺いたいと思います。

次、大きい２番目に参ります。旧本郷第一小学校跡地利活用基本計画策定について。このことについては、６月会議一般質問において、プロポーザル選定された業者によるファシリテーターによって、８月から10月にかけ４回のワークショップを開催して、ゼロベースから町民、住民の声を生かした喜んでいただける利活用基本計画を今年度内に策定したいとしておりました。そこで、次について所見を伺います。

①、８月からのワークショップ開催ができなかった理由と議会答弁を守られなかった不誠実なことについての認識について。

②、肝要であるところのワークショップの進め方における基本的姿勢の認識について。

③、基本計画策定に向けて、可能な限り明確なスケジュールの明示を求めたいと思います。

次に、大きな３番に参ります。旧美里公民館跡地の利活用についてです。解体工事が進んでいる旧美里公民館の跡地利活用については、高田地域のみならず、会津美里町地域づくりの未来を形づくっていく上で大事な取組になると考えております。どんな絵を描くかによって、さきの議会一般質問で提起した高田地域街なか再生計画策定にも大きく影響し、関わっていくと思慮します。街なか中心地にある有用な公有地でもありますから、住民自治の理念を大事にした整備設計づくりになりますよう丁寧な取組をしていくべきであります。どのような考え方をお持ちか、またどこまで考えているのか所見を伺いたいと思います。

以上、よろしくお願いいたします。

○議長（横山知世志君）　答弁、町長、杉山純一君。

〔町長（杉山純一君）登壇〕

○町長（杉山純一君）　12番、根本議員の一般質問にお答えいたします。

初めに、国の介護保険制度改定議論に向けてでありますが、１点目の町の準備等についての現時点での認識につきましては、国では社会保障審議会介護保険部会において今年中に制度改正の議論を行い、その後自治体へ第９期介護保険事業計画に関する基本的な考え方を示す予定となっております。このことから、町では第９期介護保険事業計画策定に向けた介護予防・日常生活圏域ニーズ調査と在宅介護実態調査のアンケートを今年度中に実施し、第９期介護保険事業計画策定の基礎資料として分析を進めます。なお、次期制度改定に関して、町として国に伝えるべき内容は、機会を捉え適切に対

処してまいります。

２点目の本町の高齢者福祉、介護保険事業上の課題認識につきましては、特に介護保険事業において、高齢者人口の増加が続き、施設系サービスの増加による保険給付費の増大が懸念されます。また、加齢や運動不足、自宅でのひきこもりが原因となり高齢者がフレイル状態となることは、健常から要介護へ移行する中間の段階と言われていることから危惧される内容であります。保険給付費を増加させない、フレイル状態とならないためには心身ともに健康であること、現在の状態を維持することが肝要であります。そのため、現在町内45か所で実施している集いの場において地域リハビリテーション活動支援事業、うんどう教室、認知症予防教室、町職員による介護、福祉制度等の講座、介護予防教室、町保健師、管理栄養士による健康講話の６つのメニューで事業を展開し、フレイル予防を行っております。いつまでも元気で自分らしく、住み慣れた地域で暮らしていただけるためにも、内容を工夫しながら引き続き事業に取り組んでまいります。

３点目の何が福島県一なのかにつきましては、福島県一認知症に優しい町は、認知症対策として認知症になっても暮らしやすい地域、早期発見・早期治療、啓蒙啓発・予防の３つの柱をまとめるスローガンとして掲げたものであります。明確な指標が定められていないことから、他自治体との客観的な比較は難しいと考えております。３つの柱の内容につきましては、認知症になっても暮らしやすい地域は、認知症カフェの開催による認知症本人、家族の居場所づくりであります。介護の相談、また地域とのつながりをつくり、当事者や家族の孤立を防ぎます。さらに、認知症サポーター養成講座のステップアップ研修を受講した方々がオレンジの会を組織して、認知症の方や家族に対して心のケアに努めております。早期発見・早期治療は、認知症の疑いのある方に適切なケアを提供することで認知症の進行を防ぐものです。困難事例に対処するため、町や医療関係者などで構成する初期集中支援チームにより月２回の検討会を開催しております。啓蒙啓発・予防は、認知症早期発見のため、認知症について正しく理解できるよう認知症サポーター養成講座を開催しております。事業所や学校でも開催しており、これまで延べ6,000人の方が認知症サポーターとなっております。これらの対策により認知症に対する正しい理解が進み、認知症の方、その家族への見守り、サポート体制が進んでいるものと捉えております。

次の旧本郷第一小学校跡地利活用基本計画策定についてでありますが、１点目の８月からのワークショップ開催ができなかった理由等につきましては、旧本郷第一小学校跡地利活用基本計画策定業務を進める過程において、学識経験者や各種団体等の代表者、公募委員で組織する町普通財産利活用検討会を６月と７月に開催し、取組状況や計画策定に関する方法等を説明するとともに、利活用の推進に関する意見等を聴取することで町民参加の推進及び合意形成を図ったところであります。そのため、当初予定していた８月からのワークショップの開催が２か月程度遅延していることから、結果として６月会議における一般質問での答弁内容に一部差異が生じたことにつきましてはおわび申し上げます。町としましては、旧本郷第一小学校跡地が住民主体の取組や利活用により持続可能な地域づくり

の拠点となるように、令和元年７月に提案された３つの理念を尊重し、町民の声を可能な限り反映した基本計画を本年度内に策定してまいります。

２点目のワークショップの進め方における基本的姿勢につきましては、３つの基本理念を実現する具体的な利活用の方向性を整理するため、町民ワークショップ等の効果的な手段を講じるとともに、特に本郷地域の子供や保護者など若い世代の意見を基本計画に反映することで、その後の利活用にも積極的に関わってもらえるような機運を醸成してまいります。

３点目の基本計画策定のスケジュールにつきましては、現在基本計画の策定に当たり、町民の声を可能な限り反映するとともに、その後の利活用にも積極的に関わってもらえるような機会とするために、より効果的な町民ワークショップ等の開催に向けた準備を進めております。10月からは、その後の利活用に関わる世代を対象としたワークショップを複数回開催し、その後パブリックコメントを経て令和５年３月末までに基本計画を作成してまいります。

次の旧美里公民館跡地の利活用についてでありますが、現在庁内の課長補佐等で構成しておりますまちづくり調整会議において利活用可能な普通財産の全庁的な洗い出しを行い、各所管課それぞれの立場から利活用の方向性を検討しております。令和４年度については、旧美里町公民館跡地の利活用を最優先に検討することとしており、具体的な内容はこれからとなりますが、まずは庁内での利活用案の取りまとめを行い、普通財産利活用検討会で検討していただき、町民の皆様への説明とご意見をいただきながら進めてまいりたいと考えております。旧美里町公民館跡地につきましては、高田地域商店街の中心に位置するとともに、その周辺は歴史的、文化的にも優れた資源を有しております。これらの資源を活用し、街なか再生への誘導へつながる地域交流とにぎわいの拠点施設として活用が望まれているものと考えております。商工会や地域の方々はもとより、未来を担う学生や子供たちの思いを取り入れた新たなにぎわい創出の場として活用できるよう丁寧な取組に心がけ、柔軟に検討してまいりたいと考えております。

私からは以上でございます。

○議長（横山知世志君）　根本君。

○12番（根本謙一君）　丁寧な答弁内容だったというふうにまずは印象を申し上げたいと思います。

まず、大きな１点目のことに入りたいと思います。このことについては、私も要支援２の当事者としては身につまされる課題でありまして、ひしひしと日常的にも感じるところが多うございまして、大変興味、関心を持っていろいろ調べさせていただきました。それで、本町において第８期の計画を見ますと要支援者数、それから要介護１、２の方々の人数的にはそう大きくは変わっていない。私も当事者になりますけれども、団塊の世代でこれからずっと対象者が増えるということは容易に想定できることですし、それを踏まえての本町の特徴もしっかりつかんでおく必要があるというふうに思います。よその事例も調べますと、やはり地域によっていろいろな特徴があるなということはどなたもおっしゃるところですので、地元の実態把握、分析、これがとても大事なのだなというのはつくづく

思った次第です。当然行政としては国の指針と方向、それから法律に基づいてしっかり今まで遂行してきたことは、本当にご苦労さまでしたとまずは申し上げたいのですけれども、ただこれだけ時代が変わって、それから手だてがいろいろ増えれば増えるほどやっぱり機微に入っていかざるを得ない。それで、個々それぞれ皆さんいろんな悩みやお困りを持っている中ですので、そこはやっぱり時代とともにいろんな考える要素が出てくるというふうに思っております。過般課長等と意見を交わしたときに、このたびの改定に向けてのことは別にして、以前にはそういう仕組みが、意見や要望等を申し上げる仕組みがあったのかな、どうだったのかということをお尋ねしたら、なかったということなのです。私は、えっと思ったのですけれども、でもこのたびの改定の中身を見ますと、案を見ますとやっぱり当事者、利用者にとっては切実な内容になっているということは間違いないと思います。だからこそ新聞紙上でもこれを取り上げて、皆さんにお声かけをしているということの証左だと思っております。そういう中で、今までとはまた違った住民に寄り添った、あるいはこの町らしい取組、あるいは国に対しての、あるいは県に対していろいろなことを申し上げていくというのは当然あってもいいのだろうというふうに思っております。その点の確認をまずさせていただきたいと思います。

○議長（横山知世志君）　健康ふくし課長、平山正孝君。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　今現在国で行われている制度の見直し等の審議について、町としてやはり意見を述べるべきではないかということでよろしかったでしょうか。

〔「はい」と言う人あり〕

○健康ふくし課長（平山正孝君）　町長答弁にもございますように、町として機会を捉えて対処していきたいということで考えているところでございます。

○議長（横山知世志君）　根本君。

○12番（根本謙一君）　適切に対処する、きれいな言葉ですから、ただやっぱり少なくとも今年中には一定程度の考え方を持って当たっていないと、用意していないと、私は国の議論に反映はされていかないのではないかなというふうに思っておりますので、時間があるようでないという捉え方をしております。そこのところはどんなふうに。

○議長（横山知世志君）　健康ふくし課長。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　確かに国のほうでは今年中にということで案をまとめてと言っております。ただ、根本議員がおっしゃられたように、財政制度等審議会では例えばケアマネジャーの費用負担を一部費用負担をしてもらいましょうとかという案が出ております。ただ、介護保険部会においてはその点については十分検討すべきであるという全会からの意見という形で上がっております。ちょっと対峙するような中身になっているということで、状況をよく見極めながら対応していかないと先走りということも考えられますので、国の審議会の進み具合等も、情報が来るわけではないですが、国のサイトとかを確認しながら対応していきたいと考えております。

○議長（横山知世志君）　根本君。

○12番（根本謙一君）　それも分かりますけれども、町としては第９期の介護保険事業計画にも取り組むことが答弁に出ていますよね。ニーズ調査とかアンケートを今年度中に実施しということになりますよね。基礎資料として分析を進めますということですね。今年度中ということは、この分析が進んでこういうことですよねというのが出るのはもう来年度にならざるを得ないのではないですか。ですから、そしたらどういう形で今の国の議論の中に少しでもこの利用者、切実な懸念や実態を言っていけるのか。当然有識者等を通じて意見は出されていくでしょうけれども、まず現場の声を出す、上げる、届けるということはとっても大事だと思うがゆえに、そこはどのように考えていますか。
○議長（横山知世志君）　健康ふくし課長。
○健康ふくし課長（平山正孝君）　確かに現場の意見を上に伝えることはとても重要です。アンケートにつきましては、今後の求められるニーズ、サービス量、そういったものについて町が今後どれだけの供給量を目指すか、どういった内容を目指すかという形のアンケートということになっておりますので、制度的な部分というのはなかなかやはり住民に対してアンケートを取るというのは難しいと考えております。先ほどから同じようなことになってしまいますが、状況を見ながら、あと現在の状況、実績等も踏まえて、それを判断材料として意見として述べられるところは述べていきたいと考えております。
○議長（横山知世志君）　根本君。
○12番（根本謙一君）　そうしますと、それは機会を捉え適切にということをおっしゃっていますけれども、これは県に、国にダイレクトにというのはなかなか難しいでしょうから、まず県を通じてということになるのかなというふうに想定しています。そうしたときに県に問い合わせて、そういう機会があるのかないのかも含めて、今まではあまりなかったように聞いていますから、そこは確認取るようなこと、本当にそういう機会があるのかどうなのか確認するというようなことは考えていませんか。
○議長（横山知世志君）　健康ふくし課長。
○健康ふくし課長（平山正孝君）　今までは確かにございませんでした。今後について状況等も踏まえながら、県のほうにも確認を取るということも考えていきたいと考えております。
○議長（横山知世志君）　根本君。
○12番（根本謙一君）　分かりました。いずれにしても、まず今回地域包括支援センターにお邪魔してきました。ほかの事業所にもお邪魔して、いろいろご意見伺ってきました。大変いいお話をいただいてきました。これは、ここで１つご紹介したい文章がございます。これは、地域包括支援センターの方からいただいたものです。この改定の課題に関する意見ということで、まず総合事業についてですけれども、会津美里町に関しては通常のデイサービスとヘルパーを総合事業の位置づけで対応しております。町の考え方でどうなるか不明ですが、総合事業に移行したとしても同じサービスを利用することになろうかと思います。認知症の方に対しても、既存のデイサービスやヘルパーを利用するだ

けでサービスの質の低下につながるものとは考えにくいと思っています。しかし、要介護申請とは異なり、ケアマネジャーそれぞれの裁量での利用となる可能性もあり、本当に必要な方へのサービス利用が阻まれることも懸念されます。これは総合事業に関してです。次に、自己負担の増加とケアマネジメント費の自己負担導入に関してですけれども、利用控えは必ず出てくると思います。ケアマネジメント費の導入は、相談を控えるという可能性もあります。自己負担の増加は収入に応じての負担になりますが、貧困世帯以外でも生活が逼迫している家庭は少なくありません。介護への理解がない方もおられます。多少の費用負担増が利用控えを増やす可能性は高いと思っております。これが現場からの一つの声でもあります。これは、町に深く関わっている方々からのご意見なので、これは私がいただいたものですけれども、所管としても所管の立場でこれに向けて情報収集、現場の声もしっかり聞いていくということは必要なのかなというふうに思っていますけれども、どんな感想をお持ちですか。

○議長（横山知世志君）　健康ふくし課長。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　確かに貴重なご意見だと思います。町のほうとしましても、ケアマネの研修会等適宜やっております。そういった中でケアマネの意見、あと事業所等の意見を随時聞き取りながら対応していきたいと考えております。

○議長（横山知世志君）　根本君。

○12番（根本謙一君）　よろしくお願いいたします。そういうふだんの触れ合いというか、コミュニケーションというのはとっても大事だと思います。やっぱり現場はとても切実なことがいろいろあります。それで、介護の問題にもなりますけれども、皆さんそれぞれ、私らもいつでもそういうところに入っていかなければならない年代にはなっておりますから、身につまされるような話もたくさんいただいてまいりました。ぜひ当局としての、所管としてのご努力もお願いしたいと思っております。

　では次、２番目ですけれども、いろいろご苦労して取り組んでいることは存じ上げております。そういう中でフレイル予防、これとっても大事な取組でございます。集いの場も順次増えているようですけれども、ただそこで現場に関わっている方々から聞くと、やはりリーダーが大事だなという話と、それから地域がなかなか育っていっていないというお話も伺いました。というのは、誰か引っ張る人がいないと、やっぱり行政任せではいけないのではないかなということを感じてまいりました。その辺はどのように感じて捉えていますか。

○議長（横山知世志君）　健康ふくし課長。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　集いの場につきましては、年々確実に増えてきてはおります。ただ、ここ一、二年、コロナの影響もありまして伸び悩み、あと開催についても感染予防対策ということで中止等もしているところでございます。設置につきましては各行政区長さん、自治区長さんなどに協力をお願いし、運営については自主的にやっていただくという形を取っております。町のほうであれをしろ、これをしろということは行っていないというのが実際のところです。運営について自治

区の、各地区の運営にお任せしてやっていただく。そこに町のほうとして、町長の答弁にもございますが、保健師が行って講話をしたりとか、そういった形で対応しているというところが実際のところでございます。引き続きこういう形で支援をしていくというような体制を整えていきたいと考えているところです。

○議長（横山知世志君）　根本君。

○12番（根本謙一君）　今言われた自主的にですけれども、どうしてもこういう走り出しはやっぱりつくることが目的になって、数を増やすことが。確かに基盤づくりにはまず数を増やしていくということも一つあるべきことなのですけれども、それを運営していく、持続していける、そこに少し注力していかないと長続きしない。それから、所管としての、このことも現場で聞いた話ですけれども、担当者が替わると考え方もやり方もやっぱり変わっていってしまっていると、関わり方が。これは素直に聞いていただきたいなと、前向きに捉えていただきたいな。何でこういうことが必要なのだ、どこに向かっているのだ、この町は何を考えているのだということをしっかりみんなで共有しているのと、いや、元気でいるためにこの運動をやらなければならないのだ、この取組を、今日は楽しい音楽を聴きましょうとか。何でこういうこと、いろんなことやらなければならない、何で地域でこういうことやっているのというところ、何で必要なのかというところで認識を共有しているのとしていないのでは私はやっぱり違う、受け手からしてもそれは違ってくるのではないかなと。その点を言われたのだなというふうに受け止めてきましたので、どんな感想をお持ちです。

○議長（横山知世志君）　健康ふくし課長。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　確かに担当が替わって内容が変わるといったことはあってはならないと考えております。その点については、よく引継ぎの際にも十分引継ぎをきっちり行って、一貫した形の進め方ということをやっていきたいと考えております。

　あと、大きな目的としては、住み慣れた地域で健康で楽しく過ごせるということが目的の部分でございます。そういったことが継続してできるように支援していくというのが大事だということを考えております。あと、町のみならず、包括支援センター等も協力して運営については支援していきたいと考えております。

○議長（横山知世志君）　根本君。

○12番（根本謙一君）　これは、繰り返し繰り返し言っていかないとやっぱり伝わらないと思います。ただその事業やるだけに集まっているというような感覚になっては本当にもったいない話ですし、私は今身障者の手帳も頂いている身ですから、健常者とは違って常にリハビリやっていないと、体がやっぱり硬直してくる度合いは高いです。だから、こうなったからそう思えるのであって、健常者にとっては、あるいは普通に元気でお越しの方々にとっては、なかなかすとんと入ってこない分野ではあります。でも、行政側としては常にやっぱり大きな目標を持って、だから皆さんこれ大事なのだから一緒にやっていきましょうと、今日はこれですよと、何かやりたいことありませんかとか、そうやっ

て機微に入っていくという行政側としてのスタンス、支援がとっても大事になってくるので、そしてリーダーをしっかりつくらせてもらって引っ張っていってもらうと、ぜひお願いしたいなと思いますけれども、その点お願いします。

○議長（横山知世志君）　健康ふくし課長。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　議員おただしのように、スタートの時点でやはりある程度の支援は必要かと考えております。今後のためにもそのような形を取れるような体制を取っていきたいと考えております。

○議長（横山知世志君）　根本君。

○12番（根本謙一君）　次に、福島県一認知症に優しい町、全くこの言っていることは分かるのですけれども、でも具体的にイメージがなかなかつくられない。確かにサポーターは増えておりますけれども、この努力も大変だったなというふうに思います。私らも講習を受けました。一応サポーターという名刺もらっていますけれども、でも１回受けたからそれで理解しました、皆さんで、さあやっていきましょうと、そんな簡単な話ではない。これ繰り返しやっぱり必要な部分だなと思います。そこで、ぜひ提案したいのは、先ほど新聞で報道の有識者の話出しましたけれども、この方、中澤まゆみさん、ぜひこの方を本町に呼んで講演会なり、親しく住民の皆さんと交わっていただく。この方は、自分も家族介護で大変ご苦労されて、その経験から医療、介護のほうに、社会問題、社会保障、そういうところにテーマを絞って一生懸命取り組んでいる方です。本も出していますし、講演もすばらしいです。その講演を包括支援センターのスタッフさんは聞きに行っています。名刺交換もされているようです。つながっているようです。ぜひお呼びしてお話を伺うということは大変有意義なことだと。福島県一認知症に優しいまちづくりを目指しているのですよという話をしながらいろんな助言いただくという、そういう機会にもしていって、ネットワークとして持っている。これとても有意義だと思いますけれども、急な話で恐縮ですけれども、いかがでしょう。

○議長（横山知世志君）　健康ふくし課長。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　私のほうも新聞記事のほうを読まさせていただきました。確かにすばらしい内容であったと思っております。講師に呼んでという形の件につきましては、どのような形でどういう時期に呼んだらいいかということもございますので、十分検討させていただきたいと考えております。即答ですぐということはなかなか厳しいということもございますので、よろしくお願いいたします。

○議長（横山知世志君）　根本君。

○12番（根本謙一君）　全くそれも分かります。そのとおりだと思います。今話出しただけですから。町長、どうですか。町長の受け止め方で本気で取り組むか、今年度呼ぶぞとか来年度には初めて呼ぶぞと、そこは決断できると思います。

○議長（横山知世志君）　町長。

○町長（杉山純一君）　お答えをさせていただきます。

私も家族が認知症になって介護をした立場として、非常に認知症というのは発見が難しいという状況がありました。実際私のおやじでありましたけれども、数年後、３、４年、５年ぐらいたってからあのときが初期だったのかなという思いで、その頃にはもうどんどん進んでいて、お医者さんに診てもらってから治療が始まるという状況でした。という中で、やっぱり一番身近にいる家族でさえなかなか発見できないのがこの認知症だというふうに思っています。やっぱり認知症は、先ほども申し上げましたけれども、早期治療が一番大事なのだというふうに思います。そういった中で経験のある方の、今課長が記事も読んだという話で感銘を受けたという話、議員さんからもぜひ呼ぶべきだというお話がございました。そういった中で、多くの方がそういったものを受講して認知症を理解するということは非常に大事なことだというふうに思いますので、私のほうからも機会を捉えて講師として呼ぶように話を進めてまいりたいと思います。

○議長（横山知世志君）　根本君。

○12番（根本謙一君）　ぜひ実現していただきたいと思います。

次、大きな２番目に参ります。旧本郷第一小学校跡地の利活用についてでありますけれども、これワークショップ、今日程的にはどうなのですか。いつから始めるとか言えないのでしょうか。

○議長（横山知世志君）　総務課長、金子吉弘君。

○総務課長（金子吉弘君）　ワークショップの日程でございますが、計画どおり進まず大変遅れて申し訳ないというふうに思っております。今の現時点でのワークショップの日程、予定でございますが、10月から12月にかけまして計５回実施したいというふうに考えております。

○議長（横山知世志君）　根本君。

○12番（根本謙一君）　10月からということは、10月の初旬と下旬では全く違ってきますし、そんなに準備って何だろうなということもあるのですけれども、もう少し具体的に言えませんか。住民がとっても関心持っているのです。待っているのです。

○議長（横山知世志君）　総務課長。

○総務課長（金子吉弘君）　もう少し詳しく申し上げますと、まず１回目のワークショップにつきましては10月の中旬に実施したいというふうに考えております。これにつきましては、周知、公募をさせていただくものですから、どうしてもちょっと時間が必要であるというふうなところで、広報、さらにはホームページ等を通じまして呼びかけをいたしますので、中旬からまずは１回目に入りたいというふうに思います。ただ、どうしても12月まで、年内に５回というふうなスケジュールになってまいりますので、かなりタイトなスケジュールになりますので、その辺についてはしっかりと中身を整理をさせて進めていきたいなというふうに考えているところでございます。

○議長（横山知世志君）　根本君。

○12番（根本謙一君）　あと、ほかに関して進め方、考え方、私は異論はありません。本当にこのよ

うにやっていただきたい。すばらしいなと思うところもございます。それから、未来をつくっていく子供たち、若い人たちに多く関わってもらうことによって、その公園から新しい地域づくりが始まるのだということは容易に言えることになります。今公園ってやっぱり個性づくりにもとても大事なことの、まちづくりに寄与するという話でございます。これは、少し勉強すれば分かる話だと思いますので、ただつくればいいという話ではないということでしっかり取り組んでいただきたい。前回は４回だったのですけれども、今回５回。十分に煮詰めていくなと。問題は、あとはファシリテーターがどういうふうにまとめていただくかと、住民の声どれだけ吸い上げるかと。ちゃんとフィードバックさせる、住民の納得を得て上申するというような形でやっていただきたいと思いますけれども、確認させてください。

○議長（横山知世志君）　総務課長。

○総務課長（金子吉弘君）　ただいまのおただしでございますが、確かにいわゆる通常の、ただの公園づくりであってはいけないというふうに私どもも思っております。今ある程度考えておりますのはインクルーシブ公園といいまして、ある程度ＳＤＧｓの理念なんかも踏まえまして、基本的に障がいがある方等、いわゆるそういう生活弱者の方も自由に遊べるような、そういった公園をある程度考えております。そうした中で、本当に地域に根差した公園づくりとするために、町民の方々と協働でしっかり考えてつくり込んでいくということが非常に重要だなというふうに考えておりますので、その辺については丁寧に時間をしっかりとかけて進めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（横山知世志君）　根本君。

○12番（根本謙一君）　もう一つ確認させてください。プロポーザルで選ばれたファシリテーター、業者さんのようですけれども、この方は具体的に好事例、先進事例といいますか、すばらしいところ、日本全国いろいろありますよね、コンクールも全国でやっていますし、私も幾つも知っていますけれども、そういうことを例にも出しながらやっていくのか、多分にそれを見に行くということはかなわないでしょうけれども、そういう丁寧さでいろんなアイデアを出してもらうということになるのか、どういうイメージを持っていますか。

○議長（横山知世志君）　総務課長。

○総務課長（金子吉弘君）　いわゆる一つ公園づくり、拠点づくりに関しましては、ある程度従来まで議論を重ねてまいりまして、その３つの理念というものがございます。それに沿ったような形で取りあえず委託業者のほうで、委託業者といいますか、我々のほうでたたき台のほうは一応つくらさせていただきます。その中で、ある程度そういった全国の好事例なんかも参考にしながら、我が町に取り入れられる部分に関してはしっかりと取り組んでまいりたいというふうな考えで進めたいというふうに考えているところでございます。

○議長（横山知世志君）　根本君。

○12番（根本謙一君）　あとはワークショップなり地域にお任せして、楽しみに待っていたいと思い

ます。よろしくお願いします。

次、３点目に参ります。旧美里公民館跡地の利活用、これとっても大事だと思っています。この答弁見ますと、私は特段異論はありません。当然大きな目で考えていただかないと、ちぐはぐなことになってしまってはいけないと思っております。今までは、ややもするとそこの部分だけ何かつくればいいみたいな、さあつくろう、何つくるというようなところで行ってしまうおそれがあったのではないかなというふうに思っております。やっぱり大きなビジョンを持って、それぞれの箇所を生かしていく、そしてつなげていく。特にここは天海大僧正の生まれたところだというふうに確定的に見られておりますから、これをしっかり生かしていかなければならない。子供たちにもその生きざまを伝えていく。一つの拠点づくりにもするということは大事な観点、視点だと思っております。そのほかにいろんなアイデア、複合的にいろいろ出てくるかも分かりませんけれども、その大事なところだけは絶対外してはいけないと思っておりますので、町長の考え方伺いたいと思います。

○議長（横山知世志君）　町長。

○町長（杉山純一君）　お答えをさせていただきます。

このことについての考え方も含めてだというふうに思います。６月会議の中でもお話をさせていただきましたけれども、現時点ではまだ白紙の状態ではございます。ただ、この公民館、あとこの場所が高田町時代、そしてまた美里町になってからも町民が集う場として大いに活用された場でもあります。商店街の中ほどにあるということもありますし、天海大僧正のものもあるということで、いろんな個人の方から、また各団体の方からもいろんな意見、提言が私に寄せられております。そういったものをよく加味しながら、ここを確認してにぎわいが創出できる場所になればこれ一番幸いなわけですけれども、どういったものがいいのか。そしてまた、町外の方々、ましてやその近くにいる町民の方々がいいものができましたねと、ここを核にして町の活性化にもつなげたいというようなものができれば幸いだなというふうに思っていますので、議員の皆様方からもいろんな提言をいただきながら、いい公民館跡地の利用につなげてまいりたいと考えております。

○議長（横山知世志君）　根本君。

○12番（根本謙一君）　それで大事なのは、ややもするとあっちから言われた、こっちから言われた、いろんな意見や要望が、アイデアが上がると思いますけれども、大きなテーブルの中でそれはやっていただきたい。例えば検討委員会つくったとしても、そこの中で出ていなかったアイデアが、あるいはやることになったといったときに、聞いていないのに何であれが出てきたのという、そういう疑問を抱かせるような進め方はぜひ避けていただきたい。やっぱり大きなテーブルでやっていただきたい。みんなで議論すると納得いきますから、自分のアイデアが生きなくても。これは大事だと思います。そうすると、みんなで関わったとなると大事にしますから、これが地域づくりの根幹だと思います。公園づくりにしたってそうですよね。やっぱり関わることによって、俺たちが維持していくというところまで行く一つのスタートだと思うのです。ここ間違うと、町で勝手につくってしまった、これだ

けは絶対避けていただきたい。これは失敗した事例は枚挙にいとまはありません。ぜひその点お願いしたいなと思いますけれども、最後にそこ確認だけ。

○議長（横山知世志君）　町長。

○町長（杉山純一君）　お答えをさせていただきます。

今ほど貴重な、いいご意見をいただきました。議員の意見が反映されるような取組の中で決定をしてまいりたいと思っております。

○議長（横山知世志君）　これで根本謙一君の質問は終わりました。

ここで11時10分まで休憩いたします。

休　憩　　（午前１０時５４分）

再　開　　（午前１１時１０分）

○議長（横山知世志君）　再開します。

次に、通告第７号、７番、村松尚君。

〔７番（村松　尚君）登壇〕

○７番（村松　尚君）　では、通告に従いまして、２問質問させていただきます。

まず、１問目ですが、園児の入園状況についてであります。現在会津美里町は、「まるごといいね！会津美里」を町の将来像に掲げ、第３次総合計画基本構想に基づき、様々な分野で町の将来に向けて政策を行っています。子供たちがふるさとに誇りを持てること、また先人の方々が今まで守り続けてきたその思いに誇りを持てるような会津美里町を子や孫につないでいかなくてはなりません。今年度に入り、複数の保護者の方々より子育て環境に対しての質問や悩みを複数伺うことがありました。その内容は、子育てのために実家に戻ったが、こども園の空きがなく困っているとの話でした。特に多かったのは、ゼロ歳児を持つ保護者の方々の意見でありました。子供が生まれ、実家に戻ることで人口も増えるはずですが、町外のこども園に入園するなら最初から戻らなくてもよかったなどという声も伺いました。町内施設での子育てを希望する保護者は多くおり、早急な対応が求められます。

そこで伺います。１点目、現在のこども園の入園状況。

２点目、現在町外のこども園に仲介をした人数。

３点目、今後の入園者数の考え方。

４点目、産休明けの保護者に対する職場復帰に向けた意向アンケートが必要と考えるが、町の考え方を伺います。

２問目、会津美里町郷土資料館（仮称）についてであります。現在令和５年度開館に向けた工事が進められている郷土資料館ですが、町内の様々な文化財をはじめ民俗資料など、会津美里町に関する多くの歴史文化に触れられ、町の歴史を学習する上で非常に有意義な施設になることを期待しておりますが、一方少子高齢化や人口減少が進む中で懸念材料もあります。施設を後世に伝え、また残すた

めにも以下のことについて伺います。

１点目、資料館での学習機会は小中学校などでもあると考えるが、学習スペースなどは十分に確保されているのか。

２点目、少子高齢化での施設運営にはそれ相応の固定費がかかると考えるが、運営に対する考え方は。

３点目、リピーターを増やすための方策と施設を活用した経済効果の考え方は。

３問目になります。旧サンファームの現状についてであります。平成30年12月と令和元年９月会議での一般質問にてこの問題の質問をしてまいりましたが、時間はかかったものの、地権者の皆様方の努力で課題解決に前進しているとのお話を伺いました。現状を踏まえ伺います。

１点目、旧サンファームの施設の現状について伺います。

以上、よろしくお願いいたします。

○議長（横山知世志君）　答弁、町長、杉山純一君。

〔町長（杉山純一君）登壇〕

○町長（杉山純一君）　７番、村松議員の一般質問にお答えいたします。

なお、園児の入園状況及び会津美里町郷土資料館（仮称）につきましては教育長から答弁しますので、よろしくお願いいたします。

初めに、旧サンファームの現状についてでありますが、新鶴地域で操業しておりました旧小沢工場は、合併前の旧新鶴村が雇用の場を確保するため誘致した企業であります。その後、旧米沢工場においても操業を開始し、キノコの生産を行っておりましたが、事業者の破産による操業停止後、破産手続が終結するまでの間、長らく放置されていたため、建物の一部が損壊し、生活環境の悪影響と景観を著しく損ねる状態となっておりました。しかしながら、平成30年11月に破産手続が終結し、令和２年３月に国税局の差押えも解除されたことから、両工場跡地とも土地所有者が建物の所有権を取得するための法的手続が本年７月完了したことを確認しております。現状につきましては、旧小沢工場跡地については町内の事業者に土地と建物を売却する契約の締結により、今年の８月に所有権移転登記が完了しております。旧米沢工場跡地については、会津若松市の事業者と土地と建物を譲渡または賃貸借する方向で話が進んでいると聞いております。それぞれの工場跡地は、新たに土地を活用する事業者が町の空き工場処分等支援事業補助金を利用して損壊した建物の除却等を行うことにより、空き工場による生活環境への悪影響などの地域課題が解決される見込みとなっております。

私からは以上でございます。

○議長（横山知世志君）　答弁、教育長、歌川哲由君。

〔教育長（歌川哲由君）登壇〕

○教育長（歌川哲由君）　７番、村松議員の一般質問にお答えいたします。

初めに、園児の入園状況についてでありますが、１点目の現在のこども園の入園状況につきまして

は、令和４年８月31日現在、公立、私立の認定こども園のゼロ歳児の入園状況は、本郷こども園が24名の利用定員に対して入園児童が11名、９月以降の途中入園希望児童が14名で、１名待機児童となる見込みであります。なお、利用定員は省令による児童福祉施設の設備及び運営に関する基準に基づき24名と定めているところであります。新鶴こども園は、16名の利用定員に対し入園児童が５名、９月以降の途中入園希望児童が４名で、現在のところ待機児童となる見込みはありませんが、省令による基準に基づき現在３人の保育士がゼロ歳児の保育を行っているため、ゼロ歳児の途中入園希望があった場合は新たに保育士の確保が必要になる状況であります。こども園ひかりは、12名の利用定員に対して入園児童が９名、９月以降の途中入園希望児童が８名で、現在３人の保育士がゼロ歳児の保育を行っており、利用定員までの受入れをするため１人の保育士募集を行っておりますが、保育士の確保に至っていないことから８名が待機児童となっております。こども園きぼうは、６名の利用定員に対して入園児童が６名となっており、９月以降の途中入園希望児童５名が待機児童となる状況であります。

２点目の町外のこども園に仲介をした人数につきましては、令和３年度のゼロ歳児の広域入所はおりませんでしたが、令和４年度はゼロ歳児２名が広域入所しており、そのうち待機児童に起因する広域入所人数は１名であります。

３点目の入園者数の考え方につきましては、省令による床面積や職員配置基準に基づき、年度当初の入園予定者に対して必要十分な職員を配置しながら入園者数を決定する考えであります。

４点目の職場復帰に向けたアンケートにつきましては、省令による基準に基づいて年度当初に受入れ児童数を決定しているため実施しておりませんが、職場復帰の意向を把握する必要性を含めて、アンケートなど意向調査の方法について研究してまいります。

次の会津美里町郷土資料館（仮称）についてでありますが、１点目の学習スペースの十分な確保につきましては、常設展示室や企画展示室に加え、新鶴庁舎の会議室や隣接する生涯学習センターの大集会室等を活用することで必要な学習スペースを確保しております。

２点目の施設の運営に対する考え方につきましては、現在事務を担当している職員及び会計年度任用職員により運営してまいりますが、現在の新鶴庁舎の固定費と比較しますと、今後固定費の増額が見込まれます。なお、郷土資料館整備検討委員会において、設置条例の制定に併せ入館料の設定を協議しており、一定程度の受益者負担をお願いすることを検討しております。

３点目のリピーターを増やすための方策につきましては、定期的に企画展を開催することや、常設展や体験コーナーでは逐次収蔵資料の入替えを行うなど、変化に富んだ展示を目指してまいります。また、施設を利用した経済効果の考え方につきましては、郷土資料館の一角に町内の史跡や文化財などの町歩きコースのマップなどを掲示し、来館者が見学後に町内を散策したくなるような動機づけの手法も検討してまいります。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　村松君。

○７番（村松　尚君）　一定程度の答弁ありがとうございました。

それでは、再質問させていただきますが、こども園の待機児童の現状、本郷こども園に関しては１名待機と、新鶴こども園に対しては３名しかいないということで、結局ゼロ歳児に対しては保育士１人に対して３名という基準がある中で必要数賄っているのかなと。ただ、認定こども園さん、きぼうさんとひかりさんですけれども、こちらは結構割と待機児童がいるような、５名であったり８名ですか、ひかりさんが８名できぼうさんは５名というところなのですけれども、認定こども園ですから、民間で運営しているので、待機児童の考え方としては、町のほうでは何か話していることは、民間の施設である以上は待機児童に対するアクションみたいなものというのは、相談とかは町のほうにはないのですか。

○議長（横山知世志君）　こども教育課長、渡部雄二君。

○こども教育課長（渡部雄二君）　民間の認定こども園のほうとの協議といいますか、そういったことにつきましては、年２回子ども・子育て会議というものがございまして、そちらのほうでいろいろ協議をしているところでございます。

○議長（横山知世志君）　村松君。

○７番（村松　尚君）　そうしますと、実際のところ、新鶴こども園なんかの考え方でいきますと、延べ床面積等々からいって16名の利用定員はあると、キャパ数自体は。ただ、募集をしても実際のところ全部で９名しかいないので、９名でやるけれども、実際のところ16までは増やそうと思えば増やせると、保育士がいれば増やせますよという、基本的に考え方でよろしいのですか。

○議長（横山知世志君）　こども教育課長。

○こども教育課長（渡部雄二君）　今議員がおただしのとおり、面積要件としてはまだ余裕がありますので、保育士の人数がそろえば受入れが可能という状況でございます。

○議長（横山知世志君）　村松君。

○７番（村松　尚君）　実際のところ、子供が生まれるタイミングであったり、その入所のタイミングというのが様々あって、そのタイミングがうまくいかないと入所にうまく結びついていかないような現状も多分あるとは思うのですけれども、やはり仕事の内容も今は多様化してきていますし、職場復帰のタイミングというのもなかなかやはり保護者の方々、特に奥様が中心になると思うのですけれども、復帰するそのタイミングというものをやはり見ていかないと、今回ご相談いただいた方もそうだったのですけれども、職場復帰はもう来月に行きたいのだと、来月までしかないのだけれども、入所は結局９月というような、今回お話しいただくと、９月以降の途中入園というような形にはなってしまうのですけれども、なかなかうまくマッチングできない。その中で待機になってしまう。一番のやはり難しいところは、大概妊娠をされると実家に戻ろうとか、そういうパターンがやっぱり非常に多い。多いと言うとおかしいかもしれないですけれども、お話を伺う機会が多かったのです。そうしますと、入所ができないとなってしまうと、それだったらばもともと若松から戻ってくるのであれば、

若松にいたほうがよかったのではないかというようなお話なんかが非常にやっぱり強く出たのが今回の質問のところなのですけれども、実際待機児童が複数者いる中で、町のほうで今現状把握している上で、待機児童数をある程度今数字を拾った上で、町のほうでは何か対策みたいな、言い方悪いですけれども、先ほど言ったように新鶴保育所であればまだ空きスペース、余力はあるわけですから、そういったところに保育士を募集をかけて、募集がかかり次第途中からでも受入れをするとかという、そういったような考え方みたいなのはどうなのですか。

○議長（横山知世志君）　こども教育課長。

○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまのご質問でございますが、やはり保育士の確保につきましてはいろいろ、私立の認定こども園さんも同じですけれども、やはり募集をかけてもなかなか集まらないというのが現状でございます。ただ、議員おただしのように少しでもそういった待機児童が少なくなるように、早め早めの対応をしていきたいと考えております。

○議長（横山知世志君）　村松君。

○７番（村松　尚君）　待機児童が出るということは、職場復帰医等々も含め、なかなかやはり親御さんが行動が取れないということにもなるので、そういったところを少しでも弾力的にサポートできるような、そういったような枠組みみたいなものも少しご検討いただきたいなと思います。

１点目に関してはそちらでいいですけれども、それでは２点目のほう入ります。２点目の仲介した人数です。この広域入所の考え方ですけれども、先ほどとちょっと若干お話重なってしまうかもしれないのですけれども、今把握されている待機人数の中で、この広域入所に対しての町に対しての問合せみたいなのというのはいかがだったのですか。

○議長（横山知世志君）　こども教育課長。

○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまのご質問は、待機している状況なので、町外のこども園とかに入れる状況かという問合せがあったかということですよね。

〔「そうです」と言う人あり〕

○こども教育課長（渡部雄二君）　今年度問合せがあった件につきましては、令和４年度につきましては３件ございました。

○議長（横山知世志君）　村松君。

○７番（村松　尚君）　そうしますと、これ数字の考え方なのかもしれないですけれども、３件ということはそれ以外の保護者の方々は、職場に是が非でも戻らなければならないという状況下ではないから待機で多分見れるというふうに、こちらとしてもお話を伺う限りでは判断せざるを得ないのですけれども、町で育てたいという保護者がそれだけやはりいらっしゃるのかなという、それがこの待機児童数に、そうでなければ広域入所のほうに回っていただくということは全然やぶさかではないと思うのですけれども、その中で待機してでもやはり地元に出したいという保護者の意見を考えた上で、３点目の部分なのですけれども、今後の入園者数の考え方というところで、確かに延べ床面積もあり

ます。当然保育士の確保の問題もあります。そういった中で、これは不安定要素ですよ、何人募集が来るかというのはこれ読めない話ですけれども、ただ今の現状を、これだけの待機者がいる中でやはりそれ相応の考え方というのは持っておかなければならないのではないかなと思うのですけれども、その辺お考えを伺いたいです。

○議長（横山知世志君）　こども教育課長。

○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまのご質問でございますが、我々のほうではできるだけ情報を早めにということもございまして、例年10月には次年度の募集をかけておりますので、半年以上前にそういった対応をさせていただいておりますので、今後もそういった対応を続けてできるだけ待機児童の解消、事前に情報、ニーズといったものをつかんで対応してまいりたいと考えております。

○議長（横山知世志君）　村松君。

○７番（村松　尚君）　ということで、美里町に戻れば、実家に戻ろうとやっぱり思ってもらえる一つの、子供というのは多分そういう要因にはなると思うので、ぜひとも受入先の確保というのは、なかなかやはり難しいかもしれませんが、ぜひご協力のほうお願いしたいと思います。

あと、最後の４点目なのですけれども、産休明けのアンケート、これは職場復帰の意向なり、そういうものをやはり行政として早めにつかむことによって、今の例えば出産から職場復帰までの、大体皆さんどのくらいの感覚なのだろうとか、そういったところも含めて判断の一つの基準になるのかなと思うのですけれども、なかなかこのアンケート、ではどのタイミングでという話にもなるのですけれども、例えば母子手帳を頂きに来たときにアンケート用紙を渡して、出生届を出したときに例えば回収させていただくなり、そういった手法の中でできるだけこのアンケート、簡易的にチェックでつけられるような、そういったものをぜひ行っていただきたいと思うのですけれども、もう一度その辺お考えをよろしくお願いします。

○議長（横山知世志君）　こども教育課長。

○こども教育課長（渡部雄二君）　アンケートの実施についてでございますが、ただいま議員ご指摘のとおり、母子手帳の発行のときに簡単な聞き取りをしたらどうかということも一つの案でございますし、あとはやはりほかの自治体におきましても同様のアンケートを実施している事例がありますので、そういったところを参考にしながら対応してまいりたいと考えております。

○議長（横山知世志君）　村松君。

○７番（村松　尚君）　そういったことで待機児童が少しでも解消できるような、ぜひとも取組のほうお願いいたします。

それでは、２問目のほう入らせていただきます。郷土資料館の件であります。郷土資料館、建物を建てたら終わりということではなく当然様々な地元の歴史や文化、文化財も含めてですけれども、様々なものに触れられる非常にいい建物を今造っているなと感じているのですけれども、一番の課題というのは町内の歴史というのをやはり子供たちに伝えていかなければならない。そういった中で、歴

史文化基本構想の中にも記載がありますけれども、地域の子供たちに知る機会をやはりつくっていただいて、郷土の愛着を育みと、こう記載もありますけれども、小中学校も含めどのくらい年間の中で活用していく考えなのか、もし明確な数字、まだ出来上がっていませんけれども、実際どのくらい、年に１回とか年に２回程度は活用したいなとか、その辺の何かお考えがあれば教えていただきたいです。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。

根幹は、各学校が編成します教育課程、いわゆるカリキュラムによりますので、関連のある学習内容のある学年とそうでない部分ありますから、社会科であったり、生活科であったり、あるいは総合的な学習の時間であったり、関連する学年が関連する単元で適切に見学できる、勉強できるような教育課程を編成するよう学校にも紹介、案内してまいりたいというふうに考えています。また、当然ながら町内だけでなくて、学習のいわゆるこんなふうな勉強ができますよというふうな案内も含めて、できるだけ広域に対してご案内しながら、広域的利用をしていただけるような環境をつくってまいりたいというふうに考えています。

○議長（横山知世志君）　村松君。

○７番（村松　尚君）　この建物を、まず注目を浴びるためには当然情報の発信というものも必要だと思うのですけれども、その情報発信の方法としてはどういったものを今お考えでありますか。

○議長（横山知世志君）　生涯学習課長、福田富美代君。

○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどの議員のご質問でありますけれども、町内にはもちろん今ほど教育長答弁しましたように各小中学校にはそれぞれチラシ等の配布とか、いろんな企画展示についてはそれぞれご案内をしたいと思っております。また、町広報紙を活用することと、また通り一遍にはなってしまいますけれども、町のホームページに掲載等で実施したいと考えております。あと、そういった開館に向けて新聞報道にも取り上げていただきまして、そういった広く、広域的に周知が図られるように努めていきたいと考えております。

○議長（横山知世志君）　村松君。

○７番（村松　尚君）　この文化財の活用、この欄にも記載がありますけれども、この文化財を活用してやはり非常に注目を浴びていただいて、様々な方々に活用していただく、利用していただいて、やはり美里町の歴史、そういった文化財、そういったものもやはり感じていただいて、町民も含めですけれども、町民は当然それを触れることによって、郷土愛であったり、その認識をさらに深くしていくという、当然そういう施設だと思いますので、ぜひともどんどん情報発信のほうを行っていただきたいと思うのですけれども、これ実は建物は出来上がったのですけれども、その活用の考えの中で、活用方法様々あります。ちょっと前に、これは先の話なのかもしれませんけれども、当然町民が歴史に対して非常に造詣を深くしていく中で先に歴史的風致維持向上計画と、俗に言う歴まち法というや

つですね、というものが数年前観光協会さんであったり、様々なところでちょっと多分お話出していたかと思うのですけれども、課長お覚えありますか。
○議長（横山知世志君）　生涯学習課長。
○生涯学習課長（福田富美代君）　正しい名称は、ちょっと手元に資料なかったので、お答えはできなかったのですけれども、歴史文化基本構想を策定するに当たりまして、それの前段の中でそういった話で皆様のほうにご説明した経過は存じ上げております。
○議長（横山知世志君）　村松君。
○７番（村松　尚君）　最終的に目指す部分がここに行くというような、多分当時説明だったような覚えがあるのですけれども、実際福島県内、確かにこの計画が通りますと周辺の環境、歴史自体を一体的に整備ができる。当然それまでには大きなハードルってたくさんあるのですけれども、やはり最後はここを目指していくという、建物も活用した上で、当然活用していく上の中で、最終的にはそこまで持っていきたいという考え方とかという、その上のほうというのは目指していらっしゃるのか、その辺伺います。
○議長（横山知世志君）　生涯学習課長。
○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどの議員のご質問なのですけれども、そちらの歴史的風致、申し訳ありません。ちょっと名前のほうがあれだったのですけれども、そちらの計画策定に当たってはやはり教育部局ではできないこともありましたので、町全体として取り組むということがやっぱり最低条件、必要になってきております。一応歴史文化基本構想を策定するに当たってやはり関係各課との協議とか、また勉強会、研修会等実施してまいりましたけれども、ちょっとそこまでの総意にまだ至っていない経過はあるので、教育委員会としましては歴史文化基本構想を策定しまして、また今教育部局でも重点プロジェクトを進めようとしておりますので、まずは町の歴史に触れていただいて子供たちの郷土愛を醸成するというところで、今回建設、７月末には建物は完成しましたけれども、今回新鶴資料館の資料の移転についても７月末に終わりました。今現在考古資料、あとは旧赤沢幼稚園にあります考古資料ということを今整理しながら移転を進めているところであります。これまで旧新鶴民俗資料館においては、やはり農具が主となりましたので、そこで触れる体験ということを目の当たりにして、町内外、多くの子供たちにも見ていただきました。今回この郷土資料館ができたことによりまして、分散している資料を１か所に今集約してこれから開館しようとしておりますけれども、なかなか目に触れることができなかった考古資料、油田遺跡で発掘された縄文土器であったりとか、県立博物館のほうにも展示でこちらのほうから貸出ししたりとかいう貴重な資料というところも本当の町のほうのこの資料館で見ることができる、また触れる機会がここにできるというところもありますので、そういったことも、いろんな子供たちのまず郷土愛を育んでいただいて、それが将来的に自分もそういった関わる仕事に就いていただくとか、町に帰ってきていただいて、そういう形でボランティアとして活動を共にするとかというところにつなげていけたらいいかなと考えているところでご

ざいます。
○議長（横山知世志君）　村松君。
○７番（村松　尚君）　まだ開館前ですので、開館前の段階から目指すところの部分をなかなか話ししても難しいかなとは思うのですけれども、実際こちらの基本構想の中にも最終的に目指す部分という部分でやはりそちらのほうが記載もありますので、最終的にはそちらを目指していくものなのだろうというふうにして考えています。ぜひとも頑張っていただきたいのですけれども、あと先ほど教育長から答弁いただいた中で、運営に関しては新鶴庁舎の固定費と比較すると増額が見込まれるというお話がありました。この増額、当然今まで電気とか使っていたのですけれども、増額になりそうだという大きな要因というのは何なのですか。
○議長（横山知世志君）　生涯学習課長。
○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどの質問にお答えいたしたいと思います。
　もちろん令和５年に本庁舎ができまして、新鶴庁舎におりました教育委員会だったりというところで全部職員がこちらに移動していますので、今固定費というのは、やはり空き事務室というところがありましたので、固定費については少ないところでありますけれども、郷土資料館については資料を収蔵するスペースということは、24時間換気ということで適正保存に努めるというところもありましたので、一定程度を保つ空調ということを24時間稼働するということがあります。そういったこともありますので、電気料等そちらについての固定費についてはやはり増額ということが見込まれております。
○議長（横山知世志君）　村松君。
○７番（村松　尚君）　空調が悪いと、いい文化財も早く傷んでしまっても困るので、当然そういったところの空調関係で電気代、電気料のコストがかかるのは致し方ないかなと思うのですけれども、受益者負担を一定程度お願いすることを検討しているというお話でしたが、これどの程度のお願いを検討されているのか、その辺お教えください。
○議長（横山知世志君）　生涯学習課長。
○生涯学習課長（福田富美代君）　入館料としましては、先ほど小中学校での授業による活動というのにおきましてはやはり町内外問わず、そちらについては減免の対象としたいとは考えております。やはり金額が大きいというところもちょっとなかなか難しいところはあるので、数百円程度ということをちょっと想定はしているところではありますけれども、もちろん子供たち、学生というところの部分と大人の方と、あと町内、町外というようなちょっと区分をつけながら、今後検討してまいりたいと考えております。
○議長（横山知世志君）　村松君。
○７番（村松　尚君）　今後検討していきたいということは、取りあえず基本的には受益者負担、入館料を取る考えは開館の段階ではないというご認識でよろしいのですか。それまでにもう考えるとい

う考え方なのか、どちらなのか。
○議長（横山知世志君）　生涯学習課長。
○生涯学習課長（福田富美代君）　入館料を取る際については、もちろん条例のほうに載せていくものと考えております。ですので、今整備検討委員会のほうでも検討していると申し上げましたけれども、開館は来年の10月ではありますが、やはり開館準備というところも当然必要と考えておりますので、年内中に条例のほうを上程したいと考えておりますので、そういったまた前段の案の段階で議員の皆様におかれましても示させていただきまして、ご協議いただければと考えております。
○議長（横山知世志君）　村松君。
○７番（村松　尚君）　お金を支払ってでも入りたいと思うような、そういったものをやはり展示していかないとなかなか足が向かないのではないかなと思いますので、やはりそこら辺非常に難しい判断だとは思うのですけれども、ぜひともいろんな方々が気軽に町の施設を活用できるような、利用できるような、そういったところをちょっとぜひ目指していただきたいなと思います。
　それでは、３点目なのですけれども、３点目の中で定期的に企画展を開催すると、いろいろありますけれども、大体企画展というのは企画するものによって非常に興味をそそるものと、なかなか足が向かないものというのも出てくるのですけれども、教育長の答弁の中にも体験コーナーというのは記載があったのですけれども、この体験というのは何を体験する、新鶴の民俗資料館にあったようなものを体験するという考え方でよろしいのか、その辺ちょっとお願いします。
○議長（横山知世志君）　生涯学習課長。
○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほど議員のおっしゃられるように旧新鶴民俗資料館のほうで行っていました、実際物に触れて動かしてみるとか、また大きいもの、小さいものございますけれども、そういったことで体験ができるような形で考えております。また、ちょっと大型のものに関しましては、場所ということもやっぱり限られてくるので、野外等もちょっと場所として想定しまして、そういった形でいろんな体験ができるような形で工夫してまいりたいと考えております。
○議長（横山知世志君）　村松君。
○７番（村松　尚君）　今まであったものが集約されていきますので、当然体験することもありますし、収蔵資料なんかも触れたり、学習したりすることも十分活用としてできると思うのですけれども、やはり常設であったり企画展というもの、ちなみに考えている常設、常に設置しておくものというのはどういったものを今想定している感じなのですか。
○議長（横山知世志君）　お諮りいたします。
　間もなく昼食の時刻となりますが、村松尚君の質問が終了するまで延刻したいと思いますが、ご異議ございませんか。
〔「異議なし」と言う人あり〕
○議長（横山知世志君）　それでは、村松尚君の質問が終了するまで延刻いたします。

生涯学習課長。

○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどのご質問でありますけれども、やはり収蔵してある資料の多くが農具でありますので、そういったものをベースに考えております。また、一部考古資料の展示ということにはなりますけれども、具体的には今町のほうで、こちらのほうで整備検討委員会で検討します展示方針、決めました展示方針に合わせて、今展示計画というもので業務委託をしております。そういったところでいろんな提案を受けまして、それを基にいろんな常設展示なり特別展示というものも決定していきたいと考えておりますので、まずはこの業務委託に関しましては10月末までの契約でございますが、随時検討委員会の中でもその内容についても一緒に検討しながらというところで計画のほう進めていきたいと考えております。

○議長（横山知世志君）　村松君。

○７番（村松　尚君）　ぜひともその整備検討委員会のほうでしっかりとある程度方向性をつくって、開館と同時に、開館のときだけお客さんが来るのではなく、利用者が来るのではなく、やっぱりコンスタントに毎日のように来ていただけるような、やはりそういったような魅力のある常設だったり、展示物というものをぜひともお願いしたいなと思います。

また、これ最後のほうになりますけれども、施設を活用した経済の考え方についてなのですけれども、当然街なかマップなどを置いていただいて、見学後に町内を散策したくなるような動機づけの手法も行っていくということなのですけれども、当然新鶴地区、季節に応じてはブドウ園もあったり、当然中田観音があったり、そういったものも非常に多くあります。やはり周辺だけではなく、当然町全体をマップで出すことも大事だと思うのですけれども、やはりなかなか民間で経営しているブドウ園とか、そういったものというのはなかなかマップにちょっと載りづらいのかなというような感じもするので、そういったものも複合的に、季節によってですけれども、当然常になっているわけではないので、そういったものも含めながら散策していただけるような手法、そういったものも一つの経済効果の考え方だと思うのですけれども、その辺なんかはお考えあったらお示しください。

○議長（横山知世志君）　生涯学習課長。

○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどの質問なのですけれども、町歩きにつながるアプローチ、郷土資料の展示だけではなくて、やはり一角においては町全体、もちろん新鶴スマートインターチェンジもございますので、北の玄関口としまして身近に町の資料館に来ていただいて、そこでもいろんな美里町の観光地等も分かるような形で町歩きにつながるようなアプローチの場所を設置したいと考えております。今ちょっと提案を受けているのがそれぞれの地域、興味のあるところのＱＲコードを読み取ればその場所とか状況が、写真が出てきたりとか、そういったことが分かるような形ということは想定しております。先ほど地元の方のブドウ園だったりとか、そういった個々の情報等についてはそこに反映することは難しいかもしれないのですけれども、新鶴地域にあるということでやっぱりブドウ園というのも魅力の一つであるかと思いますので、ちょっとパンフレット的なもので置いてお

くとか、そういった工夫を凝らしながら、いろんな形で文化財だけにとどまらずに町全体が潤うような形で考えていきたいと考えております。
○議長（横山知世志君）　村松君。
○７番（村松　尚君）　ぜひともよろしくお願いいたします。
　それでは、最後の３問目の旧サンファームの現状についてなのですけれども、ようやく先が見えてきたのかなと思います。これは、なかなか時間がかかりました。当然破産管財人もいらっしゃって、当然弁護士も立てなければならない。そういった中で一番は地権者の方々のご努力、これが一番やはり大きなものだったと思います。伺いたいのは、今回新鶴地区でこういう事例が出たのですけれども、美里町内、ほかにも似たような場所、似たような状態のものがあるのかどうか、その辺教えてください。
○議長（横山知世志君）　産業振興課長、小林隆浩君。
○産業振興課長（小林隆浩君）　似たような事例につきましては、特に新鶴、この地域の場合は旧新鶴村が雇用したということで、そういったケースでしたけれども、それ以外の場所につきましては、老朽化した建物というのは確かに複数件ありますが、そういったものは把握はしておりますが、サンファームのような事例かどうかというところまではちょっと確認はできていないという状況でございます。
○議長（横山知世志君）　村松君。
○７番（村松　尚君）　そうしますと、そこまでは把握できていないというのは、今回みたく土地は地権者のものですけれども、上物が破産管財人のものになっているような、こういったようなケースというのがなかなか把握できていないという捉え方でいいのですか。
○議長（横山知世志君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　空き工場とか確かにありますけれども、そこを本当に調べるには登記簿を取って、いろんなことをやってということになりますので、そういったところまでは実際行ってはいないということでございます。
○議長（横山知世志君）　村松君。
○７番（村松　尚君）　今回この補助金を活用して結局地権者の方々は売買を含めた上で、賃借も含めてかもしれないのですけれども、進むことができた。そうしますと、所管として結局把握ができないと、この補助金の意義というのが今後問われてくるようなところにもなるとは思うのですけれども、その辺今後どういうふうに考えていらっしゃるのか。
○議長（横山知世志君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　補助金につきましては、空き工場等を利用して、土地、建物を取得して改修とか解体する工事ということが対象になりますので、そういった場合事前にご相談とかいただくと、内容を確認して予算等を用意したいと、そんなことで進めたいと思っております。

○議長（横山知世志君）　村松君。

○７番（村松　尚君）　最後になりますけれども、今回いい形で２つのものが同じように前に進みました。ぜひともこういう補助制度があるのだよと、こういうものを活用していただければ前に進むことができるのだよということもやはりＰＲしていかなければならないと思うのですけれども、今後この補助金に対してのＰＲ、今回がいい事例だったとして、成功事例として、これをきっかけにやはりＰＲすることも大切だと思うのですけれども、その辺のお考え最後にお聞かせください。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　やっぱり空き工場等の新たな利用とか、そういうことというのは非常にいいことだと思いますので、こういった事業、周知などを行っていきたいと思います。

○議長（横山知世志君）　これで村松尚君の質問は終わりました。

ここで午後１時まで休憩いたします。

休　憩　　（午後　零時０１分）

再　開　　（午後　１時００分）

○議長（横山知世志君）　再開いたします。

次に、通告第８号、９番、渋井清隆君。

〔９番（渋井清隆君）登壇〕

○９番（渋井清隆君）　最後になりますが、私しんがりですので、もうしばらくの間よろしくお願いします。通告に従い一般質問させていただきます。質問事項３問でございます。

１番目、寄贈街路灯の設置予定箇所について。令和４年６月17日、東北電力ネットワーク株式会社から街路灯15灯が寄贈されましたと広報「あいづみさと」８月号に掲載されています。そこで伺います。

１、町が管理している街路灯の数。

２、寄贈された街路灯はどこの地域に設置する予定なのか。

２問目、町道の維持管理等について。町道の管理者は町長と考えます。その町道に破損した縁石、または路肩に雑草が生い茂り、危険な箇所が見受けられます。どのような維持管理をしているのか伺います。

３問目、法の解釈と判断について。地方自治法第149条に財産を取得し、管理し、及び処分すること。公の施設を設置し、管理し、及び廃止することなど明示されています。すなわち、この条文は普通地方公共団体の長の専属的権限であると考えます。当局の解釈と判断について見解を伺います。

以上、よろしくお願いします。

○議長（横山知世志君）　答弁、町長、杉山純一君。

〔町長（杉山純一君）登壇〕

○町長（杉山純一君）　９番、渋井議員の一般質問にお答えいたします。

初めに、寄贈街路灯の設置予定箇所についてでありますが、１点目の町管理の街路灯の数につきましては1,181灯を管理しており、現在全ての街路灯のＬＥＤ化を進め、547灯が完了しているところであります。

２点目の寄贈街路灯の設置予定箇所につきましては、今年度修繕計画において90か所の設置を予定しており、その一部に今回寄贈していただいた灯具を活用したいと考えております。

次の町道の維持管理等についてでありますが、町道の破損等の状況につきましては町の道路パトロール、自治区長及び町民からの通報、郵便局との協定による郵便配達員からの情報提供により把握しているところであり、その後速やかに現地確認を行い、対応しているところであります。また、町道に付随する構造物の破損の修繕につきましても、現地調査により緊急度合いを判断し、速やかな修繕に心がけております。また、草木等の除草は交通障害とならないよう実施し、定期的なものについては愛護団体やシルバー人材センターに委託し除草を行っており、毎年県と協議の上、予算確保に努めているところであります。なお、緊急的なものについては、職員が速やかに作業を行い安全確保を図っております。

次の法の解釈と判断についてでありますが、財産を取得し、管理し、及び所有することにつきましては地方自治法第149条第６号に、公の施設を設置し、管理し、及び廃止することにつきましては同法第７号に普通地方公共団体の長の担任事務の一つとして規定されておりますので、それぞれ普通地方公共団体の長の権限であると解釈しております。

私からは以上でございます。

○議長（横山知世志君）　渋井君。

○９番（渋井清隆君）　それでは、１問目から順に再質問させていただきます。

寄贈ということでございますので、どこの課に管理、保管しているのかお伺いします。

○議長（横山知世志君）　建設水道課長、鈴木明利君。

○建設水道課長（鈴木明利君）　ただいまの質問にお答えしたいと思いますが、寄贈された灯具でございますが、建設水道課のほうで管理してございます。

○議長（横山知世志君）　渋井君。

○９番（渋井清隆君）　そうすると、これは目録でなく現物でもって保管しているということですね。よろしいですか。

○議長（横山知世志君）　建設水道課長。

○建設水道課長（鈴木明利君）　現物でもって頂いたものを保管しておると。

○議長（横山知世志君）　渋井君。

○９番（渋井清隆君）　場所はどこでしょうか。

○議長（横山知世志君）　建設水道課長。

○建設水道課長（鈴木明利君）　場所は、事務室の中に一時はあったのですけれども、それほど大きいものではないので、今はちょっとどこにあるかというところまでは把握しておりません。
○議長（横山知世志君）　渋井君。
○９番（渋井清隆君）　私、街路灯というから、電柱というのですか、あれの長さ、かなり大きなものだと思っていたのです。今聞くと、灯具のみなのですよね、これ。だから、15灯だけだから、どこに管理しているか分からないというのはちょっとおかしいと思うのです。
○議長（横山知世志君）　建設水道課長。
○建設水道課長（鈴木明利君）　ただいま情報が入りまして、車庫に管理しておるということでございます。
○議長（横山知世志君）　渋井君。
○９番（渋井清隆君）　車庫というと、庁舎のそこの車庫ですか。車庫もいろいろあると思うのですが。
○議長（横山知世志君）　建設水道課長。
○建設水道課長（鈴木明利君）　庁舎西側の車庫でございます。
○議長（横山知世志君）　渋井君。
○９番（渋井清隆君）　分かりました。
　それで、設置の方法なのですが、これは町が直接保守点検というか、そういうのをやって、調査をやって直接町が設置するものなのか、または地域の要望によって、現物支給でもって設置するのか伺います。
○議長（横山知世志君）　建設水道課長。
○建設水道課長（鈴木明利君）　設置の方法でございますけれども、町で設置をするという灯具につきましては、主要な道路及び交差点には道路照明灯、あとは街路灯については国道、県道及び町道というところで管理をしているところでございまして、建設水道課のほうで今設置をしているものについては道路のほうでございますので、そちらについては町のほうで設置を行っていると。ちなみに、地区内の防犯灯については地区で管理、地区で設置ということになっているということでございます。
○議長（横山知世志君）　渋井君。
○９番（渋井清隆君）　私、街路灯を聞いているので、防犯灯は聞いていません。街路灯と防犯灯は全然意味が違いますよね。集落から集落がつながっているのが街路灯であって、中に入れば防犯灯ですよね。私聞いているのは街路灯のほうです。ちょっとそこら辺間違えないでください。
　それと、全部町のほうでもって切り替えるということでございますよね。そうだとすれば、せっかく寄贈されたものですよね。それで、点検といいますか調査、15灯、90か所を予定しているとありますけれども、どちらの地域という順位というか、計画等はありますか、設置の。
○議長（横山知世志君）　建設水道課長。

○建設水道課長（鈴木明利君）　どちらの地区ということではなく、今年度の予算に見合った箇所数ということで90か所ということで今年度予定しておりまして、一応優先的な設置箇所ということは、毎年状況を見ながら設置箇所については検討しているというところでございます。
○議長（横山知世志君）　渋井君。
○９番（渋井清隆君）　そうすると、優先順位を点検、調査をして、順位をしながらそれぞれ設置していくということですね。
　あと、地区については特に決めてはいないと。ただ、設置予定箇所なのですけれども、実際これ調査はしたのでしょうか。
○議長（横山知世志君）　建設水道課長。
○建設水道課長（鈴木明利君）　設置箇所については、担当者が地区を回りまして調査しているところでございます。
○議長（横山知世志君）　渋井君。
○９番（渋井清隆君）　調査しているところということだとすれば、まだやっていないところもあり得るという考えでよろしいですか。
○議長（横山知世志君）　建設水道課長。
○建設水道課長（鈴木明利君）　まだやっていないところもあると思います。
○議長（横山知世志君）　渋井君。
○９番（渋井清隆君）　せっかく寄贈されたのですから、やはり設置箇所については一日も早く調査、点検して、町民の足元なる道路の安全確保に努めていただきたいと思いますが、所管の考えをお伺いしたい。
○議長（横山知世志君）　建設水道課長。
○建設水道課長（鈴木明利君）　今議員がおっしゃいましたとおり、一日も早く調査、点検をしまして、道路の安全確保に努めたいと思います。よろしくお願いします。
○議長（横山知世志君）　渋井君。
○９番（渋井清隆君）　では、よろしくお願いいたします。
　それでは、２問目に入らせていただきます。町道の維持管理についてでございます。私いろんなところをちょっと歩いていたところ、永井野地区の方にですが、永井野地区においてグレーチングがずれるというか、これは原因はボルト締めでないのと、グレーチングの長さとU字溝の長さが若干違っているわけです。つまり完璧にはまっていないと、緩みがあるということです。それで、そのずれの目地のところにちょうどよく自転車がはまって、タイヤがはまりまして転倒したという事故があったのです。幸いにしても大きなけがはなかったので、区長さんに連絡して応急処置により対応していただきましたが、まだ現在見てみますと完璧な施工ではない。確かに行ってみました。グレーチングとグレーチングを結束してあるのです。それは、番線か何かで結んであるような形、テープだか何だか

分かりませんが、ピンク色のやつで結んであって、両端のところの側溝には木をあてがって溝にはめてずれないようにはしてあるのですが、やはり車が通ったりなんだりするとばたばた、ばたばたなって緩みが生じる。結束しているものも傷になって当然切れるというようなことでございます。そういうことで、やっぱり完璧な施工をやった上で、区長さんあたりにもう一度再確認していただきたいなというようなことでございますが、いかがでしょうか。

○議長（横山知世志君）　建設水道課長。

○建設水道課長（鈴木明利君）　ただいまの事案につきましては、区長のほうから８月の中旬に連絡をいただきまして、現場のほうに出向きまして、区長さん立会いの下にいろいろと状況等を教えていただいたというところでございます。その後、渋井議員がおっしゃいますとおり、隙間の修理といいますか、結束線といいますか、それで修理をしまして、その間については一応隙間が空かないようにというところで修理をしたというような報告を受けておりまして、実際に、申し訳ないのですが、私そこを確認しておりませんが、写真では確認しておりますが、実際現場には申し訳ないのですが、私行っておりません。そこで、修理をしたというような捉え方を私はしてしまいましたので、今後につきましてはそのような件につきましては実際に修理後についても確認をしまして、町民の皆様の安全確保に努めてまいりたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（横山知世志君）　渋井君。

○９番（渋井清隆君）　今課長が申し上げているように固定していないために、これからはやっぱりグレーチングもボルト締めとか何かでやるようなものでやって、今現在ちょっと見ていないって言うけれども、端と端は角材で押さえているのですよ。角材だってやっぱりばたばたなれば飛び跳ねます。ましてやそれが二次の事故になる可能性もあるわけですよね。ですから、やっぱりこれから、今後やるようなグレーチングの敷設とか何かの場合は、やっぱりボルト締めのような固定式のやつを使って、より安全な道路をやっていただきたいなと思います。

　それと、藤川地区の道路に雑草が生い茂って、カーブを私も通ってみました。２車線にはなってはいないのですが、細い道路でなおかつ草が生い茂って、反対側、対岸ですね、対面交通になりますので、１車線で。そこに草が物すごく出ていて、もう事故に遭う一歩手前だったと。これは、私課長さんのほうに申し上げて、すぐに対応していただきました。町民の方も本当に喜んでいました。やはりせっかく道路パトロール車というのがありますよね。ただドライブ的に乗って歩くのでなく、やっぱり気をつけて見ていただきたいというのは思っております。こういうようないろんなところの危険箇所が相当ございます。道路の数も相当にありますので、道路等についてはよろしくそれもお願いしたいと。なおかつ町長は道路の管理者でありますよね。道路の管理者であるということは、毎回議案等々にも上がってきますけれども、損害賠償の責任を負うことになるわけですよね。それは損害賠償を受ける、また相手側に何かあったり、物を直さなくてはならない、物があれば。損害賠償。それと、またそのほかに物だってやらなくてはならない。どうせやるのだったらば、物だけは何でかんで直さ

なくてはならないのです。賠償のほうまでも二重加算になりますので、それを未然に防ぐことが大切だと思うのです。町道の維持管理をやるにはいろんな、これからも除雪的なこともありますから、一年中通してですよね、この道路というのは。生活道路ですから。そういうことについて、所管の考えを伺いたいと思います。

○議長（横山知世志君）　建設水道課長。

○建設水道課長（鈴木明利君）　ただいまのとおり町道、あとその他危険箇所につきましては、道路パトロール等により事前にそのような箇所について把握をしまして対応していくというところは当然のことではございますし、先ほど指摘いただきました藤川の危険カーブのところの雑草でございますが、そこにつきましては昨年もそのような場所であったということで把握をしておりました。そこを、そういう場所であったにもかかわらず、今年もちょっとまた同じようなことをしてしまったということでありますので、毎年そのような危険箇所については同じく発生するというようなことがないように、十分注意をしながら安全確保に努めてまいりたいというふうに思っております。よろしくお願いします。

○議長（横山知世志君）　渋井君。

○９番（渋井清隆君）　町道の維持管理については、やっぱり町民の足であることですので、十二分に維持管理について徹底して行っていただきたいと思います。

それでは、３問目に入りたいと思います。法の解釈と判断についてです。町長の権限については、地方自治法第147条から第159条に掲載されております。自治六法にも明記されているとおりです。そこで、町長の権限に属する事務については、各委員会に委任することができるということは言うまでもないと思います。しかし、その事務の執行に当たり、町部局と委員会の事務処理について整合性がなかったことが度々見受けられました。特に今般の教育委員会へ委任された建設工事の工種の内容に一貫性がなかったことがありましたね。いかがでしょうか。

○議長（横山知世志君）　総務課長、金子吉弘君。

○総務課長（金子吉弘君）　ただいまのおただしについてお答えいたします。

町におきましては、通常公共施設が用途廃止されれば当然担当部局といいますか、財産担当課である総務課のほうに通常引継ぎをしなければならないというふうになってございます。ただ、町としましては教育委員会のほうに一応事務委任はしてございませんが、補助執行というふうな形で事務をつかさどっていただいておるところでございます。今般のいわゆる教育委員会各工事に関していろいろと工種の違いが生じてしまったことにつきましては、我々財産担当課といたしましてしっかりとその辺、いわゆる担当課任せになっておりまして、我々のほうでしっかりとそこに踏み込んだ指導ができなかったという点においては深く反省をしているというふうな認識でございます。

○議長（横山知世志君）　渋井君。

○９番（渋井清隆君）　普通財産と行政財産、これ所管替えではないのです。分類替えです。所管替

えではない、分類替え。どうですか。
○議長（横山知世志君）　総務課長。
○総務課長（金子吉弘君）　ただいまのおただしのとおり分類替えでございます。いわゆる廃止すれば当然長の権限に属するものですから、自動的に長のほうに引き継がれるというふうな解釈であるというふうに認識しております。
○議長（横山知世志君）　渋井君。
○９番（渋井清隆君）　今言ったように分類替えをして、その後で行政財産から普通財産に所管替えし、それでその権限を持ついろいろ課があると思うのですが、それが財政なり、今町のほうでは総務課長になっているのだか、政策財政課長になっているか分かりませんけれども、そこに移して初めて所管替えということになるわけです。その手続ですよね。
　それで、今聞いていると、権限の意味もいろいろありますけれども、だとしても法にもとるような行為はやはり許されないわけですよね、法というのがあるわけですから、建設業法という法律。法律は、ねじ曲げることはできませんよね。ただ、解釈と判断について誤ったということについては、やはり何らかの原因があるのかなと。それは、今回も全員協議会の中でもありましたけれども、やはり工種、建設業法ね。工種が29種目の中で２種目は総合でやって、あとは専門家になるわけですから、その捉え方がやはりいまいちだったと思うのです。それで、私は今もとるという意味を使いましたけれども、このもとるという意味分かりますか。
○議長（横山知世志君）　総務課長。
○総務課長（金子吉弘君）　ただいまのおただしでございますが、法に基づいた行為、執行をしていないというふうなことなのかなというふうに思っております。
○議長（横山知世志君）　渋井君。
○９番（渋井清隆君）　そういうような意味になるのですよね。これちょっともう少し詳しくお聞きしたいと思ったので、釈迦に説法かもしれませんが、教育長、どういう意味でしょうか。お尋ねします。
○議長（横山知世志君）　中身もう一回。
○９番（渋井清隆君）　今のもとるという意味を教育長にお聞きしたいと思ったのですが。
〔「議長、議事進行」と言う人あり〕
○議長（横山知世志君）　ちょっと待って。質問者にお尋ねしたいのですが、その言葉の意味だけを聞くということですね。
○９番（渋井清隆君）　はい。
○議長（横山知世志君）　許可します。
　長嶺議員、何か。
○６番（長嶺一也君）　当初の通告の質問であれば、第149条の第６号、第７号の解釈と判断だけだ

と思ったのですが、これの質問を何か逸脱したような質問が続いているような気がしますので、ちょっと通告外ではないかなと思ったものですから、議事進行しました。
○議長（横山知世志君）　なお、質問者、今の言葉の意味について、再度質問してください。
○９番（渋井清隆君）　ここで私、権限の関係で、委任の関係で聞いているわけです。それで、法にもとる行為は許されないでしょうと今聞いたので、そういう言葉の返答がありましたけれども、具体的にもう少し教育長に意味を、大体似たようなものですけれども、その内容を、ちょっと意味を聞きたいなということです。
○議長（横山知世志君）　その言葉だけの意味ですよね。
○９番（渋井清隆君）　言葉の意味、もとるという。
○議長（横山知世志君）　それについては通告外ですので、許可できない。
○９番（渋井清隆君）　了解しました。
　今総務課長が言ったように、このもとる行為というのは法に背く、理にかなっていないということです。ですから、やはり法に準拠してやっていただきたいということが意味でございます。行政は法律行為で動くわけですので、根拠に基づかないものは無効になりますから、ですからそのために法というのがあるわけですよね。法は何ぞかと。だから、法は個人的ではないですよね。法は法であって、それを勝手な解釈でやっぱりやっていただくということ自体が間違いですよと。ですから、私は、今回いろんなことがありましたね、この委任の関係。委任している部分はまだほかにもありますけれども、教育委員会への委任というのは。ですが、基本的には長の権限事項であって、それを任せるということですから。だから、任せたからといって何をやってもいいのだという物事ではないでしょうということです。そういうことですので、当局の見解はどうでしょうか。
○議長（横山知世志君）　総務課長。
○総務課長（金子吉弘君）　再度のおただしでございますが、当然自治法の第149条に規定ございますとおり、長の担任事務であるというふうなことは重々承知しております。当然財産担当課としまして担当課任せではなく、しっかりと我々もそこに入っていって、統一した見解で事務が適切に執行できるよう、今後につきましてはしっかりと指導してまいりたいというふうに考えております。
○議長（横山知世志君）　渋井君。
○９番（渋井清隆君）　先ほど言いましたが、権限ということで地方自治法第147条、地方公共団体の統轄及び代表権から始まって、第148条、事務の管理及び執行、今言いました、課長が述べました第149条は担任事務と。これが第169条だかそこらまでに、第159条までですか、第160条が削除になっていますから。これが権限として上がっているわけですよね。だから、やっぱり法に従ってしっかりと、やはり指導もあると思いますけれども、各委員会とか執行部、一貫性を持った事務、執行をお願いして、私の質問をこれで終わりたいと思います。内容はいいです、返答は。ありがとうございました。

○議長（横山知世志君）　これで渋井清隆君の質問は終わりました。

これにて一般質問は終了いたしました。

○散会の宣告

○議長（横山知世志君）　以上で本日の議事日程は全部終了いたしました。

本日はこれで散会いたします。

散　会　　（午後　１時３３分）

定 例 会 ９ 月 会 議

(第 ４ 号)

令和４年会津美里町議会定例会９月会議

議事日程　第４号

令和４年９月９日（金）午前１０時００分開議

第　１　報告第１３号　株式会社会津美里振興公社経営状況報告について
第　２　報告第１４号　会津美里町一般会計継続費の精算報告について
第　３　報告第１５号　地方公共団体の財政の健全性に関する比率の報告について
第　４　報告第１６号　会津美里町教育委員会点検・評価の報告について
第　５　議案第５８号　会津美里町温泉施設等条例を廃止する条例
第　６　議案第５９号　令和４年度会津美里町一般会計補正予算（第４号）
第　７　同意第　２号　会津美里町教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて
第　８　諮問第　２号　人権擁護委員候補者の推薦について
第　９　諮問第　３号　人権擁護委員候補者の推薦について
第１０　総括質疑
第１１　議案の常任委員会付託について

本日の会議に付した事件

第５まで同じ

追加日程第１　議案第５９号　令和４年度会津美里町一般会計補正予算（第４号）の議案撤回の件
追加日程第２　議案第６０号　令和４年度会津美里町国民健康保険特別会計補正予算（第２号）の議案撤回の件
追加日程第３　議案第６１号　令和４年度会津美里町介護保険特別会計補正予算（第２号）の議案撤回の件
追加日程第４　議案第６２号　令和４年度会津美里町後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）の議案撤回の件
追加日程第５　議案第６３号　令和４年度会津美里町工業団地造成事業特別会計補正予算（第２号）の議案撤回の件
追加日程第６　議案第６４号　令和４年度会津美里町住宅用地造成事業特別会計補正予算（第１号）の議案撤回の件
追加日程第７　議案第６５号　令和４年度会津美里町水道事業会計補正予算（第２号）の議案撤

回の件

追加日程第８　議案第６６号　令和４年度会津美里町下水道事業会計補正予算（第２号）の議案撤回の件

追加日程第９　議案第６７号　令和４年度永井野財産区特別会計補正予算（第１号）の議案撤回の件

日程第　７　同意第　２号　会津美里町教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて

日程第　８　諮問第　２号　人権擁護委員候補者の推薦について

日程第　９　諮問第　３号　人権擁護委員候補者の推薦について

日程第１０　総括質疑

日程第１１　議案の常任委員会付託について

○出席議員（１６名）

１番	櫻井幹夫君	９番	渋井清隆君
２番	大竹惣君	１０番	星次君
３番	渡辺葉月君	１１番	堤信也君
４番	荒川佳一君	１２番	根本謙一君
５番	山内豪君	１３番	根本剛君
６番	長嶺一也君	１４番	横山義博君
７番	村松尚君	１５番	鈴木繁明君
８番	小島裕子君	１６番	横山知世志君

○欠席議員（なし）

○説明のため出席した者

町長	杉山純一	君
副町長	佐々木吉一	君
総務課長	金子吉弘	君
政策財政課長	國分利則	君
会計管理者	松本由佳里	君
町民税務課長	猪俣利幸	君
健康ふくし課長	平山正孝	君
産業振興課長	小林隆浩	君
建設水道課長	鈴木明利	君
教育長	歌川哲由	君
こども教育課長	渡部雄二	君
生涯学習課長	福田富美代	君
代表監査委員	小島隆一	君

○事務局職員出席者

事務局長	児島隆昌	君
総務係長	歌川和仁	君

開　議　　（午前１０時００分）

○開議の宣告

○議長（横山知世志君）　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりであります。

○報告第１３号の議題、説明、質疑

○議長（横山知世志君）　日程第１、報告第13号　株式会社会津美里振興公社経営状況報告についてを議題といたします。

ここで、当局より説明を求めます。

政策財政課長、國分利則君。

〔政策財政課長（國分利則君）登壇〕

○政策財政課長（國分利則君）　おはようございます。それでは、報告第13号　株式会社会津美里振興公社経営状況報告についてご説明いたします。

議案書４ページ、併せまして提出案件資料１ページ上段、別冊、株式会社会津美里振興公社経営状況報告書を御覧願います。本件は、株式会社会津美里振興公社の経営状況について報告がありましたので、地方自治法第243条の３第２項の規定により報告するものでございます。

別冊の報告書にてご説明いたします。まず、１ページを御覧いただきたいと存じます。令和３年度事業報告でございます。令和３年度の概要でございますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、日帰り温泉や宿泊施設、外販については売上げを確保することが非常に厳しい状況ではありましたが、せせらぎ公園のオートキャンプ場につきましては、キャンプブームにも乗り、業績を伸ばすことができました。また、コロナ禍に対応する補助金や休業中の雇用調整助成金を最大限に活用し、運営してまいりましたが、売上額は４億2,412万2,000円、前年比6,893万5,000円の減となったところでございます。前年度と比較しまして売上げ減少の主な要因でございますが、本郷温泉湯陶里及び本郷インフォメーションセンターの指定管理業務の終了、また会津美里町観光協会事務局業務の終了や雇用調整助成金の減少によるものであります。なお、経常利益につきましては、指定管理料の見直しや経費節減、雇用調整助成金等によりまして全体で1,367万3,000円となり、３期連続の黒字計上となり、純資産の合計は7,029万9,000円となったところであります。

次に、１の従業員数でございます。合計で113人でございまして、昨年度134人でありましたので、21人減少したところでございます。雇用形態別の内訳といたしましては、正社員で４名、準社員、嘱託、パート、臨時で17人の合計21人の減となりました。主な理由といたしましては、先ほど売上額で説明いたしました本郷温泉湯陶里及び本郷インフォメーションセンターの指定管理業務の終了や会津美里町観光協会事務局業務が終了したことにより減少したものでございます。

次に、２ページをお開きください。令和３年度組織図でございます。昨年度との変更点でございま

すが、観光課が本郷インフォメーションセンター及び観光協会事務局業務が終了したことにより廃止となり、４課体制で実施いたしました。

次に、資料３ページを御覧ください。３ページから９ページまでにつきましては、それぞれ部門ごとの状況について記載しておりますので、主なもののみご説明いたします。まず、温泉施設でございますが、①の営業日数でありますが、昨年度と同様にコロナウイルス対策により５月から６月及び１月から３月まで２度にわたり休館したことから、昨年度より減少をしております。次に、②の入館数でございますが、これもコロナ禍の影響や休館に伴い、日帰り温泉全体で昨年度より２万1,544名の減少、宿泊施設ほっとぴあ新鶴で昨年度より369名の減少となりました。

次に、４ページをお開きください。③の売上げでございます。昨年度との比較でございますが、表の上段の受託料におきましては、コロナ禍等の影響により、金額の見直しにより、温泉施設それぞれ増額となり、合計で2,550万1,000円の増でありました。次に、施設使用料と物販・手数料でありますが、前年度より各施設において減額となり、施設使用料では合計で1,074万2,000円の減、物販・手数料で757万4,000円の減、合わせまして1,831万6,000円の減となったところでございます。

次に、６ページ下段から９ページにつきましては、温泉施設以外の指定管理施設の状況及び公社の実施事業の報告となってございます。

続きまして、10ページをお開き願います。10ページから15ページにつきましては、令和３年度第27期の決算報告書であり、内容は貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、監査報告書となっております。

それでは、第27期の決算内容の概要について説明いたします。まず、11ページをお開き願います。まず、貸借対照表の資産の部であります。第27期の流動資産は１億678万5,287円で、前期より5,375万2,994円の減となりました。これは、令和２年度第26期におきまして、コロナ禍による事業継続対策といたしまして、消費税の納税猶予や社会保険料の納付猶予を受けたことや借入れを行ったことによりまして増加しましたが、令和３年度第27期において猶予等をされていた消費税及び社会保険料を支払ったため、減少となったものでございます。次に、固定資産でございますが、6,486万2,929円となり、前期より353万9,870円の減少となっております。これは、減価償却分によるものでございます。次に、一番下の資産合計でございますが、合計で１億7,164万8,216円となっております。

続きまして、12ページを御覧ください。これは、貸借対照表の負債の部でございます。まず、流動負債につきましては4,476万6,251円で、前期より6,412万2,151円の減少であり、これは先ほど資産の部でもご説明いたしましたが、未払いとなっておりました消費税の納税猶予や社会保険料の納付猶予、その他未払い金等を支払ったため、減少となったものでございます。次に、固定負債につきましては5,658万2,806円で、前期より578万2,822円の減少でありまして、これは長期借入金の返済によるものでありまして、負債合計は１億134万9,057円となっております。次に、純資産の部でございますが、利益剰余金が4,604万9,159円で、前期より1,266万2,105円の増、純資産合計は7,029万9,159円、負債

及び純資産合計で１億7,164万8,216円であります。

続きまして、13ページをお開き願います。これは、損益計算書でございます。これは部門別損益計算書でご説明いたしますので、16ページをお開き願います。この表につきましては、各部門ごとに収入及び支出を記載したものでございます。なお、列の各部門でございますが、昨年度ご説明申し上げましたが、令和２年度においては合計で15部門の記載がございました。令和３年度からは、温泉施設の縮小、さらには観光協会等業務、さらには緊急雇用事業等が廃止されたことなどから、会計事務所の指導等をいただきながら７部門に整理、統合したものでございます。なお、指定管理業務以外の受託業務や庁舎業務等の全ての業務の自主事業としてまとめてございます。左の合計欄を御覧いただきたいと存じます。まず、上段の収入の部でございますが、売上高、校舎全体の合計で４億2,412万2,897円、内訳といたしまして指定管理委託料で１億215万3,000円、売上高で３億568万5,230円、補助金等で1,628万4,667円であります。前期より6,893万5,378円減少しております。減少の主な要因でございますが、本郷温泉湯陶里及び本郷インフォメーションセンターの指定管理の業務の終了や会津美里町観光協会事務局業務の終了、雇用調整助成金の減少によるものでございます。なお、補助金等の内容でございますが、まず雇用調整助成金といたしまして905万9,000円、町補助金であります中小企業経営継続支援金が10万円、その他コロナ関連の施設整備補助金でございます。次に、支出の部でございます。表の下のほうでございますが、支出合計で４億1,236万1,210円、建物の家賃収入、そして営業外収益としまして285万448円、借入金の利息として営業外費用が93万8,630円で、差引き経常利益でございますが、各部門全て黒字となり、公社全体で1,367万3,505円となったところでございます。

次に、18ページを御覧いただきたいと存じます。18ページからは令和４年度の事業計画でございます。まず、事業計画の概要でございますが、新型コロナウイルスの影響により生活様式は大きく変化し、飲食業及び観光業での低迷はしばらく続くものと予想されます。そのような中で、現在受託している高田温泉、新鶴温泉、あやめ荘、保健センターが指定管理期間最終年度となっており、今年度で終了する可能性を見据えながら運営を行っていくこととしております。特に基幹事業である温泉業務がなくなることを想定いたしまして、今後の中長期的な経営計画を見据えた運営が必要であります。そのため、コスト削減の徹底や国及び県の支援策を適切に活用し、収益を確保し、受託事業及び地域商社事業を今後の公社の基幹事業として構築するため、人材の育成、商品の開発や販売戦略駆使しながら、新たな業務にも取り組み、事業を進めることとしております。

次に、19ページを御覧ください。これは、公共施設事業計画書でございます。指定管理制度に基づき受託しております公共施設につきましては、サービスの向上、経費削減、危機管理体制の確立、施設の利用促進のための基本姿勢等が各項目に記載されております。

次に、20ページ、21ページを御覧いただきたいと思います。令和４年度の公社の執行体制と人員配置でございます。これは、昨年度と同様に４課体制で行うこととしてございます。

次に、22ページを御覧いただきたいと存じます。これは、令和４年度の部門別収支予算書でございます。令和３年度は、収入においては指定管理料の増額、雇用調整助成金等により経常利益が確保できましたが、コロナ禍の影響はしばらく続くことが予想されることや雇用調整助成金の状況も踏まえながら、さらなる経営改善に努め、表の一番下でございますが、経常利益でございますが、合計で716万3,241円を見込んだところでございます。なお、収入の部の補助金等の3,609万1,000円でございますが、これは本年度から新たな事業として開始しておりますデマンド交通運行業務に係る補助金でございます。

株式会社会津美里振興公社経営状況の報告は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○議長（横山知世志君）　説明が終わりました。

質疑があればこれを許可いたします。質疑はありませんか。

12番、根本議員。

○12番（根本謙一君）　おはようございます。説明をいただきました。それで、この振興公社さんのまず努力を紹介したいと思います。これは、大きい声でお届けしてあげたいなというふうに思います。国、県支援等の支援を有効に使って黒字をつくり、資産を増やした、これは大いに評価できる部分だと思います。

そこで、伺いたいのは２点ございます。５ページの修繕費ですけれども、あやめの湯、健康センター、ほっとぴあ新鶴でそれぞれの修繕合計額、内容が載っております。これは、経年劣化というところで説明されていますけれども、補助金もあったので、有効に効果的に使ってということだというふうに受け止めますけれども、これは経年劣化にしても３年度にタイミング的に集中したということは私はちょっと考えにくいと思いまして、何か特段の修繕だったのか、今補助金があるので、この機にこのタイミングでやるのが望ましいという判断だったのか、その辺のところ、可能な限りで結構ですので、ご説明いただければというふうに思います。

２点目ですけれども……

○議長（横山知世志君）　根本議員、１点ずつ行きましょう。１つずつ。いいですか。

○12番（根本謙一君）　はい、いいです。

○議長（横山知世志君）　ではまず、今の点について、政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　ただいまの修繕費でございますが、先ほど私がご説明いたしましたコロナ禍での補助金等を活用したということでございます。主にコロナ禍での補助金として対応した分につきましては、ここの中ではほっとぴあ新鶴で、下のほうの例えばＷｉ―Ｆｉの改修工事ということで、いわゆるコロナの対策として必要な分を補助金として対応したというところでございますので、修繕費の全てがコロナの補助金ということではございません。修繕につきましては、担当所管の担当課と多分協議しながら行ったと承知しておりますが、公社がやる分、町がやる分をお互い協議の上で、指定管理の協定に基づき修繕したというもので考えてございます。

○議長（横山知世志君）　根本議員。
○12番（根本謙一君）　私がちょっと気になったのは、いわゆる今民間譲渡の話が進んでおります。そういう中で、コロナ対策は緊急的に当然やらなければならないことがありますけれども、いわゆるこの機において、この境において十分に修繕できるところだけ修繕して、きちっとした形で譲渡に臨もうとしていたのかなとも取れました。確かにやれることは、いわゆる日常使っておられる利用者の方々に対する利便性あるいは接遇、心地よいところにしておかなければなりませんから、できることは当然やっていいのですけれども、今までにない修繕費の計上になっているというふうに受け止めてのお尋ねをしているつもりです。その前段の部分の考慮等についてはどんなご説明をいただけるでしょうか。
○議長（横山知世志君）　産業振興課長、小林隆浩君。
○産業振興課長（小林隆浩君）　ただいまの質問にお答えします。
　当然町のコロナ対策の補助金などもありましたが、振興公社が直接県の100％の補助なども使って修繕したというものであります。中身的には、施設を常にきれいにしたいというか、改修したいというのは以前からもちろん思っているわけですが、このほっとぴあの場合は月に１回しか休みがないものですから、なかなかまとまってしっかりした修繕というのがなかなかできなかったわけであります。その中で、今回コロナの影響で休館というのもかなりあったりしましたので、そういうところでこのコロナの県の補助金を直接申請して使ってしっかり悪いところを修繕したといった内容でございます。売却につきましては、当然できるだけ状態のいい状態で売却するにしてもしないにしても、今後やはり修繕は必要な箇所ということで行ったということでございます。
○議長（横山知世志君）　根本議員。
○12番（根本謙一君）　そのまま素直に受け止めたいと思いますけれども、もう少し今の考え方に割り込みますと、いわゆる私らに売却するに際しての評価額、専門家にしていただいて、資料我々も頂いていますけれども、それを見ますと結構な額にも上っているにもかかわらず最終的な評価額がゼロなのです。直近の修繕でこれだけかけて、あるいは通常の中でかけているにもかかわらず、評価額がゼロとなってしまっているの知っていますので、ですからお尋ねしたのですけれども、それは私が後段でお尋ねした施設として当然お客様をもてなすための必要な常時的な修繕工事だったという受け止め方でよろしいのですか。
○議長（横山知世志君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　おっしゃるとおりで、そのとおりでございます。
○議長（横山知世志君）　根本議員。
○12番（根本謙一君）　では、２点目に参ります。
　18ページの事業計画のところで、全く経営の事業内容が本当に大きく変わっていく、今その境目に、ターニングポイントにいるわけです。どこに力を入れていくか等々も説明されています。こういうこ

となのでしょうというのは理解できますけれども、ただ３番の地域商社事業、ここのところは今まで観光事業も業務委託、指定管理を受けて業務遂行してきたわけですけれども、そして今度は観光協会が独立して１社になって、その受託事業がなくなったと。ところが、地域商社事業としては、このＤＭＯ的な役目は私は大いにあると思っておりまして、観光協会の果たすべき役割と大いに重なっている。重なり合っていくところだと思っております。ここのところで、もう一段目、語弊があるかもしれませんけれども、顔を向けて飛躍していかないと、なかなか経営改善的にはうまくいきにくいのかなというふうに想像しています。お答えできる範囲でよろしくお願いします。どう考えるか。

○議長（横山知世志君）　政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　ただいまの議員のおただしでございますが、確かに地域商社でございますが、資料の９ページでございますが、公社からの報告書の９ページを御覧いただきたいと思います。その下段のほうに②、商社業務ということでの記載がございます。まず、簡単に商社業務の内容についてご説明申し上げますが、令和３年度におきましては、主に食品、さらには酒類等を合計で1,072万円の、これ税抜きではございますが、売上げがございました。昨年度と比較して若干の増加、令和元年度と比較しまして200万程度ですか、百数十万ですか、増加はしてございますが、微増ということでございます。まず、これが商社の業務でございます。

なお、下の主な得意先でございますが、下に主な得意先と販売額等を入れております。ここの中には商社が独自に開発した商品が含まれており、それを現在自社のＥＣサイト、さらには直接その業者のほうに卸しているという内容でございます。

おただしのＤＭＯとの関連、観光協会との関連でございますが、これまで振興公社は町の観光業務の事務局として運営をしてまいりました。先ほど報告もございましたが、令和３年度より観光協会につきましては１社というようなことで、振興公社はその観光業務の事務局の業務を手を引いてございます。しかしながら、町全体の観光業務でございますので、当然新たな１社となりました観光協会、さらには振興公社も同じ町を振興していくというための組織でございますので、目指すところは一緒でございます。おただしのＤＭＯの機能につきましても、以前かなり検討した結果ではございますが、現在のところなかなか形に至っていないというのが現状でございますが、今後今の新しい体制になった観光協会、さらには新しい業務、縮小とはなりましたが、新たな業務にも取り組んでいます。振興公社が一緒になって美里町を盛り上げていくということが必要でございますので、お互いが連携して事業を展開、そこの中には当然町も入って一緒に三者一体となって町の振興を図っていきたいと考えてございます。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○12番（根本謙一君）　総論的にはそれでいかなければならないと私も思います。特に一体的にやらないといけないと。ただ、すみ分けはとても重なっているところが多いと思いますので、ここは共通認識持ってしっかり取り組んでいく必要があるのではないかなというふうに思っております。ここで

答弁はいいですから、その方向ですけれども、連携大事ですけれども、すみ分けをきっちりしてやっていってもらったということで、私の質問を終わります。

○議長（横山知世志君）　ほかにありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　ないようでありますので、質疑なしと認めます。

これをもって報告第13号を終了いたします。

○報告第１４号の議題、説明、質疑

○議長（横山知世志君）　日程第２、報告第14号　会津美里町一般会計継続費の精算報告についてを議題といたします。

ここで、当局より説明を求めます。

政策財政課長、國分利則君。

〔政策財政課長（國分利則君）登壇〕

○政策財政課長（國分利則君）　それでは、報告第14号　会津美里町一般会計継続費の精算報告についてご説明いたします。

議案書５ページ、６ページ、併せまして提出案件資料１ページ上段を御覧願います。本件は、令和２年度、３年度の２か年で継続費を設定いたしました。新鶴こども園整備事業及び学校給食センター改築事業が終了したことから、地方自治法施行令第145条第２項の規定に基づきまして報告するものでございます。

議案書６ページを御覧願います。令和３年度会津美里町一般会計継続費精算報告書でございます。まず、列でございますが、左から款、項、事業名、全体計画では年度、年割額、財源内訳、実績では支出済額と財源内訳、比較としまして年割額と支出済額の差とその財源内訳を記載してございます。まず、第３款民生費、第２項児童福祉費、事業名、新鶴こども園整備事業でございます。これは、工事監理委託料及び園舎改築工事について継続費として設定いたしました全体計画の年割額の計３億8,560万2,000円に対しまして、実績の支出済額の計が３億8,434万円でありまして、比較の年割額と支出済額の差が126万2,000円となったところでございます。次に、第９款教育費、第５項保健体育費、事業名、学校給食センター改築事業でございます。工事監理委託料及び施設整備工事、施設備品につきまして継続費として設定いたしました全体の計画と年割額の計14億1,216万7,000円に対しまして、実績の支出済額の計が13億665万7,000円でありまして、比較の年割額と支出済額の差の計が１億551万となったところでございます。年度別の支出済額、財源内訳などにつきましては記載のとおりでございます。

説明は以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（横山知世志君）　説明が終わりました。

質疑があればこれを許可いたします。質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　質疑なしと認めます。

これをもって報告第14号を終了いたします。

○報告第１５号の議題、説明、質疑

○議長（横山知世志君）　日程第３、報告第15号　地方公共団体の財政の健全性に関する比率の報告についてを議題といたします。

ここで、当局より説明を求めます。

政策財政課長、國分利則君。

〔政策財政課長（國分利則君）登壇〕

○政策財政課長（國分利則君）　それでは、報告第15号　地方公共団体の財政の健全性に関する比率の報告についてご説明いたします。

議案書７ページをお開きください。併せまして、提出案件資料１ページ中段、別冊でございますが、報告第15号資料を御覧いただきたいと存じます。まず、議案書の７ページでございます。本件は、令和３年度決算に伴いまして、地方公共団体の財政の健全化に関する法律第３条第１項及び第22条第１項の規定により、健全化判断比率及び資金不足比率を報告するものでございます。まず、１の健全化判断比率につきまして、別冊となりますが、参考資料でございます報告第15号資料によりご説明いたします。なお、この資料でございますが、福島県に回答しております地方公共団体の財政の健全化に関する法律における健全化判断比率及び資金不足比率の算定様式を使用したものでございます。

まず、１ページは健全化判断比率及び資金不足比率でございます。それぞれの比率につきましては、表の上段が令和３年度、その下が令和２年度、さらにその下の段が比率の増減となっております。まず、実質赤字比率でございますが、一般会計における赤字の大きさを標準財政規模に対する割合で表したものでございます。一般会計に赤字が生じておりませんので、バー表示となってございます。

次に、連結実質赤字比率につきましては、公営企業を含む全ての赤字の大きさを標準財政規模に対する割合で表したものでございます。連結実質赤字が生じてございませんので、バー表示としているところでございます。

次に、実質公債費比率でございますが、一般会計が負担する借入金の返済額の大きさを標準財政規模に対する割合で表したものでございます。３か年の平均は5.2％であり、令和２年度と同率でありました。なお、単年度の比較では約0.31ポイント増加しております。

この実質公債比率の分析でございますが、資料の２ページをお開き願います。太線で囲んでございます表の上段が分子、下段が分母でございますが、表の２列目が令和３年度、３列目が令和２年度、右端が令和３年度から令和２年度を差し引いた増減額及び増減率となっております。令和３年度の一

番下を御覧いただきたいと存じます。単年度の実質公債費比率が5.3％でありまして、前年度と比較いたしまして約0.3ポイント増加してございます。この増加の要因でございますが、右側の増減の列を御覧願います。まず、分母におきましては、⑬の普通交付税が臨時経済対策費の増設等によりまして１億6,855万7,000円増加しており、また⑭、臨時財政対策債発行可能額においては、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う国の税収入の減少などにより発行可能額が5,522万7,000円増加したため、対前年比で２億6,807万3,000円増加いたしました。しかし、分子において控除額であります基準財政需要額に算入されました⑨から⑪の額が償還が終了したことなどによりまして6,487万4,000円と大きく減少したことから、対前年比で3,356万4,000円増加したことが主な要因でございます。

次に、資料の１ページにお戻り願います。今ほど説明いたしました実質公債費比率の右側、将来負担比率でございます。将来負担比率につきましては、町の借入金など現在抱えております負債の大きさを標準財政規模に対する割合で表したものでございます。将来の負担額に対しまして充当可能な特定財源が上回っているため、令和３年度におきましてもバー表示となったものでございます。

この将来負担比率の分析でございますが、同じく資料の３ページをお開き願います。上から２段目の将来負担額でございますが、合計で164億6,877万8,000円に対しまして、表の中ほどから少し下でございますが、充当可能財源等が216億507万3,000円でありまして、将来負担額を51億3,629万5,000円上回っているため、バー表示となったものでございます。

次に、議案書にお戻りいただきたいと存じます。議案書でございますが、次にその下の２、資金不足比率についてでございますが、公営企業におきます資金不足の割合を示すものでございますが、資金不足は生じておりませんので、バー表示となったところでございます。なお、町監査委員によります健全化審査意見書におきましては、健全化判断比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類はいずれも適正と認める。実質赤字比率、連結実質赤字比率及び将来負担比率については算定がされなかった。実質公債比率については、昨年度と同率となっており、早期健全化基準を大きく下回っていることから、健全であると判断する。将来負担比率については、将来負担額が充当可能額を下回ったため算定されなかったとの意見をいただいているところでございます。

説明につきましては以上でございます。よろしくお願いいたします。

○議長（横山知世志君）　説明が終わりました。

質疑があればこれを許可いたします。質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　質疑なしと認めます。

これをもって報告第15号を終了いたします。

○報告第１６号の議題、説明、質疑

○議長（横山知世志君）　日程第４、報告第16号　会津美里町教育委員会点検・評価の報告について

を議題といたします。

ここで、当局より内容の説明を求めます。

こども教育課長、渡部雄二君。

〔こども教育課長（渡部雄二君）登壇〕

○こども教育課長（渡部雄二君）　報告第16号　会津美里町教育委員会点検・評価の報告についてご説明いたします。

議案書８ページ、提出案件資料１ページ下段、別冊、令和３年度会津美里町教育委員会点検・評価報告書を御覧ください。本案は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第１項の規定により、令和３年度の会津美里町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について行った点検及び評価の結果について報告するものであります。

別冊の点検・評価報告書を御覧ください。本報告書につきましては、会津美里町の教育行政の充実を図るとともに、町民の皆様へ理解していただくことを目的に、令和３年度の教育委員会の活動と第３期会津美里町教育振興基本計画の進捗状況について点検、評価を行い、有識者会議の意見を付して、教育委員会として報告書にまとめたものであります。

構成につきましては、次のページの目次を御覧ください。目次の１、教育委員会点検・評価の概要から、５、第３期会津美里町教育振興基本計画の指標まで大きく５項目に区分しております。

まず、１ページから４ページにつきましては、１番、教育委員会点検・評価の概要として、点検・評価の趣旨、教育委員の構成、教育委員会の組織、点検・評価の仕組み、項目、スケジュール、有識者会議の委員の構成について記載をしております。

次に、５ページから12ページまでは、２番、教育委員会活動の点検・評価として、教育委員会活動の点検・評価の観点、教育委員会の活動状況について記載しております。

13ページから15ページにその活動に対する自己評価を、16ページには有識者会議の意見を付しております。

次に、３番、第３期会津美里町教育振興基本計画の進捗状況についてとして、17ページから22ページに「子ども教育の充実」について、23ページから25ページに「生涯学習の充実」について、26ページから27ページに「生涯スポーツの充実」について、28ページから29ページに「地域文化の振興」について記載をしており、それぞれの基本施策について主な成果と課題並びに有識者会議の意見を付しております。

次に、30ページから33ページに４番、会津美里町第３次総合計画の指標並びに５番、第３期会津美里町教育振興基本計画の指標についての令和３年度の実績値を記載しております。

30ページ上段の「子ども教育の充実」では、小学６年生と中学３年生の標準学力検査（ＮＲＴ）の偏差値は現状値を下回りましたが、中学３年生の将来人の役に立つ人間になりたいと思う生徒の割合は現状値を上回っております。

32ページの教育資本振興基本計画の指標については、小学６年生の平日の家庭学習時間と中学３年生の自己肯定感、学級満足度において現状値を上回っておりますが、小学６年生の自己肯定感、学級満足度、中学３年生の平日の家庭学習時間、小学校と中学校の不登校出現率、ともに現状値を下回っております。標準学力検査、ＮＲＴの偏差値につきましては、小学６年生、中学３年生とも英語の偏差値が低かったことが要因となっております。中学３年生の自己肯定感が現状値を上回った理由としましては、道徳の授業を中心に学級やグループで話し合う機会を増やし、他者との関わりの中で自己肯定感を高めるように努めたことが向上につながったと考えております。

30ページ中段の「生涯学習の充実」では、コロナ禍のため、生涯学習講座に参加している人の割合は減少しており、目標を持って学習を行っている町民の割合も現状値を下回りました。

33ページ上段の教育振興基本計画での「生涯学習の充実」の指標については、感染症対策のため、授業の中止や参加人数の制限等のため各種学級、講座の参加率は全て下回っておりますが、図書等の貸出し冊数は、図書館蔵書整備に伴い、現状値を上回っております。

30ページ下段の「生涯スポーツの充実」及び33ページ中段の教育資本計画の「生涯スポーツの充実」の指標については、感染症対策によりスポーツ関連の事業がほとんどできなかったこと、社会体育施設の利用自粛要請などが要因となり大きく下回っておりますが、コロナ禍においてもここの健康志向は依然と高く、実際にスポーツを行っている人の割合は現状値を上回りました。

31ページの「地域文化の振興」では、町内文化財の保存活用事業の件数は、感染症対策のため、事業の中止や参加人数の制限等により現状値を下回っておりますが、地域の歴史や文化財に親しむ機会を持った方の人数については現状値を上回ることができました。町の歴史文化に興味・関心のある町民の割合は、現状値を下回る結果となりました。

さらに、33ページ下段の教育振興基本計画の「地域文化の振興」については、２つの指標は現状値と同じですが、文化団体協議会加盟団体数は、団体構成員の高齢化によりここ数年減少しております。団体の統合などにより活動を続けられるよう助言しているところであります。

令和３年度の点検、評価の結果、感染症対策のためできなかった事業もありましたが、教育委員会としましては、第３期会津美里町教育振興基本計画に沿い、おおむね事業を遂行することができました。また、有識者会議委員からも多くの肯定的な意見を得られました。今後も、第３期教育振興基本計画に基づき、課題解決に取り組みながら各種事業を推進してまいりたいと考えております。

説明は以上です。よろしくお願いいたします。

○議長（横山知世志君）　説明が終わりました。

質疑があればこれを許可いたします。質疑はありませんか。

12番、根本謙一議員。

○12番（根本謙一君）　７点ございますけれども、よろしくお願いします。

１点目です。11ページ、（２）、総合教育会議の実施日と内容が載ってございます。ホームページに

会議録載っているだろうと思って見ましたけれども、載っていないのですよね。令和２年度までで止まっております。これはどうしてなのかなというところでまずお尋ねいたします。

○議長（横山知世志君）　こども教育課長。

○こども教育課長（渡部雄二君）　大変失礼いたしました。会議の要約といいますか、議事録は作ってありますので、ホームページにアップするのが漏れていたかと思います。大変申し訳ございません。

〔何事か言う人あり〕

○こども教育課長（渡部雄二君）　令和３年度の総合教育会議の会議録につきましては、作成はしておりまして、私ホームページにアップしていたかと思っておりましたが、確認をして上がっていないようであれば至急上げるようにしたいと思います。大変失礼いたしました。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○12番（根本謙一君）　アップしているかと思ったって、資料を私たちに渡しているわけですよね。内容を知りたい者にとっては会議録は当然必須ですよね、のぞくのは。過去は、私全てプリントアップして、とじて、十分に読みました。これは３年前。いわゆるこの幼小中一貫教育、この人材育成プロジェクトが始まるということがもう言われ始めていましたから……

○議長（横山知世志君）　マイクもう少し近づけてください。

○12番（根本謙一君）　ここの会議が、総合会議の中でどういう議論がなされているのかなということはとても大事ですし、その内容等がここに載っていれば、要点、概略が載っていればまた救われますけれども、そういう中でアップしたかと思ったけれども、なかった、会議録はできております、それはちょっとお粗末ではなかったかなということで、しっかりやっていただきたいなというふうに思います。

次に、２点目参ります。２点目ですけれども、教育委員会活動の自己評価のところで、これは教育委員自らが評価を行ったという、これ全員から上がったものだというふうに思います。項目によっては５点あるところと、それから２点しかないところがありますし、様々だなというところが、だから全員からいろいろ上がっているわけでもないのかなというふうに想像しますけれども、これは課題提起も含めてここにはしっかり全員の内容を私は落とし込んでいただきたいなと思ったのですけれども、でも上がってこないものを載せるわけにいかないので、その実態としてはどういうふうになっているか伺いたいと思います。

○議長（横山知世志君）　こども教育課長。

○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまのご質問でございますが、委員の方は４名いらっしゃいますけれども、ほぼこの項目ごとに全員の方から意見はいただいているところでございますが、似通った意見とか、そういったものをある程度こちらのほうで整理している、許可をいただきながらですけれども、整理していただいている状況でございますので、中には人数より少なくなっているものもございます。

以上でございます。
○議長（横山知世志君）　根本議員。
○12番（根本謙一君）　その中で、有識者会議のご意見も、まず１点目、２点目で大変厳しい意見が載っております。我々対議会との中でも、こういうことがかいま見えてきていますよね。そこのところは、どんな認識で、どんな対策を取ろうとしているのか伺いたいと思います。
○議長（横山知世志君）　こども教育課長。
○こども教育課長（渡部雄二君）　委員の方から事前に十分な審査がなされていないというような意見もございます。特に年度末の要綱改正なんかの際には、かなり多くの議案が発生いたしまして、私どものほうで要綱改正等々につきましては、システムを使って、さらに文書担当課である総務課のほうと確認をいただきながらやっているわけではございますが、なかなかきれいに整理できずに提案になっている場面もあったので、こういった指摘になっております。それで、今年度からは、今までですと担当が資料を作りまして、課長補佐が全体をまとめて、それで起案をして定例会に臨んでいるわけでございますが、令和４年度からにつきましては、議案がそろった段階で定例会に出席する職員、係長、課長補佐、あと私と教育長、みんな一堂に会して議案をチェックしております。ですので、場合によっては定例会よりも長い時間議論するような場合もございましたが、そういった対応でできるだけミスがないように努力をしているところでございます。
以上でございます。
○議長（横山知世志君）　根本議員。
○12番（根本謙一君）　この議場の中の皆さんに聞こえるように、マスクしているから難しいところありますけれども、しっかり説明願えればと思います。
大体対応の中身は分かりましたけれども、それはマニュアル化されて、人が替わっても、職員が替わっても、しっかりそのとおりやっていけるというものに整理されているのか、いないのか伺います。
○議長（横山知世志君）　こども教育課長。
○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまのご指摘でございますが、やはり私もその点心配しておりまして、年度末に定例会のスケジュールの流れを細かくつくりまして、こういった時期にはどの担当がこういった作業をする、この時期には課長補佐がこういったことをするということで役割を明確にしたスケジュールをつくりまして、課内で共有をしております。
以上でございます。
○議長（横山知世志君）　根本議員。
○12番（根本謙一君）　分かりました。しっかりつないでいっていただきたいと思います。
次に、３点目参ります。18ページです。「確かな学力」の育成のところで、白丸２点目、３点目で継続的な指導で成果が見られたというふうに言っております。２点目では、特に英語教育、そのところで４技能が向上したという説明です。この中身が載っていればよかったのではないかなと思います。

どういう成果があったか。一方で、成績が、先ほどの課長のこの全体の説明の中で英語がちょっと低下していると、そういうお話でしたよね。ここことの整合性はどうなのかなというところで、分かりやすくご説明いただければというふうに思います。

○議長（横山知世志君）　教育長、歌川哲由君。

○教育長（歌川哲由君）　ただいまのご質問にお答えしたいと思います。

先ほどの指標に上がっているテストにつきましては、全国標準ＮＲＴテストという観点別に８教科の能力を測るというふうなテストではございますが、学習内容全てを網羅しているものではございません。学校の学習内容の全てを網羅するというのは、やっぱり一番は学校の教員が行う学習評価、これが一番基本になるというふうに考えております。その中では、本町では英語の専科教員も県より配置していただいておりまして、小学校４校を巡回指導しておりますけれども、そういう方を中心にした学習評価において、読む、書く、聞く、話すの４領域について技能が高まっているという現場の指導に当たっている者の評価でございます。それが直結、全国標準学力テストに成果として現れなかったのは残念でありますが、分析、反省を踏まえながら今後の学習指導に生かしていっていただきたいというふうに考えているところであります。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○12番（根本謙一君）　今、教育長が成果がテストに現れなかったのは残念だと。私は、残念で済まされないと思うのです。それが本来の学校教育の私は本質だと思っています。人間力形成も当然その基盤として必要ですけれども、いわゆる学力向上でしっかり成果出るような指導、関わり方、これはやっぱり根幹だと思っておりまして、時代が変わろうとこれをしっかり踏まえていただきたいなと。ただ残念でしたでは済ませてほしくないなというふうに思いますので、くどいようですけれども、再度の答弁をお願いします。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。

学力については、当然全ての子供たちに必要十分な学力、能力、適性に応じながら身につけさせるのは学校教育の役目でありますから、議員ご指摘のとおりでございます。

なお、ＮＲＴテスト、全国標準学力テスト等もそうですが、毎年違う集団を相手にする、その調査対象にしている平均点の議論でありますので、これについてはその年、あるいは集団によって出来不出来の差は出てこようと思いますが、今後とも子供たち一人一人の学習の変異、好ましい変容を求めながら、学習指導に全力で取り組むよう各学校を指導してまいりたいというふうに考えているところであります。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○12番（根本謙一君）　次、参ります。４点目です。

18ページの下段、「心豊かなこども」の育成のところで、課題のところで、黒丸、ＷＥＢＱＵ、私

これ全く知りません。ただ、ここの内容の中で、説明の中で「「ほめる・認める指導」を継続しながら温かい言葉かけを通して、満足群の生徒が増えるように努める必要がある」、全くそのとおりだと思います。私も、自分の子供についてはかえって叱りつけることのほうが多かった。反省を持っている一人なのですけれども、実は昨日ある教職経験者の方から大変いいお話を伺いました。この褒めることについて、認めることについて。たまたまです。ある会話の中で。それは、教育長にも関係あります。一箕中の教頭時代です、教育長の。大分荒れていた時代があったそうなのですけれども、そこである町民からお褒めの言葉、電話が入ったそうです。本当珍しいことだったようなのですけれども、そこで市民の方が喜んで学校に電話かけ、こんなすばらしい子供いるのですねということで、その子供を全校生徒の中で何かお話を紹介されたようなことを伺いました。それを境にしてというか、それを起点にしたようにして市民の皆さんからいろんなお褒めの言葉が電話で入るようになってきたと。どうしても悪いところばかり、注意したくなるような、大人の目でどうしても子供たちを見てしまうというところありますけれども、この褒めて認める教育って本当に大事なのだなと昨日も伺っていて実感しました。教育長も当然実感されて、体験的にもあるということなので、この点にもしっかり力を入れていただきたいなと思いますけれども、お願いします。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。

ありがとうございます。この点検、評価にある文言でございますけれども、褒める、認める指導は教育の基本だというふうに認識しております。実は全国学力学習状況調査の項目の中に自分は学校の先生方に認められていると思うという質問項目がありまして、これが今年の小６、中３の子供たちの回答が８割程度に近い全国平均をかなり上回ったものであったということに非常に安心感を覚えているところであります。一部そうでない先生もいるかもしれませんが、大半の先生方は子供たちを認め、褒めながら、子供たちに目を向けて教育に当たっているのかなというふうに思っておりますけれども、今後ともこの視点は大事にしていきたいと思いますし、機会あるたびに繰り返し学校にも伝え、指導してまいりたいというふうに考えております。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○12番（根本謙一君）　よろしくお願いしたいと思います。

次、５点目に参ります。21ページです。時代に対応できる教育体制整備のところで、黒ポツの１点目、学校規模適正化・適正配置等の検討委員会の意見を踏まえとなっております。この内容をもっと具体的にご説明いただければというふうに思います。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。

昨年度、町における適正規模、適正配置に関する検討委員会をスタートさせまして、２回の議論をいただきました。その第１回目につきましては、今後児童生徒数の増減、減少傾向にあるわけですが、

変化をご説明申し上げながら、今後の学校の在り方についてご意見を賜ったところでありますが、検討委員会の中では今直ちに学校の統廃合を考えるときではないというふうな意見に集約されたところでございます。ただ、今後子供の数の減少を見据えながら、いつどこで判断をしていくかというふうなところは見極めていく必要があるだろうというふうな意見もありまして、それについては今後適切に子供の数等の情報提供をしながらご議論をいただきたいというふうに考えているところであります。ここに記載ございますように、したがって当面は小規模ながらも教育内容の充実について意見を交換しながら、よりよい教育の実現に向かっていきましょうというご意見で一致しているところでございます。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○12番（根本謙一君）　全く異論ございません。それで、この検討委員会ですけれども、これは常設的にあるものなのか、あるいは教育長の判断で、あるいは総合教育会議の会長、代表である、トップである町長が提案して開催されるものなのか、そこのところ教えてください。

○議長（横山知世志君）　こども教育課長。

○こども教育課長（渡部雄二君）　この学校規模適正配置、適正委員会につきましては、教育長が要綱で……

〔「検討委員」と言う人あり〕

○こども教育課長（渡部雄二君）　検討委員会につきましては、要綱で定めておりまして、教育長が任命した者でございまして、令和３年度に任命しまして、２年間の任期でお願いしているものでございます。

〔「回数は」と言う人あり〕

○こども教育課長（渡部雄二君）　すみません。開始は10月……

〔「回数。何回」と言う人あり〕

○こども教育課長（渡部雄二君）　回数……

〔「特に決まっていない」と言う人あり〕

○こども教育課長（渡部雄二君）　回数は、すみません、年に２回でございます。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○12番（根本謙一君）　ということは、答弁要りませんけれども、これはでは教育長の判断で、今これテーマを出してお話伺っておいたほうがいいなという教育長自身の判断で動くものだということでいいのですね。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　開催日程については、こちらから大まかな案はお示ししますけれども、検討委員会の中で必要であればさらに回数増やして開催することも可能でありますので、委員長さんの運営にも任される部分があると思っております。なお、協議事項はこちらで協議していただきたい事

項を用意して、お集まりいただいて検討していただいております。
○12番（根本謙一君）　分かりました。
　次に、６点目に参ります。24ページです。黒ポツです。「図書館の新たなＰＲの在り方について検討する必要がある」という課題が載っております。当然これ有識者会議でも、ぜひ期待していますよと、取り組んでいただきたいと、まだ利用されていない利用団体の拡大にぜひ努めてほしいというのありますけれども、この新たなＰＲの在り方って例えばどんなこと考えられるのでしょうか。私は、一番具体的に知っているのは司書さんだと思っておりまして、当然その図書館の存在意義から、それから役割から、一番利用者に接して、生にいろんなことを感じて、ちゃんと整理されて、いわゆる上司に届けていかれていると思っております。新たなＰＲの在り方というのは、どういうふうに考えているのでしょうか。
○議長（横山知世志君）　生涯学習課長、福田富美代君。
○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどのご質問でありますけれども、まずちょっと実績のほうから申し上げまして、今回司書のほうにも、図書館の貸出し冊数というのは目標値を上回っております。ただし、こちらのほうで課題と上げましたのは登録者数、令和３年度末の実績としまして登録者数は2,275名ではあるのですが、１か年におきまして前年度から248名ほどのみの登録にとどまっております。こういったところで、新たな登録者数というところが伸び悩んでいるというところもございまして、また令和３年度におきましては、各イベント、事業等企画いたしましたが、やはりコロナ禍においての利用中止ということがほぼされております。ただ、その中でもできることをということで、幼児を対象とした読み聞かせとか、いろんな形でやっているところではあるのですが、なかなか新たな利用拡大に向けての参加者というところがどうしても見込めなかったという反省点もございます。こちらのほうについては、先ほど議員おただしのように司書というのは重要な役割があるというところもありまして、実際来ていただくためにはということで、やはり図書館、定期季節ごとの展示コーナーというところを設けながら、工夫を凝らしながらやっているところでございます。また、夏休み期間中としまして、学校、子供たちが参加できるような形のちょっとクイズ方式で提案したりということも、令和４年度については新たに工夫を凝らしながら取り組んでおります。２年、３年度とやはりコロナ禍におきまして、３年度には読書活動推進計画というのも計画してありますので、もうちょっと学校関係、またこども園なり、また高校というところと連携しながら、そちらの現場のほうに踏み込んで、そういったところも連携しながらやっていきたいというところありましたけれども、この２年、３年度ということでできなかったということもありますので、それを踏まえて学校、子供たちを対象にした図書館だよりを作って、それを各学校に配るとかということで今新たに進めております。また、これから図書館のほうのイベントで映画会、講演会と実施する予定ではありますけれども、前回映画会については中止せざるを得ない状況にありましたけれども、そのときにおかれましては各司書が自ら商店街、大きな店舗さんのほうにポスターを配ったりということもさせていただきました。

そうしたことで、通常の広報誌、また図書館発行している図書館だより、また図書館のホームページ、ツイッターなんかもやっておりますけれども、その辺で周知がなかなかできないということもありましたので、新たな町に出てというところも加えながら、新たなＰＲというところも実施させていくような形で今後も利用者拡大に努めてまいりたいと考えております。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○12番（根本謙一君）　図書館事業としていろいろ取り組んでいるのは、本当にご苦労さまだなというふうに評価したいと思っております。ただ、美里町は広域ですから、歩いてこれる人ばかりではないのです。ですから、そういうことも含めていろいろ考えていく必要があると思っています。いろんなイベントも、図書館を利用するための一つのきっかけづくりに、インセンティブ働かせる一つの手段だというふうに捉えておかないと、イベント、イベントって私あまりやってほしくないなと思っているのですけれども、それよりもやっぱり内容の充実だと、図書の。今３万目標が４万を超えていますよね。私は、この町規模で５万以上なければいけないのではないかなというふうにも思っておりまして、その努力も必要だと。それによって利用者を増やしていくということも一つ視点置いていただきたいなと思いますけれども、その点、教育長の考え伺っておきたいと思います。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　ご指摘のとおり、利用の利便を図りながら、やはり登録者数も貸出し冊数も今後増加させていかなければならないというふうに思っております。図書館の蔵書のリミットもございますので、生涯学習センターと公民館等も含めて、総合的によりよい蔵書数を確保できるよう助言してまいりたいというふうに考えております。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○12番（根本謙一君）　７点目、最後参ります。

28ページの文化財の保存と活用です。ここで向羽黒山城跡の調査事業が載っております。新たな発見もあって、すばらしいところになってきております。白２点目では、町の歴史副読本が活用されているという話もあります。ここで言いたいのは、机上での勉強だけではなくて、私は現場に立たせてほしいなと、現場に連れていってほしいなというふうに思いますけれども、現状はどんなふうになっていますか。

○議長（横山知世志君）　生涯学習課長。

○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどの議員さんのご質問でありますけれども、実際知っている会津美里の歴史ということで、副読本に関しましては各小学校４年生以上にお配りしております。今般その副読本では授業で活用していただくことということもありますけれども、総合学習、社会科見学等で令和３年度におきましては……小学校を対象に現場に出てということは、申し訳ありません。ちょっとなかったところであります。各生涯学習センター、また今回町外の中学生からご要望がありまして、会津の歴史に触れるという一環で、美里町の文化財ということで、そちらのほうにご案内さ

せていただいたという事例はありますけれども、やはり今回その副読本だけではなくて、今後郷土資料館のほうもできますが、実際現物を見て、写真ではなくて現物を見ながらというところも、多く各学校さんのほうに入りまして、いろんな形で活用していただくように努めてまいりたいと考えております。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○12番（根本謙一君）　今の説明で現場に連れていくということは載っていなかったとかなかったような話でしたけれども、教育長は向羽黒山城跡登られていますか。それと、あのすばらしさはやっぱり行かないと分からない。ここの油田の遺構にも、やっぱりしっかり子供たちに知っておいてもらわなければならない。やっぱり現場に連れていかないと説得力は私は持たないと思っておりまして、教育長の考え方を最後に伺っておきたいと思います。行ったことあるかどうかも含めて。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　旧本郷町時代から子供を連れてアスレチックに来たり、マラソン大会に来たついでに登ったりとかしてありましたが、今般観光協会の事業で向羽黒山城の説明会がありましたので、町長共々参加させていただいて、頂上、一曲輪まで登らさせていただきました。大変すばらしい史跡でありますので、やっぱり議員おっしゃるとおり、できるだけ子供たちにも机上の勉強だけではなくて、現場でそのすばらしさを実感してほしいなというふうに考えているところであります。なお、学校に対しましては、地域学校協働活動の中でそういう地域の教育資源に数多く触れるよう、教育課程に盛り込むことは盛り込むよう学校を指導してまいりましたが、今後とも少しでも多くの文化財に直接触れるような体験を学校教育との連携の中で進めていただくよう学校を指導してまいりたいというふうに考えております。

○議長（横山知世志君）　ここで11時35分まで休憩いたします。

休　憩　　（午前１１時２１分）

再　開　　（午前１１時３５分）

○議長（横山知世志君）　再開します。

引き続き報告第16号の質疑を行います。ほかにございませんか。

14番、横山義博議員。

○14番（横山義博君）　26ページの生涯スポーツの充実の中で、基本施策２、スポーツ施設の充実の中でお尋ねいたします。

主な成果と課題の中で、学校施設はいいですけれども、白丸２つ目の「町内20箇所」云々のところ、社会体育施設整理計画を策定したわけです。これについて「関係機関や団体に周知して今後の方向性を示すことができた」と書いてあります。これ町のほうから提示しただけであって、利用者あるいは利用団体からどういうふうな話が来ているのか内容を教えてください。

それと、この下の黒ポチの２つ、両方とも、上は「施設利用の予約システムの導入などを検討していく必要がある」と。ですから、３年の反省ですから、４年はやっていると思うのですけれども、その内容を教えてください。それと、下は本郷地域の話なので、「整理統合について検討する」と書いてあります。現状を教えてください。

以上です。

○議長（横山知世志君）　生涯学習課長、福田富美代君。

○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどの議員の質問の１点目ですが、社会体育施設整理計画策定するに当たって、各団体のほうからのどのような話があったか、意見があったかということのご質問でありますけれども、今回令和４年１月に計画のほうは策定させていただきました。その前段の中で、利用者、策定するに当たって各体育施設、また学校開放ということで学校の体育施設を利用されている団体に関しまして説明会を開催いたしました。確かに体育協会、社会教育関係団体に認定団体等、全てに対して開催するということで周知したところでありますけれども、全団体のほうから説明会のほうに参加はしていなかったというのは現状にございます。また、広くパブリックコメントということの実施をさせていただきましたが、その中では意見としては特に大きな意見はなかったところでございます。これを踏まえて計画のほうを策定させていただきました。ただ、今回の策定については、町の長寿命化計画の補完計画として策定してございます。今後、建物だけではなくて、グラウンドとかテニスコート等、全てを網羅したような形の補完計画として策定しまして、今後の整理計画として策定したところでありますが、今後大きな改修計画、特に高田体育館の大規模改修ということが令和５年度、６年度ということがまずもって目の前にございますので、それに向けて、その高田体育館を利用している団体だけではなくて、いろんな全ての町の体育施設を利用している団体の利用調整が当然必要と考えております。それに当たりましては、いろんな全ての団体のほうに周知しまして、町政アンケート等を取りながら、きちんと体育館が利用できないときもほかの施設を利用できるような形、今の活動が継続できるような形で調整してまいりたいと考えております。意見としては、特に大きな目立った意見ということはこちらのほうに入っていなかったところでございます。

あと、２点目の施設利用の予約施設の導入ということでありますが、今現在体育施設のみならず、こちらの複合文化施設の利用申請に向けての予約システムを導入したいと考えておりまして、今現在業務委託風という形のプロポーザルということで今公告させていただいております。今月末まで業者のほうの申出を受けまして、その後業者選定という形で進めていきたいと考えているところでございます。また、そのシステム利用をする前段の中で、各団体においては、やはり課題としまして各それぞれの施設の利用基準というところにばらつきがあるというところもありましたので、それにつきましては令和４年度利用からに関しましていろんな形で調整を図っておるところでございます。それを踏まえてシステムの導入を考えていきたいと考えております。

あと、３点目の指定管理そのものの整理、統合について検討する必要があるという課題につきまし

ては、今現在、高田地域についてはクラブ衆で、新鶴地域については振興公社のほうに指定管理を委託しております。直営で本郷の体育施設については本郷生涯学習センターで行っているところがあるのですけれども、今後整理計画も踏まえまして、本郷生涯学習センターを本郷庁舎のほうに移転しますと管理する職員のほうが生涯学習センターから体育施設と離れるということございましたので、そういったことを見据えまして、今ちょっと年度には違いはありますけれども、将来的にはまち・ひと、整理計画と合わせて施設が縮減されるということも踏まえて、やはり理想としては町全体の体育施設は１つの指定管理が望ましいかなと考えているところでございます。今回それに向けて検討しているというところで、この表記をさせていただきました。

以上です。

○議長（横山知世志君）　義博議員、１個ずつ行きましょう。

○14番（横山義博君）　はい。

まず、社会体育施設整理計画について答弁あったわけですけれども、実際のところなかなか団体が小さいところもあります。私が言いたいのは、整理、統合をかけているわけです。施設を。改修だったらば同じところをまた使えるわけです。でも、整理、統合をかけて、例えば３つを２つにするとか、２つを１つにするという計画でもって始まった場合、従来そこで使っていた団体はなくなればできない、統合されればどこかに行かなくてはいけない。まして美里町は広いですよね。高田、本郷、新鶴って３地域に施設があったものを１つもしくは２つにするという話が出れば、従来使っていた人たちが違うところに行くわけです。ですから、そういうものもきめ細かく説明していかないと不満が出てくるのです。聞きたかったのは、利用の仕方とかではなくて、そういう計画が、こういうことで町としてやりやりたい、そういう計画をつくりましたと。ここの公共施設等総合管理計画書できていますから。できたときに今後どういうふうに利用していったら利用しやすいかを使っている人の立場でもって計画しないと、どんどん不満が来ます。私が聞いたのは、一番はやっぱり屋外でやる方々です。体育館の施設とか、学校の施設を使える。ところが、今のところは、本郷１か所はなくなるという話なのですけれども、統廃合していくわけです。だから、廃止された地域の人がどうなっているのだよという話なのです。我々は、これもらったので、その内容は一応説明しました。年度予定ね。しましたけれども、担当としてこういうふうにやりますって、だから整理計画書を提示して、利用団体の代表者に言ったはいいけれども、あまり集まらなかったという話ではなくて、その人たちの中である程度話をしてきてもらって、意見を出してくださいみたいな、そういう進め方をしていかないと不満が出ます。どういうふうに進めていくか考えを教えてください。

○議長（横山知世志君）　生涯学習課長、簡潔にお願いします。

○生涯学習課長（福田富美代君）　分かりました。大変申し訳ありません。

今ほどの議員のおただしに関しましてなのですけれども、先ほど高田改修の事例も申し上げましたが、今後もちろん廃止する施設もございます。そういった上で、全ての団体のほうにアンケートまた

は利用調整、またこちらのほうで調整するだけではなくて、施設の利活用、今休館日とかもありますので、休館日をなくすとか、広いそういった改善もしつつ、また各団体のほうの意見もきちんと聞きながら、きめ細かに対応していきたいと考えております。

○議長（横山知世志君）　横山議員。

○14番（横山義博君）　下の黒ポチ２つと一緒で話しさせてもらいますけれども、今言ったように、ちょっと繰り返しになるかもしれないけれども、なくなる地域のところはそのスポーツをやっている人たちがほかに行かなくてはいけない。行ったはいいけれども、ではそこで従来今のところで申込みしたり何か予約しているのに、ほかの地域は利用していないから、どういうふうにしたらいいだろうという話が出てくる。ですから、そういうものを含めてきちんとトータルで考えてやっている方々に提示していかないと本当に困ると思うのです。特に例えば何十人もいる団体だと声が大きいかもしれしれないけれども、季節的に使う人とか物によっては、そういう人たちも、小さいグループもありますので、いわゆる利用申込みの名簿からでも拾い上げて、そういうグループにも連絡してあげないといけないと思うので、その点も含めて答弁お願いします。

○議長（横山知世志君）　生涯学習課長。

○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどの議員からのおただしですが、個人で利用されている方もおりますので、今現在施設を利用している全ての団体に漏れることなく、それぞれ皆さんの意見を傾聴しながらしっかり進めてまいります。

○議長（横山知世志君）　ほかにありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　ないようですので、質疑なしと認めます。

これをもって報告第16号を終了いたします。

○議案第５８号の議題、説明、質疑、討論、採決

○議長（横山知世志君）　続いて、日程第５、議案第58号　会津美里町温泉施設等条例を廃止する条例を議題といたします。

ここで、当局より内容の説明を求めます。

産業振興課長、小林隆浩君。

〔産業振興課長（小林隆浩君）登壇〕

○産業振興課長（小林隆浩君）　それでは、議案第58号、会津美里町温泉施設等条例を廃止する条例についてご説明申し上げます。

議案書27ページ、併せまして提出案件資料４ページの下段を御覧いただきたいと存じます。本案につきましては、少子高齢化の進行や社会構造、住民ニーズの変化、町村合併により類似施設を多数抱えている状況の中、公共施設の最適化を図ることを目的とした会津美里町公共施設等総合管理計画及

び会津美里町温泉施設利活用処分方針に基づき、民間への売却等を推進してまいりました。町内３つの温泉施設を廃止するものでございます。

まず、新鶴温泉健康センター及び宿泊研修施設ほっとぴあ新鶴についてでございます。町といたしましては、費用対効果の面からも民間への売却を第一として進めてまいりました。このたび民間法人に譲渡できる見込みとなりました。これによりまして、令和５年度以降の10年間で想定される維持管理経費でございますが、概算で約９億7,000万と試算しております。この財政負担が縮減された上で、引き続き温泉施設を利用することができるため、廃止させていただくものでございます。

次に、高田温泉あやめの湯についてでございますが、施設老朽化や源泉温度の低下、温泉湧出量の減少等により温泉施設施設としての維持管理が困難なことから、廃止させていただくものです。

なお、施行期日につきましては、令和５年４月１日とさせていただくものでございます。

説明は以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（横山知世志君）　ここで午後１時まで休憩といたします。

休　憩　　（午前１１時５０分）

再　開　　（午後　１時００分）

○議長（横山知世志君）　再開いたします。

議案第58号の説明が終わりました。

質疑があればこれを許可いたします。質疑はありませんか。

２番、大竹議員。

○２番（大竹　惣君）　先日の全員協議会にて、あやめの湯の廃止に向けての経緯や、あとその廃止の理由の部分を町民への説明はどういうふうにするのかというお話があったと思うのですけれども、その中の答弁で住民説明会を複数回行っているのと、あとホームページに掲載するという説明がありました。しかしながら、住民説明会に参加していない町民の方々から廃止の理由を知りたいという問合せが私のところに多数ありましたので、またこれはホームページも見ない方もおりますし、前段でホームページに掲載している旨の周知を図る必要もあると思います。したがって、町の広報などを活用し、廃止に至った経緯や具体的な理由をもっと丁寧に周知する必要があると思いますが、考えを伺います。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　お答えします。

住民説明会等本当に以前からやってきたわけではありますが、確かにたくさんの方が参加していただいたというわけではございません。そういうこともありまして、今後ホームページ、あと広報等使いまして、廃止理由などはきちっと説明していきたいと考えております。

○議長（横山知世志君）　大竹君。

○２番（大竹　惣君）　今の答弁は、前向きな答弁だと感じました。やはりしっかりした説明があれば納得してくださる住民は多いと思います。このあやめの湯だけではなく、新鶴温泉健康センターにも同じことが言えますので、なるべく多くの住民への周知を図ることを期待しまして、質問を終わります。

○議長（横山知世志君）　６番、長嶺一也議員。

○６番（長嶺一也君）　質疑を行います。

今回の議案58号を提案するに当たりまして、その一連の手続と、令和２年６月12日、町議会、町温泉施設等条例の一部を改正する条例を議会が議会否決したわけなのですけれども、その手続上何か違いはあったのでしょうか。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　湯陶里の廃止ということの案件だと思いますが、そのときと温泉の売却の手続としましては、本当に同じような町民参加の手続ですか、住民説明会ですとか、そういったものは同じようにしっかりやってきたということでございます。

○議長（横山知世志君）　長嶺議員。

○６番（長嶺一也君）　私が聞きたいのは、その売却のことではなくて、令和２年６月の条例を議会に提案する手続、この条例は我々議会が議決したわけなのですけれども、この議会に提案するまでの手続と今回の議案58号を提案するに当たっての手続、何ら違いがあったのかどうかを確認したいのです。

○議長（横山知世志君）　副町長、佐々木吉一君。

○副町長（佐々木吉一君）　では、私のほうからお答えさせていただきたいと思います。

今、長嶺議員がおっしゃった令和２年６月会議で本郷の湯陶里の売却の議決をいただきました。その段階で何が必要かというと、行政財産のままでは処分できませんので、行政財産から普通財産に持っていかなければならない。普通財産になったところで初めて売却の議案というものに対して提案できるという部分がございます。今回もやはり同じように、まずは行政財産から普通財産のほうへ分類替えというような形の、まず手続上の最初の段階だということでご理解していただきたいと思います。

○議長（横山知世志君）　長嶺議員。

○６番（長嶺一也君）　では、手続は同じだという理解でよろしいですね。

○議長（横山知世志君）　副町長。

○副町長（佐々木吉一君）　はい、全くそのとおりでございます。

○議長（横山知世志君）　根本謙一議員。

○12番（根本謙一君）　何点か伺います。

この廃止条例……

○議長（横山知世志君）　マイク近づけてください。

○12番（根本謙一君）　廃止条例の提案で、この説明の中で、いわゆるあやめの湯の廃止理由は大変理解できます。これは、本当にいろいろあってここまで引っ張ってきたという、行政側の努力も相まって町民の理解は私は進んできていたというふうに受け止めておりました。ただし、この新鶴温泉等の施設については、いわゆる説明会への住民の参加についても、先ほど課長からも答弁ありましたように、本当に少ない中で本当に理解が進んだのかというと、私はそうはなっていないと。ましてやその代弁者である議会に対しての説明も、ここに来て２回ほどやりましたけれども、資料等もなかなか当初から十分に出されていなくて時間を使ってきたと、推移してきたという現実がございます。議論そのものが十分にできない中で、所管としては説明を尽くしたという認識なのか、まずそこを伺いたいと思います。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　議会に対する説明につきましては、湯陶里の売却が……

〔「いやいや、議会じゃなく町民ですよ。町民と議会」
と言う人あり〕

○産業振興課長（小林隆浩君）　町民に対しましては、やっぱり住民説明会ということで毎年２回ないし１回は令和３年度、令和４年度というのも行っていますし、それ以前に温泉売却の必要性というのですか、どういった目的で民間譲渡を進めているかというのにつきましては、もう平成30年度から毎年やっておりまして、特に30年、31年の頃はたくさん人も来ておりました。同じような説明になっているので、だんだんちょっと人減ってきたというところはあります。ただ、利用者の方にはある程度の理解はしていただいていると考えております。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○12番（根本謙一君）　いや、違う。議会に対して言っていないですよね。

○議長（横山知世志君）　町民って言いませんでした。

○12番（根本謙一君）　いや、町民と議会に対してということです。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　議会に対しても、特にこの新鶴温泉の売却につきましては、令和３年９月の常任委員会をはじめとして、令和３年12月13日の常任委員会、令和４年２月８日の全員協議会、令和４年３月７日の常任委員会、あと令和４年６月13日の常任委員会、あと７月26日の全員協議会、また８月３日も全員協議会ということで、本当に定例会議があるときは必ずというほど全員協議会のほうにも説明して、募集要項などを作って、公募する際には全員協議会で説明して、ご意見を聞いておりますので、議会に対しましてはできる限りの本当に説明は行ったというふうに考えております。

○議長（横山知世志君）　根本謙一議員。

○12番（根本謙一君）　説明会を行ったということではないです、私が聞いているの。説明を尽くし

たという認識ですかということを伺ったのです。本当に詳しい説明に入ったのは今年度に入ってからです。でしょう。それまでは方向性、考え方です。それは、議会としても受け止めて、総合管理計画も認めてきたではないですか、確かに。新鶴温泉施設に関しては、もしも民間譲渡にならなかった場合は６年度、７年度において町としてしっかりリニューアルして、それ相応の宿泊施設がない町でもあるから、そこはしっかり取り組んでいきますという計画になっているから、我々議会議員としてもその辺は安心して認めてきたというところだというふうに私は認識しております。そこの認識が執行側は少し薄いというふうに私は受け止めています。先ほど言いましたように、しっかり説明、この廃止することに向けて。だって、この廃止条例の提案理由に民間譲渡見込みとなっているのです。見込み。だから、今議論沸騰しているのではないですか。だから、以前の説明と一緒くたにして説明はやっています。何回もやっています。回数の問題ではないです。そこを何のためにあの施設はあったの、今後考えたときにどうすればいいのというところで、この条例を本当になくしていいのかどうなのかって今境目ではないですか。このタイミングで。私は、何でこんなに、まだ十分でないにもかかわらず、急いで議決しなければならないの。何かほかに理由があるのですかということも併せて伺いたいです。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　ただいまの質問にお答えします。

　特別急いでいるというわけではございませんで、６月に譲渡先法人も決まってから、６月の常任委員会のほうでも途中経過ということで、内容的には昨年の９月頃から一貫的に同じような説明をして、経過を逐次お伝えしてきたというふうに考えております。もともと温泉につきましては民間売却を基本としております。やっぱり民間のノウハウを生かして、よいサービスを提供していただきたいと。それが結果として利用者の皆様のことになるということで進めてきておりますので、今回の譲渡につきましてもそのような思いで進めてきております。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○12番（根本謙一君）　いや、だから民間に移せばサービスが向上する、それは私は幻想だと思っています。相当町側でしっかりしないと。湯陶里の問題もあるではないですか。湯陶里だって、住民が、ああ、民間になってよかったなという声届いていますか。やっぱり違う声のほうが大きいではないですか。だから、そういうことも踏まえると、ここはちゃんと慎重に議会とも、それから町民にも説明しながら、議論しながら、しっかりこれでいいねと、これで理解得られたねという判断ができるところまで持っていく、それが丁寧な進め方だと私は思います。常任委員会でも同じことを説明する。同じことではないではないですか。前回初めてですよ、あれだけの詳しい資料を出されたのは。ですよね。だから、そういうことも含めて私言っているのです。だから、理解が進んでいない中で、どうしてこのタイミングで出すのですか。そこにあなたはしっかり納得できる説明はされていないと私は受け止めます。再度の答弁お願いします。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　もちろん今回のタイミングで出したと申しますのは、この募集要項自体で温泉の譲渡は来年の４月１日以降ということで募集もしております。逆算しますと今ある程度この辺ではっきりしないと人員の関係もありますので、公社のほうも来年度どのように、公社に勤めている方も本当に自分の身分がどうなるのかというのも分からない状態ですし、あと当然民間譲渡しまして新たに営業開始するためには事前の準備もございますので、やはり今が本当に適切な時期というか、本当にこれ以上なかなか遅らせるわけにはいかないというふうには考えております。

○議長（横山知世志君）　ほかにありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　質疑なしと認めます。

これをもって質疑を終了いたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許可します。反対討論はありませんか。

７番、村松尚議員。

○７番（村松　尚君）　私は、議案第58号　会津美里町温泉施設等条例を廃止する条例について、次の理由により反対する。

本案は、住民の福祉を増進する目的と町の観光と振興の発展に寄与する目的で設置されたものであり、本条例を廃止することは、町は住民に対し、福祉の増進、観光の振興の発展は必要ないと言っているに等しい。今回の廃止案は、先般１社から応札があり、調査費用に要した金額に至ったため、相殺する条件が整い、売渡しを前提に廃止する条例であるが、新鶴温泉健康センターは住民の福祉を増進することを目的とした施設であり、宿泊研修施設ほっとぴあ新鶴は観光の振興と福利厚生施設を兼ね備えた施設でもある。また、新鶴地域は観光資源が多く、その目的達成に向け、周辺整備をしているさなかであり、これからがその結果が現れてくると考えられる。その裏づけとして、町ではインバウンドなど観光誘致を目的として、会津地域スマートシティ推進協議会、構成市町村の一会員でもあることが施策評価シート（平成29年度実施施策）にあり、政策名、元気と賑わいのある産業づくり、施策名、観光の振興等に内容が記載されている。また、この協議会に対し、負担金として平成28年度には1,556万円、29年度には296万円、30年度には272万3,000円、そして平成31年度当初予算には266万4,000円が計上されており、多くの負担金を支出している。このようなことから、今回の廃止条例は観光と振興の目的に対して真逆のことであると言わざるを得ない。あくまで設置条例の目的は、住民の福祉を増進する目的とともに、町の観光の発展と振興に寄与する目的のために設置された条例である。新鶴地域には、昨年から郷土資料館（仮称）の整備も行っており、その周辺を取り巻く観光施設に中田観音、ブドウ園、新鶴ワイナリーなどがあり、新鶴スマートインターチェンジも整備され、町の北の玄関口としての役割が整いつつある。さらには、６月開催の地区別意見交換会の席上において、

さきに売却した本郷地域の住民より、町内には町としての温泉施設が必要との声も上がったこと、高田温泉あやめの湯利用者からも同様の声があることから、住民の福祉の増進と観光の振興の発展を目的に上げた本条例を廃止する理由はどこにも見当たらない。周辺の整備に向けた事業推進を行うことで施設の持つ付加価値及び重要性はさらに高まることは容易に推測できる。

以上の理由から、本案に対し反対する。趣旨ご理解の上、ご賛同を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（横山知世志君）　賛成討論はありませんか。

6番、長嶺一也議員。

○6番（長嶺一也君）　6番、長嶺一也です。議長より発言の許可をいただきましたので、議案第58号会津美里町温泉施設等条例を廃止する条例に係る賛成の討論を行います。

まず、私どもの議会が温泉施設の有効な利活用のため、「民間への貸付、譲渡又は売却を推進する」と記載された町公共施設等総合管理計画を平成28年３月に議決して、その議決に基づきまして町のほうでは手続を進めてまいりました。それをこの期に及んで本条例を廃止する条例を反対することは、議会が過去に賛成した当該計画書を反対するようなものです。議会がこのような反対をしてよいのでしょうか。反対し、本議案が否決されるようなことになれば、町民から議会に対する信頼がまた揺らいでしまうと私は危惧いたします。条例廃止が否決された場合、新鶴温泉とあやめの湯の２つの施設の運営は継続して町が行うことになります。現在、地方自治法第244条の２第３項の規定により町振興公社が指定管理者として運営していますが、その管理運営の委託契約は令和５年３月までであります。当該施設運営を継続して町が行うとき、指定管理者を募集しなければいけません。指定管理者選定に当たっては、通常７月から８月に募集をかけ選定し、定例会12月会議の議決がなければ新年度４月からの運営ができなくなってしまいます。町は、現指定管理者に対し、運営は令和５年３月までと言っているはずなので、再度令和５年４月以降の指定管理者として応募することはないと思います。反対するのであれば、令和５年４月以降の運営する適任者がいるのか提示するべきです。否決されれば、２つの施設は地方自治法第244条第１項に規定する公の施設でありますので、町が運営しなければなりません。指定管理者が決定するまでは町職員が運営するしかないと思いますが、そのような職員はいるのでしょうか。さらには、町が運営していくにはそれ相応の経費が発生します。その経費は、町民の税金であることは火を見るより明らかです。施設の条例で残すことは町民の負担を強いることになりませんか。廃止理由の一つに民間譲渡と挙げていますが、単刀直入で分かりやすい理由だと私は思います。新鶴温泉施設等はなくなるわけではありません。民間活力を使って運営していくわけですので、利用者のサービスは以前と変わらないものと私は思います。これまでの執行部からの説明では、あやめの湯は温泉施設の用をなさなくなったため、町民福祉向上の施設の機能がなくなった、新鶴温泉等は町公共施設等総合管理計画に基づき、計画より１年は遅れましたが、ほぼ計画どおり移譲候補者を選定し、町の運営が不要となったため、条例を廃止するとのことでした。この説明以上にど

のような説明があるのか、あれば理解するのでしょうか。議会が受けた説明以上の説明はないと思います。本議案を反対するのであれば、町の財源を負担せずどのように２つの施設を運営していくのか、納得のいく対案を提示してほしいと思います。対案がないのであれば反対すべきではないと強く申し上げます。

以上申し述べて賛成の討論といたします。

○議長（横山知世志君）　反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　ないようですので、討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより議案第58号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を原案のとおり決することに賛成の方は賛成のボタン、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

反対多数。

よって、本案は否決されました。

ここで、ちょっと時間想定できないのですが、休憩いたします。

休　憩　　（午後　１時２７分）

再　開　　（午後　２時３０分）

○議長（横山知世志君）　再開します。

○日程の追加

○議長（横山知世志君）　９月５日、町長から提出された議案第59号　令和４年度会津美里町一般会計補正予算（第４号）について、撤回したいとの申出があります。

議案第59号　令和４年度会津美里町一般会計補正予算（第４号）の議案撤回の件を日程に追加し、追加日程第１として日程の順序を変更し、直ちに議題としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

議案第59号　令和４年度会津美里町一般会計補正予算（第４号）の議案撤回の件を日程に追加し、

追加日程第１として日程の順序を変更し、直ちに議題とすることに決定いたしました。

ここで暫時休議します。

休　憩　　（午後　２時３１分）

再　開　　（午後　２時３２分）

○議長（横山知世志君）　再開します。

○議案第５９号　令和４年度会津美里町一般会計補正予算（第４号）の議案撤回の件

○議長（横山知世志君）　追加日程第１、議案第59号　令和４年度会津美里町一般会計補正予算（第４号）の議案撤回の件を議題といたします。

町長から議案第59号　令和４年度会津美里町一般会計補正予算（第４号）の議案撤回の理由について説明を求めます。

町長、杉山純一君。

〔町長（杉山純一君）登壇〕

○町長（杉山純一君）　議案撤回の件について説明申し上げます。

９月５日に提出いたしました議案第59号　令和４年度会津美里町一般会計補正予算（第４号）から議案第67号　令和４年度永井野財産区特別会計補正予算（第１号）までの９議案について撤回したいので、会津美里町議会会議規則第20条の規定により許可を求めるものであります。

本件は、議案第58号　会津美里町温泉施設等条例を廃止する条例が否決されたことに伴い、議案第59号　令和４年度会津美里町一般会計補正予算（第４号）の第２表、債務負担行為補正との整合性が図れないことから、当該議案を撤回するものであります。また、一般会計補正予算の撤回に伴い、関連する特別会計補正予算についても撤回するものであります。

私からの説明は以上であります。

○議長（横山知世志君）　お諮りします。

ただいま議題になっております議案第59号　令和４年度会津美里町一般会計補正予算（第４号）の議案撤回の件を許可することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

よって、議案第59号　令和４年度会津美里町一般会計補正予算（第４号）の議案撤回の件を許可することに決定いたしました。

○日程の追加

○議長（横山知世志君）　同じく９月５日、町長から提出された議案第60号　令和４年度会津美里町国民健康保険特別会計補正予算（第２号）について、撤回したいとの申出があります。

議案第60号　令和４年度会津美里町国民健康保険特別会計補正予算（第２号）の議案撤回の件を日程に追加し、追加日程第２として日程の順序を変更し、直ちに議題としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

議案第60号　令和４年度会津美里町国民健康保険特別会計補正予算（第２号）の議案撤回の件を日程に追加し、追加日程第２として日程の順序を変更し、直ちに議題とすることに決定しました。

暫時休議します。

休　憩　　（午後　２時３５分）

再　開　　（午後　２時３７分）

○議長（横山知世志君）　再開します。

○議案第６０号　令和４年度会津美里町国民健康保険特別会計補正予算（第２号）の議案撤回の件

○議長（横山知世志君）　追加日程第２、議案第60号　令和４年度会津美里町国民健康保険特別会計補正予算（第２号）の議案撤回の件を議題といたします。

撤回の理由については先ほど町長から説明がありましたので、省略いたします。

お諮りいたします。ただいま議題となっています議案第60号　令和４年度会津美里町国民健康保険特別会計補正予算（第２号）の議案撤回の件を許可することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

よって、議案第60号　令和４年度会津美里町国民健康保険特別会計補正予算（第２号）の議案撤回の件を許可することに決定いたしました。

○日程の追加

○議長（横山知世志君）　同じく９月５日、町長から提出された議案第61号　令和４年度会津美里町介護保険特別会計補正予算（第２号）について、撤回したいとの申出があります。

議案第61号　令和４年度会津美里町介護保険特別会計補正予算（第２号）の議案撤回の件を日程に追加し、追加日程第３として日程の順序を変更し、直ちに議題としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

よって、議案第61号　令和４年度会津美里町介護保険特別会計補正予算（第２号）の議案撤回の件を日程に追加し、追加日程第３として日程の順序を変更し、直ちに議題とすることに決しました。

暫時休議します。

休　憩　　（午後　２時３８分）

再　開　　（午後　２時３９分）

○議長（横山知世志君）　再開します。

○議案第６１号　令和４年度会津美里町介護保険特別会計補正予算（第２号）の議案撤回の件

○議長（横山知世志君）　追加日程第３、議案第61号　令和４年度会津美里町介護保険特別会計補正予算（第２号）の議案撤回の件を議題といたします。

町長から議案第61号　令和４年度会津美里町介護保険特別会計補正予算（第２号）の議案撤回の申出がありました。理由については先ほど町長から説明がありましたので、省略いたします。

お諮りいたします。ただいま議題となっています議案第61号　令和４年度会津美里町介護保険特別会計補正予算（第２号）の議案撤回の件を許可することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

よって、議案第61号　令和４年度会津美里町介護保険特別会計補正予算（第２号）の議案撤回の件を許可することに決定いたしました。

○日程の追加

○議長（横山知世志君）　同じく９月５日、町長から提出された議案第62号　令和４年度会津美里町後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）について、撤回したいとの申出があります。

議案第62号　令和４年度会津美里町後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）の議案撤回の件を日程に追加し、追加日程第４として日程の順序を変更して直ちに議題としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

議案第62号　令和４年度会津美里町後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）の議案撤回の件を日程に追加し、追加日程第４として日程の順序を変更し、直ちに議題とすることに決定いたしました。

暫時休議します。

休　憩　　（午後　２時４１分）

再　開　　（午後　２時４２分）

○議長（横山知世志君）　再開します。

○議案第６２号　令和４年度会津美里町後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）の議案撤回の件

○議長（横山知世志君）　追加日程第４、議案第62号　令和４年度会津美里町後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）の議案撤回の件を議題といたします。

町長から議案第62号　令和４年度会津美里町後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）の議案撤回の理由については先ほど説明がありましたので、省略いたします。

お諮りいたします。ただいま議題となっています議案第62号　令和４年度会津美里町後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）の議案撤回の件を許可することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

よって、議案第62号　令和４年度会津美里町後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）の議案撤回の件を許可することに決定いたしました。

○日程の追加

○議長（横山知世志君）　同じく９月５日、町長から提出された議案第63号　令和４年度会津美里町工業団地造成事業特別会計補正予算（第２号）について、撤回したいとの申出があります。

議案第63号　令和４年度会津美里町工業団地造成事業特別会計補正予算（第２号）の議案撤回の件を日程に追加し、追加日程第５として日程の順序を変更し、直ちに議題としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

議案第63号　令和４年度会津美里町工業団地造成事業特別会計補正予算（第２号）の議案撤回の件を日程に追加し、追加日程第５として日程の順序を変更し、直ちに議題とすることに決定いたしました。

暫時休議します。

休　憩　　（午後　２時４４分）

再　開　　（午後　２時４５分）

○議長（横山知世志君）　再開します。

○議案第６３号　令和４年度会津美里町工業団地造成事業特別会計補正予算（第２号）の議案撤回の件

○議長（横山知世志君）　追加日程第５、議案第63号　令和４年度会津美里町工業団地造成事業特別会計補正予算（第２号）の議案撤回の件を議題といたします。

町長から議案第63号　令和４年度会津美里町工業団地造成事業特別会計補正予算（第２号）の議案撤回の申出があり、理由については先ほど説明されましたので、省略いたします。

お諮りいたします。ただいま議題となっています議案第63号　令和４年度会津美里町工業団地造成事業特別会計補正予算（第２号）の議案撤回の件を許可することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

よって、議案第63号　令和４年度会津美里町工業団地造成事業特別会計補正予算（第２号）の議案撤回の件を許可することに決定いたしました。

○日程の追加

○議長（横山知世志君）　同じく９月５日、町長から提出された議案第64号　令和４年度会津美里町住宅用地造成事業特別会計補正予算（第１号）について、撤回したいとの申出があります。

議案第64号　令和４年度会津美里町住宅用地造成事業特別会計補正予算（第１号）の議案撤回の件を日程に追加し、追加日程第６として日程の順序を変更し、直ちに議題としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

議案第64号　令和４年度会津美里町住宅用地造成事業特別会計補正予算（第１号）の議案撤回の件を日程に追加し、追加日程第６とし、日程の順序を変更し、直ちに議題とすることに決定しました。

暫時休議します。

休　憩　　（午後　２時４６分）

再　開　　（午後　２時４８分）

○議長（横山知世志君）　再開します。

○議案第６４号　令和４年度会津美里町住宅用地造成事業特別会計補正予算（第

１号）の議案撤回の件

○議長（横山知世志君）　追加日程第６、議案第64号　令和４年度会津美里町住宅用地造成事業特別会計補正予算（第１号）の議案撤回の件を議題といたします。

町長から議案第64号　令和４年度会津美里町住宅用地造成事業特別会計補正予算（第１号）の議案撤回の申出がありました。理由については先ほど説明されましたので、省略いたします。

お諮りします。ただいま議題となっています議案第64号　令和４年度会津美里町住宅用地造成事業特別会計補正予算（第１号）の議案撤回の件を許可することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

よって、議案第64号　令和４年度会津美里町住宅用地造成事業特別会計補正予算（第１号）の議案撤回の件を許可することに決定いたしました。

○日程の追加

○議長（横山知世志君）　同じく９月５日、町長から提出された議案第65号　令和４年度会津美里町水道事業会計補正予算（第２号）について、撤回したいとの申出があります。

議案第65号　令和４年度会津美里町水道事業会計補正予算（第２号）の議案撤回の件を日程に追加し、追加日程第７として日程の順序を変更し、直ちに議題としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

議案第65号　令和４年度会津美里町水道事業会計補正予算（第２号）の議案撤回の件を日程に追加し、追加日程第７として日程の順序を変更し、直ちに議題とすることに決定いたしました。

暫時休議します。

休　憩　　（午後　２時４９分）

再　開　　（午後　２時５０分）

○議長（横山知世志君）　再開します。

○議案第６５号　令和４年度会津美里町水道事業会計補正予算（第２号）の議案撤回の件

○議長（横山知世志君）　追加日程第７、議案第65号　令和４年度会津美里町水道事業会計補正予算（第２号）の議案撤回の件を議題といたします。

町長から議案第65号　令和４年度会津美里町水道事業会計補正予算（第２号）の議案撤回の申出が

ありました。理由については先ほど説明されましたので、省略します。

お諮りいたします。ただいま議題となっています議案第65号　令和４年度会津美里町水道事業会計補正予算（第２号）の議案撤回の件を許可することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

よって、議案第65号　令和４年度会津美里町水道事業会計補正予算（第２号）の議案撤回の件を許可することに決定いたしました。

○日程の追加

○議長（横山知世志君）　同じく９月５日、町長から提出された議案第66号　令和４年度会津美里町下水道事業会計補正予算（第２号）について、撤回したいとの申出があります。

議案第66号　令和４年度会津美里町下水道事業会計補正予算（第２号）の議案撤回の件を日程に追加し、追加日程第８として日程の順序を変更し、直ちに議題としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

議案第66号　令和４年度会津美里町下水道事業会計補正予算（第２号）の議案撤回の件を日程に追加し、追加日程第８として日程の順序を変更し、直ちに議題とすることに決定しました。

暫時休議します。

休　憩　　（午後　２時５２分）

再　開　　（午後　２時５３分）

○議長（横山知世志君）　再開します。

○議案第６６号　令和４年度会津美里町下水道事業会計補正予算（第２号）の議案撤回の件

○議長（横山知世志君）　追加日程第８、議案第66号　令和４年度会津美里町下水道事業会計補正予算（第２号）の議案撤回の件を議題といたします。

町長から議案第66号　令和４年度会津美里町下水道事業会計補正予算（第２号）の議案撤回の申出がありました。理由については先ほど説明されましたので、省略いたします。

お諮りいたします。ただいま議題となっております議案第66号　令和４年度会津美里町下水道事業会計補正予算（第２号）の議案撤回の件を許可することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

よって、議案第66号　令和４年度会津美里町下水道事業会計補正予算（第２号）の議案撤回の件を許可することに決定いたしました。

○日程の追加

○議長（横山知世志君）　同じく９月５日、町長から提出された議案第67号　令和４年度永井野財産区特別会計補正予算（第１号）について、撤回したいとの申出があります。

議案第67号　令和４年度永井野財産区特別会計補正予算（第１号）の議案撤回の件を日程に追加し、追加日程第９として日程の順序を変更し、直ちに議題としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

議案第67号　令和４年度永井野財産区特別会計補正予算（第１号）の議案撤回の件を日程に追加し、追加日程第９として日程の順序を変更し、直ちに議題とすることに決定いたしました。

暫時休議します。

休　憩　　（午後　２時５５分）

再　開　　（午後　２時５６分）

○議長（横山知世志君）　再開します。

○議案第６７号　令和４年度永井野財産区特別会計補正予算（第１号）の議案撤回の件

○議長（横山知世志君）　追加日程第９、議案第67号　令和４年度永井野財産区特別会計補正予算（第１号）の議案撤回の件を議題といたします。

町長から議案第67号　令和４年度永井野財産区特別会計補正予算（第１号）の議案撤回の申出がありました。理由については先ほど説明されておりますので、省略いたします。

お諮りいたします。ただいま議題となっています議案第67号　令和４年度永井野財産区特別会計補正予算（第１号）の議案撤回の件を許可することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

よって、議案第67号　令和４年度永井野財産区特別会計補正予算（第１号）の議案撤回の件を許可することに決定いたしました。

ただいま議案第59号の議案撤回がありましたので、日程第６を欠番といたします。

○同意第２号の議題、質疑、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第７、同意第２号　会津美里町教育委員会委員の任命につき同意を求めることについてを議題といたします。

これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　質疑なしと認めます。

これをもって質疑を終了いたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許可します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより同意第２号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を原案のとおり同意することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定します。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり同意されました。

○諮問第２号の議題、採決

○議長（横山知世志君）　日程第８、諮問第２号　人権擁護委員候補者の推薦についてを議題といたします。

お諮りいたします。本件は、お手元に配付した意見書のとおり答申したいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

よって、諮問第２号はお手元に配付した意見書のとおり答申することに決しました。

○諮問第３号の議題、採決

○議長（横山知世志君）　日程第９、諮問第３号　人権擁護委員候補者の推薦についてを議題といたします。

お諮りいたします。本件は、お手元に配付しました意見書のとおり答申したいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

よって、諮問第３号はお手元に配付した意見書のとおり答申することに決しました。

暫時休議します。

休　憩　　（午後　２時５９分）

再　開　　（午後　３時０１分）

○議長（横山知世志君）　再開します。

○総括質疑

○議長（横山知世志君）　日程第10、総括質疑を行います。

総括質疑については、まず質疑事項を告げ、その後質疑事項ごとに一問一答方式で行います。総括質疑は、所管ごとの議案順に一括して審議したいと思いますが、これに異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

それでは、認定第２号　令和３年度会津美里町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について、認定第３号　令和３年度会津美里町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について、認定第４号　令和３年度会津美里町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定についてを一括審議に付します。

質疑はありませんか。

12番、根本謙一議員。

○12番（根本謙一君）　認定第３……

○議長（横山知世志君）　マイクお願いします。

○12番（根本謙一君）　認定第３号についてお願いしたいと思います。成果説明書のほうから２点についてお願いしたいと思います。１点目は、68ページの一般介護予防事業と70ページの生活支援体制整備事業、これを一体的にしてお伺いしたいと思います。２点目は、71ページの認知症対策総合支援事業についてお願いしたいと思います。

まず、１点目ですけれども、ここでは集いの場のことで活動実績成果が載っております。70ページの部分でも、この実績成果が載っております。このコロナ禍の中において本当に努力してやってこられたのだなというのがここから読み取れますけれども、そういう中で集いの場で数は増えているもの、

設置箇所目標よりも増えているという、45地区に設けられたということで。ただ、地域的にいろいろ濃淡といいますかね、地域性があるという言い方していいのか分かりませんけれども、いろいろ今一生懸命サポートしながら、あるいは支援しながら事業が展開されていると思いますけれども、現場でお話を伺うと、地域によってなかなかリーダーが育っていない、地域全体としての育ちがまだまだ見えていない状況を支援者側からは伺っております。この点は確かにいろいろ温度差はあるでしょうけれども、所管としてどのように捉えているのか。これだけの数、集いの場が増えているわけですので、ご苦労も多いかとは思いますけれども、そのところの認識を伺いたいと思います。

○議長（横山知世志君）　健康ふくし課長、平山正孝君。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　介護保険の決算の部分でということで、70ページ、68ページの部分ということですが、集いの場のリーダーが育っていないと、地区によってばらつきがあるということについての町としての考えということでよろしかったでしょうか。

〔「はい」と言う人あり〕

○健康ふくし課長（平山正孝君）　町といたしましても、ばらつきがあるというのは若干認識はしております。そこについて町といたしまして包括支援センター等も加わりながら支援をしつつ、リーダーの育成等に努めているところであり、今後も支援通して支援をしながら育成をしていきたいと考えているところです。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○12番（根本謙一君）　当然しっかり支援されているということは、その現場での声の中にもたくさんいただいてきました。やっぱり根気の要る支援だと思います。いわゆるこの目的であります主体的な地域活動というところで、ここをややもするとやるかやらないかは地域で考えるのですよというようなちょっと離れたスタンスは、やっぱりやってはいけないと思っております。高齢者ですから、いろいろ若い人の活動と違って、なかなかフットワークもうまくいかないし、困ることも多かろうと想像します。そういった場合にしっかり寄り添っていただく必要があるというところで、向き合っていくべきだというふうに思いますけれども、その点についてもお伺いしておきたいと思います。

○議長（横山知世志君）　健康ふくし課長。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　基本的には各集いの場の自主的な活動という形でお願いしたいと考えております。一般質問のほうでもお答えさせていただきましたが、立ち上がりの時点での支援、それはしっかりやっていきたい。あと、その後につきましては、自主的な運営、その部分について町としても保健師と職員のほうの講話とか、そういった事業の支援という形で、コーチとかという形で後押しをしていきたいというふうに考えております。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○12番（根本謙一君）　基本的にはそれでいいと私も思います。ただ、立ち上げには力を入れるけれども、その後の継続というのが皆さん地域、地域でご苦労している部分です。これが実態だと思いま

す。そのところもしっかりサポートしていっていただきたいなというふうに思います。ここは答弁いいです。

では、２点目行きます。71ページですけれども、認知症対策の総合支援事業のところで、サポーターが目標以上にもういっているということで、サポート体制が進んでいるという答弁も一般質問の中でいただきました。そういう体制整備的には整いつつあるのかなとも思います。そこの中で、やはりこれからは中身を濃くしていく必要があるだろうと。それぞれ地域的な、あるいはサポーターとしての進化、実質化を図る必要があると思うのです。いわゆる簡単に言ってしまうと充実していかなければならない。あと、数にこだわる必要はなくて、進化させるという方向かなというふうに思いますけれども、現在のご認識だけ伺っておきたいと思います。

○議長（横山知世志君）　健康ふくし課長。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　認知症サポーターの養成につきましては、今までで6,000人近くということになっております。人を増やすだけではなく、さらにスキルアップをという点をご指摘いただきました。町といたしましても、講習を受けた方にさらにスキルアップ講習というものを実施しております。ただ、このコロナ禍の中で密になるということでなかなか実施できていないというところもございますが、やはりさらなるレベルアップが必要だということは町としても考えております。引き続きスキルアップ事業を実施して、レベルアップをしていきたいというふうに考えております。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○12番（根本謙一君）　私もポイントはそこに絞られていくのかなというふうに思っておりますので、しっかり取り組んでいただきたいと思います。

以上、終わります。答弁は結構です。

○議長（横山知世志君）　ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　質疑なしと認めます。

次に、認定第５号　令和３年度会津美里町工業団地造成事業特別会計歳入歳出決算認定についてを審議に付します。

質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　質疑なしと認めます。

次に、認定第６号　令和３年度会津美里町住宅用地造成事業特別会計歳入歳出決算の認定についてを審議に付します。

質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　質疑なしと認めます。

次に、認定第７号　令和３年度会津美里町水道事業会計決算認定について、認定第８号　令和３年度会津美里町下水道事業会計決算認定についてを一括審議に付します。

質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　質疑なしと認めます。

次に、認定第９号　令和３年度永井野財産区特別会計歳入歳出決算認定について、議案第54号　会津美里町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例、議案第55号　会津美里町税条例等の一部を改正する条例、議案第56号　会津美里町地方活力向上地域における固定資産税の不均一課税に関する条例の一部を改正する条例、議案第57号　会津美里町議会議員及び会津美里町長の選挙における選挙運動の公営に関する条例の一部を改正する条例を一括審議に付します。

質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　質疑なしと認めます。

以上で総括質疑を終了いたします。

○議案の常任委員会付託について

○議長（横山知世志君）　日程第11、議案の常任委員会付託についてを議題といたします。

お諮りいたします。本件は、別紙審査付託表のとおり各常任委員会に付託したいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

よって、本件は別紙審査付託表のとおり各常任委員会に付託することに決しました。

○散会の宣告

○議長（横山知世志君）　以上で本日の議事日程は全部終了いたしました。

本日はこれで散会いたします。

散　会　　（午後　３時１３分）

決 算 特 別 委 員 会

（第　２　日）

令和４年会津美里町議会（決算特別委員会）

第２日

令和４年９月１２日（月）午前１０時００分開議

委員長　星　　次　君　　副委員長　長　嶺　一　也　君

○出席委員（１４名）

１番	櫻井幹夫君	９番	渋井清隆君
２番	大竹　惣君	１０番	星　　次君
３番	渡辺葉月君	１１番	堤　信也君
４番	荒川佳一君	１２番	根本謙一君
６番	長嶺一也君	１３番	根本　剛君
７番	村松　尚君	１４番	横山義博君
８番	小島裕子君	１５番	鈴木繁明君

○欠席委員（なし）

○説明のため出席した者

町長	杉山純一	君
副町長	佐々木吉一	君
総務課長	金子吉弘	君
総務課課長補佐	渡部朋宏	君
総務課課長補佐	渡部　充	君
総務課総務係長	髙橋力也	君
総務課管財契約係長	大竹克昌	君
政策財政課長	國分利則	君
政策財政課課長補佐	立川　昇	君
政策財政課課長補佐	大竹淳志	君
政策財政課政策企画係長	鈴木聖崇	君

政策財政課 財政係長	川田	浩泰 君
政策財政課 人口減少対策係長	國分	政和 君
町民税務課長	猪俣	利幸 君
町民税務課 課長補佐	阿部	満枝 君
町民税務課 課長補佐	長峯	啓之 君
町民税務課 生活環境係長	栗城	嘉則 君
健康ふくし課長	平山	正孝 君
健康ふくし課 課長補佐	星	公子 君
健康ふくし課 課長補佐	安部	賢辰 君
健康ふくし課 保険年金係長	芥川	豊和 君
会計管理者	松本	由佳里 君
産業振興課長	小林	隆浩 君
産業振興課 課長補佐	宮下	寛 君
産業振興課 課長補佐	佐藤	文彦 君
産業振興課 森林環境対策室長	川田	勝博 君
産業振興課 農政係長	横山	美代子 君
産業振興課 商工観光係長	鈴木	俊幸 君
建設水道課長	鈴木	明利 君
建設水道課 課長補佐	加藤	定行 君
建設水道課 課長補佐	酒井	新一 君
建設水道課 管理係長	小林	正裕 君
建設水道課 建設係長	松本	健一 君
教育長	歌川	哲由 君
こども教育課長	渡部	雄二 君

こども教育課 課長補佐	目黒　裕樹	君
こども教育課 総務係長	菊地　建雄	君
こども教育課 こども教育係長	榎森　正典	君
生涯学習課長	福田　富美代	君
農業委員会 事務局長（兼）	小林　隆浩	君
農業委員会 事務局次長	後藤　淳	君
代表監査委員	小島　隆一	君

○事務局職員出席者

事務局長	児島　隆昌	君
総務係長	歌川　和仁	君

開　議　　（午前１０時００分）

○委員長（星　　次君）　これから本日の会議を開きます。

決算特別委員会２日目を行います。歳入、事務事業及び決算書の質疑は、歳入については一括して質疑をし、歳出については議会費と総務費、次に民生費と衛生費、次に農林水産業費、商工費及び土木費、次に消防費と教育費、最後に災害復旧費、公債費、諸支出金及び予備費の５回に分けて質疑をし、その都度休憩を取り、説明員の入替えをいたします。

なお、本特別委員会は、１質疑項目に対し答弁は３回までとし、質疑時間の制限はいたしません。質疑者は、初めに全ての質疑のページ数と質疑項目を通告してから１項目ごとに３回まで質疑を行ってください。質疑、答弁とも簡潔、明瞭にお願いいたします。

これより歳入の質疑を行います。

質疑者は挙手にてお願いいたします。

12番、根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　３点お願いいたします。まず、１点目です。これはページ数を限るわけにはいかないかなと思いますけれども、不納欠損額についてまず１点目、２点目が収入率について、３点目が31ページ、18款寄附金についてお願いしたいと思います。

ではまず、１点目の不納欠損について伺います。昨年と比べて相当増えているということです。これは、３年度の何か特徴的なことがあったのかどうなのか、どのような分析をしておられるのか、まず伺いたいと思います。

○委員長（星　　次君）　政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　不納欠損額が昨年度より増加していると、その理由というようなことでございますが、確かに昨年度決算額からすると不納欠損額かなり大幅に増えているという状況でございます。これにつきましては、町の収納対策本部というのがございまして、これまで様々な観点から収納率の向上ということで取り組んでまいりました。そこの中で、なかなかやはり収納ができない、無理であろうというものが数ありました。例えばサラリーマンのいろいろな手数料等ございますので、そこの中で法的にこれは落とせるものだと、不納欠損できるものについては不納欠損として処理をさせていただいたということでございます。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　いや、それは監査からの報告書や意見書を見ても、それは決算書の数字から見ても、それは理解できるところですけれども、特段分析した中で特徴的なことがあったのでしょうかというただしですから、これ３回しかできないのです。ですから、分かり切っていることを言われても、それは説明ではないと思います。なかったらないで、ないと言えばいいので、たまたまこうだったという言い方をすればいいし、分析はしているのかしていないのかも含めてご答弁をお願いいたします。

○委員長（星　　次君）　ただいまの質問については、不納欠損ということでございますので、収納関係でございますので、町民税務課長に説明を求めます。

町民税務課長、猪俣利幸君。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　不納欠損の額についてでございますが、不納欠損額が対前年度増加しているというご指摘でございますが、税に特化して見ますと、特に町民税、それから軽自動車税についてはさほどではないですけれども、固定資産税について、こちらのほうの不納欠損額が相当、対前年度の大体４倍近くになってございます。やはりこの分析結果でございますけれども、不納欠損額全体で、固定資産税についてですけれども、198件、428万6,000円の昨年不納欠損を行ってございます。これにつきましては、法第15条の７の規定による執行停止、財産等がないと、資力がないというようなことの執行停止処分による３年による欠損が90件で297万2,000円と。こちらのほうの内容、理由につきましては、生活保護の該当、それから資力、それから差押え財産がなしということで、なかなか生活保護基準以下の収入、僅かな年金での生活と、また不動産はあっても、それが場所によっては換価できる見込みようのない土地、建物であったり、そういうようなことで差押えによってその方の生活が大変困難となるというような理由によるものでございます。また、法第18条の消滅時効108件でございますが、131万4,000円ということでございます。やはり所在者不在または不明の土地ということで、相続放棄により相続財産法人に課税している場合、それから倒産した法人で清算、解散がなされていないといったそのような法人としての事業の実体がないものと、このようなことが理由でございますけれども、原因といたしましては、やっぱり土地の相続登記がなされていないということで、実際に課税者がいないと。ただ、実体としてはないのですが、そういう財産につきましては相続財産法人という、そういう民法上の法人に課税しまして、そちらのほうは一旦は課税しますけれども、その後に５年後に欠損処理すると。また、ちょうどやっぱり倒産はしているけれども、実際清算、解散がなされていないといった法人に係るものが相当この年度に限って、昨年度に限って相当件数あったというような内容でございます。

以上でございます。

○12番（根本謙一君）　詳しく説明いただきました。なるほど、そういうことですかという内容でした。ありがとうございます。ある意味このタイミングでこうなったという捉え方もできますけれども、これ今時の時代背景という部分はどうなのでしょうか。ということは、今後こういう大幅な増加ということを想定していかなければならないというふうに理解していいのでしょうか。理解しても差し支えないのでしょうか。前年度比で275.7％増ということですよね、厳密に言うと。これは、明らかに今までにないことだったというふうに私は見ましたので、いろいろ細かい分析はどうですかというお尋ねいたしました。再度そこのところお願いいたします。

○委員長（星　　次君）　町民税務課長、猪俣利幸君。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　町税の収納率につきましては、現年度分については昨年99.4％とい

うことで、これまでにない合併後最高の収納率、また滞納繰越分についても36.4％というような、これもこれまでにない収納率ということで、大変……

〔「いやいや、違うでしょう」と言う人あり〕

○町民税務課長（猪俣利幸君）　この中でも先ほど申し上げた固定資産税に係る収納率というものがなかなか難しいと。これ時代背景には、先ほど申し上げました所在者不存在の土地、家屋というものに、そういう管財人、裁判所に申し立てて相続財産管理法人を設定していただいてというような、なかなかそれについても１件当たり50万から100万くらい最低費用がかかると言われていますけれども、そういう財産がこの空き家問題、それに伴うこの相続人不存在といったことで相続放棄が増えているといったようなことで、やはりこのような時代背景どんどん増えていくと、ますます不納欠損額は増えていくのだろうというふうに考えてございます。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　分かりました。大変分かりやすい説明だったと思います。ただ、そういう今説明いただいたような内容も、ある程度どこかでしっかり文書化して説明する機会を改めていただいていると、余計なことを聞かなくて済むのではないかなといつも思うところです。そこは検討しておかれたほうがいいのかなというふうに思っております。

２点目に参ります。収入率ですけれども、これもびっくりしました。この数字は初めてではないかなと私思っています。確かにいわゆる収納対策本部、広域でも連携しながら取り組んでいるというのは以前からあるわけですけれども、３年度は特段変わった取組といいますかね、特徴的にこれが効果があったとか、何かあったのでしょうか。

○委員長（星　　次君）　町民税務課長、猪俣利幸君。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　収納対策本部会議についてでございますが、昨年度は２回対策本部会議を開催いたしました。１回目は７月16日と。この会議におきましては、令和２年度の徴収実績について確認を行いまして、令和３年度徴収目標と取組、それから年間計画等について協議、検討して、町のそれぞれの所管を総括した収納対策基本方針について決定したということでございまして、特に昨年度特化した取組を実施したのかということでございますが、なかなか債権といたしましては、町の公債権につきましては差押え、強制的な徴収というものができますので、その中でやはり広域的な観点から、県の指導を仰ぎながら、これまでの給与、預貯金、保険金等のそういうような債権に加えまして、今度自動車の差押えの手法、それからクレジット、それからペイペイ等のそういう電子決済等の差押えについて、いろいろその辺の指導を仰ぎながら、そういうふうな新たな債権の差押えということで試みておるところでございます。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　その部分、今の差押え、今いろいろ県機関の資料もあって、いろいろ電子決済の部分も含めて差押えの効力があったというふうに受け止めますけれども、これは今までにない取

組であったという認識で、これからも有効だということなのでしょうか。
○委員長（星　　次君）　町民税務課長、猪俣利幸君。
○町民税務課長（猪俣利幸君）　昨年度の差押え、公債権でございますけれども、税関係でございますが、昨年度は全部で194件もの差押えを実施し、換価手続を行ったところでございまして、昨年の滞納繰越分の繰越額の約半額はやっぱり自主納付ではなくて、この強制的な換価、差押え換価による収入というような実績となってございます。ただ、先ほど申し上げましたこの新たな差押えでございますけれども、やはり軽自動車とか自動車の差押えというのは、この地方におきましては交通の手段、足として必ず必要なものでございますので、かなり、決算の審議ではございますが、今年も軽自動車の差押えに着手し、速やかにやっぱりその辺については効果を出しているところでございます。
○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。
○12番（根本謙一君）　分かりやすく説明いただきました。理解が本当に相当進みました。分かりました。ありがとうございます。
　では、３点目に参ります。31ページ、18款寄附金のふるさと納税3,700万という額になっております。平均的といいますか、この額程度で推移してきているかなと思います……
○委員長（星　　次君）　根本委員、マイクもう少し。
○12番（根本謙一君）　昨年度の傾向として、どういう意味合いで寄附されているのか。ただ単にこの本町の物産、返礼品に関心を持たれてのことなのか、その辺の分析というのは、これは過去何度もやってきておりますけれども、しているのでしょうか。
○委員長（星　　次君）　政策財政課長、國分利則君。
○政策財政課長（國分利則君）　ふるさと納税の分析についてということでございますが、確かにふるさと納税については返礼品、さらには町が今提示しております政策、この寄附金をどういったものに、政策に使いますかというのを意見をいただきながら事業を進めているというところでございます。まず、返礼品に関してでございますが、昨年度と一昨年度ですか、傾向としてはほぼ同じような傾向であったと分析しております。あと、そのうち政策体系ございますが、政策体系についても、３年度につきまして特に顕著なものにつきましては、自然に配慮した環境づくりという項目が令和２年度決算比べるとかなり大幅に増えたというようなことが一つ分析の結果でございます。あともう一つは、教育というようなほうも増えているということなので、やはりそういった自然や子育て、教育、そういった政策のほうに関心があったのかなということで考えております。あともう一つ、美里町にゆかりがあるかないかという調査もしてございますが、この辺につきましてはあまり変化がなかったということで、ある程度ゆかりのある人も寄附をいただいておりますが、そういうのでない方も、半数近くはそういった関係者ではないという寄附金もいただいておりますので、傾向的にはその辺は同じだったということで分析してございます。
　以上でございます。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。
○12番（根本謙一君）　一定程度の分析はされているなというふうに受け止めたいと思います。返礼品調査はもういろいろ課題が多いですから、そこは慎重にかかる必要があるのではないかなというふうに思っています。今課長の説明の中で、政策体系の中で教育分野や産業おこし分野とかいろいろあるわけですけれども、大づかみで。そこをもうちょっと詰めて、アンケートで分析しておいたほうがいいのかなというふうに思います。具体的なものを。もっと町に関心を持ってもらうという意味合いでは、やっぱり応援という意味、そもそものふるさと納税の本旨に立ち返っていく必要があるのではないかなというふうに思いますので、分析を通じてその部分はどこに注力すればいいか。本来に戻ろうという意識は私は持ったほうがいいと思っていまして、それにはやっぱり分析もしっかりしなくてはならないと。もうちょっときめ細かい分析できるようなお問いかけはすべきかなというふうに思っております。いわゆる返礼品で大きくふるさと納税を伸ばしている実態もありますけれども、そもそものところに立ち返るということを本町はしてもいいのではないかなと。そうすることによって伸びれば応援者が増えたというあかしにもなりますし、その辺の考え方をお願いします。
○委員長（星　　次君）　政策財政課長、國分利則君。
○政策財政課長（國分利則君）　ただいまの委員のおただしでございますが、確かにそういった細かい分析というのも必要かなとは思っております。ただ、納税者側に立った場合、例えば大きな政策体系ではなくて、個別具体的な事業ということで選んでいただくというのは確かに一つの手法だと思います。そうした場合、納税者側に立った場合、その細かい事業から自分はどういった事業にやるのかと、寄附するのかというまず一つ選択の時間というのもかかるのかなと思っております。そういった細かい事業を出して、実際こういった事業に使いますということで募集するというのも確かに一つの手法だとは思っております。ただ、これにつきましては、実際の使った中でこの事業はこういったものに使わせていただきましたというのはホームページ上で公表してございますので、今ご提案でありました政策体系、さらにはそういった細かな事業については、もう少し詳細にちょっと検討させていただきたいと思っております。あと、返礼品でございますが、確かに金額ありきではないということでは、私もそう考えてございます。とはいっても、やはりある程度の金額は、町としてもこれ貴重な財源でございますので、伸ばす方向としては考えなくてはいけないのかなと思ってございます。美里町に関しては、今農作物、農産物、さらには農産加工物等を中心に、さらには観光商品等も今メニューの中に返礼品として入れてございます。この返礼品が地域の経済の活性化に寄与するということも一面ございますので、この辺はバランスを考えながら、広く周知をしながら、よりよい返礼品、さらにはよりよい地元の商品をＰＲしながら、ふるさと納税の制度の拡充なり拡大を図っていきたいと考えてございます。
○委員長（星　　次君）　15番、鈴木繁明委員。
○15番（鈴木繁明君）　それでは、１点伺います。決算書９ページ、１款町税についてとありますが、

ただいま同僚委員からも質問ありましたが、私なりに伺います。１項町民税、２項固定資産税、３項軽自動車税、それぞれ収入未済額と不納欠損額が出ておりますが、その原因と理由について伺います。

○委員長（星　　次君）　町民税務課長、猪俣利幸君。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　なぜ未納になったのかと、理由でございますね。

〔「はい」と言う人あり〕

○町民税務課長（猪俣利幸君）　まず、町民税、個人分でございますが、現年分で収入未済143万5,271円となって……

〔何事か言う人あり〕

○町民税務課長（猪俣利幸君）　すみません。個人住民税につきましては、昨年度の収納率99.8％ということで、対前年度比0.7％増ということで、収入額については965万5,000円増加しているところでございます。毎年でございますが、これでも一昨年、それから過去に比べると収入未済額というものは圧縮はされてございますが、やはり……ちょっとすみません。ちょっと休憩よろしいですか。

○委員長（星　　次君）　休憩いたします。

休　憩　　（午前１０時２８分）

再　開　　（午前１０時２９分）

○委員長（星　　次君）　再開します。

町民税務課長。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　なぜこの未収額発生するのかと。滞納をされる方というものは、大体過去に滞納額、そういう多重債務ということで、累積した滞納というものをどうしても抱えてしまう傾向がございまして、現年度もそうですけれども、滞納繰越分がございまして、現在の資力、お給料、収入からは全額を、なかなか滞納額を解消するというふうに至らないという結果、やはりどうしても未済額というものが出てしまいます。全ての税に共通するものだと認識してございます。

○委員長（星　　次君）　鈴木繁明委員。

○15番（鈴木繁明君）　やはり収入未済額から不納欠損につながっていくわけであります。先ほどの同僚委員の中で収納対策本部が２回開催されたというような答弁がありましたが、この債権回収マニュアルに基づいてこの滞納処分についての調査等が行われるわけでありますが、その対策本部の会議の内容と本人への通知、あるいは臨戸訪問の実施の状況等、あるいは不納欠損の人数、それぞれ町民税、固定資産税、軽自動車税、何人ぐらいおられましたか、伺います。

○委員長（星　　次君）　町民税務課長、猪俣利幸君。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　まず、収納対策本部会議の開催実績でございますが、先ほど根本委員にもご説明いたしましたが、昨年度は２回実施でございまして、町としての徴収の基本方針について決定をしましたと。それに基づきまして、昨年度については催告、それから督促、それに応じない

方については財産を調査し差押えに着手するというような流れで差押え処分を、先ほど申し上げました194件の差押えを実施したところでございます。ただ、これ差押え実施しても、やはりどうしても財産がないと、資力がないということでやむなく不納欠損した件数等でございますが、こちらの件数申し上げます。町民税の個人分でございますが、昨年度につきましては、法17条の５の処分停止によるもの、３年での欠損処理が１件で4,000円でございました。これは、生活保護の適用によるものでございます。それから、法18条の５年での消滅時効につきましては25件、27万4,000円でございまして、こちらについては全て居所不明、行方知れずということで、なかなか追いかけ切れないと、所在がつかめないということで欠損処理やむなくしたところでございます。

〔「固定資産税と軽自動車税」と言う人あり〕

○町民税務課長（猪俣利幸君）　固定資産税につきましては、処分停止、執行停止３年の欠損処理が90件で297万2,000円でございました。その内容につきましては、生活保護、それから資力、財産なしということで、差押えによりまして生活が相当困難になるというような事由でございます。それから、消滅時効108件、５年の消滅時効によるものについては108件で131万4,000円でございます。こちらについては、所有者不存在または不明ということで、相続人が実際いらっしゃらないということで、民法上の相続財産法人に課税していると。これもその後に５年で消滅時効によりすぐ欠損処理したというもの、それから倒産した法人で清算、解散がなされていない法人に係るものというものでございます。それから、滞納処分の手法でございますが、臨戸訪問というお話でしたけれども、今私どもでは原則として臨戸訪問というものは実施しておりません。と申しますのは、臨戸訪問で分割納付というような徴収はしてございません。あくまでもご来庁いただくと。臨戸訪問した場合についても、それはあくまでも納税相談、今後分納誓約をしていただいて計画的に納めていただくということを約束させるために臨戸訪問するということで、徴収のための訪問は原則として行ってございません。

〔何事か言う人あり〕

○町民税務課長（猪俣利幸君）　すみません。抜けました。軽自動車税の不納欠損でございますが、このケースにつきましては執行停止３年時効によるものが10件で８万7,000円、それから５年の消滅時効によるものが11件で９万1,000円でございまして、こちらのほうもなかなか行方が、納税義務者の所在がつかめないというような原因で、やはりやむなく不納欠損をしたというようなものでございます。

○委員長（星　　次君）　鈴木繁明委員。

○15番（鈴木繁明君）　それでは、差押えについてでありますけれども、固定資産税については換価が難しいからやらないというふうにしておりましたけれども、動産についてはどのくらいあったのですか。そして、差し押さえた処理について伺います。

○委員長（星　　次君）　町民税務課長、猪俣利幸君。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　動産につきましては、自動車税について昨年度実施したかちょっと

調べさせてもらってよろしいでしょうか。

〔「はい」と言う人あり〕

○町民税務課長（猪俣利幸君）　ちょっと休憩お願いしたいと思います。

○委員長（星　　次君）　では、暫時休憩です。

休　憩　　（午前１０時３７分）

再　開　　（午前１０時３８分）

○委員長（星　　次君）　再開します。

町民税務課長、猪俣利幸君。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　基本的な方針としまして、差押えについては債権のほうの債権差押えということで、動産につきましては昨年自動車の差押え１件でございます。先ほどのご質問にも述べましたが、今後やっぱりそういう件数を増やしていきたいということでございます。昨年は１件でございました。

〔何事か言う人あり〕

○町民税務課長（猪俣利幸君）　換価はしてございません。その前に、車は生活に欠かせないということで、やっぱり差押えの効果はかなり強力で、速やかに納付されました。

○委員長（星　　次君）　ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（星　　次君）　なしという声がありますので、これをもって歳入の質疑を終了いたします。

説明員入替えのため、10時50分まで休憩いたします。

休　憩　　（午前１０時３９分）

再　開　　（午前１０時５０分）

○委員長（星　　次君）　再開します。

次に、歳出の質疑を行います。

１款、議会費、２款総務費の質疑を行います。

質疑者は挙手にてお願いいたします。

２番、大竹惣委員。

○２番（大竹　惣君）　２款総務費について２点お伺いします。まず、事務事業事後評価シート28ページ、公共交通利用促進事業について、次に同じく事務事業事後評価シート195ページ、移住促進事業について伺います。

それではまず、事後評価シート28ページの公共交通利用促進事業について伺います。２番の事業の実績で、（２）の成果指数の推移の部分においてですが、あいあいタクシーと路線バス利用者の実績

値が目標値よりも大きく少ない数値ですが、その原因の分析はどのようにしているのかを伺います。
○委員長（星　　次君）　政策財政課長、國分利則君。
○政策財政課長（國分利則君）　目標に届かなかった理由というようなことでございますが、確かに目標より数は下回ってございます。１つは、コロナ禍というのがやはり一つ大きな要因かなと思ってございます。これによりまして、やはりコロナの感染をある程度心配されて、例えば町内、さらには町外へ出かけるというのが数が少なくなったというのがまず一つの大きな理由かなと思ってございます。
○委員長（星　　次君）　大竹惣委員。
○２番（大竹　惣君）　はい、分かりました。
　それでは、同じくこの部分なのですけれども、３番の最終評価の成果の方向性の部分で、このあいあいタクシーの配車システムを更新しという部分があるのですけれども、これはこの間私の一般質問の答弁にもありましたＡＩの配車システムのことでよろしかったでしょうか。
○委員長（星　　次君）　政策財政課長、國分利則君。
○政策財政課長（國分利則君）　そのとおりでございます。今年の事業ではございますが、ＡＩを活用した配車システムということでございます。
○委員長（星　　次君）　大竹惣委員。
○２番（大竹　惣君）　このＡＩの配車システムは、前回の一般質問の答弁にもありましたように観光振興にも役立ちますし、多くの可能性が期待できると思います。これいつ頃から開始できそうなのか、そういう予定はありますでしょうか。
○委員長（星　　次君）　政策財政課長、國分利則君。
○政策財政課長（國分利則君）　今年の事業でもよろしいでしょうか。予定ですので、昨年度の反省を踏まえてというようなことでお答えさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。
〔「はい」と言う人あり〕
○政策財政課長（國分利則君）　今年度の事業と今予定しております事業でございますが、やはりこれまでの反省の中で……
〔何事か言う人あり〕
○政策財政課長（國分利則君）　それでは、反省を踏まえてということで、減少した、目標に達しなかったということで、私先ほどコロナ禍の影響もあったということでお答えさせていただきましたが、もう一つの理由として、他の公共交通機関との接続、いわゆる乗り継ぎがやはり難しかったというのを課題として捉えておりました。これについては詳細な調査はしてございませんので、これはあくまでも内部の分析だったということで、まずはご了解いただきたいと思います。そこの中で、このＡＩを活用した新たなシステムにつきましては、出発時間、さらには着の時間もある程度見据えた形の中で予約なり電話でもできますが、そういった形ができるようになりましたので、例えばバス、例えば

ＪＲ、その辺の接続がうまくいくのかなというようなことで、利用の拡大につながるのかなと思ってございます。予定はこの秋からということなのですが、今のところは11月頃をめどに今調整しているところでございます。

○委員長（星　　次君）　大竹惣委員。

○２番（大竹　惣君）　詳しく説明いただきありがとうございます。

次に移ります。同じく事務事業評価シート195ページ、移住促進事業の部分であります。２番の事業の実績、（３）の成果において、直近３年度の移住定住相談件数が令和２年度が低い数値となっておりますが、その理由はどのように分析しているのか伺います。

○委員長（星　　次君）　政策財政課長補佐、立川昇君。

○政策財政課課長補佐（立川　昇君）　ただいまのお答えいたします。

主な原因といたしましては、やはりコロナ禍において首都圏の移住相談会というのが中心になったというのが一番ありました。それから、首都圏のみならず、周辺の相談会につきましても縮小とか、あとウェブ会議になってしまったというのもありまして、それが一番影響したものと思っております。

以上であります。

○委員長（星　　次君）　大竹惣委員。

○２番（大竹　惣君）　それでは、同じ部分で、逆に令和４年度は令和元年度と比べてもかなり大きい数値となっていますが、どのような努力をしたのかを伺います。

○委員長（星　　次君）　３年度の取組ですか。

○２番（大竹　惣君）　そうです。３年度。失礼しました。３年度です。４年度ではない。

○委員長（星　　次君）　政策財政課長補佐、立川昇君。

○政策財政課課長補佐（立川　昇君）　お答えいたします。

今ほどの３年度の取組ですが、一時期コロナ禍のほうが少し収まってきたというところがございまして、そのときにある程度の首都圏の相談会、特に交通会館といいます有楽町にありますようなところでやることが増えました。それに参加できるようなりまして、その分が伸びてきたということでございます。

以上であります。

○委員長（星　　次君）　大竹惣委員。

○２番（大竹　惣君）　この実績から見ましても、令和２年度の落ち込み分を取り戻すために３年度はかなり努力をしたのかなと感じました。大変すばらしいことだと思います。移住定住対策は、本町の重点プロジェクトの一つでもありますので、今後も継続して積極的な活動を期待しております。

質問を終わります。

○委員長（星　　次君）　12番、根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　まず、決算書のほうから３点伺います。その後に成果説明書と評価シートを

含めて３点お願いすることになります。

まず、決算書のほうからですけれども、46ページの総務費、一般管理費、12節委託料のファイリングシステム維持管理支援業務委託料について。これ全部いいですよね。

○委員長（星　　次君）　はい、全部３点言っていただいて。

○12番（根本謙一君）　54ページ、６目財産管理費、24節積立金、財政調整基金積立金と公共施設等整備再生基金積立金について、３点目、55ページ、７目の企画費の中で７節、12節、13節にわたってふるさと納税返戻に対する経費等がるる載っております。これについて伺いたいと思います。次、４点目、成果説明書と評価シートの部分から、成果説明書７ページの職員研修事業について、次が８ページ、まちづくり活動支援事業について、次にページ11、普通財産管理事業について伺いたいと思います。以上６点、いいでしょうか。

○委員長（星　　次君）　はい。

○12番（根本謙一君）　ではまず、１点目参ります。決算書46ページ、委託料でファイリングシステム維持管理支援業務委託料。本町は、このファイリングシステムを導入いたしまして、新しい庁舎でしっかりなじんでいく業務に入っているというふうに思っていますけれども、実際事務エリアに入りますと、あの段ボールの積み重ねは何なのでしょうか。私は、びっくりしました。当然このファイリングシステム導入については、議会とのやり取りの中の議論で相当費やしたことを覚えております。すばらしいのがニセコ町ですよね。あそこが日本の最先端を行っています。あそこは業務終わればデスクの上は飛行場のように何も残していない。そこまでやるべきだと言わないまでも、現況の認識からすると、このファイリングシステムを導入した効用、効果が本当に上がっているのだろうかという疑問をずっと抱いてきておりました。この現況をどのように見ておりますか。

○委員長（星　　次君）　総務課長、金子吉弘君。

○総務課長（金子吉弘君）　それでは、お答えさせていただきます。

ただいまのファイリングシステムを導入したにもかかわらず、現状の事務室内のいわゆる煩雑な状況についてのご指摘でございますが、これにつきましてはファイリング推進する担当課としても大変申し訳なく思っているところでございます。ただ、現状いわゆる補助事業等で前年度、前々年度等の各書類を一時的に、会計等もございまして、持ってきて事務室のほうに搬入しているというふうなところで、その書類を見ながら事務を執行している部分もございます。ただし、終わったらしっかりと元の場所に戻して１日の業務を終わるというふうなことが通常でございますが、それに至っていないというふうなところで、今後につきましてはしっかりと指導してまいりたいというふうに考えているところでございます。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　私は、今後はちゃんと指導していきますという話ではないと思っています。あの段ボールを重ねて城をつくっているような、壁をつくってしまっているような、これずっと続い

ていますよね。では、将来的にはあれがきれいになくなるということなのでしょうか。このファイリングシステムというのは、誰が行っても速やかに、町民がいろいろなところにお邪魔していろいろお世話になるときに、速やかに書類を出したり、スムーズにやり取りできるように、すっきりした中で仕事が効率よくできるように、あるいは分かりやすく、誰が来ても速やかに書類出せるように、必要なものを出せるように、そういうのが本来のシステム導入の根本ですよね。ですが、現状はそうなっているとはどう見ても思えない。これ将来的にすっきりされていくのでしょうか。あの段ボールはきれいになくなるのでしょうか。

○委員長（星　　次君）　総務課長、金子吉弘君。

○総務課長（金子吉弘君）　再度のおただしでございますが、確かにファイリングシステムの主眼といいますのは、お客様をお待たせしない、速やかな対応ができるというふうなことでございます。その部分に関しましては、しっかりとファイリングを実施しておりますので、基本的にお客様をお待たせしないような体制はできているというふうに思っているところでございます。ただし、段ボールが山積みになっている部分に関しましては、どちらかといいますと現年度分の資料ではなくて、いわゆる過年度分の資料を一時的に持ち込んで仕事をしているというふうな状況が多うございます。ただし、しっかりとその整理整頓ができていないというふうな部分は確かにございますので、その部分については徹底をさせたいというふうなことと、あとは年々業務量の増加に伴いまして、いわゆる保管する資料というものも多くなってきてございます。今後につきましては、いわゆる保管場所の問題もございますが、施設を有効に活用しながら、しっかり保管場所を見つけて、事務室内はきれいな状況に保って、お客様に見た目でもそういったファイリングが徹底しているのだなというところをしっかりとお見せしていかなければならないというふうに考えているところでございます。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　利用者には不便をかけていないという状況はそのとおり受け止めたいと思いますけれども、ファイリングシステムというのはそういうやり手の効率性だけではなくて、情報共有という大事な根幹がありますよね、その基盤として。そういった意味から、速やかにそういう業務に向き合えるような環境づくりは、これは欠かせないと思うのです。段ボールは、あのままにはしておくべきではないというふうに改めて申し上げておきます。終わります。

　では次、２点目に参ります。54ページです。財産管理費、24節積立金、財調、それから公共施設等整備再生基金積立金とのことですけれども、その下のほうに行きますと利子積立金もまた別枠で載っております。これ分かりやすくするためにこういう書き方しているのかな、整理の仕方をしたのかなというふうには思いますけれども、このところで昨年度のすみ分けの基準というのはあるのでしょうか。財調と公共施設等の整備再生基金のすみ分け、割合とか基準とかというのはあるのでしょうか。

○委員長（星　　次君）　政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　ただいまのご質問でございますが、財政調整基金、さらには公共施

設等整備再生基金の割合、あと基準というようなことでございますが、はっきりとしたこういった幾らというようなことはございませんが、１つは長期財政計画を一つの目途としているのがまず１点でございます。あと、財調につきましては、先日もお話しさせていただきましたが、人口減少対策分として、その分については毎年それ以上には積み立てているというようなことでございます。さらに、公共施設のほうにつきましては、作成いたしました今後の公共施設の計画、いわゆる長寿命化計画をある程度そこの財源として考えてございますので、その辺の計画ができておりますので、公共施設の基金につきましてはそちらをある程度目途として積み立てているというようなことでございます。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　確認しますけれども、明確な基準はないけれども、将来のことを考えてと。確かに総論的には分かります。それは大事でしょうねと思います。でも、基準も設けないで、その年度の中でいろいろ、今回はここに入れておこうかとか、それはあっても、ある程度の基準は持たないと、このぐらいは将来必要だよね。だって、財政計画だってつくっているではないですか、あれだけ。10年間。そうすると、最低このぐらいは必要だよねというのは、見通しはもう立てているはずです。やっぱり一定程度の基準は持ったほうがいいというふうに私は思うので、お尋ねします。

○委員長（星　　次君）　政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　ちょっと私の説明が、すみませんでした。確かな基準というのは、先ほど私が明確なのないと申し上げましたのは、例えば目標の金額を幾らとかと、そういったものがないということでございますが、やはり長期財政計画ございますので、まずそこが一つの目標でございます。それを下回らないよう、逆に上回るようにやっていきたいというのが一つの大きな目標ということで考えてございます。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　財政計画を下回らないようにと、それは当たり前のことですけれども、その先を見越せば一定程度の余裕を持った基金の積立てというのは必要です。財政計画がマックスではなくて、それ以上に積み立てておかないと、いざというときに財調のほうから持ってくるという方法もあることは知っていますけれども、でもわざわざ整備再生基金というものまでつくっているので、そこはしっかり余裕を持って積み立てていくべきだと。そういった意味でも、基準的なものをしっかり持っていたほうがいいのではないでしょうか。そうすると、次の担当者が替わっても、基本的にはこれだよねと確認もその基準を基にしてできますし、もうちょっと必要になるおそれがあるね、政策判断で新たな財政需要が出てくるかも分かりませんから、そういった意味合いで一定程度の基準的なものはつくるべきではないでしょうかというところで再度。

○委員長（星　　次君）　政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　委員おっしゃるとおりです。そのとおりだと思います。ある程度余

裕を持って積み立てるということを目標にやってございますので、そういった計画的になるべく積み増しができるような形で財政運営をし、さらには基金のほうに積んでいきたいというふうには考えてございます。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　次に、３点目に参ります。55ページです。７目の企画費、ふるさと納税返礼関連の経費のところです。いろいろあります。謝礼の部分、それから贈答品、梱包、発送の部分、それからふるさと納税運営関連、それからシステムの使用料等々。そうしますと、私なりに計算したら900万近くなります。何かの町の資料で見たときに、1,000万関連経費がかかるというふうなのが載っていたのを記憶しております。そうすると、ふるさと納税収入の部分での３分の１以下で収まってはいるのですけれども、この経費のかかり方見てどのような分析されているか伺っておきたいと思います。

○委員長（星　　次君）　政策財政課長補佐、大竹淳志君。

○政策財政課課長補佐（大竹淳志君）　ふるさと納税の経費関係でございますが、昨年度実績ですと、まず寄附金としまして3,745万4,000円程度いただいておりまして、それにかかる経費、返礼品の調達経費で520万程度、あと事務費600万程度かかっておりまして、全体で1,100万程度かかってございます。寄附額と、あと経費差引きいたしますと2,600万程度が収入としてといいますか、寄附額が上回っているような分析となってございます。

以上です。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　いや、それは計算すれば分かりますけれども、それをどのように見ていますか。経費これぐらい抑えて、これだけ2,600万を応援資金としていろんな事業に活用できる、そういうふうに読み取れますけれども、これをよしとしているのか、この程度だねというふうに踏まえているのか、予想と比べてどうなのだろうかというようなところまで含めて分析はしているのでしょうかというところです。

○委員長（星　　次君）　政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　ただいまのご質問でございますが、この経費の中で一番大きく割合を占めておりますのが、現在のふるさと納税については、やはりインターネットを介したサイトからの申込みがほぼ九十数％でございます。これは、インターネットで、そこで申し込んでいただいて、そこの中である程度クレジット決済なり電子決済で行って町のほうに入るという仕組みでございます。現在契約しております１社でございますが、その手数料が大体9.1％でございます。いわゆる寄附額に対して9.1％でございますので、返礼品の次に大きなものとなってございます。ほかとの分析というようなことでございますけれども、現在主流はインターネットでございまして、これがやはり一番のポイントかなと思ってございます。様々なインターネット、いわゆるふるさと納税関係のサイ

トなりございます。現在、今、美里町としては１社で契約。これは、立ち上げ当初からある程度このインターネットを利用したサイトを利用しているのですけれども、やはりここがもう一つ、サイトを広げなくてはいけないなというようなことが、ここが課題の一つかなと思ってございます。あと、返礼品でございますが、その分析の中で、やはり返礼品もある程度毎年見直しなりをかけて、返礼品のほうも充実させていきたいと。要はインターネット申込みの利便性、さらには返礼品としての魅力度アップ、商品のＰＲ、ここはやはり欠かせないのかなと思っております。ほかの町村を見ると、やはり商品のＰＲがうまいなというのが正直なところ私感じておりますので、その辺に関しては、また今年度の話になりますけれども、もう少し見やすくといいますか、ＰＲをしていきたいとは考えていますので、その辺が分析の結果でございます。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　よその伸びているところ、注目されているところを分析、参考にしながらしっかり取り組んでいただきたいなというふうに思います。

　次参ります。では、成果説明書のほうを中心にして伺いたいと思います。まず、３点ございますけれども、１点目、職員研修事業についてです。ここで評価シートを見ますと、特に最終評価、これ成果の方向性とかコストの方向性、今後の方向性、ちょっとなじめないところはあるのですけれども、その次は拡充、現状維持、生産性改善とあります。一応説明書き、文書は頂きましたけれども、まだちょっとなじめないところがあります。そういう中でですけれども、伺います。まず、成果の方向性で、理由として「多様化する住民ニーズに対応できる職員の育成を図るための研修を導入する」というふうに書いてあります。これは、もうとうにいろいろ議論の中で当然皆さん言ってきていることであって……

○委員長（星　　次君）　根本委員、もう少しマイク。

○12番（根本謙一君）　言ってきていた内容だなというふうに思うのですけれども、ここで改めてここに「導入する」というふうに書いた理由がちょっと読み取れない。次に、コストの方向性ですけれども、メニューの見直し、経費を抑制していく、全体的経費を抑えたいと言っています。これはどういうことなのか。私は、職員研修にはお金を存分に使って人材育成図るべきだということは前々から言っているし、執行側の答弁もそのように言っていますから、ここがちょっと分からない。今後の方向性では、計画的、戦略的な職員研修を着実に実行することでスキルアップを図っていく。これは、当然今までやってきて、ちゃんと目的持って職員を派遣して勉強してもらっていますよね。あえてまたこういう言い方するというのは、どういう意図なのだろうなというのが分からないので、教えていただきたい。

○委員長（星　　次君）　最終評価の部分ちょっと触れたと思うのですが、そこで根本委員の考え方述べていますので、その部分についてはこの実績に基づいての質疑ということでお願いしたいと。

○12番（根本謙一君）　でも、今まで議論してきたことからすると、この書き込みがなかなか分かり

づらいので、それをどういうことですかということを聞きたいと言っていますから。
○委員長（星　　次君）　その部分については大丈夫だと思います。
○12番（根本謙一君）　私の考えはどうですかと言っているのではないので。
○委員長（星　　次君）　総務課長補佐、渡部朋宏君。
○総務課課長補佐（渡部朋宏君）　それでは、私のほうからお答えさせていただきます。
　まず、導入すると、新たな導入という部分になりますが、近年オンラインによる研修がかなり充実をしております。オンラインの研修うまく使いますと、これまでなかなか参加できなかったような研修が参加できるといったことがございますので、それらを踏まえて新たな視点での導入ということ今回記載させていただいたものでございます。あわせまして、全体経費の抑制になりますが、同じような答えになりますが、オンラインを使うことによって旅費等々についての削減が図られると。そういったのを踏まえまして、重点的な研修が実施できるだろうというふうに考えております。あと、計画的に実行するということになりますが、それを踏まえて新たなメニュー、オンラインとか近年の課題を踏まえた研修ということで実施をしているというようなところでございます。
　以上になります。
○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。
○12番（根本謙一君）　それならそれでそういう丁寧な書き方すべきだと思います。皆さんはいろいろ分かっているから、分かっている頭で自分たちだけで分かるような書き方ついしてしまっています。いろんな場面で要請、要望言っていますけれども、もう少し詳しい分かりやすい説明書を出すとか、説明を初めにするとかしてもらえれば、これはどういう意味ですかなんて聞く必要がないことが、私は減っていくと思います。そういう学習が、今まで議会の中で議論してきた学習が私は生かされていないと思っています。今オンラインです。オンラインのこと。これは、時代的な要請で当然やっていかなくてはならない。そういうことですから、あっ、なるほどねというふうに分かりますけれども、それならそれでそれを書き込んでもらえば、でもここはどうなのですかというふうに詰めた話、質疑ができるではないですか。そうすると、濃い、いわゆる議論が収れんされていくという、そういうふうにする仕掛けとして説明書はしっかり整えていただきたいなということですけれども、その部分だけ伺っておきます。
○委員長（星　　次君）　総務課長、金子吉弘君。
○総務課長（金子吉弘君）　ただいまのおただしでございますが、記載内容につきましては本当に通り一辺倒のことのみの記載となっておりましたことを大変申し訳なく思っております。確かに委員おっしゃるとおり、中身についてしっかりと今年度変わったことについては明確に記載することによってこういった疑念を抱かせない、また町の取組がしっかりと伝わるというふうなことになってまいりますので、今後はしっかりと詳しく記述するようにさせていただきたいというふうに思っております。
○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　次参ります。成果説明書の８ページです。まちづくり活動支援事業の部分で、活動実績成果の一番下段、ここが分からなかったです。読みますと、「史談、甚句、伝統行事の継承支援（デジタル化）としてアーカイブ化を進めた」というふうになっておりますけれども、これ全く内容的に分からないので、具体的内容も含めてもう少し詳しく説明していただきたいと思います。

○委員長（星　　次君）　政策財政課長補佐、立川昇君。

○政策財政課課長補佐（立川　昇君）　今ほどのご質問にお答えいたします。

　こちらですが、集落支援員というものをこちらのほうで任命してございまして、その集落支援の中間管理のほうの仕事の中でこれを進めてございます。具体的に言いますと、例えば甚句ですと、高田甚句とか本郷甚句の文句をどのように保存していくかとか、それから画像とか動画を保存していくというような取組をしたいということで、今年度もそういうことで少しずつアーカイブ化、いわゆる書庫といいますけれども、いろんなものに収めていくと、いろんなメディアに収めていくというようなことをちょっとずつやっているところでございます。史談といいますのは、ちょっとここまでいくか分かりませんけれども、地域の歴史的なものを収めているということでございます。

　以上であります。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　私、甚句関係で関わっていますので、あっ、あの活動事業かなというふうに頭に浮かびましたけれども、その後に継承支援でデジタル化となっています。アーカイブ化。どうしても片仮名で統一してしまうところありますけれども、今の説明ならもうちょっと分かりやすくここに落とし込んだほうが私はいいと思います。それから、「進めた」となっています。史談はこれからだみたいなことでしたよね。というと、整合性ないですよね。もっと具体的に入れるとか、もっと分かりやすく書いていただいたほうがいいのではないでしょうか。

○委員長（星　　次君）　答弁、政策財政課長補佐、立川昇君。

○政策財政課課長補佐（立川　昇君）　今ほどのお答えでございますけれども、史談と甚句と伝統行事関係、これらを少しずつ始めているということで、令和３年度につきましてもちょっとずつやってございました。ただ、あまり集まっていなかったので、史談につきましてはこれから多く集めたいというのがあったものですから、そう答えたものでございます。なお、デジタル化といいますのは、例えばＤＶＤとか、そういうようなものに収めていって、後ほどでも見られるようにするということでございます。アーカイブといいますのは、いわゆる書庫という意味がございまして、こちらにつきましてはいろんなところのものを集めていくということがありましたので、この辺につきましてもう少し分かりやすく書きたいと思っております。よろしくお願いします。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　「進めた」ということですから、もうできていますよという成果ですから、そうですよね。実績なら分かるのです。実績で進めていますよという意味合いになるから。成果とい

うところで見ると、ああ、できているという。だから、そこはもうちょっと丁寧に説明されたほうが理解しやすいというふうに思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

次参ります。次は、11ページの普通財産管理事業です。ここでお尋ねしたいのは活動実績のところであります。使われていない、あるいは公共施設等管理総合計画にも今後の方針の中でなかなか決めかねている部分、載っていない部分もあります。議会としても提言してきました。３年度の中でやってきたと記憶しておりますけれども、いわゆる現在のこの美里町の状況どうなっているのか、３年度までどうなっていたのかというところも含めて、我々議会に対して一覧的なものを作って出せないでしょうかというのがここの質疑です。なかなか見えない。

○委員長（星　　次君）　総務課長、金子吉弘君。

○総務課長（金子吉弘君）　ただいまのおただしでございますが、普通財産の全体的な、いわゆるどのくらいの筆数だったり、箇所数があったり、面積が幾らなのか、それに対してどういった今活用方法をされているかというふうな一覧でございますが、それにつきましては今まとめている部分の資料としましては手元には……資料といたしましては、すみません、内部的な資料としては実際持っているところではございます。ですが、実際対外的な資料としてしっかりとちょっと精査できているかどうか、その辺検証させていただいて、しっかりと整えた上でご提示のほうをさせていただきたいなというふうに思っております。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　それは、議長を通して資料提供を要請したいと思いますので。

以上、終わります。

○委員長（星　　次君）　１番、櫻井幹夫委員。

○１番（櫻井幹夫君）　私から１点、事務事業シート43ページより質疑をいたします。事後評価シートにおいて、要望に基づきカーブミラーの修繕、移設、新設の実施をしたとなっておりますが、町民からは多くの要望が上がっているものと思います。令和３年中に要望のあった全要望に対して、実施割合はいかほどか教えていただきたいと思います。また、要望があって未実施の件数も併せて教えていただけますでしょうか。

〔「すみません、ちょっと休憩お願いいたします」と言う人あり〕

○委員長（星　　次君）　暫時休憩します。

休　憩　　（午前１１時３５分）

再　開　　（午前１１時３６分）

○委員長（星　　次君）　再開いたします。

総務課長、金子吉弘君。

○総務課長（金子吉弘君）　大変失礼をいたしました。要望でございますが、全要望が25件でございます。そのうち実施件数が23件でございまして、２件ほど令和４年度に繰り越して実施をしているところでございます。

○委員長（星　　次君）　櫻井幹夫君。

○１番（櫻井幹夫君）　ご回答ありがとうございます。２件ということですが、現状の計画で今あるこの２件の要望はいつ頃設置していただけるものなのでしょうか。

○委員長（星　　次君）　総務課長、金子吉弘君。

○総務課長（金子吉弘君）　本年度に繰り越してさせていただきましたカーブミラーの修繕につきましては、もう既に２件とも実施済みでございます。

○委員長（星　　次君）　櫻井幹夫君。

○１番（櫻井幹夫君）　令和４年度中は何件って今現在把握できているのでしょうか。

〔「これ駄目だ」と言う人あり〕

○１番（櫻井幹夫君）　これ駄目。

〔「うん」と言う人あり〕

○１番（櫻井幹夫君）　すみません。

では、結構です。ありがとうございました。

○委員長（星　　次君）　ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（星　　次君）　なしの声がありますので、これをもって１款議会費、２款総務費の質疑を終了いたします。

説明員入替えのため、11時50分まで休憩いたします。

休　憩　　（午前１１時３８分）

再　開　　（午前１１時５０分）

○委員長（星　　次君）　再開します。

次に、３款民生費、４款衛生費の質疑を行います。

質疑者は挙手にてお願いいたします。

４番、荒川佳一委員。

○４番（荒川佳一君）　４番、荒川です。よろしくお願いします。

決算書のほうから３点ほどお願いしたいと思います。まず１つ目、決算書75ページ、76ページ、３款民生費、１項社会福祉費、４目高齢者福祉費、12節委託料について伺います。２つ目、決算書91ページ、92ページ、４款衛生費、２項清掃費、１目清掃総務費、７節報償費について伺います。３つ目、決算書、同じページでございます。４款衛生費、２項清掃費、１目清掃総務費、18節負担金補助及び

交付金について伺います。以上３点です。

まずは１点目ですが、76ページ、委託料について、委託業務をせずに職員で対応したということになっていますが、予算措置した委託名と内容を説明してください。まず１点です。

○委員長（星　　次君）　健康ふくし課長、平山正孝君。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　12節委託料につきましては、町で委託しているものは、決算書御覧のとおり、外出支援サービス事業委託、緊急通報システムの事業委託、軽度生活援助事業の委託、生きがい活動支援通所事業の委託、配食サービス事業委託という形で、ここに記載してあるものを委託事業として老人福祉事業のほうを実施しております。

○委員長（星　　次君）　荒川佳一委員。

○４番（荒川佳一君）　資料は会津美里町の一般会計歳入歳出の決算書類の中で、これが50万以上、20％の、一覧表ちょっと見ているのですけれども、その中の歳出予算執行状況に関する説明書の２ページ、上から４行目なのですが、その中で「委託業務として予算措置したものを、時間的理由により職員で対応したことにより不用額が生じた」ということなのですけれども、それはどの委託でしょうか。

○委員長（星　　次君）　健康ふくし課長、平山正孝君。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　これにつきましては、３款民生費、１項社会福祉費、１目の部分でよろしかったですか。

〔「はい」と言う人あり〕

○健康ふくし課長（平山正孝君）　１目の部分につきましては、こちら職員により対応したというのは、10万円の給付金等に係る事務について、当初業者に委託して実施する予定であったものを時間的短縮等も考慮して委託を取りやめ、職員で対応したということでございます。

○委員長（星　　次君）　荒川佳一委員。

○４番（荒川佳一君）　そうすると、最初からこれ予算措置していなかったということでよろしいでしょうか。ということでいいのか、それともそのものについては、実際は予算措置した金額については、今ここに書いてあるとおりに不用額として残ってしまったということでよろしいでしょうか。これ予算措置してあるのですか、最初から。その辺確認します。

○委員長（星　　次君）　健康ふくし課長、平山正孝君。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　今ほどのおただしですが、こちらの予算については予算措置は補正で対応させていただいております。実施に当たって時間的余裕がなく、事業の進め方の見直しによって不用額という形で残ったという形でございます。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　お諮りしたいと思いますが、間もなく昼食となります。荒川佳一委員の質疑中でありますが、ここで昼食のために午後１時まで休憩いたします。

休　憩　　（午前１１時５７分）

再　開　　（午後　１時００分）

○委員長（星　　次君）　再開いたします。

先ほど午前の部で荒川佳一委員の質問に対し、健康ふくし課長の答弁に差が生じていたために、健康ふくし課長より発言を求められていますので、許可いたします。

健康ふくし課長。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　午前中の部で荒川委員よりご指摘がありました件について説明不足がありましたので、改めて説明をさせていただきたいと思います。

まず、皆様の資料、歳出予算執行状況に関する説明書２ページの４段目、委託料の302万円の不用額についてということですが、決算書でいくと73、74ページ、一番上になります。12節委託料、こちらにつきましては、一般会計１月補正予算において計上させていただきました住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金の支給に関する事務といたしまして、委託料としてシステム構築委託料、受付・入力等業務委託料、合わせまして838万2,000円を計上させていただいたのですが、この時期に合わせて県単事業である原油高騰に伴う灯油購入費の助成事業が新たに追加になり、対象者を町として同じにするといった見直しを行ったことにより、当初システム構築委託料の中で封入、封緘業務を併せて予定していたところ、県単事業の部分では業者に対象者のリストアップ、印刷等ができないことから、町のほうでそれを行い、封入、封緘を町のほうで行うというふうに変更したことから、減額が生じたものでございます。あと、受付、入力等に関する業務について見直しを行ったことから減額が生じ、302万円の不用額が生じたということでございます。

説明は以上でございます。

○委員長（星　　次君）　荒川佳一委員。

○４番（荒川佳一君）　了解しました。

いいですか。

○委員長（星　　次君）　はい。

○４番（荒川佳一君）　では続きまして、次の２点目なのですが、報償費、92ページ、不法投棄の防止監視員報酬について、監視員の人数と主な役割について伺います。

○委員長（星　　次君）　町民税務課長、猪俣利幸君。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　監視員の人数についてでございますが、高田地域７名、それから本郷地域４名、新鶴地域３名ということで、合計14名ご委嘱を申し上げております。それで、活動内容につきましては、定期的な定期パトロール、最低月２回は地域の監視パトロールを実施していただきまして、不法投棄物を発見した場合については、ステッカーを貼るとともに、町のほうにその状況を速やかに報告するということでございます。あと、そのほか定期的な監視員会議を開催しておりまし

て、お互いの情報共有を図っているということでございます。
○委員長（星　　次君）　荒川佳一委員。
○４番（荒川佳一君）　それでは、不法投棄、先ほど人数14名ということなのですが、一応どんなものを回収したのか、数量はどのぐらい確認したのか、分かる範囲内でお願いしたいと思います。
○委員長（星　　次君）　答弁、町民税務課長、猪俣利幸君。
○町民税務課長（猪俣利幸君）　令和３年度の不法投棄物の発見件数が24件でございます。24か所でございます。その主な内容につきましては、タイヤつきの廃タイヤ、それから冷蔵庫、テレビ等の廃家電ということで、リサイクル法もしくは町で適正処理困難物として収集していない有料処分になるものが主なものでございます。ただ、ただいまの数量については把握してございません。申し訳ございません。
○委員長（星　　次君）　荒川佳一委員。
○４番（荒川佳一君）　大体分かりました。それで、一応普通の一般の人が不法投棄のものを発見した場合、どこに連絡したらいいのかということなのですけれども、これは監視員に直接連絡していいのか、それとも河川の堤防とか何かですと管理者という方がいらっしゃいますので、県のほうに連絡するか、町の河川であれば町のほうで連絡するということでよろしいのか、最後にそれだけ確認したいと思います。
○委員長（星　　次君）　町民税務課長、猪俣利幸君。
○町民税務課長（猪俣利幸君）　本来土地の所有者、管理者が分かっていれば、そちらのほうの方に報告していただいても結構なのですが、まずは皆様、町のほうに、町の生活環境係、私どもの課のほうに、町民税務課のほうにまずはそういう情報、通報をいただくということでございます。それで、私どものほうでそれぞれの管理者のほうにその旨を通知するということでございます。
○委員長（星　　次君）　荒川佳一委員。
○４番（荒川佳一君）　はい、了解しました。
　それでは次に、３点目のページ数92ページ、負担金補助及び交付金の生ごみ処理機等の購入費補助金の件数についてお聞きしたいと思います。件数は一応11件ということで記載されているのですが、予算執行的に金額的にまだ余裕があるのではないかなと。町全体で少しその量については少ないのではないかなということで考えていますけれども、何らかの増やすＰＲ的なことでやっているのかどうか、それを確認したいと思います。
○委員長（星　　次君）　町民税務課長、猪俣利幸君。
○町民税務課長（猪俣利幸君）　昨年度の生ごみ処理機の実績でございますが、予算はコンポストが10台分で５万円、それから電動生ごみ処理機が２台分で６万円、合わせて11万円の措置をしたところでございます。実績といたしましては、コンポストが７台、それから電動生ごみ処理機が４台分で、合計11台分ということで８万5,900円というような結果となってございます。なお、生ごみ処理機の

普及についてでございますが、家庭から出るごみのうち約半分は生ごみと言われてございまして、これをいかに減少させるかということで、やはり生ごみ処理機の普及、啓発というのはかなり有効というふうに考えてございます。当課といたしましては、年に２回広報紙でごみ関係の広報記事、啓発に向けた広報を行っているところでございまして、昨年につきましては特に11月号の特集記事を組みまして、生ごみの特集を掲載してございます。この中には、今現在電動生ごみ処理機等を使用されている方の生の声なんかを掲載いたしまして、周知に努めているところでございます。

○委員長（星　　次君）　荒川佳一委員。

○４番（荒川佳一君）　それでは、町ではこういった補助とか何かやっているわけなのですが、最後に全体的に、効果的なことをやったことによって今お話ありましたように生ごみが減るということの効果は聞いているのですけれども、全体的な考え方で町の今言ったように燃えるごみについて最後に答弁をお願いしたいと思います。

○委員長（星　　次君）　町民税務課長、猪俣利幸君。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　ただいまのご質問にお答えする前に、先ほどのご答弁の中でごみの記事が年２回と申しましたが、特に生ごみの記事に関して特化して２回……

〔「処理です、処理」と言う人あり〕

○町民税務課長（猪俣利幸君）　生ごみ処理機の普及のための広報ということで年２回はやってございます。そのうち１回が大々的に特集で組んだということでございます。

ただいまのご質問でございますが、町で廃棄物の４Ｒ運動というものを推進しておりまして、やはりごみになるものを受け取らない、もらわない、それから発生させない、それから再使用、あと再利用ということで、子供のスポーツ用品等についても高田体育館のほうで再使用とか、リユースということで本庁舎においても当課直営で子供服なんかをやってございます。それに加えまして、分別をさらに徹底させると。町としては、さらに生ごみの水切りによりまして、こちらのほうでも推進するということで、生ごみの水切りによって15％ぐらいは重量を減らせるという試算が出ておりますので、４Ｒ運動に加えまして、生ごみの水切りと、あと加えまして事業系の生ごみ、やはり町の燃えるごみのうち５分の１の量が事業系、事業者から排出されるごみでございます。これらについては、特に施設とかスーパー、高齢者、それからこども園等の施設、それからスーパーといったところが、やはり町の生ごみのうち大体４割くらいはそちらのそういう上位10社あたりから大体排出されるということで、昨年度その事業者を訪問しまして、現状、それから今後の取組等についてヒアリング、聞き取りを行っております。それらの結果を、聞き取り内容を踏まえまして、収集業者とも共有しながら、さらなる事業系の生ごみを圧縮すると、少なくすると、減量化するということがさらなる町全体の燃えるごみの減量化につながるということで、事業者のほうのいろいろ要望も聞きながら取組を進めていきたいというふうに考えてございます。

○委員長（星　　次君）　荒川佳一委員。

○４番（荒川佳一君）　終わります。
○委員長（星　　次君）　７番、村松尚委員。
○７番（村松　尚君）　それでは、私は事務事業評価シートのほうから３点お伺いします。まず、１点目がページ数３ページの廃棄物減量対策事業、２点目は６ページの狂犬病及び犬猫等処理事業について、３点目が85ページのこども園管理運営事業について伺います。
　まず１点目ですが、廃棄物対策事業、この（３）番の実績報告でスポーツ用品のリユースの展示会場を造り、1,148点、そこに1,194キロ持込みの点数とキログラムの記載があるのですけれども、これは実際持込みのときに重量を１点１点量って明確にキログラムをされているのか、また特にどういったものが好まれて、逆に言うとこの中でも点数自体は400点程度はなかなか持ち出しが難しかったのかなと思う部分もあるのですけれども、どういったものが好まれて、どういったものがなかなかリユースに結びつかなかったようなものがあるのか教えてください。
○委員長（星　　次君）　町民税務課長、猪俣利幸君。
○町民税務課長（猪俣利幸君）　ただいまのご質問にお答えいたします。
　重量についてですが、持込みの際に総重量全部１件１件計量してございます。また、持ち出しというか、再利用で好まれるもの、スキーウエアとか、あとスキーとか、あと靴、そういう冬のやっぱり季節的な冬物、冬のシーズンに使用される、そういうような品物が好まれるということでございます。
〔何事か言う人あり〕
○町民税務課長（猪俣利幸君）　失礼しました。あと、好まれないものは型落ちのもので、ちょっと状態が悪いとか、時代がちょっと前の型だったりとか、そういうものについてはやはり好まれないで、そのまま残ってしまって処分というふうにつながるものもございます。
○委員長（星　　次君）　村松尚委員。
○７番（村松　尚君）　そうしますと、リユースに結びつくもの今お聞きした中では、ちょっと少し疑問を感じたのは結局この数字なのです。1,148点で1,194キロのものに対して743点で約600キロ程度しかキログラムがないと。そうすると、差引きするとおおむね半分程度の重量のもの、点数は400点程度になるのですけれども、重量自体は約半分程度のものがリユースに結びついていないと。具体的に型落ちというのはどういったものなのですか。スキーウエアとかは今お話の中ではリユースに結びついているというところの、この重量配分の部分がちょっと疑問に思ったもので、そこら辺どういうふうなものが、それだけの重量があるものだとは思うのですけれども、どういったものが具体的には物的にあるのかちょっと教えていただいてもよろしいですか。
○委員長（星　　次君）　町民税務課長、猪俣利幸君。
○町民税務課長（猪俣利幸君）　ただいまのご質問でございますが、そのようなデータというか、そのような情報はちょっと今現在持ち合わせておりません。ただ、今回のこの廃棄物減量の目的は、再利用してもらおう、少しでも廃棄物を減らしてもらおうというような視点から、リユースにつなげて

減らそうという目的からやってございますので、受け入れたものについては基本的には展示して、やはりどうしても型落ち等で再利用、持ち出されないものについてはやむなく処分するということでございます。

○委員長（星　　次君）　村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　はい、分かりました。そうしましたら、少しでもリユースできるものが集まればいいなと思います。

２点目なのですけれども、６ページの狂犬病及び犬猫等処理事業なのですけれども、こちらのほうの成果の中で美里町とすれば感染症研究所の一般的な数字よりも狂犬病の予防接種というのが非常に高く推移をしていると。ただ、目指す部分は100％を基本的に目指してはいるのですけれども、なかなか100％を目指すといってもかなりハードルは高いと思うのですけれども、具体的に100％にいくための考え方というのはどういったものを持っていらっしゃるのか、その辺教えてください。

○委員長（星　　次君）　町民税務課長、猪俣利幸君。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　ただいまのご質問でございますが、限りなく100％を目指しているわけでございますが、国立感染症研究所の研究結果にもありますとおり、７割以上の犬に接種されれば人への感染を防ぐことができるというふうな調査結果もございます。ただ、100％にならないといいますのは、やっぱり犬の登録関係で、実際に犬が死亡されていても死亡の届出をされていないとか、逆に本当にこれは数値には上がってこないわけですけれども、実際犬を購入しても登録していないと。だから、こちらのほうについてもきめ細かに周知、広報、それからホームページ等において、やはり登録と狂犬病予防のワクチンの接種については広報等を通じて頻繁に啓発活動を実施していくというしか方法がないのかなと思っております。

○委員長（星　　次君）　村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　確かに啓発活動というのは、ホームページであったり、町の広報紙を活用するということも大事なのですけれども、もう目につくような、町の公共施設等に例えばポスターを少し貼ってみるとか、犬を飼っていませんかとか、やっぱりそういった視点もまた大切なのではないかなと思うのですけれども、そういったことの必要性みたいなのはどうお考えでしょう。

○委員長（星　　次君）　町民税務課長、猪俣利幸君。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　今委員ご提案のそういう公共施設等にポスターを貼ると。まさに本当にいろんなそういうような広報手段があれば、そういうのをいろいろ研究させていただいて、いろんな機会を捉えてそういうような普及、啓発につなげていくと、そういうふうに努めてまいりたいというふうに考えてございます。

○委員長（星　　次君）　村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　ぜひとも啓発活動のほうをよろしくお願いします。

それでは、85ページのこども園管理運営事業のほうに入らせていただきます。これは最終評価の部

分に入るのですけれども、ただそこの前段の中で、これ令和３年度の分でお聞きしたいのですが、最終評価の成果の方向性、最終評価の中でですけれども、将来的に子供の数は減少するということは予測をしていると。ただし、ゼロ歳児や１歳から預ける家庭が増えているという文言が入っているのですけれども、そういうことは、ここに文言が入ったということは、その前段の段階、令和３年度の段階でそういったような問合せであったり、そういったような相談であったり、そういったものがあるからこそここに反映されているのではないかなというふうに感じるのですけれども、そういったような考え方でよろしいのかどうか、そこら辺ちょっと教えてください。

○委員長（星　　次君）　こども教育課長、渡部雄二君。

○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまの委員のおただしのとおり、ゼロ歳児及び１歳児につきましてはそういった要望がございます。

○委員長（星　　次君）　村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　そうしますと、あまり細かいことを聞いてもなかなかデータ上出すのが難しいのかもしれないですけれども、例えば本郷こども園、新鶴こども園とありますけれども、大体どのくらいの件数そういったご相談がこの段階においてあったのか。大体の件数でもいいのですけれども。結局ここに、方向性の中に落とし入れたということはそれなりの件数があったのかなというふうにして、一つの位置づけ的にはそう見えてしまう部分もあるのですけれども、実際のところはどのくらいあったのか。もし分かる範囲でも結構なのですけれども、答弁できる範囲で。

○委員長（星　　次君）　こども教育課長、渡部雄二君。

○こども教育課長（渡部雄二君）　実際に私どものほうに保護者の方とか、そういった方々から問合せ等はあるのですが、件数につきましては把握してございません。申し訳ございません。

○委員長（星　　次君）　村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　これは、先日の一般質問でも質問させていただいた部分もありますので、早い段階からこういうような方向性、令和３年度の段階でこういうシートの中に方向性として少しずつ出してきているわけなので、やはりしっかりとしたぜひとも対応を取っていただきたいと思います。答弁は結構です。ありがとうございます。

以上です。

○委員長（星　　次君）　12番、根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　２点お願いしたいと思います。１点目は、成果説明書の27ページ、健康づくり推進事業についてです。２点目は、31ページの廃棄物減量対策事業についてです。

まず、１点目の健康づくり推進事業ですけれども、今年度の議会としての活動で意見交換会に町内に出向いております。そこで出ていた話で、県民パスポート、これが意外と知られていないということが分かりました。このことについて３年度は実績として計画値が15人で、実績が９人というふうに載っております。確かにコロナ禍で健康づくり推進員の方々のご苦労も多かったのではないかなとい

うふうに推察いたしますけれども、特にこの県民パスポート事業、このことの取り組み方、このことについてはどんな総括をお持ちになっていますでしょう。
○委員長（星　　次君）　健康ふくし課長、平山正孝君。
○健康ふくし課長（平山正孝君）　県民パスポート事業についてということでございます。まず、本年度は目標値15に対して９という形でございました。若干ずつではございますが、増えてきてはおります。周知等につきましては、町広報等により周知を行い、募集をしているところでございます。なかなか、成果の考え方として、関心を持っていただける方は若干いらっしゃるのですが、健康づくりにつながると考えて自ら取り組む、手を挙げてやっていただけるという方が少ないという形だと思っております。県民パスポート事業によって取得できるメリットもございます。そういった部分も、やはりよく周知をして、皆さんの健康のためにも役立つ、そういった事業であるということを周知していかなければいけないというふうに考えているところでございます。
○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。
○12番（根本謙一君）　確かにパンフレット、チラシ等も作って配られておりますよね。一定程度の周知活動はされているというふうに思っておりますけれども、確かに、ああ、そういうの見たことあるとか、聞いたことあるではなく、その先にやっぱり進まないと、インセンティブ働くことも含めて努力が必要なのではないかなと。この有意性を認識されているならば、やはりもうちょっと踏み込んだものが必要になるのではないかなと思いますけれども、そういう考え方で次年度に向けているのだということになっているのでしょうか。
○委員長（星　　次君）　健康ふくし課長、平山正孝君。
○健康ふくし課長（平山正孝君）　今までの事業の取組等を踏まえまして、インセンティブ等町でも行っております。より町民の方にこういう事業に取り組んでいただくことによって体にいいこと、あと町としてインセンティブもありますよということをやはり周知していく必要はあると考えております。より多くの方に参加していただくこと、例えば健診に行くことによってポイントもたまりますよとか、そういったこともより細かく説明をして取り組んでいただくようにしていく必要があると考えております。
○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。
○12番（根本謙一君）　内容的にはそういうふうになっていますよね。それから、メリット、いわゆる商店街でポイントを使ってお買物できますよというのも一つのインセンティブ働かせるのですけれども、対象の商店さんの登録がそんなに増えていないということで、そこにやっぱり少し力を入れる必要があるでしょうということも言えると思います。私がだから言っているのは、もう一歩踏み込んで、健康が大事なのみんな分かっているのです。でも、健常者はなかなかそこまで思いが至らない。困ったときに、あるいは体壊したときに、ああという状態、これが誰しもだと、多くの方々がそうだと思います。そういうことも踏まえて、だから今から取り組みましょう、取り組むとこういうメリッ

トがありますよ、突き詰めると商店街で買物するときも楽しいこういうこともありますよ、それは１回チラシに出せばいいということでは私はないと思います。やはり事あるごと、あるいはその場面、ＴＰＯでしっかり町民の皆さんにお伝えしていくと。その努力も相まってほしいなというふうに考えますけれども、再度の答弁お願いします。

○委員長（星　　次君）　健康ふくし課長、平山正孝君。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　根本委員のご指摘のとおりだと思います。いろいろ機会を捉えて住民の方にＰＲしていくというのはやはり必要だと考えます。例えば健診の場においてポスターとか、そういった機会をつかまえて皆様のほうにお話をしたり、いろいろな機会を捉えて募集をするような、制度のよいところを説明してより多くの方に参加していただけるようにしていく必要があると考えておりますので、検討してまいります。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　ご苦労ですけれども、やっていってただきたいと思います。

次参ります。31ページの廃棄物減量対策事業についてです。今同僚委員からの質問の中にも出てきております。いろいろ取組やっている、成果が上がっている、これは本当に評価に値する内容ですので、素直に申し上げたいと思います。いわゆる広域的な課題としても、ごみ減量化は喫緊の課題だということは言うまでもないと思っております。この本町で上げている３年度の実績を基にすれば、大いに他自治体に対しても指導的な役割を担える実績を上げてきているということは私は言っていいと思います。ただ、もっともっと先進事例からするとやれることはあるのだなという認識に立って、この４Ｒ運動、いろいろ課長が申し上げていましたように生ごみを減らすには云々もあります。その中で１点は分別だという課長の答弁ありました。やっぱり分別、さらに分別だと。それは、本当にそういうところに今入っていこうとしているのかどうなのか、３年度の実績を基にして自信を持って少し踏み込む考え方なのかどうなのかというのが１点目。

それから、２点目ですけれども、事業系のごみの減量化に取り組みたい。これは、いろいろご協力いただかないと、強制的に入っていくわけにはいかない部分だと思いますので、十分にコミュニケーションを取って進めなければならないと確かに思います。でも、これだけの数字、燃えるごみが５分の１を事業系が占めている。生ごみに至っては４分の１だと。やはりこれに注力することによって相当の大きな成果が出てくるということは容易に想像つきますよね。そういうところでの踏み込み方、これは丁寧にやる必要があると思いますけれども、取り組み方のもう少し詳しい考え方をお尋ねしたいと思います。

○委員長（星　　次君）　町民税務課長、猪俣利幸君。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　ただいまのご質問にお答えいたします。

実績としまして、燃やせるごみ、それから燃やせないごみ、本当に対前年度相当減量が図られておりまして、資源ごみにあっては本当に相当、昨年度、前年度実績で18％アップとなってございます。

ただ、今後の方針、またさらなる減量化に向けて、分別化に向けてというような取組方針でございますが、今現在16分別を実施しておりまして、ごみステーションからの情報発信ということでかなり選別収集というものを徹底しております。まず、今現状の16分別、選別収集してもう丸２年になりますけれども、相当住民の方にはこの分別について浸透してきているというふうに認識してございますが、さらなる分別の種類の拡大というものについてはもう少しちょっと時間をかけて、今の16分別をもう少し、もっとさらに住民の方が本当に理解されるというような、まずは16分別、今の現状についてさらに浸透させるということで進めてまいりたいと思います。ただ、この後分別種目を増やすというのは、今後の研究課題というふうにさせていただきたいと思います。

あとそれから、事業系のごみの減量化についてでございますが、先ほども申し上げたとおり、町内の生ごみ、燃えるごみの本当に５分の１を占めるということで、昨年度は特に生ごみの排出量の多い事業者に対して、10社に対して状況等のヒアリングを実施させていただいたと。その中では、その結果といたしまして、分別しても処理経費としてのメリットがないと、費用対効果がないということで減量意識が低いような事業者、それから分別についても紙、それからトレー類はやっていますけれども、なかなかプラスチック類なんかは燃えるごみとして出してしまっていることがあると。あと、町としまして、先ほど申し上げましたとおり生ごみというのは水切りによって相当減量化が図られますので、業務用の生ごみ処理機、それから乾燥機、ごみの水分の分離機等の乾燥機等の導入についていろいろと推進、ちょっと働きかけを行っているところでございまして、本当に今後さらなる減量化の成果を上げるには、やはりこの事業系のごみをいかに減らしていくかというところが一番の重点課題というふうに捉えてございます。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　丁寧な説明ありがとうございました。大変理解が進みました。事業系にそこまで踏み込んで分析しているというのが確認できまして、敬意を表したいと思います。それはそれで推進していっていただきたい。町民皆さんへの要請、それから分別は今16分別やっておられると。言うまでもありません。日本のトップレベルでは27分別までやっているのです。でも、これは地区ぐるみの仕組みをきちっとつくらないと、理解も含めてつくらないとなかなかそこまではいきませんけれども、当面この16分別で本町は町民の理解をしっかりいただいて定着させて、その後にステップアップということかなというふうに思いますけれども、そういう理解でよろしいですか。

○委員長（星　　次君）　町民税務課長、猪俣利幸君。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　委員おただしのとおりでございまして、そのようなことでまずはこの16分別、今のこの浸透、さらなる町民の理解を深めるというところで、次の段階でまた分別の品目を増やしていくというようなことを検討してまいりたいというふうに考えてございます。

○委員長（星　　次君）　ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（星　　次君）　なしの声ありますので、これをもって３款民生費、４款衛生費の質疑を終了いたします。

説明員入替えのため、13時50分まで休憩いたします。

休　憩　　（午後　１時４１分）

再　開　　（午後　１時５０分）

○委員長（星　　次君）　再開します。

次に、５款農林水産業費、６款商工費、７款土木費の質疑を行います。

質疑者は挙手にてお願いします。

２番、大竹惣委員。

○２番（大竹　惣君）　私のほうからは、事務事業事後評価シートより２点お伺いします。まずは、５款農業水産業費の評価シート107ページ、農業委員会運営事業、次に６款商工費の評価シート136ページ、観光誘客事業について伺います。

まず、107ページ、農業委員会運営事業、この２の事業の実績（３）、活動実績及び成果の部分で、農用地利用の最適化のための活動をしたとありますが、これは具体的にどのような活動をしたのかを伺います。

○委員長（星　　次君）　農業委員会事務局長、小林隆浩君。

○農業委員会事務局長（小林隆浩君）　この答弁、農業委員会の事務局次長から行います。

○委員長（星　　次君）　答弁、農業委員会事務局次長、後藤次長。

○農業委員会事務局次長（後藤　淳君）　農業委員会の活動事業なのですが、農業委員会のほうの農地のあっせん等を実施しております。

〔何事か言う人あり〕

○委員長（星　　次君）　大竹惣委員の内容をまだ理解していないので、もう一度お願いできますか。

○２番（大竹　惣君）　分かりました。もう一度言います。２の事業の実績（３）、活動実績及び成果の部分で、農用地利用の最適化のための活動をしたと書いてありますけれども、これは具体的にどのような活動をしたのかを伺っております。よろしくお願いします。

○委員長（星　　次君）　農業委員会事務局次長、後藤次長。

○農業委員会事務局次長（後藤　淳君）　農地の利用の最適化を図れる担い手の集積の向上の部分について説明いたします。農地のほうの集積のために遊休農地の部分の解消の部分について……すみません。農地の最適化の部分なのですが、農地のほうの遊休農地の部分のあっせん等を行いまして、可能な限り農地として利用できるような形を取っております。そのほか農地の解消ができない部分につきましては、町のほうの補助を利用しての改修事業等を実施しております。

以上です。

○委員長（星　　次君）　大竹惣委員。
○２番（大竹　惣君）　この書き方ですと、こちらの解釈としましては、農用地利用の最適化ということで、もちろん遊休農地の部分も含まれるかとは思いますけれども、どちらかといえばいろんな生産者がいろんなところに飛び地で耕作をしていると思いますけれども、それをお互いに融通して、なるべく集約するような形にするようなことが一番の最適化につながるのかなと思うのですけれども、その部分って何か行動というか、活動はしておりますか。
○委員長（星　　次君）　農業委員会事務局次長、後藤次長。
○農業委員会事務局次長（後藤　淳君）　今のところ集積のほうにつきましては、土地の利用の状況等にもよりますので、実際作物等について収穫が高い部分と、あと低い部分というような部分がありますので、その部分についてはこれからの課題だと思いますので、その辺については今後検討してまいりたいと思います。
　以上です。
○委員長（星　　次君）　大竹惣委員。
○２番（大竹　惣君）　現状米価が安くて燃料費も高騰していますので、この農用地の集積というのは大変重要なことだと思います。個人の所有地が絡んでおりますので、難しい部分もありますが、今後検討していくということですけれども、しっかりと進めていただいて、少しでも進めていただいて、実績を上げていただきたいと思います。これについてはご答弁オーケーです。
　次移ります。事務事業事後評価シート136ページ、（３）の活動実績及び成果の部分で、訪日外国人や遠方からの観光客に対し、受入れ態勢の整備をしたとありますが、この具体的な取組と実績を伺います。
○委員長（星　　次君）　産業振興課長、小林隆浩君。
○産業振興課長（小林隆浩君）　ただいまの質問にお答えいたします。
　ここの訪日外国人や遠方からの観光客などということで、訪日外国人に対しましてはデジタルＤＭＯという事業で外国人専用のホームページを作っております。これは、会津の中の６自治体で共同で作っているものですが、そういったものの整備をしたということが１点でございます。あと、指さしナビというものが携帯でモデルコースなどを案内するような、あと行き先を教えるとか、そういうようなアプリがあるのですが、それも多言語化にしたというところでございます。
○委員長（星　　次君）　大竹惣委員。
○２番（大竹　惣君）　今の答弁ですと、主にデジタルの部分で取り組んで整備をしていたという部分だと思うのですけれども、実際に観光地になる部分の標識ですとか、その部分恐らくまだ多言語化進んでいないと思いますけれども、その状況を一度お伺いします。
○委員長（星　　次君）　産業振興課長、小林隆浩君。
○産業振興課長（小林隆浩君）　おただしのとおりに案内板等の多言語化というのは進んでいない状

況です。
○委員長（星　　次君）　大竹惣委員。
○２番（大竹　惣君）　それは、そちらの案内板等や、あと町の観光のパンフレット部分もそうだと思うのですけれども、そういった部分の媒体の多言語化も進める考えはあるのかというのはちょっとお伺いしたいと思います。
○委員長（星　　次君）　産業振興課長、小林隆浩君。
○産業振興課長（小林隆浩君）　今ほどのご質問ですが、パンフレットにつきましては、英語で作っているパンフレットはございます。そういったところになっていますので……あとは英語のパンフレットのほかに、三十三観音のところにも多言語化といいますか、ＱＲコードで読み取るとそこの三十三観音の説明が出てくるようなところまでは整備してございます。こういったもの、今後ＱＲコードなり携帯などを活用して案内できるようなものはもっと広げていきたいと考えております。
○委員長（星　　次君）　大竹惣委員。
○２番（大竹　惣君）　質問は終わりますけれども、一応コロナ後に関しまして今まで我慢していた多くのインバウンドが見込めると思いますので、間に合うようにぜひ体制をしっかりと整えることを期待します。
　質問終わります。
○委員長（星　　次君）　７番、村松尚委員。
○７番（村松　尚君）　それでは、私も事後評価シートの中から２点ご質問させていただきます。１点目は、31ページ、道路維持管理事業であります。２点目は、137ページ、観光対策事業からお伺いいたします。
　まず、１点目ですけれども、31ページの道路維持管理事業であります。こちらですけれども、基本的には道路の維持管理、読んで字のごとくですけれども、特に除草作業、また陥没があった場合の道路の修繕という部分をちょっと見たときに、町としては当然道路の修繕という部分は、定期的に自分たちが走っていて陥没箇所がある、そういったような場所を見つけたりもするのですけれども、除草については原則的には何か基準があってやっているのか。また、除草というものは、例えば６月ぐらいに一回刈ってしまうと秋口に再度伸びるなんていうこともあるのですけれども、そういったところで回数なんていうのはどういうふうにして管理していらっしゃるのか、その辺少しお伺いします。
○委員長（星　　次君）　建設水道課長、鈴木明利君。
○建設水道課長（鈴木明利君）　ただいまのご質問でございますけれども、除草についての基準ということでございますが、基本的に除草は県道除草と町道除草ということで分かれております。それで、県道のほうについては県から依頼があった路線についての除草、あとは町道については町で状況を見て除草が必要と思われるところの除草ということでございますが、おおむね１回程度の予算しか計上していないというところでございまして、ある程度草が伸びる今委員がおっしゃった６月頃とか７月

頃とかというところで一度除草作業をしまして、その後にどうしても除草が必要だという場合については、県のほうで、草刈り機なのですが、自走のものなのですが、それの貸出しということで、あとはリモコンのものの貸出しもあります。そちらを用いながら除草をやるか、あとはどうしてもそれで間に合わないということであれば、緊急的に除草委託ということで新たな追加で委託する場合もございます。

○委員長（星　　次君）　村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　私も気がつけばお願いしたりして、例えば県道であったり、当然県道であれば県の単位にお願いする、町であれば当然町にお願いするというのが、大体そういうふうにしてすみ分けはしていますけれども、場所によってはやはり、特に、課長もご存じかもしれませんですけれども、１つの例でお話しさせていただければ、吹上台の団地、あそこは県道と町道、あの丁字路、坂道から町道になりますね。あそこの部分結構茂るのです。ここどういうわけか、昨年なんかもそうですけれども、ふれあいウォークがあるときによく職員さんたちが除草作業しています、朝方とか。今年なんかも、私あそこメインで通るので、県道沿いは歩道のほうにつるが出る。非常につるが出るのです。そういったところで２回くらい刈ってもらったなんていう経緯もあるのですけれども、あの辺は場所によっては子供の通学路にも付随しているので、そういったところをやはり重点的に除草であったり、通学の邪魔にならないような、そういったところを注視して見ていただければありがたいのかなとも思いますし、また健康のために散歩であったりマラソンだったりというのも結構やっていらっしゃる方も多いのです、場所によっては。そういった方々がどうしてもやっぱり車道を走らなければならないなんていうことも私よく見かけたりもするものですから、そういったところ適切な、１度という限りではなく、いわゆる先ほど課長の答弁にもあったように柔軟にご対応いただければありがたいかなとは思うのですけれども、その辺もう一度だけご質問させてください。

○委員長（星　　次君）　建設水道課長、鈴木明利君。

○建設水道課長（鈴木明利君）　今ご指摘のあったとおり柔軟な対応ということでございますが、確かに県道と町道の交差するようなところについては、先に県道をやった場合には県のほうで多めに刈るとか、町道をやったときには県道のほうを多めに刈るとかというようなことは今現在もしております。そこであと、その道路についていろんな用途がありまして、通学路とか、散歩とか、あとはマラソンコースとかというような用途もあるというふうな、路線についてはありますので、そのようなところもいろいろ把握をしながら除草作業、歩行者、通行者に危険のないようなところで今後管理してまいりたいというふうに思います。

○委員長（星　　次君）　村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　よろしくお願いします。

それでは、137ページの観光対策事業のほうについて伺います。こちらのほうの活動実績なのですけれども、おおむね観光に対する事業、誘客も含めてですけれども、なかなかやはりコロナ禍の中で

全てのことがうまくいかないということは当然理解もできます。ただ、今回の観光対策事業の中で成果の考え方、イベントに対しての指標の推移の考え方なのですけれども、基本的には観光協会の情報発信と成果、今までの多分入り込み数みたいなものを落とし込みながら15万5,000人という数字をはじき出していると思うのです。それに対して基本的には1,000人、これはせと市ＷＥＥＫということで、せと市を縮小化したものの中の入り込み数というものの中での1,000人という内容だったのですけれども、ただコロナ禍の中で様々な事業を行いましたよね。多分Ｇｏ　Ｔｏ　ＭＩＳＡＴＯであったり、何か金券みたいなのを配ったりとかというのも観光協会さん通しながらやったと思うのですけれども、そちらのほうの数字みたいな部分を反映させなかった理由、これは基本的にイベント、今までの通年のイベントだから、コロナ禍の中での事業、緊急的な事業については入り込み数の中に反映させなかったのか、その辺の入り込み数の部分、考え方を少しちょっと教えていただきたいなと思うのですけれども。

○委員長（星　　次君）　産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　ここの考え方としましては、この実績で1,000人という数字につきましては、今までここ成果の考え方ありますが、ふれあい茶会、あやめ祭り、せと市、ワイン祭り、大俵引き、ヒルクライム、御田植祭、秋季祭礼の入り込み数ということで、この中でここでずっと取っている数値でございます。せと市のＷＥＥＫというのですか、それだけの人数で1,000人ということになってございます。

〔何事か言う人あり〕

○委員長（星　　次君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　今ほどのご質問につきましては、イベントの入り込み客数でずっと取っているわけですが、これにつきましては今後の見直しなども考えながら進めていきたいと思います。

〔「ちょっとすみません。休憩願います」と言う人あり〕

○委員長（星　　次君）　暫時休憩します。

休　憩　　（午後　２時１２分）

再　開　　（午後　２時１４分）

○委員長（星　　次君）　再開します。

答弁、産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　大変失礼いたしました。今ほどの質問にお答えします。

指標の中に入れなかった理由につきましては、Ｇｏ　Ｔｏ　ＭＩＳＡＴＯ自体が指標として取る事業ではなくて、代替事業だということで指標には入れておりません。なお、Ｇｏ　Ｔｏ　ＭＩＳＡＴＯの事業でお客さんは結構な数、二、三百人以上のお客さんは来ていると思いますが、申し訳ありま

せんが、数字は今用意しておりませんで、ちょっと正確な数字は申し上げることができません。
○委員長（星　　次君）　村松尚委員。
○７番（村松　尚君）　考え方的には、もともと数字を見たときに今までの既存事業、基本的にこの成果の考え方の中で、明確にある程度今までやってきた既存事業に対しての考え方の指標の入り込みだったものですから、その辺が妥当かなとは思っております。
　その間に、こちらのほうの３番目の活動実績のほうにもちょっと記載があるのですけれども、コロナ禍でなかなか事業ができない中でも、観光施設の美化作業と、あと観光素材等についての情報提供を行ったというものが記載があるのですけれども、こちらについては情報提供というもの、特に観光素材なんていうのは、この２点、美化作業はどちらのほうをどのような美化作業を行ったのかが１点と、もう一点は観光素材等の情報提供というものはどういうものをどういうところに対して行ったのか、その２点教えていただきたい。
○委員長（星　　次君）　産業振興課長、小林隆浩君。
○産業振興課長（小林隆浩君）　まず、ご質問の観光施設の美化作業につきましては、観光看板とか、そういったところを草刈りとか、そういうことをやっております。あと、看板の修繕とか、そういったこともやっております。あと、観光素材等についての情報提供につきましては、やはり観光パンフレット、お客様のほうからお電話とかいただきますと観光パンフレットを送付したということでございます。
○委員長（星　　次君）　村松尚委員。
○７番（村松　尚君）　では最後に、お尋ねしますけれども、そうすると観光施設とは記載はあるものの、基本的には看板の除草作業だったということの確認でよろしいのか。施設ではなく、観光看板に付随するようなところの除草作業が基本的にこの中の美化作業という部分での落とし込みと。あともう一点は、情報提供というものは、あくまでも連絡が来たので、アフターコロナに向かってぜひとも問合せがあったのかもしれない、ポジティブな考え方をすれば。ひょっとしたらアフターコロナになったら伺ってみたいので、パンフレットを下さいというような問合せの中でパンフレットを送ったという解釈でよろしいのか。そこだけ最後お聞かせください。
○委員長（星　　次君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。
○産業振興課長（小林隆浩君）　委員のお話のとおり観光施設と書いてあります。申し訳ありませんが、観光看板の修繕とその周辺の草刈りということでございます。あと、観光素材等の情報提供につきましても、今後これから皆さんに来ていただきたいということでパンフレットなど、コロナ収束後来ていただきたいということでパンフレットの送付をしたものでございます。
○委員長（星　　次君）　12番、根本謙一委員。
○12番（根本謙一君）　それでは、委員長、お願いします。私は、４点ございます。１点目は、成果説明書の36ページ、森林資源活用推進事業について、２点目は、41ページ、観光誘客事業について、

３点目、観光対策事業について、４点目、47ページの公園管理事業について伺います。

まず、成果説明書の36ページでございます。森林資源活用推進事業。額はそんなに大きくありませんけれども、事業の概要にありますように大変将来的には大事な取組だというふうにも思っていますから、お尋ねしたいと思います。ここで、活動実績・成果の下段で「今後の森林資源活用の新たな手段について情報周知をすることができ、今後の検討・議論の更なる活性化が見込まれる」ということですけれども、こういうコロナ禍において、なかなか会議も思うように進まなかったのかなというふうに推察するところであります。でも、現況的には木材の生産量がこれだけ上がっております。ウッドショックという世界的なうねりの中で、国内産材が大変注目されてきております。そういう状況がある中で、ある情報によりますと木質バイオマス資源の熱エネルギーとしての利活用、これ会津地域森林資源活用事業推進協議会というところで議論されてきておりますけれども、大手企業が撤退しているという話もあります。やっぱり将来的には採算合わないという、簡単に言えば。そういう中で、コロナ禍で昨年度そういう話が出たのか、出ないのか。それでもやっぱり地域的には大事な取組として進めましょうということをきちっとに認識共有されてのこの活動事業なのか、まずそこをお伺いしたいと思います。

○委員長（星　　次君）　産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　ただいまの質問につきましては、佐藤課長補佐のほうから答弁いたします。

○委員長（星　　次君）　産業振興課長補佐、佐藤補佐。

○産業振興課課長補佐（佐藤文彦君）　成果の中に「情報収集をすることができ」ということにつきましては、県のほうの打合せの中で関連する団体と情報共有できております。先ほど委員おっしゃられました木質バイオマスエネルギーの関連につきましては、町と民間が役割分担をしながら地域の資源を有効に使っていくということで進めております。町としましては森林資源を出すほう、あと企業のほう、民間部分につきましては熱供給事業のほうを民間のほうで進めていくということで現在進められておりまして、会津13地域の中では規模の大きい効率化が図れる場所かなということで２か所ほどは進んでおります。企業撤退という情報については、ちょっと申し訳ないのですが、そういう情報はつかんでおりません。

以上です。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　私の聞き方がちょっとまずかったのかなと思いますけれども、企業撤退の件は全国的に大企業の話です、これは。大企業がしっかり調査研究、分析して撤退の判断をしたというのは多分４か所ぐらいあるかなというふうに新聞紙上に載っておりました。そういう中で、地域のこういう地道な活動、これはこれとして私は有用だなとは思いますけれども、当然民間で果断でやっていくには、採算性、これは度外視はできないと。やっぱり持続可能性見るには。そういう中で、昨年

度の会議の中で、そういうことは話題というか、情報として認識されたのか、共有されたのか。一切そういう話はなくて、今年度に入ってどうなっているかは聞くわけいかないのかなと思いますけれども、そこの認識は町としては全く持ち得ていないということでしょうか。

○委員長（星　　次君）　産業振興課長補佐、佐藤補佐。

○産業振興課課長補佐（佐藤文彦君）　先ほどの企業撤退につきましては、最近なのですが、昭和村周辺で美里に隣接するところ、昭和と美里、下郷、南会津周辺で風力発電というものを計画するというのがあったものなのかと思います。

〔何事か言う人あり〕

○産業振興課課長補佐（佐藤文彦君）　すみません。バイオマスに関しましては、撤退という情報は全くつかんでおりません。協議会の中では話にはなっておりません。

以上です。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　一切出ていなかったということなのですね。いずれにしても、これは今年に入ってからの情報ですので、それを踏まえながら、でも会津地域のこの広域の取組は大事な部分ですので、しっかりやっていきますよというところに立つならば立つで、私はそれはそれでいいと思います。まず、これから国内産材の需要が私高まるだろうと。供給力もつけていかなければならない。林道整備も進んでいる。伐木がもう相当迎えているものがあるという状況からすると、当然間伐材と、あとは端材を使ってのバイオマス発電はとても必要不可欠になるというのは理解するところですけれども、でも一方全国日本の在り方あるいは進め方見ると、大企業はそういう考え方で今取りやめ、撤退を表明していることは間違いないので、そういうことも併せて情報を持って、しっかりやることはやると、町としてのやらなければならないことをやっていくというスタンスでいくべきかなというふうに思いますけれども、そこのところの認識を伺います。

○委員長（星　　次君）　産業振興課長補佐、佐藤文彦君。

○産業振興課課長補佐（佐藤文彦君）　地域の熱エネルギー資源循環、美里町に限らず、会津地域に関しましては、森林部分がかなりの面積を占めております。７割以上森林ということで、広大な森林があります。それを有効に使っていく。今は、なかなか資源を搬出するといっても搬出経路がなくてできないということもありますので、広域で共通の目標、課題に関しましてみんなで取り組んで、課題解決に向けて進みましょうということになっておりまして、民間ではなくて、町ですべきところは資源を搬出する、資源量を確保するということで課題のほうはちゃんと確認しておりまして、その課題解決に向けて進んでおりますので、あとは民間のほうでも様々な補助の制度を活用するというようなことでいろいろ検討のほうは進めておるようです。実際には13町村の中でも２施設ほどは進んでおるようですので、より有効な補助、国の補助等を検討しながら、事業化へ向けた取組は進めていっていただきたいというふうに考えております。

以上です。
○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。
○12番（根本謙一君）　できれば今の部分は私は課長が答弁するべきと思います、これは。あれだけ補佐が頑張って答弁しているのは本当に敬意を表しますけれども、最後は課長がしっかり答弁して、そういう情報もあるのだったらちゃんと踏まえておくという、それはやっておいていただきたいなと思います。
次行きます。次は、成果説明書の41ページです。観光誘客事業。今、同僚委員からの質疑もありました。内容的にも再確認できたところですけれども、ここで成果として、一番下段、「効果的に観光情報をＰＲすることが出来た」というふうに言っております。何か結果、成果、根拠があって言われているのだろうというふうに推察しますので、そこのところの内容等をもう少し詳しくお願いしたいと思います。
○委員長（星　　次君）　産業振興課長、小林隆浩君。
○産業振興課長（小林隆浩君）　今のところにつきましては、ホームページとか、そういったもの観光協会にありますが、観光協会とホームページなども統合しまして、本当にプラットフォームとなるようなホームページ、観光協会のほうでも作りまして、そういったところで観光情報なども行っているところであります。あと、今の広域で実施することにつきましては、先ほど申しましたデジタルＤＭＯとかでそういった観光ＰＲなども行っているところであります。理由につきましては、更新なども本当に以前はあまり更新とかもなかったのですが、すぐに情報は発信するようになどもしておりまして、以前よりホームページに対する苦情とか、そういうのもなくなっているということでございます。
○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。
○12番（根本謙一君）　課長、もっと自信持って答弁していただいていいと思うのです。やっていることをやっていると、こういうことを基にこういう判断しましたと言って私はいいと思うのです。やってきたことについては堂々と説明してください。お願いします。何でここでくどいように聞いているかというと、効果的にという言葉使ってしまっているのです。ということは、何か数字的な根拠、科学的な根拠があってのことだろうというふうに私らは受け止めるではないですか。だから、このコロナ禍の中でなかなか現地に、あるいは本町に足を運べないけれども、いろんな情報をもらって、自分で情報を検索して得て、本当にリアルタイムで更新されているな、すばらしいな、だからその受け止め方として苦情が減少しているという今説明されましたね。私は、リアルタイムでの更新はまだ不十分だと思っています。古い、もう載せなくていいようなものまでまだ残っています。そういうことも含めて、やっぱり担当課としては常にこれチェックしながら確認しておくという作業をぜひやっていただきたいなと。再度言いますように、もう効果的なというのを使ってしまっているのだから、そこはやっている感だけではなくて、やっぱりしっかり根拠を持っていると。そのことによって堂々と

力強く説明できるということにつながるわけですので、そこはお願いしたいなと。コロナ禍で大変だったのは、ご苦労は全く同感しますから、そこのところの確認をお願いしたい。
○委員長（星　　次君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。
○産業振興課長（小林隆浩君）　ご指摘いただいた点につきましては、本当に早急に対応するようにしたいと思います。あとなお、ＶＩＳＩＴ　ＡＩＺＵですとか、インスタグラムというのですか、ＶＩＳＩＴ　ＡＩＺＵって観光協会のホームページですが、あとインスタグラムなどもあのところで入っておりますので、そういったものもどんどん新しいものをアップしていくようなことで取り組んでいきたいと考えております。
○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。
○12番（根本謙一君）　３回やりました。
○委員長（星　　次君）　これで３回目です。
○12番（根本謙一君）　ありがとうございます。すみません。
　インスタグラムとかいろいろ言われまして、最近のそういうＳＮＳにはいわゆる検索数が必ず出てきますよね。そういうフォロー数も含めて。そういう数字で見ると、一つの分析、素材として貴重ですよね。そういうものもしっかり見ると、いろんなことが背景に見えてくると思うのです。ぜひこれやっていただきたい。今だから、ウィズコロナだからこそやれる仕事、外に出ていかなくてもやれる仕事というのは本当にたくさんあると思います。職員の皆さんにだけやれとは言いませんけれども、観光協会としっかり連携取ってこれ取り組んでいくべきことだというふうに思いますので、３年度の実績を踏まえてしっかり向かっていただきたいなと思いますけれども、そのところ確認でお願いします。
○委員長（星　　次君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。
○産業振興課長（小林隆浩君）　観光協会のホームページ、ＶＩＳＩＴ　ＡＩＺＵにつきましては、町のホームページ、観光のホームページのほうよりもアクセスが多いくらいですので、今後さらにホームページの充実に努めてまいります。
○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。
○12番（根本謙一君）　次参ります。次、観光対策事業です。このことについても同僚委員から質疑がありました。私が伺いたいのは２点です。インフォメーションの入り込み状況はどうだったのか。当然コロナ禍ですので、入り込み数は本当に極端に減少してしまったのではないかなと。インフォメーションセンター２つあるわけです。高田地域と、それから本郷地域。それぞれの分析の仕方でいろんなことまた、これ先ほど言いましたように見えてくる部分があります。そういうデータもきちんと取ってあるのかも含めて伺いたいと思います。
　２点目は、成果のところで観光ガイドの件数については大幅に減ったと。これは有料化がブレーキをかけたような言い方になっておりますけれども、この有料化の内容について説明をお願いしたいと

思います。
○委員長（星　　次君）　産業振興課長、小林隆浩君。
○産業振興課長（小林隆浩君）　初めに、インフォメーションセンターの入り込みにつきましては、高田と本郷、両方合わせまして２万4,979人というデータを持っております。個別ごとのデータではちょっと今持ってはいないのですが、３年度の目標にしていた数値が２万3,784という数字だったものですから、前年度実績の５％を目標にしていましたので、それよりは入り込み数は多いということになっております。観光ガイドにつきましては、14回ということで大幅に減っているわけですが、ここにつきましては有料化ということで１回2,000円いただくとしたこともあるのですが、あと実際としてコロナの感染症対策として団体客を受け入れなかったということがあります。昨年度は、個人客のみの観光ガイドということでしたので、そういう場合だけ受入れということでしたので、実績が大幅に減ったということになっております。
○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。
○12番（根本謙一君）　先ほども言いましたように、今の先ほどではないです。午前中も言いましたように、もう少し情報を十分にここに出してください。そうすると、余計なこと聞かなくて済む。もっと詰めた伺い方ができるのです。まず、インフォメーションの件ですけれども、入り込み２万7,900人ほどですよね。これは、目標の２万3,000よりも出ていますよね。このコロナ禍にあって、どうしてこれだけ伸びてしまっているのかというの私はちょっと不思議なのです。それには何か理由があるのだろうと思います。理由を調べる際に、インフォメーション、個別の数字は押さえていない。これは問題だと私は思います。入ってくるお客様、その目的、それぞれやっぱり微妙に違っていると思います。私も、特に高田地域のインフォーメーションには機会あるごとにお邪魔して、職員の方にいろいろ聞いて、しっかりコミュニケーション取って、これは訪問客と取って、情報をどんどん積み上げて町に提供してくださいねというお願いしているのですけれども、これ個別をしていないというのは、これは問題だと思います。その点１つ。
　それから、有料化ですけれども、団体客は受け付けなかった、これは致し方ないでしょう。この2,000円も含めて本当に有料化しなければならなかったのか。確かに１社になった観光協会が独自に財源を追求していくというのは当然あるべき姿ですから、あまり厳しいことを言うつもりはありませんけれども、有料にするからには存分な対応をする必要があります。私も、合併前ですけれども、倉敷に行って、これは議会として行ったのですけれども、有料のガイドつけていただきました。これはすばらしかったです。おもてなし精神ばりばりです。あれだけの観光地ですから、そういう人材育成もされているのでしょうけれども、立ち返って本町で2,000円で本当に十分か、ガイドしていただけるのかという部分は、ご苦労ですけれども、本当にグレードを上げていただいて、しっかり対応していただいて、2,000円でも安いねと思われるような対応をしていただく必要があるのではないかなと思います。そして、この2,000円の負担の在り方ですけれども、町からは一切出ていないということ

でいいのでしょうか。このガイドさんに対して。それを含めてお願いします。
○委員長（星　　次君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。
○産業振興課長（小林隆浩君）　まず初めに、インフォメーションセンターの入り込みにつきましては、すみません、私先ほど個別の人数の把握をしていないというような言い方をしてしまったのですが、当然個別の人数を積み上げておりますので、ちょっと今ここで数字を持っていないという意味でございます。申し訳ありません。

次の有料化ですか、観光ガイドのお話につきましては、当然有料化で、観光ガイドはやっぱり観光客がここを観光していた際に観光ガイド次第で本当にすばらしい思い出になることもあるでしょうし、すごく役割は大きいと考えています。そういう中で、この2,000円という金額は謝礼としてそのまま観光ガイドのほうに払う金額ということになりますが、やっぱり委員おっしゃるとおり、観光ガイドそのものもレベルアップをして、さらには半日で2,000円というと本当にボランティアですので、もうちょっとプロ化というのですか、もっとレベルアップして、本当にもっと高い値段でもガイドとして頼んでもらえて満足して帰るような、そういうようなレベルアップが必要だというふうに考えておりまして、そのまま2,000円ということで、町では支出しているというものはございません。

あと、すみません、もう一つございます。インフォーメーションセンターの増の理由としましては、やはりマルシェとか、昨年から観光協会で毎月１回、高田で１回、本郷で１回ということでマルシェをやっております。そういうことがありまして、この利用者の人数が増えたというふうに考えております。
○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。
○12番（根本謙一君）　いずれにしても、インフォメーションの事務方、職員の方々のご苦労になるのですけれども、入ってこられた方とは必ずコミュニケーションを取って情報収集するということは、これ言うまでもなくやるべきことだと思っています。ぜひその点の考え方伺います。

ガイドの有料化ですけれども、私は2,000円で安いなとは思っていません。個人で2,000円払ってガイドの話を聞くというのはちょっときついという部分あるかもしれませんけれども、団体でも2,000円だったらそれは安いというふうに言えるかもしれません。今のガイドの方々が、誤解をしてほしくないのですけれども、レベルが低いなということは一切私思っていません。みんなそれぞれやっぱり勉強していますから。ですから、そういうことも含めて、おもてなしも含めて、観光地としての在り方としてのことで私は申し上げたつもりです。そういうときに一定程度のガイド料は町で負担しても、利用者の方々からはやっぱり安価なというか、取り過ぎないで気軽にガイドを頼んでいただけるようなことにしてもいいのではないかなと思うところがありますので、この額についても町の補助があるのかというふうに聞いたのです。これは検討してもいいのかなとは思いますけれども、しっかり今後に生かしていただけたらなというふうに思います。感想だけでもいいです。
○委員長（星　　次君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　インフォメーションセンターの職員につきましては、本当にお客さんが来たときにいろいろコミュニケーションしっかり取って、いろんな情報を得て、観光協会なり町のほうに伝えていただくということで取り組んでまいります。

あと、観光ガイドにつきましては、確かにレベルアップを図るというお話もしたのですが、11人今観光ガイドおりますが、本当に面白くて人気があるという方ももちろんいらっしゃいます。ですから、11人の中でもう一度みんなでそういったガイドさんに、本当にみんなそれぞれ特徴のあるような、そういうレベルというか、みんなでレベルアップを、さらなるレベルアップなんかしていくとさらにいいのかなということで申し上げたところでございます。

あと、町からの補助につきましては検討課題とさせていただきます。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　次参ります。47ページ、最後になります。４点目、公園管理事業について伺いたいと思います。ここでは、活動実績として「あやめ苑再生のために、栽培管理等を行った」とあります。私も現地確認をさせていただきました。この作業がとても大事なのだというところでいろいろ専門家からもお話伺っていましたので、担当課としてのご苦労もあったというふうには聞いておりますし、実績でやったということです。これが成果としてどうだったのかというのが、３年度ですから、まだ成果的な話はできないのかもしれませんけれども、委員長、差し支えなかったら実感としてどうだったのかというのを伺わせていただけたらなというふうに思っております。

２点目ですけれども、この評価シートで、コストの方向性で、さらなる削減のために委託先を検討していかなければならないというようなことを書き込んであります。これは、どういうことを考えているのか伺いたいと思います。

○委員長（星　　次君）　建設水道課長、鈴木明利君。

○建設水道課長（鈴木明利君）　それでは、ただいまのご質問にお答えいたします。

まず、１点目でございますけれども、あやめ苑に対する栽培等の管理についてでございますが、昨年度においては委託でありますが、業者に対する肥培管理等の委託も実施しておるところでございます。あと、その中には有識者にいろいろと指導いただきまして、植え替えの時期とか、あと花の摘み方とか、いろいろその辺について職員が勉強をさせていただきながら昨年実施してきたというところでございます。それで、差し支えがなければというところの成果でございますけれども、それによりまして今年度新たに会計年度任用職員ということで、週３回でございますが、あやめ苑の専属の職員を雇いまして、そこで今年度すばらしくいい花を咲かせることができたということで、あやめサミットも盛会に終わったというふうに聞いております。

それで、公園管理の方向性、委託先の検討ということでございますが、今、河畔公園等委託先については公社のほうに委託をしているというところでございます。そして、あやめ苑と河畔公園の中の除草作業についてはＮＰＯ法人のほうに委託をしておりますが、両者ともになかなか人が見つからな

いというようなことでお話をいただいたところでございますが、それら公社のほうから申し上げますと、今までの人については引き続き作業のほうをしていただくというところが難しいような状況であるというところの相談を受けて、新しく作業形態を考えますと今の委託料の中ではなかなか難しいというような方向も示されましたので、金額的なところですが、それらについて今後経費的に抑えながらやるにはどうしたらいいかというところの検討ということでございます。そしてまた、あやめ苑のほうでございますが、ＮＰＯ法人の方も平均年齢がもう75歳以上というような中での除草作業ということでございますので、そのような中で今後作業継続というところでいろいろ相談を受けているということもございますので、そうした場合に今後どうしたらいいかということで検討を進めてまいるということであります。

以上です。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　大事なことを今説明されております。まず、成果実感はおおむね良ということだろうとは思いますけれども、ここで町長の感想も聞けたら伺っていいのですけれども、委員長、いいですか。この成果について。あやめ苑。委員長、あやめ苑のこの結果、こうやって取り組んだと、令和３年度、その結果について、成果について感想を伺っていいですか、町長に。

○委員長（星　　次君）　感想でなくて、質疑ということでお願いできればと。

○12番（根本謙一君）　そうですよね。実感として本当に成果あったというふうに言えるのかどうなのか、職員のこの書き込みをこのとおりですというふうに認めているということが前提なのですけれども、生の声を聞きたかったということでした。伺いたいと思い思います、そこ。

あと、２点目の部分ですけれども、コストの方向性でさらなる削減のためという言い方をしていますよね。ところが、この経費ではこれからはなかなか厳しい。人がいない。頼めない。公社の部分で言っていますね。ＮＰＯの部分では、高齢化でもうほかに探すしかないと。そういう中で、コスト削減という前提を持っていたら、なかなか選定というか、選出は私は厳しいのではないかなと思うところなのです。そもそもこういう生の生き物を扱う仕事って大変なのです。手かければかけるほど応えてくれる世界でもありますし、そういったことを考えても経費削減ってあまりとらわれてもいかがかなというふうに思います。そこのところの考えを伺いたいと思います。

○委員長（星　　次君）　答弁、建設水道課長、鈴木明利君。

○建設水道課長（鈴木明利君）　コスト削減というところで今ご指摘があったというところでございますが、まずは経費については検討する際はコストについて当然見なければいけないというふうに思っております。それで、コストを抑えつつ、よりよい管理をしていくというところを目標にしているということでございますし、今いろいろその先に公社とかＮＰＯの実態を申し上げましたが、そちらについてもいろいろと両者で話合いの場を持ったというところでございまして、今後とも継続的にそういう委託を行っていただくためにはどうしたらいいかとか、あとは経費を抑えつつやるためにはど

うしたらいいかとかというような話もございます。あとまず、委員がおっしゃっていますあやめ苑の管理の中でコスト削減だけではないだろうというお話でございますけれども、その前から会計年度任用職員としてずっとおりました職員を今年度から週３回ということで雇っておりますし、それらについてもコスト削減ということで、知識を習得しつつ、そういう後継者育成といいますか、いつまでも前の有識者に頼るということばかりではしようがないので、その辺をやってきたというつもりでおります。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　いや、ＮＰＯの部分も、高齢化の部分も。

○委員長（星　　次君）　大変失礼しました。

○建設水道課長（鈴木明利君）　それでは、ＮＰＯの方のほうでございますが、ＮＰＯの方についても昨年度からちょっとそういうふうなうわさ的に聞いていたというところでございますが、今年度になりまして実際に来年度以降はというような話もございました。しかし、あやめ苑に関するいろいろな作業、今まで株分け作業とか、そういうことについてはもうベテランでございますので、ぜひともあやめ苑だけはやっていただきたいというようなお話を先日持ったところでございます。それは、代表者だけではなくて、作業員の方10名全員こちらのほうにちょっと出向いていただいたというような形になりましたが、そこでお話をさせていただきまして、全員の方からいろいろ状況等についてもお話をいただいて、よい返事が来そうな感じではございました。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　今の部分はぜひ、ノウハウの継承というのは絶対必要なのです。この継承。ノウハウ。だから、人が替わってもノウハウはちゃんと継承されていくと。今までの蓄積すごいわけですから、このあやめ苑できてから。そこの観点をしっかり押さえて対策していっていただきたいなと。推移を見るしかないというところありますけれども、その点確認させていただきたい。

　それから、町長が成果ありましたよと、あったと言うしかないでしょうけれども、それは答弁いただきたいなというふうに思います。はっきりと。

○委員長（星　　次君）　後の分の町長への効果どうだという部分だと思いますので、それについては質問は省略させてください。

○12番（根本謙一君）　結構です。

○委員長（星　　次君）　建設水道課長、鈴木明利君。

○建設水道課長（鈴木明利君）　ノウハウの継承ということでございますが、先ほど来申し上げておりますとおり有識者からいろいろな知識を習得しているといいますか、現場に出向いていただいていろいろ教えていただいている状況の中で、会計年度任用職員が本当に一生懸命やっております。その中で、ＮＰＯ法人との人間関係というのでいいですか、その辺も本当にうまくやっているのです。そういう中で、本当にお互いに尊敬しつつやっているような今現状でございますので、今後のあやめ苑

についてはもう来年度以降については私は安泰であると思っております。

○委員長（星　　次君）　ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（星　　次君）　なしの声がありますので、これをもって５款農林水産業費、６款商工費、７款土木費の質疑を終了いたします。

お諮りします。本日はこれにて延会したいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○委員長（星　　次君）　異議なしの声がありますので、異議なしと認め、本日はこれにて延会いたします。

延　会　　（午後　３時０４分）

決 算 特 別 委 員 会

（第　３　日）

令和４年会津美里町議会（決算特別委員会）

第３日

令和４年９月１３日（火）午前１０時００分開議

委員長　星　　次　君　　副委員長　長　嶺　一　也　君

○出席委員（１４名）

１番	櫻井幹夫君	９番	渋井清隆君
２番	大竹　惣君	１０番	星　次君
３番	渡辺葉月君	１１番	堤　信也君
４番	荒川佳一君	１２番	根本謙一君
６番	長嶺一也君	１３番	根本　剛君
７番	村松　尚君	１４番	横山義博君
８番	小島裕子君	１５番	鈴木繁明君

○欠席委員（なし）

○説明のため出席した者

町長	杉山純一	君	
副町長	佐々木吉一	君	
総務課長	金子吉弘	君	
総務課課長補佐	渡部　充	君	
政策財政課長	國分利則	君	
町民税務課長	猪俣利幸	君	
健康ふくし課長	平山正孝	君	
会計管理者	松本由佳里	君	
産業振興課長	小林隆浩	君	
建設水道課長	鈴木明利	君	
教育長	歌川哲由	君	
こども教育課長	渡部雄二	君	

こども教育課 課長補佐	目	黒	裕	樹　君
こども教育課 学校給食 センター所長	馬	場	雄	一　君
こども教育課 総務係長	菊	地	建	雄　君
こども教育課 こども教育係長	榎	森	正	典　君
生涯学習課長	福	田	富美代	君
生涯学習課 課長補佐	鵜	川		晃　君
生涯学習課 文化係長	梶	原	圭	介　君
生涯学習課 生涯学習係長	小	林	一	成　君
代表監査委員	小	島	隆	一　君

○事務局職員出席者

事務局長	児	島	隆	昌　君
総務係長	歌	川	和	仁　君

開　議　　（午前１０時００分）

○委員長（星　　次君）　これから本日の会議を開きます。

決算特別委員会３日目を行います。

８款消防費、９款教育費の質疑を行います。

質疑者は挙手にてお願いいたします。

２番、大竹惣委員。

○２番（大竹　惣君）　それでは、８款消防費で、事務事業事後評価シートの38ページより質問いたします。それでは、入ります。評価シート38ページ、災害対策事業の２の事業の実績、自主防災組織の設立数の指標の推移の部分で、目標値と比べて実績値が大きく低くなっている原因の分析はどのようにしているのか伺います。

○委員長（星　　次君）　１問だけですか。

○２番（大竹　惣君）　はい、１問だけです。

○委員長（星　　次君）　答弁、総務課長、金子吉弘君。

○総務課長（金子吉弘君）　それでは、お答えさせていただきます。

指標の推移の中で目標値に対して実績値が低かった理由につきましては、本来ですと我々地区のほうに出向いて自主防災組織のいわゆる優位性ですとかその目的なんかをお話しさせていただいて、設立に向け働きかけを行うわけでございますが、この新型コロナウイルスの関係、コロナ禍の状況でございまして、地区のほうに出向いて大勢の方をお招きしてお話しする機会というのがなかなか持てなかった、これが一番大きな理由でございます。

○委員長（星　　次君）　大竹委員。

○２番（大竹　惣君）　分かりました。人口減少の中で消防団員の確保が現在難しい状態であります。これからこの自助、共助の防災体制を整えることは必須であると思います。特に限界集落などは早急に、例えば機能別消防団の確保などは行うべきだと思います。

もう一度この事後評価シートの部分に入りますけれども、この３の最終評価の部分で今後の方向性の部分、自主防災組織の立ち上げを推進するということで、町としてもこの自主防災組織どんどん増やしていこうという考えがあると思いますけれども、今回コロナ禍でなかなか出向けなかったということですけれども、今後の方向性としてどう考えているのかを伺います。

○委員長（星　　次君）　答弁、総務課長、金子吉弘君。

○総務課長（金子吉弘君）　委員おただしのとおり、昨今、消防団員の確保というのは、人口減少に伴いまして、なかなかままならない状況でございます。いわゆる代わりとなるといいますか、一体的にやっていかなければいけないというふうな部分に関しては、機能別消防であったり、この自主防災組織の立ち上げ、さらには育成、強化というものが必ず必要になってまいります。今後につきましては、当然人口減少を見据えて団員の減少というのも相当進んでくるというふうに思っておりますので、

しっかりとこの自主防災組織の意義を各住民の方々にお伝えして、必要性を理解していただいて、ある程度行政でできる部分、さらには地域で地域を守っていただくというふうな、そういう意識を醸成しながら、協力いただくところは協力いただくようにしっかりと周知を図って、一体となって取り組んでまいりたいというふうに考えております。

○委員長（星　　次君）　大竹委員。

○２番（大竹　惣君）　若者がどんどん少なくなっていってお年寄りが多い、そういう集落はたくさんありまして、それらの集落は全てにおいて防災体制に不安があるということが言えると思います。今後も速やかになるべく多くの防災組織の立ち上げを推進していくことを期待して質問を終わります。

以上です。

○委員長（星　　次君）　答弁要らないですか。

○２番（大竹　惣君）　はい。

○委員長（星　　次君）　７番、村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　私も事後評価シートの153ページ、小学校教育振興事業、154ページ、中学校教育振興事業、158ページの奨学資金貸与償還事業についてお伺いします。

まず、153ページ、小学校教育振興事業のほうなのですけれども、こちらのほう、大体小学校、中学校共通して言えるのは、比較的数学、全国平均で見ればちょっと数学が、本町の平均点が少し弱いのかなという印象は受けるのですけれども、その下の、１点は数学をこれから先、数学と英語というものはこれからやはり結構重点的に強化していかなければならない部分ではないのかなという部分も感じます。これ一般的に若松の学習塾なんかでも割と数学、英語に特化しながら力を入れて大学受験、全ての教科必要は必要なのですけれども、特に力を入れている親御さんの話を伺う機会が多いのですけれども、まず１点目としては本町の中で数学の学力を向上していくための考え方を１点お伺いしたいのと、あともう一点は最終評価の中にあります英検の言葉が出ています。町内で小学生の英検受検者というのはどの程度いらっしゃるのか、その２点教えてください。

○委員長（星　　次君）　教育長、歌川哲由君。

○教育長（歌川哲由君）　お答えを申し上げます。

まず、第１点目について私のほうからお答えさせていただきたいと思いますけれども、算数、数学の学力が低いと。これは、本町だけではなくて、福島県の長年の課題でもあります。私、はっきり言って特効薬はないというふうに認識しております。これについては、やはり私は教員の指導力の向上が一番大切かなというふうに思っております。具体例を挙げますと、福島県は長年の分析の結果、この間私も一般質問で例示いたしましたが、小学校での割合の考え方、比率、割合、これが非常に低くて、この学力が身につかないことが中学校での関数の領域に影響して、さらには微積まで影響していくというような状況が続いております。小学校の教員を対象とした一番大切な初歩の比率、割合のあ

たりの勉強をどうして教えたらいいのかというふうな授業力向上について、県教育委員会も様々な事例を示しながら研修の機会を設けております。私どももやっぱりそういうものに積極的に参加して教員の指導力を高める、校内にも普及させて同じようなことを校内で実践していくというのが非常に大切かなというふうに一つは思っております。それからもう一つは、やはり英語と同じように、私は中学校の数学の教員の協働した授業づくり、あるいは乗り入れの授業が大切かなというふうに思っております。現在、来年度以降に向けて今年度よりもさらに充実させていこうとしている中学校教員の小学校への乗り入れを少しでも多くしながら、数学まで結びつくような算数の授業をつくるとか、そんなふうな取組をしながら教員の授業力向上に努めていきたいと。私は、まずそれが一番大事かなというふうに思っております。その上で申し上げれば、ＡＩドリルの活用を通した習熟といいますか、繰り返して練習をしていくというふうなことでの学力の充実も大切かなというふうに思っておりますが、私子供たちにそういう習熟を強いる前に授業をしっかりつくっていくというのがやっぱり根本だなというふうに考えているところであります。

○委員長（星　　次君）　こども教育課長、渡部雄二君。

○こども教育課長（渡部雄二君）　小学生の英検の受検者数でございますが、令和３年度につきましては１名でございます。

○委員長（星　　次君）　村松尚君。

○７番（村松　尚君）　最初の数学に対する考え方、算数に対する考え方は非常によく理解できました。ぜひとも少しでも学力向上のために頑張っていただきたいなと思いますけれども、今２点目の英検に対してのこの最終評価の中と若干記載してあるコストの考え方については、受検者も増加しておるという文言が書いてあるのですけれども、何かそこを記載する、例えば令和４年度受けるような意向の方が多かったとか、何かそういうことがあったので、記載があったのかなと思ったのですけれども、１名ということ、増やすということを前提に記載されたのか、その辺の記載の考え方教えてください。

○委員長（星　　次君）　答弁、こども教育課長、渡部雄二君。

○こども教育課長（渡部雄二君）　年々受検者数が増加しておりという表現を記載してございますが、こちらにつきましては小学生と中学生を合わせてトータルで捉えた書き方になっておりまして、非常に分かりにくい表現になっておりまして申し訳ございません。小中合わせますとかなりの人数が増加しておりますので、結局は中学生が大幅に伸びているという状況でございます。

○委員長（星　　次君）　暫時休憩します。

休　憩　　（午前１０時１３分）

再　開　　（午前１０時１４分）

○委員長（星　　次君）　再開します。

答弁、こども教育課長、渡部雄二君。
○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまのご質問でございますが、確かに小学校教育振興事業という部分での捉え方ですと受検者が１名でございますので、増加はしておりません。ですので、先ほど中学校教育振興事業と合わせますと中学校のほうで大幅に伸びておりますので、ここの記載が小中合わせての記載としてしまいまして大変申し訳ございません。小学校の教育振興事業としての書き方であれば増加はしておりません。申し訳ございませんでした。
○委員長（星　　次君）　質問内容がまだ熟知というか、内容が分かっていないみたいなので、もう一度、村松委員、お願いしたいのですが、よろしいでしょうか。
村松尚君。
○７番（村松　尚君）　この最終評価の考え方の中でコストの方向性というものがあります。先ほど令和３年度は１名だったという答弁いただいた中で、コストの考え方的には記載では年々受検者も増加しておるという文言があるので、そのために削減は困難であるというコストの方向性であったり、最終評価の中に落とし込んできていると思うのです。小学生でもそういう受けることが悪いことではないので、それ当然反対しているわけではないのです。それだけやっぱり英語に対する魅力を感じていただいて、これからのグローバル社会の中で生き抜くために、英語を早い段階で身につけたいというお子さんが多くなってきてるからこそ増加しているという表現なのかなと私は受け止めたのです。そこの部分でお聞きしたら１名というお話だったので、それで記載の内容とちょっと違うのではないかなというところで再質問させていただいたのですけれども。
○委員長（星　　次君）　答弁、こども教育課長、渡部雄二君。
○こども教育課長（渡部雄二君）　小学生の英検受検者は１名でございまして、にもかかわらずこちらの記載が方向性のところで年々増加しておりという表現がありまして、こちらにつきましては先ほどもご説明いたしましたとおり、小学校教育振興事業、小学生に限定していての方向性としては受検者は増加しておりませんので、こちらの記載は誤った表現になってございます。私どものほうとしましては、小学校と中学校合わせて中学生が大幅に伸びておりますので、年々受検者も増加しておりという言葉をここに書いてしまったのですが、本来は小学校と中学校分けて記載するべきでございますので、こちらの表現は誤りでございます。申し訳ございません。
○委員長（星　　次君）　村松尚君。
○７番（村松　尚君）　最後に、１点だけ確認だけさせていただいてよろしいですか。そうしますと、今の課長の答弁であれば、その前段の部分、ここの部分は基本的に記載している内容とはちょっと乖離しているので、この小学校の教育振興事業としては基本的には記載はないというような考え方なのか、それとも記載はしておかなければならないのか、そこだけ確認させてください。
○委員長（星　　次君）　こども教育課長、渡部雄二君。
○こども教育課長（渡部雄二君）　この前段のところに英語検定補助金はというふうな表現がござい

ますので、我々としましては小学生、中学生合わせて補助金全体ということで捉えて記載したのですが、確かにこのままだと紛らわしい表現でございますので、そこはちょっと表現を今後検討して直せれば直していきたいと考えてございます。

○委員長（星　　次君）　村松尚君。

○７番（村松　尚君）　分かりました。では、そのような形でお願いいたします。

それでは、中学校の教育振興事業のほうに入らせていただきます。154ページ、シートのほうからです。質問内容は、さほど先ほどの小学校の教育振興事業と変わらないのですけれども、中学校の数学の評価点、こちら先ほど小学校の場合は乗り入れなどを行って学力向上、そういったもので算数と数学との接点をうまく上げていくという教育長のご答弁いただいたところでもあったのですけれども、こちら中学校に関しての数学の学力の向上に対する考え方と、あと先ほどと重複して大変申し訳ないのですけれども、中学校の英検の受検者数でまた持っている級なんかが分かれば、町内で持っていらっしゃる級、１級から２級、準２級とありますね。準１級とかありますけれども、そこら辺をちょっと詳細分かれば教えていただければありがたいです。お願いします。

○委員長（星　　次君）　答弁、教育長、歌川哲由君。

○教育長（歌川哲由君）　それでは最初に、ご質問いただきました中学校数学の教科での学力向上についてお答えをさせていただきたいと思います。

これも小学校でお答えいたしましたとおり、私やっぱり中学校の数学の教員の指導技術の向上というのが一番かなというふうに思っています。今年の全国学力・学習状況調査の中学校３年生の数学においては、１校だけ特に飛び抜けて数学の成績のよかった中学校があるのですけれども、そこの指導者への聞き取り等々をしたところ、やはり通常の数学の授業を当然行うのは当たり前でありますが、それ以外に福島県の教育委員会で出しています、例えば活用力育成シートなんていう全国学力テストの問題に近いような問題を掲載しているシートを十分に活用してくださいというふうにホームページ掲載しているのですが、そういうものをダウンロードして子供に日常的に取り組ませたり、それから全国学調に似たような、そういう様々な学んだことを活用したり、発展的に力を発揮しないと解けないような問題を常日頃から与えて学習を進めたというふうな好事例もございました。私、教科書をこなすだけではなくて、やはり自分が学んだものをどう使っていけるのかというふうな部分で練習をさせていくというのはすごく大事かな、できればもっともっと日常の身近なところに結びつけていくような学びというのは大変必要なことだというふうに思っております。これも一般質問のお答えで例示させていただきましたが、ジュースは半分に割ると濃さはどうなるかという問題ありましたけれども、あれと同じで、やはり学んだことを使っていくような学習のさせ方を数学科においてもしていくと。そういうふうなことで子供たちの学びを広げ深めていくというふうな授業をつくっていくことが大事かなと思っています。ぜひ好事例を普及させながら、みんなで共有して、少しでもいい授業をできるように進めていくべきだというふうに考えております。加えまして、本町では非常に学校の規模が少

ないので、なかなか難しいのですけれども、中学校では割と学年の例えば国語なら国語、数学なら数学を１人の教員が全部のクラスを担任するというパターンが多いのですが、私は、例えば２クラス以上ある学校では、縦持ちといいまして、ある先生が１年生の数学全部持つのではなくて、２年生の先生、３年生の先生と１組ずつ縦に持って、そうすることによって、教材研究なんかの負担は若干大きいのですけれども、お互いの指導技術を学び合い、共有していくということができます。こういうふうな授業スタイルも校長たちにはぜひ取り入れてくれとは言っておりますけれども、来年度以降より多くの好事例が生まれるように奨励をしていきたいというふうに考えております。

○委員長（星　　次君）　答弁、こども教育課長、渡部雄二君。

○こども教育課長（渡部雄二君）　令和３年度の中学生の英検受検者数につきましては415名でございます。受検級につきましては、本日詳しい資料持ち合わせておりませんが、ほとんどが３級と４級で、若干２級もいるというような状況でございます。

〔「準２級じゃない」と言う人あり〕

○こども教育課長（渡部雄二君）　すみません。準２級です。失礼いたしました。

○委員長（星　　次君）　村松尚君。

○７番（村松　尚君）　そうしますと、確かに先ほど教育長がお話しされていた先生の学年別の受持ちだけではなく、様々な学年を持つことによって先生方の情報の共有だったり学びという部分を伝えることも非常に新しい視点でいいのではないかなと思います。先ほどちょっとお話しされていた県のシート、そのシート、当然これは基礎学力がある程度向上してこないと、いきなりシートをぼんと県のほうでこういうものもありますよと言ってどんどん渡したところでなかなか数字的な部分というのは現れないと思うのですけれども、これはやっぱり段階的に身近に考える一つのツールとして、生徒たちが常に勉強できるような一つのシートというの、問題集みたいなものですものね。そういったものをやっぱり活用するというのも必要だと思うのですけれども、そこら辺の、町としてはそういうシート、県でやっているようなそういったものを活用する考えがあるのかをちょっと１点お伺いしたいことと、あと英検のほうですけれども、415名という話でありました。非常に多くの中学生が頑張って英検の資格を取ろうと努力していることはうかがえますけれども、これはやはり年々、年々そういった部分の拡充というのは当然必要ですし、今後受ける人数が、今度対象者数の人数が増えてくれば、級自体を少しでも上の級を受けていただけるようなことも当然大切だと思うのですけれども、これは押しつけではないので、何といっても自分のほうからその資格を取りたいという部分でやることは分かってはいるのですけれども、年々どのくらいのペースで増えていっているのか、その辺というのは分かったりしますか。例えば令和２年度から、このコストの方向性の中で結局増えていっているから、コストとしては受検生が増加していっているという回答を書いてきていますので、大体どのくらいずつ増えていっているのか、増加傾向的にどのくらいずつの増加が見られているのか、その辺の分析はいかがなものか、ちょっとそこ１点お伺いさせてください。

○委員長（星　　次君）　教育長、歌川哲由君。
○教育長（歌川哲由君）　１点目の活用力育成シートについてお答えをいたしたいと思います。
県の教育委員会においても、活用力育成シートについてはぜひ学校教育の中で活用してくれということで公開しているわけでありますけれども、現場の声を素直にお聞きすると、やはり通常の授業をこなすのが精いっぱいで、なかなかそこに織り込んで使っていけないという実情があるのです。ただ、それを言ってもやっぱり限界が見えていますので、ぜひ授業の進め方なんかについても大事に扱うところとそうでないところなんかを取捨選択しながら余裕の時間を生み出して、やはり少しでもそういうものに触れる、問題演習よりよいものに触れさせていくという時間をつくっていくように進めていっていただきたいということで校長にお願いしておりますし、今後もそのように進めてまいりたいというふうに思います。これはなかなか難しいところであるのですが、非常に数学の得意なお子さんとそうでないお子さん当然いらっしゃいます。一般的に言うと、中ほどの子供たちに焦点を当てながら、習熟が熟さない子供たちへの手当てが多くなってなかなか授業の進行難しいのですが、私やっぱりほったらかしにされているという上層の部分にも力を入れていくことが大事かなというふうに思っています。ですから、全ての子供たちに今個別最適な学びなど国はさんざん言っておりますけれども、少しでもそれに近づけるように有効に活用していっていただきたいというふうに今後も申し上げていきたいと思っております。
○委員長（星　　次君）　答弁、こども教育課長、渡部雄二君。
○こども教育課長（渡部雄二君）　英検受検者数の増加についてでございますが、現在令和２年度受検者数の細かな数字等は持ってございませんが、補助金の実績としまして令和２年度が89万8,705円、令和３年度が123万9,432円ということで、補助金の金額も増加しておりますので、当然受検者数も増加傾向にございます。ただ、先ほど令和３年度の小学生の受検者と中学生の受検者はお答えしたところでございますが、令和２年度の受検者数がちょっと今数字がございませんので、お答えできませんが、やはり年々増加しているという状況でございます。
以上でございます。
○委員長（星　　次君）　教育長、歌川哲由君。
○教育長（歌川哲由君）　英検について私からも一言だけ補足させていただきたいと思います。小学校においても、ご存じのとおり５、６年生において英語科の教科化がなされておりますし、３、４年生の英語活動も含めて小学校においての英語教育というのを今後ますます充実させていかなくてはならないわけであります。その過程において、小学生の英検の受検者も今後も増加していくだろうというふうに考えているところであります。それから、先ほど英検の受検レベルの話がございました。ご存じのとおり英検と英語の学習って直結するものではありませんけれども、中学校３年卒業程度は３級くらいが大体同等だというふうに言われていますので、そんなことも一つの目標にしながら、子供たちの受級といいますか、英検の受検の級のレベルアップも図っていければというふうに考えており

ます。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　村松尚君。

○７番（村松　尚君）　英検、その金額だけを見ると、英検って多分級によって受検料が違うので、金額だけでずれ込んできたという部分だけで人数にどのくらい反映されるかというのはなかなかちょっと見えないところではあるのですけれども、それでも金額自体が増えていっているということで、人数自体は増えていっているものだろうと判断はさせていただきます。これからの時代、町を担う、また日本というこの国を担うためにも、子供たちにはどんどん英検であったり、そういう数学の授業も含めて少しでも学力向上をしていただくようぜひともお願いいたします。

それでは、158ページの奨学資金貸与償還事業のほうに入らせていただきます。こちらのほうで最終評価の中ではＵターンに結びついていないために事業見直しも必要であるとあります。また、前段のほう、事務事業の……すみません。（３）番の活動実績、「19名の奨学生に対し、総額64万3,200円の貸付を行った」とあります。実際この19名の奨学金の貸与に対して大体主にどのクラス、高校生が多かったのか、それとも大学生が多かったのか、その辺の内訳を少し教えてください。

○委員長（星　　次君）　答弁、こども教育課長、渡部雄二君。

○こども教育課長（渡部雄二君）　内訳についてのご質問でございますが、一番多かったのは大学生で15名でございます。

〔「それ以外は」と言う人あり〕

○こども教育課長（渡部雄二君）　失礼いたしました。短大生が１名で、高校生が３名でございます。

○委員長（星　　次君）　村松尚君。

○７番（村松　尚君）　これ確かに町としては当然貸与し、その後当然償還していただく、返していただくということ前提にあっていいのですけれども、人数については一通り分かったのですけれども、この最終評価の考え方、この今後の方向性の中で、先ほどもちょっと最初前段で先走って話ししてしまったのですけれども、貸付けの希望者はいると。ただ、成果となる考え方なのか。本町へのＵターンに結びつかないという考え方、Ｕターンに結びつかないために事業内容の見直しも必要であるという方向性の考え方を持っていらっしゃるのですね。これ貸付けすることが本町へのＵターンに結びつくというもともとの前提の考え方で奨学金の貸付けを行っているのか、その辺の考え方、認識をぜひちょっと伺わせていただきたいなと思うのですけれども。

○委員長（星　　次君）　答弁、こども教育課長、渡部雄二君。

○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまの委員おただしのとおり、Ｕターンすることがそもそもの目的ではございません。もちろんこういった貸付けを希望される方に対して貸付けをしていくことが第一の目的でございますが、さらにこの事業がよりよくなるように、こういった学生が町に戻ってこれる一つの手助けになるようなもう少しよい方法がないかということでの方向性でございます。

○委員長（星　　次君）　村松尚君。
○７番（村松　尚君）　最後になりますけれども、奨学金を貸与される方というのは様々なところから多分貸与の方法があって、その中の一つとしてのツールとして町から貸与を受けるという形なのかなと、私はこう思うのです。ご両親が町内在住なので、町にもそういう制度があるのだったら貸与をしたいと、お借りしたいという考え方の中で、第一に保護者の方、これは貸与は多分学生名でお借りすると思うのですけれども、借りる人の名前は多分学生名でお借りするのは間違いないと思うのですけれども、そうなったときに結局自分は学習意欲があるのだということを前提に多分貸与を受けるはずだと思うのです。それがイコールＵターンに結びつかないというのは、それはまた別問題だと思うのです、その中で。その考え方の中でですよ。なので、この文言という部分が果たして適切なのかなと思うのですけれども、ここの見直しも含めてもうちょっとこの記載の仕方の考え方という部分、この最終評価の方向性の考え方というものをもう少し変えていかないと、ちょっとこの事業に関して疑問を持つような感じなのですけれども、その辺お伺いいかがですか、最後に。
○委員長（星　　次君）　答弁、こども教育課長、渡部雄二君。
○こども教育課長（渡部雄二君）　確かに委員おただしのとおり、この方向性ですとＵターンが一番の目的のようにとらわれる部分があるかと思いますので、この方向性の記載については再度協議をしてまいりたいと思います。
○委員長（星　　次君）　12番、根本謙一委員。
○12番（根本謙一君）　私は、まず消防で１点、教育で５点お尋ねしたいと思います。私は、成果説明書のほうを中心にして、当然シートと連動していますから、取り入れながらお尋ねしたいと思います。

まず、消防では、成果説明書の48ページ、ここで成果表の上段、消防団員の充足率が88％となっております。このことについてどう見ているのか、不都合はなかったのかお尋ねしたいと思います。２点目は、活動実績の３ポツ目、いわゆる消防操法大会への会津坂下町との輪番制、これは想定はしていますけれども、改めてどういうことを考えているのかお尋ねしたいと思います。２点、消防については。
○委員長（星　　次君）　根本委員、消防費と教育費と言っていますので、全て教育費もページ数言ってからお願いします。
○12番（根本謙一君）　そうでした。次、では教育のほうです。51ページの教育研究事業、教育の２点目が53ページの小学校教育振興事業、３点目が中学校教育振興事業、４点目が59ページの図書館管理運営事業、５点目が60ページの地域文化振興事業。

以上になります。失礼しました。
○委員長（星　　次君）　総務課長、金子吉弘君。
○総務課長（金子吉弘君）　まず、消防団員活動事業についての指標中、指標の推移の中での団員数

の88％についてのおただしにつきましては、今現在消防団員定数というのが850名おります。その中で令和４年３月31日現在で752名の団員数になっております。その率は割り返しますと88％というふうな数値になるわけでございますが、この団員数につきましては、今消防団活動を行う上で、すみません、ちょっと団員の定数につきましては合併当時の平成17年度から今まで変わっておりません。団員の活動に際しまして、現団員数の中で現状消防活動に支障を来しているというふうなところはないというふうに私のほうでは思っているところでございます。今後につきましては、ある程度人口減少化を見据えながら、次期総合計画の見直しの際には、ある程度団員数をやはり絞っていく必要があるだろうというふうに思っているところでございます。その機能の代替等につきましては、やはり機能別消防団員数の確保であったり、自主防災組織の立ち上げに力を入れていかなければいけないというふうに思っているところでございます。

次に、（３）の活動実績の中の３ポツ目のいわゆる消防操法大会の在り方について見直しを図ったというふうな詳しい中身につきましては、消防団活動の中で消防操法のいわゆる活動の練習に際しましてやはり約２か月弱くらいの期間を取られてしまいます。これが消防団員の活動にかなり負担を強いているというふうな現状がございます。それに相まってそういったことが多くあるので、なかなか消防団員の確保がままならないというふうな一面もございまして、いわゆる輪番制により実施をできないかというふうなことを各支部、両支部のほうで、坂下支部とのほうでいろいろ従来から相談してきたというふうな経過がございます。それで、その支部同士で共通認識ができましたので、そういったなるべく負担を考慮するというふうな意味で、軽くするというふうな意味で輪番制を取り入れることで話がまとまったというふうな内容でございます。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　まず、消防団充足率のほうですけれども、私、では誤解していましたかね。これ定数減したと思います、そう遠くない過去に。17年から変わっていないという答弁でしたけれども、たしか減らしています。そこ確認してください。そういう中での88％ですから、活動、それからいざというとき等で地域性が相まって不具合はなかったのでしょうか、現状どうなのでしょうかというお尋ねしたのです。

２つ目の輪番制ですけれども、輪番制と言うから想定はしますけれども、私のほうからこうこうこうですよねと言う前にどういうことですかということをお尋ねしたのですから、坂下町と１年交代で大会に出るようにするとか、もっと具体的な説明していただきたいなというふうに思います。そういう想定で受け止めて今お尋ねしていますけれども。３回で終わりなのですから、私。

○委員長（星　　次君）　総務課長、金子吉弘君。

○総務課長（金子吉弘君）　再度のおただしでございますが、まず団員数につきましては、私平成17年度合併当時からというふうに申し上げましたが、大変申し訳ございません。途中で定数を変更してお

りました。今現在の定員数が850名というふうなことでございます。大変失礼をいたしました。

それから、２点目の消防操法大会の在り方についての見直しでございますが……在り方につきましては、実は坂下支部のほうは構成町村が７町村ございまして、美里は美里１町でございます。そういったいわゆるちょっともともと不均衡な形になっておりますので、単純に１年ずつ交代ですと美里の負担が相当増えてしまいますので、その辺をどういうふうに調整するかというのはまだ決まっておりませんで、今後の調整、協議になるというふうなことでございます。よろしくお願いいたします。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　では、充足率のほうでまた伺いたいと思いますけれども、今まで支障はなかったというところですけれども、過般議会の中でもいろいろ問題提起されてきています。先ほどの同僚委員の質問の中でもちょっと触れられましたけれども、人口減少の中で、若者も減っている中で、地域的に分団制、班制で本当に賄い切れているか厳しいですよねという現実がありますよね。そういうところも含めてトータル的にしっかりこの団員のことを考えていかないと本末転倒になってしまうのではないかなというふうに思います。ましてやこの消防団員の皆さんはもう崇高な使命感を持って入っているはずです。そういう点で、意欲をそぐような、いわゆる報酬問題もありましたけれども、トータル的にしっかり環境をつくっていって、この充足率をいかに高めるか。そして、定数の見直しをどうするか。地域連携あるいは連合をどうするか。自主防災組織の在り方もそうですよね。１つの地区でつくるなんていうこと、もう難しいところに入ってきていますよね。私はそういう認識です。そういう中で、幾ら声かけられても、必要性は分かるけれども、実態として本当にそれできるのというところをしっかり行政側も理解して、コミュニケーション密にして事に当たってほしいなというふうに思うわけですけれども、前年度の３年度の反省を踏まえて課題はもう見えているわけですから、しっかり取り組んでいただきたいなというふうに思います。最後に答弁お願いします。

○委員長（星　　次君）　総務課長、金子吉弘君。

○総務課長（金子吉弘君）　再度のおただしにお答えさせていただきます。

消防団員につきましては、年々やはり人口減少に伴いまして確保が難しくなってきているというのは実態でございます。当然定数の問題も含めて必要な人員確保に努力してはまいりますが、なかなか定数まで持っていくというのは厳しいだろうというふうに我々も見ているところでございます。その代わりにいわゆる機能別消防団員の確保であったり、先ほどから申し上げましたとおり自主防災組織の立ち上げをしっかりとさせていただいて、行政と消防団、さらには地域が一体となって、その地域の防災力というのを高めていく必要があるというふうに十分認識しておりますので、これを最重要課題と受け止めまして、しっかりと防災力が高まるように町として取り組んでまいりたいというふうに考えているところでございます。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　しっかり当たっていただきたいと思います。

次に参ります。教育費のほうで１点目、53ページの小学校教育振興事業についてです。先ほど同僚委員からも同趣旨……

○委員長（星　　次君）　根本委員、今ですが、ページ先ほどは51ページも言ったのですが、いいですか。今53ページ……

○12番（根本謙一君）　ああ、そうでした。失礼しました。すみません、１つ飛ばしてしまいました。

○委員長（星　　次君）　51ページでよろしいですか。

○12番（根本謙一君）　はい、51ページでお願いいたします。失礼しました。

○委員長（星　　次君）　お願いします。

○12番（根本謙一君）　51ページの教育研究事業です。失礼いたしました。ここでお尋ねしたいのは、評価シートのほうで最後の最終評価、ここの部分での書き込みがなかなかフィットしたように読み取れないです。拡充、拡大、改善がいろいろあるわけですけれども、今年度初めて出された分類で、詳しいイメージ図も頂いていますけれども、評価の視点も見ますけれども、なかなか分かりづらい。そして、併せて理由の書き込み方が本当によくよく精査されての書き込みとは思えないような、理解できない書き込みになっているなというふうに思うところです。先ほどの同僚委員の中でもちらっと出てきました。いろいろ総合的な内容でもありますから、ここはしっかりもう一度執行側として検証していただきたいなと思います。具体的に入ります。この教育研究事業の活動実績の中で、図書支援員を配置して推進したと。その成果現れているなと思いますけれども、実際に本の郷図書館、これは本郷小学校に隣接しております。そのほかの学校の図書室にも行かれているという書き込みなっていますよね。具体的にはどういうようなことをされているのかお尋ねしたいと思います。具体的にですよ。それから、成果があったと言っているわけですから、ただただ本の貸出しが増えたということではなくて、読んで、それからこういう指導もできました、こういう問合せがあって、いわゆるレファレンス機能、これも併せてそこで生かされているのか、具体的な例がありましたらお伺いしたいと思います。

○委員長（星　　次君）　答弁、こども教育課長、渡部雄二君。

○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまのご質問でございますが、具体的な例はちょっと今お答えできませんが、図書だよりの発行であったりとか、そういったことをやっていらっしゃいます。そういったことで読書しやすい環境づくりに努めていただいているところでございます。

○委員長（星　　次君）　すみません、休憩します。

休　憩　　（午前１０時５５分）

再　開　　（午前１０時５６分）

○委員長（星　　次君）　再開します。

今答弁に若干時間かかるようでございますので、ここで11時10分まで休憩いたします。

休　憩　　（午前１０時５６分）

再　開　　（午前１１時１０分）

○委員長（星　　次君）　休憩前に引き続き会議を開催いたします。

答弁、こども教育課長、渡部雄二君。

○こども教育課長（渡部雄二君）　図書支援員の具体的な業務についてのご質問でございますが、通常本の郷図書館におきましてカウンター業務、あるいは新刊の選定、登録手続、そういったものをやっていらっしゃいます。あとは、各小中学校に出向いて同じように新刊の選定であったりとか本の整備、整理に努めていらっしゃいます。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　根本委員、質問内容がまだ分かり切っていないので、２問目の部分が抜けているような感じするので、再度ちょっとお願いしたいのですが、大変……

○12番（根本謙一君）　２回目ということですか。

○委員長（星　　次君）　いや、いいです。１回目の質問まだ……

○12番（根本謙一君）　ああ、そうですか。

○委員長（星　　次君）　はい。

○12番（根本謙一君）　ありがとうございます。

○委員長（星　　次君）　お願いします。

○12番（根本謙一君）　ご配慮に感謝します。つまりいわゆる図書貸出し数、読書数が増えている、一定程度成果が上がっている、それはどういうことなのだろうかという分析はされていると思うのです。ただ単にたまたま数字上で、あっ、今年は増えたねとか、そういう単純な話ではないはずです。支援員も配置して、ただカウンター業務と新刊の整理整頓、選定、それだけが支援員の仕事ではないはずです。いろんな子供に一番身近に本当に対面で接する立場ですので、いろんなお世話もサービスもしているだろうというふうに私は想定します。あのお姉さん方の笑顔で子供たちはどれほど癒やされているかというのは私は想像するのです。それは麗しい光景です、想像すれば。そういう中で読書が増えているということは、いろんなサゼスチョンというかね、サポート、支援をしているはずで、言葉かけから含めて、それがいわゆるレファレンスですよね。その活用が現実にあるのでしょうか、あったのでしょうかというお尋ねを併せてさせていただいたのです。なければ、それは聞いていませんなら聞いていませんでいいと思います。

○委員長（星　　次君）　答弁、こども教育課長、渡部雄二君。

○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまのご質問でございますが、確かに本の郷図書館でのカウンター業務だけではなくて、直接子供たちと接する機会の多いことから、子供たちにとっては本が好きになったり、本に親しむ機会が増えているかと思います。そういったことで、児童生徒が読書に親

しむ習慣が身についている一助となっていると我々も判断しているところでございます。
○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。
○12番（根本謙一君）　だから、その判断する根拠はお持ちなのでしょうねというところで、具体的にはどういうことがありましたかということをお尋ねしているわけです。多分それは聞いていないだろうというふうに私は今伺っていて思いますけれども、ここが大事なところで、学校の図書室は学校教科に関連したものを中心に置いてあるはずです。ここのじげんプラザの図書館の中とまた別になっているはずです。そもそも学校図書室とこの通常の誰でも使える図書館の中身は違うはずです。そういう建前になっているはずです。だから、いろいろ先生から教えられた、あるいは勧められた中で、では図書室に行ってみようという、そういうインセンティブが働きます。そして、困って、ないな、ないなと探しているときに支援員がそばに行って、何探しているの、何に関心があるの、これがレファレンス。困ったことあったら手伝ってあげる。では、それはこっちで探したほうがいいのではないかとか。もっと入っていくレファレンスもあります。個人対個人の中で入っていくレファレンスもあると思います。検索、調べ物一緒にしてあげるとか。これが大事な役目の一つだというふうに思うから、具体的にありますかということを伺ったのです。聞いていないならないと言われたほうが私は楽だと思います。
○委員長（星　　次君）　答弁、こども教育課長、渡部雄二君。
○こども教育課長（渡部雄二君）　支援員の方からは、具体的にそういった声は聞いてございません。
○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。
○12番（根本謙一君）　この評価シートに書いてある活動実績の中には、支援員を配置して読書活動を推進したというふうに言っているのです。これは、イメージで言っては私はいけないと思っていますから聞きました。そして、最終評価の中で拡充、拡大、有効性改善というところまで言っていますよね。それでいいと思っています、私も。ただ、具体的にこうだから、こういうことがあって、これをもともと生かせなければならないね、こういう成果を出していかなくてはならないねというところのちゃんと根拠づけがあってこういう書き込みになっているのならもうばんばんだと私は思いますけれども、まだこの書き方がなじんでないということも割り引いて考えると、やっぱり検証していただいたほうがいいなというふうに思っています。その点について考え方、教育長でもいいですけれども、お願いしたいなと思います。
　それで、いろいろいろな大会に出て子供たちが活躍しています。すばらしいなというふうに私も思っていますから、コストが増えるのはびびる必要はないと思っております。本郷中、これはまた次の機会に言いますけれども、その点についても併せて教育長の考え方を伺っておきます。
○委員長（星　　次君）　答弁、教育長、歌川哲由君。
○教育長（歌川哲由君）　それではまず最初に、図書館支援員の配置活用についてでありますけれども、これ委員ご存じのとおり地方交付税措置されておりまして、各校に配置することになっているわ

けでありますが、本町においては本の郷図書館にいる職員を巡回派遣している形になっておりまして、非常駐といいますか、小学校のほうは回数はある程度週に数回というふうに多いのですが、中学校のほうは活用のほうも含めて回数が非常に少なくなっております。効果というのは、先ほど課長答弁したとおり、貸出し冊数の増加との関連であるとか、そういう分析は詳しくされておりませんけれども、特に小学生なんかは図書支援員の巡回を楽しみにして、昼休み等親しくお話ししながら本を読むような光景も私も目にしております。今後派遣回数も含めて図書館支援員の充実、拡充を図っていければなというふうに考えているところであります。これは私の理想ではありますけれども、町の図書館との連携、ここにも司書はたくさんおりますので、そういう方が実際には学校を巡回して、もう少し委員おっしゃるようなレファレンスも含めたような活動ができればというふうに考えております。図書館支援員というのは、基本的には無資格で結構というようなことになっておりますので、図書環境の整備であったり、資格はなくても図書の整理なんかをやっていらっしゃるわけでありますけれども、さらに専門的見地から学校図書室を支援できればなおすばらしいかなというふうに考えているところであります。加えれば、司書教諭もいるわけでありますが、本町においては学校図書館で規定されているクラス数に達していないために正式に発令している事例はございませんけれども、国語の先生で司書教諭等を持っている先生がいれば、お手伝いをしながら、子供の読書環境の整備、良好な環境づくりに尽力いただければありがたいというふうに思っておりますし、今後も教育委員会としても支援してまいりたいと考えております。

それから、２点目の子供の大会参加への補助であります。これも昨年度補助の在り方を見直しまして、以前よりも学校が参加団体が使いやすいような仕組みに切り替えてきております。例えばバスをもう少し自由に使ったりとか、今まで公共交通機関がメインとして想定されていたわけでありますが、学校は大会参加の都合等でやっぱりバスを使いたいなんていう要望も多いものですから、そういうところを使い勝手のいいように改善しながら、今後とも学校等の要望をお聞きしながら、よりよい補助の在り方を模索していきたいと思いますし、支援してまいりたいと考えております。

以上です。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　くどい言い方は避けたいなと思いますけれども、活動実績にそういうふうに書いてあるので、だからそう聞かざるを得ないということは理解していただきたい。受け止めていただきたい。ですから、こういう書き方でいいのかというような検証をぜひやっていただきたい。答弁は結構です。

次参ります。53ページの小学校教育振興事業についてです。ここでお尋ねしたいのは、学力の向上を目指すとしていて、成果の方向性で現状維持というふうになっているのです。この書き方も私はふっと入ってこない。私が理解力がないのか分かりませんけれども、改めてご説明いただけたらなというふうに思います。

２点目の部分では、指標、実績、成果、これなぜこういうふうに低くなっているのかなというのをどう見ているか。確かに先ほど同僚委員からの質疑もありましたので、一定程度は理解進みましたけれども、過去の質疑の中で優秀な者が町外から出ていってしまっているという現実の話も一つの要因みたいなことを説明受けたことがありますけれども、それで併せて教育長が言われたこうすればいいと、手法的にはこういう対策すればいいなということがるる説明されましたけれども、ではそれがどうして現場に落とし込まれて現場教師の皆さんにいい影響を及ぼしていかないのかなという厳しい現実の話もありましたけれども、再度その点についてお伺いしたいと思います。お願いします。

○委員長（星　　次君）　教育長、歌川哲由君。

○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。

学力の捉え方ということもありますけれども、現実に委員おっしゃるとおり指標となっている全国標準学力テストであったり、それからお示ししている全国学力テストの結果であったりというようなことで非常に低下が目立つ教科等もございます。やっぱり学力向上は私どもにとっても子供たちのためにとっての喫緊の課題であるというふうに考えておりますし、それを過去の答弁にあったというふうなお話でご紹介いただきましたが、私は優秀な人材の町外流出とか別な学校に行ったからというふうな捉え方ではいけないというふうに考えております。やっぱり今いる子供たちをそれなりに伸ばしていくというのが我々教育に関係する者の使命でございますので、後のほうのお話につながりますが、なぜこの現場での実績が上がらないかというようなところございますが、この意識の高揚を含め、それから技術的なところの理解も含め、理解していただいた上で、その教員たちが実際そのとおりやろうとする環境をどうつくってやるかというようなところも非常に大事かなというふうに思っています。働き方改革とか様々言われておりますけれども、やはり教員一人一人が子供たちのためにこれだけやっていこうというふうな意識改善も必要ですし、それから学校としてもこれだけはみんなでやっていきましょういうふうな共通的な実践事項をみんなでやっていくというような体制をつくっていくということが大事かなというふうに思っておりますので、今後とも学校現場に私のほうからも話をさせていただきたいと思いますし、指導主事や学校経営アドバイザーの巡回等で折に触れて、中身を点検、確認しながら指導、助言できればというふうに考えているところであります。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　その方向性は私も理解できるところです。ただ、教育長、また就任されて１年になりましたかね。１年ちょっとですか。ですから、町長の理想とする学校教育の在り方、あるいは学力向上に向けての取り組み方、これからだんだん効果が現れてくるのかなと思いますけれども、そういう中で現場とのすり合わせ、これは難しい面も多々あろうかと思います。指導主事もおられる、アドバイザーもおられる中で、しっかり効果を現ししめるのは、そんなに簡単なことではないとは私も想像します。でも、最高責任者としてこういう議会の場で答弁をされるわけですので、それをやっぱり現実化していくという責任が本当に大きいと思います。ご苦労もおありかと思いますけれども、

答弁の内容に沿った効果がしっかり出ますように一層の努力をお願いしたいなというふうに思います。

○委員長（星　　次君）　答弁……

○12番（根本謙一君）　いいです。答弁はさっきとっとと述べられましたので、答弁いいです。

　では、３番目に参ります。55ページ、中学校教育振興事業、ここでも同僚委員から出ておりました質疑で、成果指標、私はこれまた大きくマイナス点になっている分にちょっとある意味ショックを受けておりまして、こういう相対的なというか、ところで一致というのはしていることないかなと思いますけれども、でもやるべきことはそんなに私は変わらないと思っておりまして、教育長はじめ皆さんは何をやればいいのか、やらなければならないのか、どうすればいいのかというのをやっぱりちゃんと踏まえているなというのは答弁の内容からうかがい知れます。それを実際に子供たちに体得してもらう、あるいはしっかり寄り添って力を発揮できる環境をサポートをしていっていただかなければなりませんが、この前の新聞紙上でも出ていましたように、特徴的なのがあるなと思っているのが、本郷中学校は英語が結構得意なのだな、高田中学の皆さんは体力的に優れているところなのだな、それから人間力といいますかね、発表力は高田中学校、新鶴中学校の皆さんがちょっと特徴的だなというふうに受け止めているところあるのですけれども、教育長が同僚委員の質疑の中で言われた個別最適化を狙っていても全体最適化にはなかなかならないという、これはまちづくりでもそうですけれども、これはよく言われていることだというふうに思います。でも、子供教育に限っては全体最適化よりもやっぱり個別最適化が私は大事だと思っている一人なのですけれども、そこも併せて改めての教育長の考え方を伺いたいと思います。

○委員長（星　　次君）　根本委員に確認したいのですが、学力向上という部分と、あとこの英語、体力、発表力とか、個別差別化というふうな部分も申し上げられましたが、どこを重点的にお聞きしたいのか再度お願いします。

○12番（根本謙一君）　だから、成果指標のことです。学力、それから体力テストありますよね。この成果指標、この差が私は大きいと思っていまして、そういう中でそれぞれの学校的な特徴もありますよね。これ新聞等で取り上げている部分を踏まえていますけれども、そういう中で全体的に全体を上げるということも大事ですけれども、でも先ほどの同僚委員の質疑の中で個別最適化という言葉使われました。個別最適化ですよ。子供教育に関しては個別最適化が私は大事だなというふうに思うことから、そこを再度どう考えるか考え方を伺いたいというふうに言っています。

○委員長（星　　次君）　答弁、教育長、歌川哲由君。

○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。

　まず、学力についてでありますが、私も昨年、これは年度末に行った多分ＮＲＴテストの結果ですよね。と思うのですが、就任したてに全国学力・学習状況調査の結果を聞きまして、特に中学校の数学がやっぱり全国標準から見るとかなり劣っていた状況が見られました。これ分析しますと、学校格

差も結構大きくて、なぜでは低い学校が低かったのかというようなところも指導主事と話し合ったりして、学校の状況なども聞き取って分析しようとしたわけでありますが、不登校児童生徒が非常に多かったりして、やはり学びに向かえない子供が多かったというのが非常に大きな原因だったかなというふうに思っているところであります。個別最適な学びというふうなことで委員からもお話ありましたが、全体的なものというよりは、やはりそういう子供さんたち一人一人に目を当てて、どういう支援をすればその子の学力向上につながったり、学校復帰につながったり、あとひいては卒業後の進路の実現につながっていくのか、そういうところに焦点を当てて指導していくの私は学校の役目だというふうに考えております。なかなか不登校の多い状況は卒業まで改善できなかったと思っておりますけれども、復帰に向けて、進路目標に向かって徐々に復帰している子供も増えましたし、最終的には不登校であっても、あるいは学力が十分身につかなかった状況であっても、進路目標を変えながら実現していった子供たちも多数いました。そういうことを見ますと、子供たち一人一人の状況を踏まえながら寄り添った学習指導していく、生活指導していくというのがやっぱり大事かなというふうに改めて考えているところであります。学力の成果が現れないという原因というのは、私、様々な要因があろうかというふうに思っております。一概には言えないところがありますので、やはり子供一人一人の置かれている状況や背景などを教員がつぶさにつかみながら、その子供たち一人一人のサポートをしていくというふうな立場で教育活動に当たっていくことが大事かなというふうに考えているところであります。教育委員会としましても、特にそういうふうな学びに向かう環境に困難があるような子供たちの支援については、家庭環境も含めてでありますけれども、十分な支援体制を学校支援室で行っていければというふうに考えているところであります。

それから、後段の体力についてでありますが、これ福島県全体の課題でもあろうというふうに考えております。震災以降子供たちの体力が低下して、そして肥満児が増えるというふうな福島県全体の課題もありまして、徐々に回復傾向にあろうかというふうに思っていますけれども、まだまだ全国との差がある種目、内容等もございます。これは、各学校において自校の実態などを分析しながら、特に体育の時間の冒頭であったりを活用して補強運動をするなどして改善に取り組んでいるところが多くあろうというふうに思っております。今後とも、体力の向上も大事な生きる力でありますので、体育の時間の内容の見直しなども含めて、各学校において実践がされるよう支援してまいりたいというふうに考えております。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　丁寧にありがとうございました。教育長のそういう考え方が現場に浸透されていきますように期待しております。

では、次に参ります。４点目、図書館管理運営事業について伺います。ここでは、まずこういうコロナ禍の中での取組、いろいろご苦労たくさんあったと思いますけれども、取組内容、活動実績、これは評価したいと思います。よくいろいろ考えてやってこられたなというふうに思っております。そ

ういう中で、まず１つ伺いたいのは、先ほど教育研究事業の中でいわゆる図書館支援員のレファレンスサービスはあったかなかったかというようなところで伺ったのですけれども、図書館の中でこのレファレンスサービスどこにもなかなか出てこないのです。いろんなところで書き物見ていますけれども、このサービスの状況がどうしても読み取れてこないのです。全くないことはないと思っていまして、でも実際には現状としてどうなのだろうかと。図書館の事業で、これは私、核になっていると思っていますので、ぜひそこを具体的に伺いたいなというふうに思っているところです。

それから２つ目は、コストの方向性で縮小となっているのです。これはどういうことなのだろうなというのがまだ読み取れない。あっちこっち読んでも理解し難いところなので、ご説明をお願いできればというふうに思います。

○委員長（星　　次君）　生涯学習課長、福田富美代君。

○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどの質問にお答えいたします。

まず１点目、図書館におけるレファレンスサービスの実績ということですが、令和３年度における回数のみ把握しておりますので、お答えします。３年度実績は675回となっております。

あと、２点目のコストの方向性の縮減につきましては、図書館が令和元年度に設立しまして、令和３年度の実績、末で蔵書冊数３万5,141冊となっております。それを踏まえて、建設当時３万冊の図書館規模ということもありましたので、一定程度の蔵書数確保されております。そうした上で、本のリクエストカードによる図書の入替えだったりとかもございますけれども、それを踏まえて次年度、令和４年度に向けてのコストについては図書購入費というものを縮減しながら、それでも循環を図りながらということで進めていくというところで、これまで３か年大きく蔵書数確保のためということの予算ということが大きかったものですから、令和４年に向けては少し縮小しながらやっていくというところでの縮減としております。

以上です。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　１番目のレファレンスサービスの現状についてですけれども、私回数を聞いているのではないのです。回数は、どんなことでも問合せなんかあったら全部回数に重ねられますから、675、令和元年度で。だから、この中身を知りたいのです。このレファレンスサービスが図書館のイメージを左右するぐらいに大事な業務だと私は思っていますから、内容的にどういうことがありますかということをお尋ねしたつもりなのですけれども、言葉足らずだったらごめんなさい。回数ではないです。中身です、問題は。ぜひお願いしたいなと思います。

それから、コストの方向ですけれども、確かに冊数は充実していますけれども、でも年々新たな本は出てきますし、入替えも当然しなければならないわけですので、コスト削減、縮小の方向というのは私はいかがかなと。やっぱりここは中身も含めてより充実していかなければならない部分なのにどうなのかなというふうには思っているところですけれども、再度お願いしたいと思います。

○委員長（星　　次君）　生涯学習課長、福田富美代君。
○生涯学習課長（福田富美代君）　まず、１点目のレファレンスの内容につきましては、多くはやはり図書に対する照会が主でございます。著者名でお探しされている方、さらには本の題名等でお探しになっている方、またいろんな形で似たようなこういったものと同じような本はないですかとかいうようなお問合せというところで、主に蔵書、本に対する照会が主となっております。
　２点目のコスト縮小の考え方なのですけれども、繰り返しにはなりますけれども、令和４年度に向けてにおかれましては、やはり蔵書数確保のための予算ということが大きくこれまで占めておりました。それについては、令和４年度に限ってという形にはなりますけれども、多くニーズに合った図書を確保するというのは念頭に置きながらも、これまで多くのものを購入するということではなくて、ある程度ニーズに沿ったような形で、円滑な運営に必要な相当の蔵書数確保ということでのコストを見ておりましたので、令和４年度に関しては若干購入費については前年度比で150万ほど減少しておるところでございます。ただ、その先になりますと、やはり令和元年度に図書館を立ち上げるときにシステムということを導入いたしました。今後はそういった機器の更改というところ、更新が出てきますので、今後においてはそういったところも充実を図りながら、さらにまたもっとニーズに合ったような図書の確保、また生涯学習センターということで、また本郷の場合は本郷生涯学習センターが本郷庁舎に移転する際にやはり図書室というもの広くございます。こちらの図書館費のところでは、ここの図書館だけではなくて、生涯学習センターの蔵書もこちらのほうで購入しておりますので、一体的になって整備していきたいと考えておりますので、ただこの中で令和４年度に向けての方向性としましては、コストについては縮小としたものでございます。
　以上です。
○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。
○12番（根本謙一君）　レファレンスサービスのことについてもうちょっと伺います。今の説明ですと、通常のよくある普通の対応の話でしかないのかなというふうに受け止めます。これレファレンスサービスって物すごく幅広くて深いのです。これをよく理解して、より図書館の存在意義を高めるためには、積極的にアピールしていかないと、当然何をするのがレファレンスかというのもちゃんと分かってですよ。分かって。通常の窓口であの本ありますか、ないですか、ああ、そうですか、あっ、あそこにありますよ、これをレファレンスサービスやっていますというふうには私はなっていないと思っています。とにかく調べたり、それから一緒になって悩んだり、ではそのことだったらこっちありますよとか、やっぱり熟知しながらしっかりサポートする、支援する。本当にすごい業務内容になっているはずですから、ここが充実してくると図書館のイメージも上がるし、利活用も増える、新たな利用者も増えるというふうにどんどんつながっていくと私は考えます。そのための充実はしっかりやってくださいよというのが法律にも書いてあるわけですので、そこをしっかり押さえて今後に生かしていただきたいなと思いますけれども、再度の答弁お願いします。

○委員長（星　　次君）　生涯学習課長、福田富美代君。
○生涯学習課長（福田富美代君）　再度のおただしのレファレンスの関係でありますけれども、申し訳ありません。全てに関してちょっとどういった内容かというの把握していないというところもございますが、まず郷土資料に関するお問合せなどもございます。また、窓口に来られる方とか、またメールでの照会というものもございます。そういったときにおかれましては、やはり郷土資料という部分については、こちら生涯学習課の文化係ございますので、そちらのほうと確認しながら丁寧に対応するといったレファレンスの事例なんかもございます。今後図書が多くなるということで生涯学習センターとの兼ね合いを先ほどお話ししましたけれども、この後に関しましては郷土資料という部分で、また郷土資料はやはり郷土資料館のほうに重きを置きまして、そういったものと連携ができるような形で、いろんな形でレファレンスにも広がるような形で対応していきたいと考えております。なお、司書のほう資格を持ってそれぞれに丁寧に対応しているところではありますけれども、さらに町民ニーズに合ったように対応できるような形で自己研さん等も積みながら対応していきたいと考えております。
　以上です。
○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。
○12番（根本謙一君）　答弁は結構ですけれども、活動実績の中にもそういう部分をしっかり書いて出されたほうがいいと思います。いろいろやっているという自覚をお持ちならば、やっぱりそれも堂々と報告されたほうがいいと思います。
　では、次参ります。最後になります。５点目です。地域文化振興事業でお伺いします。最終評価で拡充が成果の方向性でありますけれども、どのように具体的に考えているのか伺いたいと思います。そういう中でコストの方向性は現状維持になっています。今後では生産性改善になっています。この部分も言っていることがなかなか胸に入ってこない。どういうことなのだろうなということでお伺いしたいと思います。
○委員長（星　　次君）　答弁、生涯学習課長、福田富美代君。
○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどのご質問でありますけれども、まず成果の方向性としては拡充ということにつきましては、令和３年度から新たに公共ホール音楽活性化事業を行っております。そうしたところで、また次年度というか、令和４年度についても引き続き活性化事業を実施したいと考えております。そうした中で、複合文化施設の利活用促進という上でも、地域文化振興事業については成果の方向としては拡充していきたいと考えております。ただ、コスト面に関しましては、令和３年度におかれましても公共ホール活性化事業を行っております。そういった上で現状維持としたものでございます。
　以上です。
〔何事か言う人あり〕

○委員長（星　　次君）　生涯学習課長、福田富美代君。
○生涯学習課長（福田富美代君）　大変失礼いたしました。今後の方向性で生産性改善ということではありますけれども、芸術文化振興のために町民の芸術文化活動の支援、さらには町主催だけではなくて民間の利用も促進しながら、またさらには町の公共ホール音楽活性化事業というものの効率化を図っていくということで生産性の改善としております。
以上です。
○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。
○12番（根本謙一君）　本当になかなか分かりづらいこういう仕組みを、評価方式をつくられたなと思っているのです。この生産性改善については、この説明書を見ますと有効性の評価があまり向上していないです。コストを維持しつつ成果を上げる生産性向上の改善策だということです。これ分かります、意味。私は、なかなかちょっと分かりづらい表現使っているなと思って。そして、コストの方向性で現状維持というようにしていますよね。この説明書き見ますと、この分類の説明書きです。現状維持は改善策がない状態、出尽くしている状態です。出尽くしている、改善策がない。私は、いろいろ今やろうとしているにもかかわらず、こういう評価の仕方をしているのが本当に大丈夫なのかなというふうに、みんなに共有しての仕組みだとは思いますけれども、このような仕組みを使ってまだ初年度でありますし、なじんでいないということがあるにしても、ここは再度検証していただきたいなというふうに思います。
その点と、それからこの地域文化振興事業の事業概要、それから対象、それから意図、団体中心に書き込んでいますよね。そして、活動実績は音楽です。音楽。音楽に何か特化しているような書き込みにもなっていますよね、活動実績、成果で。芸術文化ですから、ジャンルはもう広いはずですよね。演劇含めて、演奏だけでなくて歌もありますよね。いろんな芸術文化の分野が、いろんな選択肢があって豊かですよね。そこの中で、いろんなもの、本物を見る機会がそこでつくられる、子供にいい刺激を与えていっていただきたいなというふうに思っていたのですけれども、事務事業の概要を見ますと何か団体対象にしている。ここは少し考える必要があるのではないかなというふうに思っていますけれども、その点についてお願いします。
○委員長（星　　次君）　お諮りいたします。
根本謙一委員がまだ質疑中でありますが、昼食になっておりますが、時間になっておりますが、延刻して根本謙一委員の質疑が終了するまで延刻したいと思いますが、皆さんご異議ございませんか。
〔「異議なし」と言う人あり〕
○委員長（星　　次君）　それでは、根本謙一委員、よろしくお願いいたします。
答弁、生涯学習課長、福田富美代君。
○生涯学習課長（福田富美代君）　まず、１点目につきましてのコストの方向性、現状維持の関連ではありますけれども、なおこの予算の中で形を変えながら実際、大変申し訳ありません。ちょっと整

理します。大変失礼いたしました。現状維持としましたのは、まず各種団体の活動支援については、令和３年度、令和４年度においても同じ団体への活動支援を行うということ、さらには３年度から行っております公共ホール音楽活性化事業については、３年度から始まりまして、３年間ということで実施していきたいと考えている事業でございます。そういった中で、令和３年度から新たに取り組んだ新規事業を取り入れながらも、まず令和４年度に向けてのコストの方向性については現状維持としたものです。しかしながら、芸術文化振興というところで新たな本物の音楽を聴く、さらにはこのじげんホール、複合文化施設ができたことによっていろんな団体、町外の方からも多くの方に利用していただきまして、コンサート等、または町民に対しての発表の場であったり、いろんな使い方がされております。コストの中では現状維持かもしれないですけれども、いろんな形でホールを活用しながら町の文化振興を図っていく、促進をしていくというもので成果の方向性として捉えたものでございます。

２点目の団体育成に関しましては、まず……失礼いたしました。大変失礼いたしました。実際事後評価シートにおきまして、対象については団体に限ってというような形に掲載しているところでありますが、やはり３年度に向けて公共ホール活性化事業等を行っておりますので、今後精査して整理してまいりたいと考えております。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　最後の部分ですけれども、精査して検討していきますということは、その事業をもっと幅広くするという、団体に限ったようにどうしてもこれ捉えてしまいますよね。そういう部分もちゃんと精査して見直していくという受け止め方でいいのでしょうか、対象も含めて。もうちょっといい書き方私あると思っています。検討するということですね。

○委員長（星　　次君）　生涯学習課長、福田富美代君。

○生涯学習課長（福田富美代君）　対象につきましては、文化団体、また音楽だけにとらわれずにそちらのほうは整理して改めたいと考えております。

○委員長（星　　次君）　ほかに質疑ありませんか。

〔何事か言う人あり〕

○委員長（星　　次君）　いや、ただいま皆さんにお諮りして、昼食というふうなことで、根本委員が終わるまでということで皆さんにお諮りしましたので、昼食のために午後１時まで休憩し、午後の１時からはただいま挙手されております櫻井幹夫委員の質問を受けて、それから進めたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

昼食のため午後１時まで休憩いたします。

休　憩　　（午後　零時０３分）

再　開　　（午後　１時００分）

○委員長（星　　次君）　休憩前に引き続き会議を再開いたします。

８款消防費、９款教育費の質疑を行います。

質疑者は挙手にてお願いします。

１番、櫻井幹夫委員。

○１番（櫻井幹夫君）　私は、１点、決算書からです。130ページ、９款教育費、１項教育総務費、２目事務局費、18節負担金補助及び交付金、備考欄一番下段の助成金、遠距離通学費助成金について質疑します。これは、どこの地域の子供で何人分なのか教えていただけますか。なお、この子供はスクールバスには乗れないのでしょうか、伺います。

○委員長（星　　次君）　答弁、こども教育課長、渡部雄二君。

○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまのご質問でございますが、遠距離通学助成金の内容でございますが、こちらにつきましては対象となりますのが２キロ以上の地区から100日以上通学する生徒ということで、年額3,000円を支給するものでございます。スクールバスに乗れないのかということでございますが、中学生につきましてはおおむね４キロ以上の地区がスクールバスの乗車対象になってございますので、そこには該当しない生徒ということになります。詳しい内訳でございます。対象者が全員で42名でございます。高田地域が19名、本郷地域が９名、新鶴地域が14名でございます。さらに詳しい地区別といいますか、そういう中身になりますと、高田地域19名のうち高田前川原が９名、高田道上が２名、安田１名、宮ノ腰が１名、永井野の中町が５名、台ノ下が１名、本郷地域になりますが、家東３名、御用地が１名、宗頤が２名、氷玉の福永１名でございまして、大石の西光寺１名、大石の柳窪が１名でございます。新鶴地域でございますが、沢田地区で５名……申し訳ございません。すみません、ちょっとここはっきり正解かどうかあれなので、申し訳ありませんが、泉新田と思われるところが２人、あとは小沢が４名で、米田が２名、こちらもちょっとはっきりしなくて申し訳ないのですが、桧ノ目が１名でございます。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　櫻井幹夫委員。

○１番（櫻井幹夫君）　生徒１人に対して3,000円を支給ということですけれども、どのような目的でいつ頃から助成されているのでしょうか。

○委員長（星　　次君）　こども教育課長、渡部雄二君。

○こども教育課長（渡部雄二君）　この助成につきましては、平成28年からでございまして、3,000円の内訳はちょっと当初どういう趣旨だったかはっきり私も確認はしておりませんが、ヘルメット代とか、そういった内容かと思います。

○委員長（星　　次君）　櫻井幹夫委員。

○１番（櫻井幹夫君）　承知をいたしました。ありがとうございました。

○委員長（星　　次君）　ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（星　　次君）　なしの声がありますので、これをもって８款消防費、９款教育費の質疑を終了いたします。

説明員入替えのため暫時休憩いたします。

休　憩　　（午後　１時０７分）

再　開　　（午後　１時１５分）

○委員長（星　　次君）　再開いたします。

次に、10款災害復旧費、11款公債費、12款諸支出金、13款予備費の質疑を行います。

質疑者は挙手にてお願いいたします。質疑ありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（星　　次君）　なしの声がありますので、これをもって10款災害復旧費、11款公債費、12款諸支出金、13款予備費の質疑を終了します。

お諮りします。本日はこれにて延会としたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○委員長（星　　次君）　異議なしの声がありますので、異議なしと認め、本日はこれにて延会いたします。

延　会　　（午後　１時１６分）

決 算 特 別 委 員 会

（第　４　日）

令和４年会津美里町議会（決算特別委員会）

第４日

令和４年９月２１日（水）午前１０時００分開議

委員長	星　　次　君	副委員長	長　嶺　一　也　君

○出席委員（１４名）

１番	櫻　井　幹　夫　君	９番	渋　井　清　隆　君
２番	大　竹　　惣　君	１０番	星　　次　君
３番	渡　辺　葉　月　君	１１番	堤　　信　也　君
４番	荒　川　佳　一　君	１２番	根　本　謙　一　君
６番	長　嶺　一　也　君	１３番	根　本　　剛　君
７番	村　松　　尚　君	１４番	横　山　義　博　君
８番	小　島　裕　子　君	１５番	鈴　木　繁　明　君

○欠席委員（なし）

○説明のため出席した者

町長	杉　山　純　一	君
副町長	佐々木　吉　一	君
総務課長	金　子　吉　弘	君
総務課課長補佐	渡　部　　充	君
政策財政課長	國　分　利　則	君
町民税務課長	猪　俣　利　幸	君
健康ふくし課長	平　山　正　孝	君
健康ふくし課課長補佐	安　部　賢　辰	君
健康ふくし課保険年金係長	芥　川　豊　和	君
健康ふくし課介護保険係長	佐　瀬　博　巳	君
会計管理者	松　本　由佳里	君

産業振興課長	小林　隆浩	君
産業振興課課長補佐	宮下　寛	君
産業振興課課長補佐	佐藤　文彦	君
産業振興課森林環境対策室長	川田　勝博	君
産業振興課農政係長	横山　美代子	君
産業振興課商工観光係長	鈴木　俊幸	君
建設水道課長	鈴木　明利	君
建設水道課課長補佐	加藤　定行	君
建設水道課課長補佐	酒井　新一	君
建設水道課管理係長	小林　正裕	君
建設水道課建設係長	松本　健一	君
教育長	歌川　哲由	君
こども教育課長	渡部　雄二	君
こども教育課指導主事	小野　泰弘	君
こども教育課課長補佐	目黒　裕樹	君
こども教育課こども教育係長	榎森　正典	君
生涯学習課長	福田　富美代	君
生涯学習課課長補佐	鵜川　晃	君
生涯学習課文化係長	梶原　圭介	君
農業委員会事務局次長	後藤　淳	君
農業委員会総務係長	田邉　実千代	君
代表監査委員	小島　隆一	君

○事務局職員出席者

事務局長	児島　隆昌	君

総 務 係 長　　歌　　川　　和　　仁　　君

開　議　　（午前１０時００分）

○委員長（星　　次君）　これから本日の会議を開きます。

決算特別委員会４日目の質疑を行います。

ただいま産業振興課長より発言の許可を求められておりますので、産業振興課長の発言について、これを許可いたします。

産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　おはようございます。貴重なお時間をいただきまして誠に申し訳ございません。

決算認定資料といたしまして提出しました令和３年度主要施策の成果に係る説明書等に誤りがありましたので、深くおわびを申し上げますとともに、これからお配りいたします訂正資料により説明させていただきたいと存じますので、委員長の許可をお願いいたします。

○委員長（星　　次君）　許可いたします。

暫時休憩いたします。

休　憩　　（午前１０時０１分）

再　開　　（午前１０時０３分）

○委員長（星　　次君）　再開いたします。

産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　このたび決算認定資料として提出いたしました令和３年度の主要施策の成果指標に関する説明書等に誤りがございました。大変申し訳ございませんでした。おわび申しますとともに、訂正をお願いするものでございます。なお、このたびの訂正につきましては、令和４年度事務事業（事後）評価（令和３年度実施事業）の数値に誤りがありまして、その誤った数値が令和３年度主要施策の成果に関する説明書並びに令和４年度施策評価（令和３年度実施施策）に反映されたことによる誤りでございます。訂正箇所は、ただいまお配りしました会津美里町議会定例会９月会議議案等配付書類訂正資料、これは一覧表になっておりますので、このページが修正が必要なページとなってございます。

訂正箇所を説明させていただきます。まず、令和３年度主要施策の成果に関する説明書の41ページをお開きいただきたいと思います。よろしいでしょうか。

〔「はい」と言う人あり〕

○産業振興課長（小林隆浩君）　施策の成果の２段目でございます。事務事業名、観光対策事業の決算額でございます。３億2,034万7,000円と記載してございますが、正しくは3,203万3,000円の誤りでありましたので、訂正をお願いするものでございます。

次に、工業団地造成事業特別会計分でございます。73ページをお開きいただきたいと存じます。事

務事業名、高田工業団地販売管理事業でございます。右から３列目の成果指標の欄で一番下の実績値Ａ０回、この記載が誤っておりました。正しくは２回でありましたので、訂正をお願いするものでございます。

裏面の74ページをお開きいただきたいと存じます。事務事業名、新鶴工業団地販売管理事業でございます。先ほどと同様でございまして、右から３列目の成果指標の欄で、一番下の実績値Ａ０回、この数値が誤っておりまして、正しくは２回でありましたので、訂正をお願いするものでございます。

続きまして、関連資料でございますが、決算特別委員会参考資料でございます。令和４年度施策評価（令和３年度実施施策）をご用意をお願いいたします。令和４年度施策評価（令和３年度実施施策）の78ページをお開き願います。６、施策を構成する事務事業、上から３段目、番号３、事務事業名、観光対策事業でございますが、令和３年度決算額の記載が誤っておりますので、3,203万3,000円に訂正をお願いするものでございます。

同じく関連資料でございますが、決算特別委員会参考資料でございます。令和４年度事務事業（事後）評価（令和３年度実施事業）をご用意願います。令和４年度事務事業（事後）評価（令和３年度実施事業）の137ページをお開き願います。中段、中ほどより下になりますが、２、事業の実績、（１）、事業費等の推移、３年度決算でございますが、１段目の事業費と６段目の一般財源の記載が誤っておりますので、どちらも3,203万3,000円に訂正をお願いするものでございます。

次に、146ページをお開き願います。中ほどより下になりますが、２、事業の実績、右側になりますが、（２）、指標の推移、成果指標Ａの下段、３年度実績値の記載が誤っておりますので、０回を２回に訂正をお願いするものでございます。

次のページになりますが、147ページを御覧ください。同じく中ほどより下になりますが、２、事業の実績、右側になりますが、（２）、指標の推移、成果指標Ａの下段、３年度の実績値の記載が誤っておりますので、０回を２回に訂正をお願いするものでございます。

このたび決算認定の重要な説明資料でございますが、成果説明書等に複数の訂正が生じてしまいましたことは事前の書類等の確認が足りなかったものであると深く反省しております。今後このようなことがないよう、議案等の提出に当たりましては二重三重の確認を徹底してまいります。このたびは誠に申し訳ありませんでした。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　それでは、各委員の皆様、了解ですか。

〔「了解」と言う人あり〕

○委員長（星　　次君）　了解という声がありますので、それでは……

〔何事か言う人あり〕

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　見つけられたのは幸いだというふうに基本的に思いますけれども、いわゆる

こういう資料を出す場合に二重三重のチェックの手続は、しっかりマニュアルがつくられて、それにのっとってやっているというふうに基本的には認識しておりますけれども、今回それでもこういう事案が発生してしまったのか、あるいはそこをおろそかにしてしまったのか、そこは明確にしていただきたい。もしもマニュアルどおりにやったのだけれども、落としてしまった、それはどうしてかということも併せてご説明いただきたい。

○委員長（星　　次君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　誤った原因につきましては、二重、三重、四重のチェックということで行っておりました。この事務事業評価のシートを最終的に修正する段階で誤って数値とかを消してしまったり、ちょっと違う数値を入力してしまったというところが最終的な段階でミスがあったということでございます。またその後最終確認があったわけでございますが、そのとき見落としてしまったということです。なお、今後このようなことがないよう本当に、最終責任、確認者は私になりますので、最後責任を持ってしっかり確認してまいります。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員、了解ですか。

○12番（根本謙一君）　機会捉えてまたただしていきたいと思いますけれども、おかしいなとは思っています、基本的。いいです。

以上です。

○委員長（星　　次君）　それでは、暫時休憩いたします。

休　憩　　（午前１０時１５分）

再　開　　（午前１０時１６分）

○委員長（星　　次君）　再開します。

それでは、決算特別委員会４日目の質疑を行います。これより施策評価に対する質疑を行います。

質疑順については、お手元に配付いたしました施策評価質疑書の順に質疑を進めたいと思います。なお、１質疑に対し答弁は３回までとし、質疑時間の制限はいたしません。質疑、答弁とも簡潔明瞭にお願いいたします。

これより政策名、自然に配慮した環境づくりの質疑を行います。

まず、政策ナンバー１－２、生活基盤の整備について、６番、長嶺一也委員。

○６番（長嶺一也君）　まず初めに、生活基盤の整備ですが、施策評価の11ページの５、次年度の方向性の最後に「除却推進に取り組む」と書いてございますが、どのような状態になったときに除却するのか、具体的に提示していただきたいと思います。

○委員長（星　　次君）　答弁、建設水道課長、鈴木明利君。

○建設水道課長（鈴木明利君）　それでは、６番、長嶺委員のご質問にお答えいたします。

どのような状態になったときに除却するのかにつきましては、空き家は個人の所有物であり、所有者自らの責任により適切な管理を行っていただくことが前提となりますが、町の空家等対策本部で認定している特定空家のように、そのまま放置すれば倒壊等著しく保安上危険となるおそれのある状態や著しく景観を損なっている状態にあると認められた空き家に対し、除却等の助言、指導を行ってまいるということでございます。

○委員長（星　　次君）　長嶺一也委員。

○６番（長嶺一也君）　空家等除却推進事業補助金交付要綱第４条第１号に規定する補助対象者は、補助対象空き家等の所有者等とされております。特定空家や不良住宅は、所有者不明や相続者が死亡等で不存在の住宅がほとんどかと思われます。当該補助金交付要綱では、景観を損ね、倒壊のおそれがあっても補助金の交付申請する者自体が存在しないことになり、除却は進まないのではないかと考えます。このことについて対応策はあるのでしょうか。

○委員長（星　　次君）　答弁、建設水道課長、鈴木明利君。

○建設水道課長（鈴木明利君）　ただいまのご質問でございますが、空き家等におきまして所有者不明ということが多々あるということは事実でございます。しかし、所有者不明等につきましても、登記簿謄本、あとはその他死亡された方、元の所有者からいろいろ戸籍をたどりまして、あらゆるところで相続人を特定しまして、それで除却に、除却といいますか、相続人を特定しながら調査を進めてまいるということでございまして、最終的に相続者につきましても相続放棄等をしている場合がございます。相続放棄等をしている場合につきましても管理の義務はございますので、その辺について所有者、その相続者についていろいろ説明をした上で、ご理解をしていただいた上で管理をしていただいているというところでございます。

○委員長（星　　次君）　長嶺一也委員。

○６番（長嶺一也君）　今ほど相続等が特定できない場合というお話がございましたが、特定できず、空き家の所有者等がいない場合で、倒壊により隣家が被害を被った事例はあったのでしょうか。

○委員長（星　　次君）　建設水道課長。

○建設水道課長（鈴木明利君）　今ほどのご質問ですが、倒壊による近隣の方の被害というところは、例えば家の敷地の中に倒れてしまったと、ほかの近隣の方に倒れてしまったとか、そこまでの事例というのは今までは報告されておりませんが、敷地の中で倒壊してしまったり、屋根が飛んでしまったりというような事例は今までございます。

〔「３回言った。３回終わった」と言う人あり〕

○６番（長嶺一也君）　分かりました。

以上で質問を終わります。

○委員長（星　　次君）　これで長嶺一也委員の質疑は終わりました。

次の施策に移ります。施策ナンバー１―３、交通体系の充実について、４番、荒川佳一委員。

○４番（荒川佳一君）　17ページを御覧いただきたいと思います。３、指標の分析の①なのでございますが、「良好な道路状況を維持するため舗装補修及び道路施設の修繕を実施」とあるが、道路修繕の工法はどのような判断で実施しているのか、また道路修繕の対応が早いのはどのような工夫をしているのか伺います。
○委員長（星　　次君）　答弁、建設水道課長、鈴木明利君。
○建設水道課長（鈴木明利君）　それでは、ただいまのご質問にお答えしたいと思います。
　まず、１点目の道路補修の工法はどのような判断で実施しているのかにつきましては、まず現場確認した後に職員で対応できるものは応急処置的に行い、その後、業者に修繕内容を提示していただいた上で判断、実施をしております。
　２点目の道路修繕の対応が早いのはどのような工夫をしているのかにつきましては、前の質問でお答えしたとおり、職員で対応するものから業者で行うものへスムーズな連携が取れているものと考えております。
○委員長（星　　次君）　荒川委員。
○４番（荒川佳一君）　道路修繕工事の場合、破損箇所が大きく、連続している場所などあります。目視での判断となりますが、何か町での基準はあるのでしょうか。
○委員長（星　　次君）　答弁、建設水道課長、鈴木明利君。
○建設水道課長（鈴木明利君）　ただいまのご質問でございますが、判断の基準ということでございますが、その判断の基準、委員がおっしゃいますとおり原則目視でということでございますが、路面の性状調査ということで、機械をもって路面の凹凸を測ったりするような調査も実施しております。その調査の中で凹凸がひどいような場所についても補修の対象となるということでございます。
　以上でございます。
○委員長（星　　次君）　荒川佳一委員。
○４番（荒川佳一君）　そうしますと、今の道路、機械で測るということと、あと目視も行って、その状況を確認するということですね。そうしますと、一応工法的には打ち換え工法とかオーバーレイ、あとはパッチングとか路面再生工法ということであるのですけれども、その中で町道管理の対応としてどうしても冬期間の問題はあるのですけれども、通常の道路管理は先ほど申しましたように職員のパトロールとか区長さんとか住民からの通報があるのですけれども、その中で今の業者との、職員も一応修繕もするということもあるのですけれども、業者の連携が大事だということで、先ほどもあるのですけれども、工事着工までの流れについて確認をします。お願いします。
○委員長（星　　次君）　建設水道課長、鈴木明利君。
○建設水道課長（鈴木明利君）　工事までの流れということでございますが、まずただいまご質問の中にもありましたとおり、除雪後に穴が空いてしまうというところが本当にございます。それにつきまして３月中に一旦確認をいたします。その中で、大きめの穴については職員で当然そのときに臨時

的に埋めてきますが、すぐに業者のほうで３月中に補修、パッチングになりますが、その補修をしていくというところでございます。それで、その後に、３月中は大きなところというところで実施しておりますが、新年度になりまして４月になりましたら、今度また修繕箇所についての調査を始めまして実施をするわけでございますけれども、先ほど業者との連携という話が、こちらのほうの答弁もありましたが、一応建設業組合のほうと地区割りをしていただいているというところがございます。地区割りをしていただいた上で、工事費ではなく修繕費といういうことで、地区ごとに早く一緒に一手にかかれるように工夫をしておりまして、それを４月の初めの頃に現場を確認していただくと。その確認作業についても、業者さんのほうにある程度確認をしていただいた上で危険箇所の特定をしてもらうということもしております。そういうことをしている中で、早めの補修ということで実施しているというところでございます。

以上です。

○委員長（星　　次君）　これで荒川佳一委員の質疑は終わりました。

次に、同じく施策ナンバー１－３、交通体系の充実について、７番、村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　それでは、施策ナンバー１－３、交通体系の充実からご質問させていただきます。

成果指標①において、舗装については補修痕での凹凸云々の道路除雪が通勤時間までに完了しなかったことが増加の要因との分析があるが、町民からの苦情や問合せはどの程度あったのか伺います。

○委員長（星　　次君）　答弁、建設水道課長、鈴木明利君。

○建設水道課長（鈴木明利君）　ただいまのご質問にお答えいたします。

町民からの苦情や問合せはどの程度あったのかにつきましては、舗装路面に関する苦情、連絡は月にゼロ件から２件程度、除雪につきましては12月から３月までの除雪期間中約100件の苦情、問合せを受けております。苦情、問合せを受けたもののうち、舗装路面に関する対応につきましては現地確認後速やかに対応しております。除雪につきましては、除雪オペレーターに状況や位置の確認を行い、苦情等があった現場に最も近くにいる除雪オペレーターが対応する場合と職員が直接現場へ行き、対応する場合がございます。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　そうしますと、除雪についてはおおむね12月から３月までで100件程度あるというお話でしたけれども、この100件の中身というのは、主な中身というものはどういったものなのか教えてください。

○委員長（星　　次君）　答弁、建設水道課長、鈴木明利君。

○建設水道課長（鈴木明利君）　ただいまのご質問でございますが、主な内容ということではございますが、そのアンケート調査等にもあったとおり、除雪車がまだ来ていないとか、あとは家の前に大

きな除雪の雪の塊を置いていかれたと、どうするのだとかいうような苦情が多くあります。

以上です。

○委員長（星　　次君）　村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　そうしますと、おおむね除雪に関する苦情というのは、除雪がまだ来ていないとか、そういったところの不具合、また除雪した後の大きな雪の塊が庭先に置いていかれてしまっているという今お話でしたけれども、やはり除雪自体、今社会環境が変化している中で職場なんかもどんどん変化しています。特に仕事の形態というのも、３交代の職場というのも非常に増えてきて、私なんかもお話伺うと、やはり日勤がどうしても、磐梯町のシグマさんに勤めていらっしゃる方なんかはどうしても早く行かなければならない。それに合わせて除雪がやはり来ていないのだというようなお話なんかも伺ったりもします。そういったところで、今課長のお話では、苦情があった場合は早急に職員も含めて、近くにいるオペレーターも含めて対応するというお話しされていましたけれども、そうしますと仮に除雪が来ていないと、今のお話を聞いてしまうと、除雪が来ていなければ、苦情の電話を入れれば近くにいるオペレーターないし職員の人が対応しているのかというふうな捉え方にもなってしまうのですけれども、その辺の電話に対する対応という部分でもう少しちょっと細かく教えていただきたいのですけれども。

○委員長（星　　次君）　建設水道課長、鈴木明利君。

○建設水道課長（鈴木明利君）　除雪が来ていないという中身につきましても、本当に大雪のときに一回深夜、早朝に除雪をしたのだけれども、また積もってしまったという場合と、本当に物すごく雪が降って除雪が追いつかないという場合と、２通りあろうかと思います。その中で、近くにいるオペレーター等に連絡をしてということもありますが、その判断が非常に難しいのですが、緊急性の問題で、例えば幹線道路のほうであって、そこがまたすごい雪だというような状況になっていれば、緊急車両等も通行しなければいけませんので、そこについては近くにいるオペレーターと力を合わせてそこを早めに空けるというような判断が必要かというふうに思いますし、あとは集落の中でもいろいろ細かい道で皆さん困っているというところもあろうかと思いますが、その辺につきましてはあとは周りの状況等も確認した上で判断というふうになってこようかと思います。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　これで村松尚委員の質疑は終わりました。

次に、同じく施策ナンバー１－３、交通体系の充実について、12番、根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　では、質問申し上げます。

成果指標①において、町民の不便感が増加しております。指標の分析では、舗装補修や修繕状況による影響、また近年にない大雪による除雪対応への不満と捉えております。課題に対する取組では、道路について補修、修繕、整備を実施し、除雪では地域特性から生じるオペレーター間の不公平感是正で勤務時間の設定見直しをしたと言っております。その結果について課題、問題は解消を図れたと

いう認識なのか、また道路等修繕計画の優先度の基本的なつけ方について伺いたいと思います。
○委員長（星　　次君）　答弁、建設水道課長、鈴木明利君。
○建設水道課長（鈴木明利君）　ただいまのご質問にお答えします。
１点目の課題、問題は解消を図れたとの認識かにつきましては、道路においては４月、５月に除雪等により傷んだ舗装の補修を実施し、道路整備についても早期発注に努めております。また、除雪において、早朝除雪による早出勤務基準時間を令和２年度までの午前３時から午前５時に見直したことにより、地域特性から生じるオペレーター間の不公平感の是正など課題、問題は解消を図れたと認識しております。
２点目の道路等修繕計画の優先度の基本的なつけ方につきましては、区長会要望を最優先としまして、その他につきましては舗装の破損状況の調査結果や通常行っている道路パトロール等を基に路線ごとの危険性、緊急度合いを判断し、優先度を決めております。
○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。
○12番（根本謙一君）　説明は同僚委員も関連的にされておりまして、その答弁で一定程度は理解は進みましたけれども、まず１点目で道路の修繕の件ですけれども、確かに区長会優先だと、それも分かります。パトロールもしていると。危険度、それから緊急度で判断していると。ただ、実態的に見ますと、なかなか、住民からの声は十分に吸い上げているのかなという懸念は持つところであります。特に本郷地域内でのそういう箇所について、適切な対応を図られたというのは事案としては承知しておりますけれども、ただ区長会優先は一つの原則としてあるにしても、数は限られておりますよね。そういったことも勘案しますと、一番生活実感的に住民からの声が届いた場合には、やっぱり懇切丁寧に対応するという基本姿勢は必要ではないかなというところでお伺いしたいと思います。
２点目の除雪の課題、問題は解消されたと。確かに事務事業評価質疑の中で十分な説明は受けました。いろいろ考えてやっておられるなということは感じておりますけれども、それで次年度の方向性は問題はないだろうという認識なのか、確認的にお伺いしたいと思います。
○委員長（星　　次君）　答弁、建設水道課長、鈴木明利君。
○建設水道課長（鈴木明利君）　１点目の道路修繕に関する住民に対する丁寧な説明ということでございますが、先ほど諮問の中でもございましたとおり、修繕できる箇所、区長会を優先といいましても箇所については本当に特定、限定されてしまうというところでございますが、小さな修繕、工事ではなく、需用費の中でできる修繕のようなものであれば、すぐに現場に出向きまして、すぐ対応するということを実際行っております。それで、町民の方につきましても、そのような連絡のあった方については、電話番号教えていただける方についてはお聞きしまして、修繕が完了しましたというような連絡を丁寧にしているというところでございます。
あと、除雪の方向性ということでございますが、除雪についてもそのような改善図れたのかということでございますが、一応それが全てが全ての事案に対して全て改善されたかといいますと、そうで

はないというふうに私自身も思っておりますが、以前の体制よりはもう数段よくなっているというふうに私自身としても認識しておりますし、オペレーターのほうも今回の改善で納得をしているというところでございます。

以上です。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　１点目の道路の補修、修繕ですけれども、いわゆるアンケート調査でも必ずこれなかなか満足度が伸びていないという実態がございます。ですから、どういうところに不安を持っているのか、もうちょっと具体的にお聞き取りをしたほうがより対応がしやすくなるのではないかなというふうに思いますけれども、その点についてと、それから除雪ですけれども、先ほどの同僚委員の質疑の中でも答弁されておりましたけれども、いわゆる地域的な特性があるのか、あるいは大雪という大きなくくりだけで問題点を捉えてしまっていいのか、その辺は当然いろいろ分析している中で書き留めておられるとは思いますけれども、対応の仕方、いわゆる地域特性をしっかり踏まえて、あるいは人の動きも含めて、車の動きも含めてしっかり把握して対応するのと、いわゆる苦情があったから、それだけ対応してしまって、後に継承もできないでまた次の年になってしまうというのは、私は避けなければならないと思いますけれども、その辺の認識だけ伺って終わります。

○委員長（星　　次君）　答弁、建設水道課長、鈴木明利君。

○建設水道課長（鈴木明利君）　それでは、１点目につきましては道路の具体的な調査ということでございますが、アンケート調査等によりまして、個人意見、自由意見のところでそのようなところも書き出しをしていただくというようなこともできますし、またアンケートの中でその他の欄というところもございます。そこについて、そういうふうな意見を誘導できるようなアンケートの調査方法、それを今後庁内で協議してまいりたいというふうに思います。

それと、２点目の地域的な特性ということでございますが、それについては本当に会津美里町３町村が合併しまして、３地域においての一応格差ということで、今回、令和３年度からですか、改正をしたわけでございますが、その中で、先ほども申しましたが、全てが全て解消されたというふうには私自身も思っておりません。しかし、オペレーターさんといろいろ話をした上で、それでお互いが納得できるようなところでということで今回改正をして、それで令和３年度からそれで実施をしまして、オペレーターさんのほうからもそれに対する苦情等は今のところ受けておりませんので、苦情がなかったからそれでいいのかということではなく、今後もオペレーターさんとよく話合いをしながら継続的に協議してまいりたいというふうに思っております。

以上です。

○委員長（星　　次君）　これで根本謙一委員の質疑は終わりました。

以上で政策名、自然に配慮した環境づくりに関する質疑は終了しました。質疑漏れはございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（星　　次君）　なしという声がありますので、以上で自然に配慮した環境づくりに関する質疑は終了します。

続いて、政策名、安心で安全な暮らしづくりの質疑を行います。

まず、施策ナンバー２―1、防災・消防体制の充実について、１番、櫻井幹夫委員。

○１番（櫻井幹夫君）　それでは、私のほうからは23ページの記載内容についてお尋ねをいたします。

４、課題に対する取組で、集落支援員により各自治区へ自主防災組織化の働きかけ及び出前講座を行ったとありますが、具体的にどのような働きかけ、講座を行ったのか教えていただきたいと思います。また、その結果幾つ増えたのか、またその際の資料等はあるのかをお尋ねいたします。

○委員長（星　　次君）　答弁、総務課長、金子吉弘君。

○総務課長（金子吉弘君）　それでは、櫻井委員のご質問にお答えさせていただきます。

集落支援員による働きかけにつきましては、令和３年度は延べ46回実施しております。具体的には、各自治区長などへの自主防災組織の必要性や組織化に向けた取組の説明を行っているところでございます。出前講座につきましては、自治区等からの要請によりまして総務課職員が行っているところでございます。令和３年度につきましては合計４回実施しておりますが、そのうち２回が自治区からの要請というふうになっております。このような活動を行ってまいりましたが、令和３年度につきましては新たな自主防災組織を組織化した地区はございませんでした。なお、資料につきましては、集落支援員の活動に際しましては、総務課の概要等が載っておりますチラシを活用していただいておるところでございます。

また、出前講座につきましては、独自に作成をいたしました資料を用い、説明を行っているというふうなことでございます。今後も出前講座など様々な機会におきまして、自主防災組織の必要性等につきまして丁寧な説明を行いながら、組織化へのご理解をいただけるよう取り組んでまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　櫻井幹夫委員。

○１番（櫻井幹夫君）　私は、以前から地元地域において自主防災組織の重要性を区長会議等で訴えております。今年の４月には、１地区で自主防災組織が設立されました。消防団員がいない地域も出てきておりますことから、自主防災組織の重要性は今後さらに高まってくるものと思います。行政以外で働きかけや説明を行っている人や団体を把握されていらっしゃいますか。

○委員長（星　　次君）　答弁、総務課長、金子吉弘君。

○総務課長（金子吉弘君）　それでは、再度のご質問にお答えさせていただきます。

行政以外でのいわゆるそういった働きかけを行っている事業所についてでございますが、昨年度の例を申し上げますと、いわゆる行政区以外から要請がありまして、自主防災組織の立ち上げに向けて

の説明を行ったという点におきましては、１つにつきましては大沼高校がございます。さらには、それ以外にもう一回につきましては、町内にあります居宅介護支援事業所からも自主防災組織の中身につきましてお伺いしたいというふうな、そういったご依頼がございまして、そこに出向きまして職員が説明したというふうな実績ございます。各町内の事業所、そういった取組を実施しているというふうな総数につきましては、全体数については把握はしてございませんが、いろいろ広報等を通じまして、そういった必要性を今後も継続的に発信していくことによりまして、そういう機運が高まってくるのかなというふうに考えておりますので、これにつきましては継続して実施してまいりたいというふうに考えているところでございます。

○委員長（星　　次君）　櫻井幹夫委員。

○１番（櫻井幹夫君）　行政だけでできることには限りがあります。これからは行政以外の力を借りることも考えなければならないと考えております。その際には情報の共有が不可欠であり、資料の開示や提供が必要と考えますが、当局として資料の取扱いについてはどのような見解をお持ちでしょうか。

○委員長（星　　次君）　答弁、総務課長、金子吉弘君。

○総務課長（金子吉弘君）　ご質問にお答えさせていただきます。

自主防災組織の組織化に当たりましては、町内全体、行政のみならず、各事業所、さらには町民の皆様方の機運の醸成というのが当然必要不可欠でございます。そのために町のほうで持っている情報につきましては、なるべく個人情報等に当たらない部分に関しましては基本的にはお出しして、しっかりと情報共有を図ってまいりたいというふうに考えているところでございます。ただ、情報的にちょっと出せないような情報もございますので、そういったものにつきましてはしっかりとすみ分けしながら、情報として出せるものについては全て出して共有化を図っていきたいなというふうに考えているところでございます。

○委員長（星　　次君）　これで櫻井幹夫委員の質疑は終わりました。

次に、同じく施策ナンバー２－１、防災・消防体制の充実について、７番、村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　それでは、同じく防災・消防体制の充実から伺います。

指標の分析①では、新型コロナ感染症の影響で自治区の集会が中止となったことから、説明ができなかったことで新規設立に至らなかったとありますが、課題に対する取組では各自治区で出前講座を行ったとしています。一見矛盾するような記載でありますが、どういったことなのか、内容についてお伺いいたします。

○委員長（星　　次君）　答弁、総務課長、金子吉弘君。

○総務課長（金子吉弘君）　それでは、村松委員のご質問にお答えさせていただきます。

まず、自主防災組織を増やすための取組につきましては、まず地区の代表である自治区長等に組織化のご理解をしていただく。次に、出前講座などで住民の方々の理解を深める。最終的に地区の集会

で住民全体への説明を行いまして、組織化の承認を得るというふうな３つの段階が必要だというふうに考えているところでございます。各自治区での出前講座につきましては今ほどの第２段階というふうになりますが、令和３年度は４回ほどを実施しておりまして、うち２回が各自治区で行ったものとなります。出前講座につきましては、地区役員などが対象となることが多く、参加人数も少数であるため開催できましたが、コロナ禍前と比較いたしますと開催数は半数程度というふうになっております。本来であればその後に地区で承認を得るためのいわゆる集落独自の会合を開くこととなると思いますが、新型コロナウイルス感染症の影響によりまして開催できなかったり、取りやめとなったということから、組織化に至らなかったというふうに思っているところでございます。今後も、自主防災組織の必要性等につきまして丁寧な説明を行いながら、地域の住民の方々のご理解をいただけるように取り組んでまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　大体の流れは分かりましたが、この新型コロナウイルス感染症という文言だけにしてしまうと様々な事業が全て中止になっています。集落の総会等も当然中止になっています。先を見ると、なかなか、その時期、時期に応じて下がったかなと思うと上がってしまう、上がってしまったかなと思うと少し下がり始めるというようなアップダウンを繰り返しているわけですけれども、これから先を見据えたときに、例えば総会時に自主防災組織に対する考え方であったり、そういった広報紙、ペーパーみたいなもの、これ大体集落総会、地域の総会なんていうのは多分書面決議であったり、言葉悪いですけれども、集落の方々が議題を各家々にお持ちするというパターンも結構多いと思うのですけれども、そういったところでこういった自主防災組織の理解、書面になってしまうのですけれども、そういったところの活動みたいなものは行ってきたのか、その辺ちょっと伺わせてください。

○委員長（星　　次君）　答弁、総務課長、金子吉弘君。

○総務課長（金子吉弘君）　それでは、再質問にお答えさせていただきます。

まず、総会時等にいわゆるチラシの配布ですとか資料の配布、さらには書面議決等の働きかけを行ったのかというふうなことでございますが、基本的に令和３年度につきましてはそういった働きかけ、特別な働きかけというのは行っておりません。ただ、実際我々が説明に地域のほうにお伺いすれば、役員さんはじめ、区長さんはじめ、役員の皆様方につきましては、自主防災組織の件に関してはすごく前向きにご理解をされて、取り組みたいというふうにおっしゃっていただいております。ただ、その後の地区の意思決定に関しましては、なかなか行政から申し上げづらいというふうなものもございまして、組織化に至らなかったというふうな分析をしているところでございますが、ただそういう集中的にといいますか、４月に各地域の総会があるというふうなことは当然存じ上げておりますので、そういったときにチラシなり資料なりというのを独自に配布しながらそういった地域の皆様の防災意

識を高めていただく、さらには組織化の機運を高めていく取組というのは非常に重要だというふうに思っておりますので、それについては今後実施してまいりたいというふうに考えております。さらに、書面決議等も、こちらから提案といたしましては区長さんのほうにそういうお願いはできませんが、ちょっとなかなか難しいのかなというふうに思いますので、それについては今後の検討とさせていただきたいなというふうに思っております。

○委員長（星　　次君）　村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　先ほどの書面決議の部分は各自治区の話なので、今回の話とは違うのですけれども、自治区の住民の方々が少しでも自主防災組織というものに対して感じ取れるものがあるのであれば、コロナ禍だからといってなかなか前に進ませないのではなくて、住民一人一人の、地域一人一人の方々の心の中に、あっ、そういえばこの前総会のときの広報に一緒に回ってきたなと、その話なのだという部分で、少しでもスピード感を持って対応できるような意味合いで、総会時とかにもやはりそういった資料を配布していただくのがいいのかなと思いますので、今後ともそういうような活動をぜひお考えしていただきたいと思います。回答は結構です。

○委員長（星　　次君）　これで村松尚委員の質疑は終わりました。

以上で政策名、安心で安全な暮らしづくりに関する質疑は終了しました。質疑漏れはございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（星　　次君）　以上で安心で安全な暮らしづくりに関する質疑は終了しました。

ここで次の政策に移りますので、説明員入替えのため11時15分まで休憩いたします。

休　憩　　（午前１１時０２分）

再　開　　（午前１１時１５分）

○委員長（星　　次君）　再開します。

これより政策名、健やかで人にやさしいまちづくりの質疑を行います。

まず、施策ナンバー３―１、保健体制の充実と医療の確保について、６番、長嶺一也委員。

○６番（長嶺一也君）　それでは、35ページになりますが、４番の課題に対する取組の対象者の特性に応じた（ＡＩ分析による）健診広報について、どのように行っているのか具体的に教示してください。特にＡＩ分析とはどういうものなのか説明願います。

○委員長（星　　次君）　答弁、健康ふくし課長、平山正孝君。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　それでは、ただいまのご質問にお答えさせていただきます。

まず、対象者の特性に応じた健診広報とはということですが、健康受診率向上のため、過去の健康受診歴や受診結果、健診時の質問票などを分析し、勧奨効果が高いと思われる対象者を抽出して受診勧奨を行うことでございます。令和３年度は、７月と10月の２回、2,308名に対して延べ3,899件の勧

奨通知を行いました。勧奨受診率は28.4％となっており、特定健診受診者全体では2,209名と前年よりも210名増加しております。健診受診率につきましては52.8％で、前年度より3.2ポイントの上昇が見られました。そこで、ＡＩ分析は、対象者選定に用いられ、誰に勧奨すべきかを人工知能を使って解析するものでございます。具体的には、連続受診者、干渉しなくても受診する確率が高い方、連続未受診者ということで勧奨しても受診する確率が低い方は優先度が低く、不定期受診者、定期的に受けるのではなくて気が向いたときに受けるとか、あと何年かに１回とかという方になりますが、勧奨すれば受診する確率が高い方という形で、優先度を決めて分類分けして、その方に対してアプローチしていくという作業になります。

説明は以上でございます。

○委員長（星　　次君）　長嶺一也委員。

○６番（長嶺一也君）　ありがとうございました。よく分かりました。

ＡＩ分析は委託で行っていると思うのですが、決算書の88ページの備考欄、健康管理システム運用業務委託料で実施したものでしょうか。違う場合は、どういう項目でやったのか教えてください。

○委員長（星　　次君）　答弁、健康ふくし課長、平山正孝君。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　この事業につきましては、一般会計ではなく、国民健康保険特別会計のほうで実施している事業となります。

○委員長（星　　次君）　長嶺一也委員。

○６番（長嶺一也君）　分かりました。

あと、健診広報を行うに当たりまして、健康づくりと体力づくりをセットとして教育委員会との連携した啓発も行うべきと思うのですけれども、現状はどうなのでしょうか。つまりどのような内容を健診広報しているのか教えていただきたいと思います。あと、ラインやノパメール、ホームページなどあらゆる手段を使った啓発も考えられるが、今後啓発活動をどのように取り組んでいくのかお尋ねいたします。

○委員長（星　　次君）　答弁、健康ふくし課長、平山正孝君。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　まず、健診のＰＲ、健康づくりと併せてという部分だと思いますが、まず健診の部分と健康づくり若干違うので、あくまで健康診断についてはそれのみでの受診の周知、あと勧奨ということにしております。健康づくりの部分はまた別にいろいろ事業をやっておりまして、目的も若干違ってきますので、周知の仕方は同時にやるよりも別々にやったほうが効果的かなと考えております。あと、周知の方法につきましては、健診等につきましては、まず４月の上旬で健康カレンダー等でいついつこういう健診がございますよという周知は行っております。あと、先ほども申し上げましたが、ＡＩ分析を活用して再度受診していない方に対して受診の勧奨をしたりという形で、あとノパメール、あと町の広報等で随時健診の広報はしているところでございます。

○委員長（星　　次君）　これで長嶺一也委員の質疑は終わりました。

次に、施策ナンバー３－２、高齢者福祉の充実について、12番、根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　それでは、質疑申し上げます。

成果指標において、認知症サポーター数が増えております。目標値をはるかに超えている努力を評価したいと思います。とりわけ子供たちを取り込んでの効果は期待できると考えます。また、被保険者及び介護認定者が増加傾向であると分析されております。集いの場等を活用しながら住民に寄り添った施策対応には常に実態把握とリサーチが肝要と考えることから、具体的にどのようにしてきているのか伺いたいと思います。

○委員長（星　　次君）　答弁、健康ふくし課長、平山正孝君。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　まず、具体的にどのようにしてきているのかということでございますが、集いの場の実態把握とリサーチにつきましては、地域包括支援センターの生活支援コーディネーター２名が集いの場への訪問活動を行っております。生活支援コーディネーター自身が認知症予防、介護予防の講座を行うこともあり、さらに参加者と話し合いながら各地区の活動内容の確認、サポートをしているところでございます。また、月１回、生活支援コーディネーター、あとみさとねっと、社会福祉協議会、あと保健師、町担当者等による打合せ会を定期で行っております。生活支援コーディネーターからの定期的な報告から、集いの場が立ち上がりそうな地区やコロナ対策で休止したままの集いの場の今後の活動、動向といった実態確認をしているところでございます。この打合せ会では、地域支え合い活動事例の事例集「さすけねぇ」という冊子がございますが、その企画、作成も行っており、全戸配布することで介護予防の啓発にも努めているところでございます。

なお、各地区の活動内容の情報を交換する場として、令和３年度においては、７月に集いの場のネットワーク交流会を開催し、さらに11月に開催した集いの場の実践報告会においては、これから集いの場を始めてみたいと考えておられる地区の区長さん２名ほどが参加をいただいて、参加者のつながり、広がりを感じているところでございます。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　分かりました。特会ですので、このところの取組等については質疑できなかったというところで、政策評価のほうで伺った次第です。

認知症サポーター、この方の数が増えていることはすばらしいことなのですけれども、これをどう地域に根差して、いわゆる支援体制を醸成していくかというところでちょっと考えていることがあれば伺いたいと思います。

２点目は、集いの場ですけれども、集いの場が本当にこれから地域の中では大事な拠点になっていくだろうということは、全国の例を見ていても間違いないと思います。今日の毎日新聞ですけれども、すばらしい東京都の取組が載っておりました。これは、中身は具体的には申し上げませんけれども、時間があったらのぞいてみてください。いわゆる好事例として紹介されておりました。つまり地域で

つながりを閉ざさない、コロナ禍においても閉ざさないという取組です。コロナ対策をしっかりして取り組んでいる様子でございます。ですから、なおさら地域の実態を調べつつ、地域に合った取り組み方というのも一つ必要になってくるのかなというふうに思われるのですけれども、そこのところの来年度に向けての今後の方向性として取り組み方考えておられるのであれば伺っておきたいと思います。

○委員長（星　　次君）　健康ふくし課長、平山正孝君。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　まず、認知症サポーターにつきまして、今現在もサポーター講習会やらさせていただいております。そのスキルアップという形でスキルアップ講習等も行っておりますが、このコロナ禍の中ということで、なかなか参加者及び回数ができないといったところで悩んでいるところでございます。タイミング等もあり、感染拡大の時期にはどうしてもできないと。落ち着いたところの中でやるという形で取り組んでおりますが、その中で状況を見極めながら、さらにスキルアップは実施していきたいと考えております。あと、オレンジの会といったサポートする団体の養成も行っておりますので、そういった方々を活用、活用と言ったら語弊ありますね。ご協力得ながら認知症の方の支援を強化していきたいと考えているところです。

　あと、集いの場につきましては、生活支援コーディネーターや各区長さん方のほうに周知等を行って、より取り組んでいただきたいといったところを募集しております。あと、集落支援員の方にもご協力をいただきながら、やってみたいというところを常に募集しておりますので、そういったところには支援して立ち上げのほうにご協力していきたいと考えているところでございます。

　以上でございます。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　２点目の集いの場の大いなる利活用の点ですけれども、いわゆる地域的には皆さん、ここに関わっている方々は、どこにどういう方がおられてということで、日常の生活交流以上に情報はお持ちのわけですよね。なかなか参加できていない方、こういう方々にも大いに通っていただけるような取組というのは必要になってくると思います。そういう方々に対しての勧奨も併せてやっていっていただきたいなと。コロナ禍でも対策を十分取れば、私は中止、中止というのは避けられるのではないかなという事例も見ております。そういうところの考え方を伺っておきたいと思います。

○委員長（星　　次君）　答弁、健康ふくし課長、平山正孝君。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　まず、集いの場の運営にご協力いただいている方、ボランティアの方と地区の方については、生活支援コーディネーター等が定期的に参加をしたりしております。その集いの場終了後等にいろいろ懇談をしたり、情報を得るような形を取っておりますので、そういった中で参加していない方の情報、あと勧誘等についても進めていければと考えております。あと、広報のほうで集いの場の設置についての広報等を行う中で、皆さんの、住民の方にも参加してみません

かというようなお声がけをするような形で対応していきたいと考えております。
○委員長（星　　次君）　これで根本謙一委員の質疑は終わりました。
　次の施策に移ります。施策ナンバー３－３、子育て支援の充実について、８番、小島裕子委員。
○８番（小島裕子君）　47ページになります。３番の指標の分析の①において、「子どもたちが将来親となるために必要な教育や情報」とは、どのような教育と情報なのかお伺いします。
○委員長（星　　次君）　答弁、こども教育課長、渡部雄二君。
○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまの質問にお答えいたします。
　子供たちが将来親となるために必要な教育や情報につきましては、家族との触れ合いや団らんの大切さを理解することや幼児の発達と生活の特徴など、親になるための準備教育が大切だと考えております。そのため、小学校では、６年生の家庭科の授業において、家族や地域の一員としての自分の生活を見直す学習や、家庭生活は地域の方々との関わりが必要であることなどを学習しております。中学校では、２、３年生の家庭科の授業において、幼児の心身の発達や生活の特徴について理解するための学習や、認定こども園や子育て支援センターで乳幼児と触れ合う保育体験を通して将来の子育てに役立つ貴重な学習をしております。
　以上でございます。
○委員長（星　　次君）　小島裕子委員。
○８番（小島裕子君）　今様々な取組聞かせていただきましたけれども、大体時間にして６年生ですとどのくらいの時間割り当てているのでしょうか。
○委員長（星　　次君）　答弁、こども教育課長、渡部雄二君。
○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまのご質問でございますが、小学６年生ですと大体３時間から４時間程度の時間を取っております。
○委員長（星　　次君）　小島裕子委員。
○８番（小島裕子君）　それ年間……それによってこれがどのくらい今継続されて令和３年に至っているのか、それに沿って効果とか、そういったものは明らかになっているのでしょうか。
○委員長（星　　次君）　答弁、こども教育課長、渡部雄二君。
○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまの３時間から４時間という時間は、年間のトータル時間でございます。なかなか効果というところは判断が難しいところではございますが、毎年定期的にというか、実施しておりますので、継続することによって効果が出てくると考えております。
○委員長（星　　次君）　これで小島裕子委員の質疑は終わりました。
　次に、同じく政策ナンバー３－３、子育て支援の充実について、８番、小島裕子委員。
○８番（小島裕子君）　続きまして、同じページですけれども、３番の③になります。指標の分析③の「多様化する保護者の就労形態やニーズに応えるため、保育士等の適正配置に努めたことにより目標値を達成した」とありますが、町内から町外のこども園等に預けている方もいると思われます。成

果指標①、②の向上のためにも、町内への入園環境づくりの検討はされているのか伺います。
○委員長（星　　次君）　答弁、こども教育課長、渡部雄二君。
○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまのご質問にお答えいたします。
　こども園の入園環境づくりの検討につきましては、令和３年度、新たに町内から町外のこども園に入所となった広域入所児童は１名おり、広域入所している全体の児童数は16名で、いずれも送迎のしやすさなど保護者の都合によるものでございます。また、保育環境については、省令による児童福祉施設の設備及び運営に関する基準の床面積や職員配置基準に基づき、年度当初の入園予定者に対して必要十分な職員を配置しながら入園の環境づくりを行っております。今後も、保育士不足による待機児童が生じないよう、保育士等の適正配置に努めてまいります。
　以上でございます。
○委員長（星　　次君）　小島裕子委員。
○８番（小島裕子君）　今ほど令和３年は町内から町外へは１名ということで、あとは16名の方が送迎の都合で町外に預け入れていらっしゃるということを伺いました。ただ、今回２番の成果指標①、②番を見ますと、預け入れたいという親の割合がやはりまだ多いということもあります。３番の指標分析のところですと、三、四か月児、１歳６か月児の割合が94％、あと３歳児の保護者では97％がやっぱり町内に預け入れたいという希望が出ています。そうしますと、かなりやっぱり多くの方が町内に預け入れたいというふうに思っています。やはりその年度、年度によって子供さんの数も変化してきますけれども、それに対して町は柔軟にそういった希望のある方を預け入れることができる体制を取っているのか伺います。
○委員長（星　　次君）　答弁、こども教育課長、渡部雄二君。
○こども教育課長（渡部雄二君）　一般質問のほうでもお答えしたとおりでございますが、例年10月に翌年度の受付等々いたしますので、その際に翌年度の子供の状況なんかを把握しておりますので、年度当初についてはそれまでに必要十分な保育士等の配置に努めているところでございます。
○委員長（星　　次君）　小島裕子委員。
○８番（小島裕子君）　年度当初ということもありましたが、やっぱり途中入所、入園を希望される方もいらっしゃると思うのです。その方に対しては、町としては受入れ態勢はどのような形で考えているのでしょうか。
○委員長（星　　次君）　答弁、こども教育課長、渡部雄二君。
○こども教育課長（渡部雄二君）　年度途中での入所に関してのご質問でございますが、当然町の定員等々がございますので、保育士等が必要になれば随時保育士の募集等を行って、入所ができないような状況にならないようには努めているところではございますが、なかなか今現状、本町だけではなくて、保育士不足というのが問題になっておりますので、極力そういったことが生じないように事前に情報を集めて適正な保育士の配置に努めているところでございます。

○委員長（星　　次君）　これで小島裕子委員の質疑は終わりました。

次に、同じく施策ナンバー３－３、子育て支援の充実について、12番、根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　質疑申し上げます。

成果指標の①において、現状値よりも低下しております。目標値には大きく及んでおりません。我が町の子育て支援施策は評価しているとされておりますけれども、１段上の評価を得るにはきめ細かな具体的リサーチが欠かせないと思われます。どのように考えているのか伺いたいと思います。

○委員長（星　　次君）　答弁、こども教育課長、渡部雄二君。

○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまのご質問にお答えいたします。

きめ細かな具体的リサーチにつきましては、今後も町民アンケートにおいて現状把握をするとともに、各町内こども園では保護者を対象としましたこども園に関するアンケートを行い、よりよい保育環境となるよう努めているところでございます。なお、令和６年度に第３期町子ども・子育て支援事業計画を策定する計画でございますので、その計画策定に当たっては、こども園保護者を対象にした子ども・子育てに関するニーズ調査を実施する予定でございます。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　取組は、②もそうですけれども、成果指標の②、ここはいつも高いのです。もう90％以上いつも超えております。にもかかわらず、①、いわゆるここの指標がなかなか伸びていかないと、あるいは今回は少し低下しているというところをやはり重く受け止めていただきたいと思います。やることはやっているなというのは事業等で分かるのですけれども、記憶にあるのは、どういう点に不満かというところで、町民アンケート、子供が自由に遊べる公園がないということが１つあったかと思います。これ印象的に残っております。確かにいろんな公園はあるのですけれども、そういうふうに思われている実態があると。これもちょっと押さえておかなければならないと思います。そういった意味で、具体的なアンケート調査を、詰めた、突っ込んだアンケート調査が必要な部分だろうというふうに思います。この施策評価は、いわゆる満足度アップですから、もうこれでいいよねというところないはずですよね。常に改善するところあれば、あるいは福祉の向上に資する、アップしていけることに向けていくわけですので、細かいリサーチが大事だということを認識されていると思いますけれども、先ほどの答弁ですと、令和６年度に計画の策定に向けていきますので、そこでは十分なアンケート調査もしたいというところで、そこも一つのポイントになってくるかなとは思いますけれども、そこのところの取り組み方の考え方について伺いたいと思います。

○委員長（星　　次君）　答弁、こども教育課長、渡部雄二君。

○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまのご質問でございますが、委員おただしのとおり、ここ数年、公園がないとか、あと室内遊戯場ですか、そういった建物があればいいななんていうような自由意見も目にしているところでございます。先ほどの答弁の中でも、令和６年度の子ども・子育て支

援事業計画策定に当たってニーズ調査をするということでお答えいたしましたが、調査のほうは令和５年度になる可能性もございますが、その際には、委員おただしのとおり、これまで以上に細かな調査内容を盛り込んで、できるだけ広く子ども・子育てに関するニーズを拾ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　答弁はいいですけれども、不満があるならば何が原因なのか、これ聞けば、ではそれを解消するためにどうすればいいのかって当然見えてくると思うのです。そこだと思いますので、ぜひ努力いただきたい。

私の質問は終わります。

○委員長（星　　次君）　これで根本謙一委員の質疑は終わりました。

以上で政策名、健やかで人にやさしいまちづくりに関する質疑は終了しました。質疑漏れはございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（星　　次君）　なしの声がありますので、以上で健やかで人にやさしいまちづくりに関する質疑は終了します。

ここで昼食のため、午後１時まで休憩いたします。

休　憩　　（午前１１時４７分）

再　開　　（午後　１時００分）

○委員長（星　　次君）　休会前に引き続き会議を再開いたします。

これより政策名、元気と賑わいのある産業づくりの質疑を行います。

まず、施策ナンバー４－１、農業の振興について、７番、村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　それでは、農業の振興からお伺いします。

課題に対する取組では、マルシェやネットを活用した販売を行ったとありますが、販売実績と内容について伺います。

○委員長（星　　次君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　マルシェにつきましては、首都圏において４回開催し、41万2,790円を売り上げ、町内におきましては９回開催し、51万3,430円の売上げがありました。首都圏での開催内容につきましては、千葉県船橋市や東京都墨田区などにおいて実施し、果物や野菜、加工品などの販売を行いました。町内におきましては、事業所を訪問し、従業員や来場者向けに旬の野菜などの販売を行いました。さらに、11月には高田インフォメーションの前で開催されましたイベントに合わせて軽トラ市を開催し、イベントの集客を活用した販売を行いました。インターネット販売につきまし

ては、委託先でもある会津美里振興公社のホームページを利用し、７月から２月まで販売し、62万8,762円を売り上げました。全体を通しまして、桃、リンゴ、柿などの果物の人気がありまして、野菜につきましては、特定の品種というよりは、新鮮さや旬の食材が消費者から高い評価を得ておりました。

以上のとおりでございます。

○委員長（星　　次君）　村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　そうしますと、町内に関しては事業所を９回程度回って販売したというお話でしたけれども、これは町内を回って歩くということは、どこかの団体さんが一緒になって回って歩くような形だったのか、販売の形態というのはどういうような形態で、事業所を回ったというのは分かるのですけれども、どういう団体の形で回ったのか。

あともう一点は、先ほどインターネットのほうの話が出ましたが、公社さんのほうが基本的には７月から２月の販売で昨年行ったというお話でした。そうしますと、こちらのインターネットを活用した販売という部分では、主に今何社、農業法人で契約しているのか、それとも個人の企業等々で登録していただいているのかちょっと分からないのですけれども、その辺どういった登録方法で、何社くらいが今登録になっているのか、その２点お願いいたします。

○委員長（星　　次君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　町内における事業所の訪問のほうにつきましては、直売所の方が主になりまして、それぞれの事業所というのですか、例えば町の会社のところに軽トラックに野菜とか、そういったもの、加工品を積んでいって、それぞれ事業所に勤めている従業員の方にそういった直売所で売っているような野菜とかを買っていただくということを８回やったということでございます。

〔「９回」と言う人あり〕

○産業振興課長（小林隆浩君）　失礼しました。９回です。９回やったということでございます。

インターネットのほうですが、公社のほうで販売商品の取引契約を行っている数につきましては、９人の方というのですか、９件の方でございます。

○委員長（星　　次君）　村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　そうしますと、大体年９回、恐らく野菜等々が主になると思うので、雪が解けてからの時期にはなってしまうのかなという部分は考察できるので、そちらのほうは結構です。

そうしますと、インターネット販売のほうなのですけれども、インターネット販売については９件というか、９名という表記が正しいのか、ちょっと何とも言えないのですけれども、これについてはどなたでも参画できるようなシステムなのか、それとも一定の認定法人であったり、そういったような名称がないと、安定供給の絡みもあるのかもしれないのですけれども、そういったところも含めて門自体が、インターネット販売自体の門が広いのか、ある程度区分けされてしまっているのか、最後にその点だけ教えてください。

○委員長（星　　次君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。
○産業振興課長（小林隆浩君）　ただいまの質問についてでありますが、こちらのインターネット販売につきましては、特に今のところは特別な制約はございませんで、参加したい方は参加できると、門戸は開かれているということでございます。
○委員長（星　　次君）　これで村松尚委員の質疑は終わりました。
次に、同じく施策ナンバー４－１、農業の振興について、12番、根本謙一委員。
○12番（根本謙一君）　それでは、私の質疑をさせていただきます。
高齢化による認定農業者減少、14.7％の現実と比例的な耕作放棄地の19.4％増は厳しく認識する必要があると考えます。次年度の方向性では、地域計画策定や多様な農地の利活用に取り組むとして課題解消取組を述べておりますけれども、展望は見いだしてきているのか伺いたいと思います。
○委員長（星　　次君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。
○産業振興課長（小林隆浩君）　お答えします。
認定農業者数と耕作放棄地面積の現状については、どちらも平成30年時点の数値でありますが、３か年間での比較であるため、増減比率についても大きな数値となっておりますが、厳しい現実には違いないものと認識しております。これらの課題は、本町だけに限らず、全国的なものでもあるため、農業経営基盤強化促進法の改正により令和７年３月末までに地域計画を策定することが定められました。これにより地域計画制度の周知を進めることとしますが、農業利用する農用地と保全管理をする農用地に分ける必要があるため、担い手や地権者の意向など地域の話合いを第一に進め、関係機関との調整を密に行いながら取り組んでまいります。また、中山間地域直接支払制度や集落協定組織など、多面的支払交付金の組織等まとまりのある地域から着手することとし、期限までの地域計画策定に向けて取り組むことにより、認定農業者の確保と集積を進めることが耕作放棄地の抑制につながるものと考えております。
以上でございます。
○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。
○12番（根本謙一君）　厳しい認識は全国的にあることで、しっかり協議していますよと受け止めています。これは、私以上に所管、それから農業関係者が情報収集されておられて、私のような者がいろいろ具体的なことを言う必要はないかなと思いますけれども、全国的に見れば好事例はいろんなところで見ることができます。私でさえ見ることができますから、皆さんとて当然いろいろ踏まえていらっしゃるはずですよね。そういうところで、地域計画策定に向けての取組が始まる。本当にその地域、地域、実態が多少違う中で、やれることはある程度もう限られてきているというふうに思うわけです。そういう中で、多様な農地の利活用、これを言っているということは、当然具体的に本町はこうやっていったほうがいいなというところを私はもう見定めているというふうにこれを見て受け止めたのです。ですから、展望は見いだしているのですかというところをお伺いしたのですけれども、今

のところはやることは決まっているようですけれども、いわゆる展望を見いだしているというまではおっしゃらないので、そこのところを改めて答弁いただければというふうに思います。
○委員長（星　　次君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。
○産業振興課長（小林隆浩君）　展望、今後の進め方にもなるのですが、今までの旧制度では地域計画策定につきましては策定の基準を集落単位としてきましたが、農業経営基盤強化促進法の改正によりまして、新制度では地域計画を策定する範囲が大字単位ですとか小学校単位、営農状況を踏まえて柔軟に対応してよいというふうにされております。そういうことは、集落それぞれに入っていくと本当に集落の数だけ説明会をやったりとか、いろんなことが必要になるのですが、できるだけ大きな単位で皆さんに説明して、現在の課題とか将来展望など話合いをしていただく。地域計画を広域にすることで事務の負担は軽減できると考えています。また、所有者や耕作者の意向についても、集計が本当に容易なタブレットを導入するとか、そういった機器なども使って期限までの地域計画の策定に取り組んでまいりたいと考えております。
○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。
○12番（根本謙一君）　だから、本町では今後の方向性としてこういうことだと思うというものがあるのか、いや、それは先走ってやるのではなくて、この地域計画策定に向けていく中でしっかり見極めていくということなのか、そこを伺いたいのです。さっき全国的に好事例があると言いましたよね。それは私以上に皆さん持っていると思いますけれども、いろんな取組なされていますよね。耕作放棄地の解消率で高いところは何やっているのだということも含めて、やはり所管としてはこの町はこういくべきだよねというものを持っているのと、これから地域に入って聞いて探っていくというのでは時間的には進め方が全く違ってくると思います。私は、そこを伺っているのです。よろしくお願いします。３回目ですよね。
○委員長（星　　次君）　産業振興課長、３回までなので、やっぱり質問者に対してきちんと把握しながら答弁してください。
○産業振興課長（小林隆浩君）　はい。
○委員長（星　　次君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。
○産業振興課長（小林隆浩君）　多様な農地の利活用についてでありますが、４段階に分けるということで、本当に第１段階としましては水田や畑作になりますが、農用地区域で復旧が容易な農地につきましては、もう担い手農家への集積を進めたり、あと遊休度合いが高い農地につきましては、遊休農地再生事業などで農地を再生して、従来どおりの農業生産を行う農用地としてこれを使っていくということでございます。２点目につきましては、農業生産が困難な土地についての町の考え方ですが、やはりこういったところ、景観作物とかエネルギー作物というのですか、芋類ですとか豆とか、そういったもの、自然的な利用による農業生産を行う上の用地ということで、多様な農地の利活用については２点目でございます。こういった土地につきましては、本当に１点目の水田とか畑作とは違って、

例えば田のオーナー制度ですとか、ソバのオーナー制度ですとか、そんなに収益が上がるわけではないのですが、本当に地域に活気が出るとか、生きがいがあるとか、そういったような活用もあるのかなというふうに考えております。あと、３点目につきましては、農業生産自体の維持が困難な土地につきましては、鳥獣緩衝帯ですとか農業生産の再開が容易な土地として利用する農用地と、そういうふうに考えておりまして、草刈りによる維持管理、自己保全などの土地として今後活用していくということを考えております。最後になりますが、農業生産の再開が困難だと判断される土地につきましては、やはり植林など自然に返るような非農地化、こういったことになりますと草刈り等も必要なくなりますので、そういった４つに分類するということが多様な農地の利活用ということでございまして、いずれにつきましても地域計画を策定する上で農地利用ができる土地は地域計画でしっかり担い手を確保し農地を守る、その他の農地については保全管理をしっかり行っていくというようなところでございます。

○委員長（星　　次君）　これで根本謙一委員……

〔何事か言う人あり〕

○委員長（星　　次君）　ただいまの答弁で質問に対して答えていないという部分がありますか。

根本委員。

○12番（根本謙一君）　今これからお話しすることで答弁は要りません。ですから、ちょっと言わせてください。今言われたことを２問目でどうして教えてくれないのですかと。そうすると、それに対してまた質問できたわけです。やっぱりそういう質疑をさせていただきたいなと。言うまでもなく、門外漢ですけれども、農地の汎用化とか、それからソーラーシェアリングとか、それから起業家による山間地の農地、耕作放棄地解消活動、これも全国的にいろいろと取組ありますから、ぜひそういうことも調べて取り組んでいただきたいなと。先ほどの説明で内容的には分かりました。

以上です。

○委員長（星　　次君）　これで根本謙一委員の質疑は終わりました。

次の施策に移ります。施策ナンバー４－３、観光の振興について、６番、長嶺一也委員。

○６番（長嶺一也君）　それでは、私のほうからは77ページのほうから質問させていただきます。

２番の成果指標の３つの成果指標を見ますと、進捗率がほかの事業と比較しても格段に低い状況になっております。本件事業を推進するに当たりまして、コロナ禍だからと済ませる問題ではないと考えます。コストを拡大しても費用対効果が伴っていないのではないかと思います。見解をお伺いいたします。

○委員長（星　　次君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　お答えします。

成果指標が低い数字であることは、やはり移動制限などコロナ禍の影響が大きいと思われますが、全てをコロナ禍の理由にすることはできないと考えております。これまではイベントなどの開催を中

心として観光誘客に取り組んでまいりましたが、観光客のニーズに合った食べる、買うという分野において環境整備が十分でなかったことが数値が低い原因の一つと考えております。令和３年度に改定しました後期観光振興計画に基づき、体験型ツアーや、あとは情報発信を充実し、本町の魅力を伝えることでより長く滞在していただき、飲食、お土産、宿泊等による観光消費額の増加につなげることにより、生活指標の向上と費用対効果の改善に取り組んでまいります。

以上です。

○委員長（星　　次君）　長嶺一也委員。

○６番（長嶺一也君）　今ほど観光客のニーズに合った対応というようなお話がございました。４番の課題に対する取組の中の一つに会津三十三観音巡りのモニターツアーの実施とございました。これは、ご朱印もつくモニターツアーだったと思うのですけれども、三十三観音のうち番外も含めて会津美里町には11の観音様があります。36分の１の11ということで、仏都会津でもありますので、こういった会津三十三観音巡りツアーなんかも強化すれば、ご朱印集めの方も少なくない状況でありますので、このツアーにつきましてはニーズは高いものと思われますので、令和４年度の開催は聞いておりませんが、継続実施はないのでしょうか。

○委員長（星　　次君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　ただいまのお話のとおりに、会津三十三観音の観光としての魅力というのですか、これは大変大きいと考えております。昨年度実施したときも、本当に多くのお客さん参加していただき、本当に好評を得ております。今後も、こういったような地域資源といいますか、そういったものを十分に活用して観光振興に取り組んでいきたいと思います。なお、今年度におきましても、この三十三観音のツアーは実施を予定しているところであります。

○委員長（星　　次君）　長嶺一也委員。

○６番（長嶺一也君）　継続実施ということで安心いたしました。あと、今課長のほうからお話ございましたが、美里町には観光資源、伊佐須美神社、本郷焼、羽黒山、新鶴温泉、新鶴ワイナリー、あと三十三観音もそうなのですけれども、それぞれが連携した人流の拡大が求められていると思います。令和３年度、主な観光対策の取組の実績につきまして提示していただきたいと思います。

○委員長（星　　次君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　令和３年度の主な取組につきましては、特に好評だったのは新鶴ワイナリーのナイトハーベストであります。これは、深夜３時からブドウを摘み、そして朝、地域のパンなどを食べたり、風呂に入ったりということで、すごく好評を得ております。あとは、昨年度につきましては、観光協会主催の会津三十三観音巡りですとか、あと農業体験、焼き物体験、あと地域おこし協力隊が企画しました事業ですとか、そういったものが昨年としては主なものでした。あと、今後も会津美里町ならではの体験などを柱としたツアーの商品化を目指していきたいと考えております。

○委員長（星　　次君）　これで長嶺一也委員の質疑は終わりました。

次に、同じく施策ナンバー４－３、観光の振興について、７番、村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　同じく観光の振興から伺います。

次年度の方向性において、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた事業展開を町観光協会と連携し、一過性でない、波及効果が持続するような観光対策を継続して取り組み、その中身は向羽黒山城跡を中心とした観光拠点の整備とありますが、どのようなことか内容を伺います。

○委員長（星　　次君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　お答えいたします。

観光拠点の整備につきましては、全国的に山城観光がブームとなっていることから、本郷地域における観光拠点として整備に取り組むものです。現在、国の補助金を活用し、専用ホームページとＧＰＳガイドアプリにより向羽黒山城の歴史的な背景を魅力として発信し、観光の拠点化とするものです。具体的には、人気ゲームキャラクターや音楽を盛り込んだ専用ホームページを作成することで、ゲームのファンが向羽黒山城を訪れてみたくなるようにＰＲしてまいります。また、ＧＰＳガイドアプリを開発し、ナビゲーションシステムのように音声ガイドで向羽黒山城を踏破できる仕組みを構築する予定です。ホームページやアプリは一過性のものになりやすいので、人気歴史ゲームの実況やユーチューバーによる山城の現地踏査の動画など随時更新し、飽きられないように継続的な誘客を図ってまいります。波及効果のために地元とタイアップは欠かせませんので、観光協会と連携して取り組んでまいります。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　そうしますと、今の時代のニーズに合ったような山城観光ができるのかなと思いますし、また波及効果という部分も十分期待できると思うのですけれども、一方では今までの４大イベント、町の４大イベントのリニューアルに関する検討も行っているわけです。そうしますと、今コロナ禍の中でなかなか観光事業が行えない中で、今回ワインフェス、今年間もなくワインフェスもできますけれども、こちらも県のサポート事業が基本的にベースになって多分織り込まれているはずです。そうしますと、この４大事業のリニューアルの検討を行ったという記載があるのですけれども、具体的に４大事業のどういったところ、ワインフェスはもう発表になっていますので、大体分かるのですけれども、それ以外の事業についてどういったような検討を行ったのか、その検討の中身少し教えていただけますか。

○委員長（星　　次君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　４大イベントの検討についてでございますが、まず一番早いお茶会につきましては、その前にすみません、基本的には今までどちらかというとお客さんを本当にたくさん集めるということを前提にいろいろイベントをやってきました。でも、ちょっとそれだけでは、先

ほどからも話をいただいていますが、費用対効果はどうなのかとか、そういう問題もありますので、まずはお客さんにこちらに来ていただいてお金を使っていただく、物を買ったり、お土産を買っていただいたり、何かを食べたりとか、そういうことをしていただくものも一緒に考えながらイベントをリニューアルしていきましょうというところが根底にあります。その中で、まずお茶会ですが、こちらにつきましてはコロナ禍の中ではできなかったのですが、もう少し規模を、今まで５か所ぐらいお茶の席を用意していたのですが、スタッフの方々も高齢化してきたりしていて、なかなか５つの会席の維持は大変だということで、少し縮小する代わりにもっと内容を充実させていきましょうというようなところで検討を行っておりましたが、ちょっとこれはできなかったということでございます。あやめ祭りにつきましても、コロナ禍の中で開催決定が遅れたということではあるのですが、こちらにつきましてもやはり地元の方に出店などもしていただいて、特産品とか、そういったものを販売してもらうようなことをまずベースにしまして、そしてコロナ禍の中でできる範囲での集客活動を行ったというところでございます。ワインフェスにつきましては、今までは事前にチケットを購入して、そのとき購入後チケットを持っている方でないとなかなか参加することができないイベントだったわけでありますが、今度はお店、県内のワイナリーとか、そういうところからワインの販売とかをやっていただくようにしまして、そこにパンですとか、あとその他お子さんでも喜んでいただけるような食べ物なども販売し、あと子供が遊べるようなスペースなども用意するとかということで、お客さん誰でも来ていただいて１日本当に楽しんでいただけるようなものにするということで今準備を進めております。最後に、俵引きになりますが、こちらについても今までと違って、やっぱりお客さんに来ていただいてお金を落としてもらうにはどうしたらいいかというところで検討しているところでございます。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　そうしますと、様々な検討なされてきているなと感じます。一つ一つ先ほどからお話伺う限りでは、体験型で、まだ一過性というキーワードでいくと、どうしてもやっぱり単独のイベントというのはその日１日だけのイベントになってしまいますので、今までの経緯であれば。あやめ祭りはある程度期間がありますけれども、それ以外に関してはほぼほぼ一過性のような状況になると思います。そういったところで、体験型とかという部分を主としてやっていきたいのであれば、またもう少し煮詰めた形で考えていただければいいのかなと思う部分と、あと１点なのですけれども、このワインフェスに関しても、今までは美里産、新鶴地域のワインというものを表に出していきましょうという部分が基本的に主だったのですけれども、当然ワインの種類が増えれば多分今までほどの販売、地元産のワインというものの販売の量というのは若干減るのかなというふうな考察もされるものですから、そういったところも踏まえて、今回初めての事業だと思いますので、ぜひ先を見据えながら、波及効果がうまく続くような事業をしていただきたいと思います。回答は結構です。

○委員長（星　　次君）　これで村松尚委員の質疑は終わりました。

次に、同じく施策ナンバー４－３、観光の振興について、12番、根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　では、私の質疑をさせていただきます。

成果指標は、新型コロナウイルス感染症による影響をもろに受けて厳し過ぎる数値であります。ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた施策展開に向けて準備の機会でもあると４大イベントのリニューアルなどに取り組んできておりますが、次年度の方向性説明において肝要なところは消費額拡大であると考えられます。認識を伺いたいと思います。

○委員長（星　　次君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　お答えいたします。

観光消費額の拡大は、地域への経済効果を目的とする観光振興におきまして重要な指標だと認識しております。本町には神社仏閣などの様々な観光資源がありますが、食べる、買うなどの消費を促す仕組みが十分に整備されていないことが観光消費額の低さにつながっていると考えております。今後の取組としましては、観光イベントのリニューアルによる観光誘客と併せて、観光客に魅力のある受入れ態勢の整備が必要と考えております。地元の農産物を活用したお土産品の開発など、観光まちづくり推進協議会においても議論を行い、町、観光協会、事業者が連携してチャレンジ的な取組を進めていきたいと考えております。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　同僚委員の質疑の中でもいろいろ答弁いただいております。４大イベントのリニューアルに向けての取組の内容も一定程度理解しました。そこで、肝要なのは言うまでもなく消費の拡大です。お金をどう落としてもらうか。その仕組みをどうつくられていくのか。この課題は古くて新しいのです。なかなか構築されない。なかなかつくられていかない。これはどうしてなのだろうかというところをまずそもそもしっかり踏まえないと、毎年同じことを質疑しているような気がしてなりません。これを機会に大きくやっぱり変革するビジョンをしっかりつくる必要があると思うのです。その仕組みの不整備も今課長が答弁でおっしゃっています。全くこれは前々から言われていることです。絶対この仕組み必要なのですよねということで。ハード面の整備等やっぱり先行してしまっているところもありましたから、これはこれで一つやらなければならないことではあったのですけれども、このお金を落としていただく、いわゆる消費額を拡大していく取組が全く手薄だったのではないかなというふうに言われても仕方ない。ここのところ認識がとても大事なのです。今までこうだったけれども、今度はこうしていくのだというところをしっかりここでターニングポイントにしていかないといけないと思いますけれども、その考え方を伺います。

○委員長（星　　次君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　考え方につきましては、本当に観光客の１人当たりの消費額を上げるということがもう明確な目標ですので、今までやってきたことにこだわらず、新しいものにチャレ

ンジしたいと思います。イベント開催につきましても、本町におきましては例えば果物ですか、マルシェとか行っても果物とか、そういったものの人気は非常に高いわけです。だったら、そういった時期に合わせたイベントを行うですとか、もうちょっと今までのことではなくて今後、あと果物以外にですけれども、何か美里町っていろんな野菜とか、そういったもの、たくさんおいしいものもありますので、そういったものを活用してお客様を呼ぶですとか、あとはやっぱりお土産品というと一般的にはお菓子とか、そういうものが多いですし、あと食事をしていただくといえば飲食店でということになりますので、今後そういった組織とも連携して、観光協会が主体になりまして、お客様に買っていただけるような製品などをどんどん作っていかなければならないのかなと思っています。あと、受入れ態勢の整備等の一つとしまして、情報発信やはり大切ですので、ホームページとか、そういったものは充実させていきたいというふうに考えております。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　お金落としていただく仕掛けですけれども、やっぱり地域、地域にこれ必要だと思います。例えば高田地域のインフォメーションセンター、あそこには必ず寄ってほしいなという仕組みが私はまだできていると思っていません。あそこ何とかしなくてはならないというの１つ例え話あるでしょう。売るものはあるにもかかわらず、私はそういう買ってもらう、誘導する仕組みがないというふうに思われます。そこをしっかり認識していく必要がある。

それから、課長言われた情報発信の問題ですけれども、私もここのところずっと観光協会のホームページも含めていろいろ見ていても全く改善されているというふうに印象がないのです。なかなか思った情報が、考える情報が得られないというところがあります。インフォメーション行くと、あっ、これだったのかというの分かるのですけれども、行かなくても分かる情報発信の仕方やっぱり考える必要があるというふうに思います。

もう一つ、山城のブームの話しされましたけれども、先日、白河で城歩きのイベントがありました。会津美里町観光協会もその幹事の一人になっていますので、受入れ側としてお出かけになられたようですけれども、やはりそこに行ったら美里町をよくアピールしてきていただくような取組も当然行政と一体になってやらなければならない。だから、やれることは日常的といいますかね、年間通していろいろあるはずです。逐一情報発信していく。それを情報発信していく。リアルタイムで出していく。これが少し緩いのではないかなというふうに昨今のホームページ見ていても思うところです。私の欲張りな気持ちになるかもしれませんけれども、所管としてはその辺どのように思っているのか、また足りない部分があると認識ならば、どういうふうに取り組むと来年度の方向性に向けて考えているのか何って終わります。

○委員長（星　　次君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　お答えさせていただきます。

まず、高田インフォメーションセンターの活用ということにつきましては、それは以前から大きな

課題でありました。そういった課題に対応するため、昨年より５月か６月くらいから毎月第１日曜日はマルシェを開催するようにしております。こういったことで、何とか人の流れをインフォメーションセンターのほうにつくりたいということで取り組んでおりまして、今年もやっておりますが、結構午前中はにぎわっているような状況でございます。こういったものを本当に継続していきまして、さらに人の流れを大きくしていきたいというふうに考えてございます。

ホームページにつきましては、今観光協会のほうでは美里の日々と申しますインスタグラムのほうを中心に情報発信を行っているところでございます。ホームページのほう確かにおっしゃられたようなそういうところもありますので、その辺は今後インスタグラムと併せて情報発信ホームページのほうでもしていくようにしたいと考えております。

外に行っての本町のＰＲにつきましては、そういうことも重要だと思いますので、今後観光協会のほうと協議をしながらそういった活動もしていきたいと考えております。

○委員長（星　　次君）　これで根本謙一委員の質疑は終わりました。

次の施策に移ります。施策ナンバー４－４、商工業の振興について、７番、村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　それでは、商工業の振興についてお伺いします。

指標の分析①において、事業者の高齢化や後継者不足により廃業者数が新規創業者数を上回ったため減少となったとありますが、町外には大型店があり、またインターネットでの購入など商店街での買物客の減少が進む中で、収益が上がらなければ後継者に事業承継もできず、廃業者の増加は避けられないことから、課題解決には対策が急務と考えますが、考えを伺います。

○委員長（星　　次君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　お答えいたします。

商店街や中心市街地の空洞化の問題は、本町に限らず全国的なものだと考えておりますが、課題解決には地域の実情に合わせた取組が重要だと考えております。そのため、本町では、本年度、地域の実情を把握するために商工会が高田地域の空き家等の調査などを実施する予定でございます。商店街の今後の10年、20年先を見据えて、どのような在り方がふさわしいのかについて、現状を把握した上で事業者、地域の住民、学識経験者などの専門家も交えて議論を行い、将来のビジョンを策定したいと考えております。また、新規就業や事業の承継者に対しては、商工会や金融機関とも連携して支援を行い、事業の成功につなげることにより商工業の活性化を図ってまいります。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　実際のところ、これの根本的な解決策というのはなかなか見いだせないのが実情だと思います。実際お隣の坂下町を見ても、街なかのシャッター街というのは当然増えてきていますし、どうしても郊外の１本目の国道沿いのところには大型店舗が出てしまう。そういったところも見れば非常に難しい問題。当然、商工会の会員をやめる、廃業していくという人数というのは、正

直なところこれは避けられないというのが私は実情だと思っています。ただ、その中でそこを少しでも抑えるために、町としても当然商工会と連携しながら廃業せずに少しでも商店街を守っていくという施策というのは必要だとも思いますし、そういった取組というのは必要だと思うのですけれども、具体的に商工会が空き家を、今ほど答弁いただきましたけれども、空き家の10年後、20年後を今の状況を見ながら検討していくというような話もありましたが、町としては、それこそ今ほど課長がお話しした５年後、10年後を見据えた上で、どういった取組をしていけば少しでも抑えられるのか、町として、所管としてどういうようなアクションを起こしていけばいいのかというのが具体的な考えがあるのであればそちらをお聞かせください。

○委員長（星　　次君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　ただいまの質問にお答えさせていただきます。

まず、空き店舗等の調査につきましては、商工会が主体となってやっていただきますが、実際検討とかにつきましては町や金融機関など関係するところが一緒になって総合的な力で検討していきたいと考えてございます。また、今の現在の事業者とかに対する姿勢につきましては、やはり事業を行っている方でも将来の考え方ってそれぞれの考え方があると思いますので、特に意欲のある方につきましては、例えば設備導入のためであれば町には制度資金もありますし、あとは国県の何か事業を使うということもできます。そういった支援を行うところですとか、あとは本当に事業継続のための運転資金ですとか、そういったものも制度資金の中で支援をしていきたいと思っております。また、やはりこの商店街の振興という解決というのはかなりレベルの高い課題になりますので、そこにつきましては本当に商工会と金融機関と、あと事業者と一体となって課題の解決に取り組んでいくというような考えでございます。

○委員長（星　　次君）　村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　最後になりますので、答弁は結構なのですけれども、これからインターネットの普及さらにどんどん、どんどん進んでいくと思います。当然今ですらご自宅に帰れば娘さんや息子さんはアマゾンの箱が週に１回くらい届くなんていう時代になってきています。そうすると、そういうことを総体的に考えると、なかなかこの商工業の振興という部分も難しいです。実際今ほど金融的な支援もありますよというお話ありましたけれども、今の物価高の状況であったり、投資してもそれだけを回収できるか、その前に母体が潰れてしまうのではないかと、その感情を持ちながら多分商工業者の方々は経営をしていらっしゃると思いますので、今の世情も含めながら、この物価が上がっていっている、様々なものの物価が上がっている中の要因も要素も見ながら、そういった中で町の商工業を守っていくというところの視点で、寄り添った考え方でぜひお願いしたいと思います。検討……

〔「答弁もらってもいい」と言う人あり〕

○７番（村松　尚君）　では最後に、答弁だけいただいてもよろしいですか。

○委員長（星　　次君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　今ほどのおただしというか、ご意見等につきましては本当に重要なことだと思っております。当然私自身も共感はしております。本当に寄り添ってということで、相手の立場というのですか、事業者さんの立場に立って、いろいろ相談に乗って、何か有利なことというのですか、そこは金融機関なども本当に連携しまして、一緒に悩んで、何か役に立っていきたい、支援していきたいと考えております。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　これで村松尚委員の質疑は終わりました。

以上で政策名、元気と賑わいのある産業づくりに関する質疑は終了しました。質疑漏れはございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（星　　次君）　なしの声がありますので、以上で元気と賑わいのある産業づくりに関する質疑は終了します。

ここで次の政策に移りますので、説明員入替えのため午後２時５分まで休憩いたします。

休　憩　　（午後　１時５２分）

再　開　　（午後　２時０５分）

○委員長（星　　次君）　再開します。

これより政策名、学びあい未来を拓く人づくりの質疑を行います。

まず、施策ナンバー５―１、子ども教育の充実について、７番、村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　それでは、子ども教育の充実についてお伺いいたします。

指標の分析①、②において、共に英語教育の偏差値が低かったとされております。次年度の方向性では英語の指導に力を入れるとありますが、具体的な内容を伺います。

○委員長（星　　次君）　答弁、こども教育課長、渡部雄二君。

○こども教育課長（渡部雄二君）　これまでどおり、小学校におきましては、３、４年生で英語活動、５、６年生では全ての英語の授業に英語専科教員とＡＬＴを配置し、子供たちの興味、関心を高めながら、より英語に親しみやすい授業を進めてきたところです。今年度は、人材育成プロジェクトにもありますが、中学校からの英語教員の乗り入れ授業を行うことで、より専門的な指導を行うとともに、小中のスムーズな連接においても効果を期待しているところでございます。中学校におきましては、英語検定の検定料金全額補助、１回でございますが、令和３年度から補助対象を全中学校２年生に拡充しましたブリティッシュヒルズでの外国語体験研修、そして町内中学校共通のスペリングコンテストの実施など、英語への意欲や興味、関心の向上を図っております。また、デジタル教科書やタブレット端末の効果的な活用を図っており、翻訳機能やデジタル教材によるリスニング、ＡＩドリルなど

個別最適な学習にも対応しているところです。さらに、町内小中英語担当が参集し、指導内容や効果があった指導方法を共有するとともに、小中の連接がよりよいものになるようカリキュラムの工夫や授業実践を重ねながら児童生徒の英語力向上に努めております。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　ブリティッシュヒルズの支援に対しても拡充していっているというような今お話ありました。確かに様々な工夫をして努力しているという部分は十分に認識はできるのですけれども、この一つのキーワードとしてブリティッシュヒルズというキーワードが割と出るのですけれども、こちらのほうは、例えばです。小学生のうちにそういうものを体験するということは、例えば使用の面からして使用できないのか、そういった部分というのはない、本来であれば誰でも利用できるのかどうか、その辺ちょっと教えていただけますか。

○委員長（星　　次君）　答弁、教育長、歌川哲由君。

○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。

ブリティッシュヒルズのプログラムに関しましては、基本オールイングリッシュになります。そういうことを考えますと、ちょっと小学生にまだハードルが高いというふうな状況がございまして、ある程度の日常会話等も可能となる中学生に対象を絞っておるところでございます。

○委員長（星　　次君）　村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　今教育長からもお話しいただきましたけれども、ただこれから先を見据えた上では当然語学力の向上という部分に力を入れるという部分もありますので、やはり少しでも早い段階、これから先、今日、あしたの話ではないですけれども、今後英語の語学力を上げていく上ではこういったブリティッシュヒルズなどに小学校６年生ぐらいで参加できるような、今までは中学生に入ってからという部分もありますけれども、やっぱり少しでも前にそういった授業ができればいいのかなと思う部分が１点と、あとＡＬＴの活用なのですけれども、このＡＬＴ、特に３、４年生は活動、５、６年生になってくると授業というような話でありましたが、このＡＬＴの先生方というのは今人数的には十分足りているという認識なのか、それともまだできれば語学力の向上にはもう少しやはりＡＬＴの先生も必要なのだという、もう少し枠を広げたいというお考えなのか、その辺は教育委員会としてはいかがなものですか。

○委員長（星　　次君）　答弁、教育長、歌川哲由君。

○教育長（歌川哲由君）　今ご指摘いただきました。例えばブリティッシュヒルズでの英語研修の小学生への対象拡大、これも費用対効果等はありますけれども、本当にやれるものならやってみたいところではあります。ただ、英語教育というのは、前回もお話ししましたけれども、４技能、読む、書く、聞く、話す、これもトータル的な発達が必要でございますので、現場で話す、聞くだけの学習だけではなくて、読む、書くも大事にしながら、やっぱり総合的な学力を高めていかなければならない

ということもあります。その辺のバランスを見ながら、それから費用対効果も考えながら、適切なところに導入していくというようなことが必要かというふうに思っております。願いは、そういうのが日常的に、英語を話せるような環境にあるというのはすばらしい環境なわけですが、現実的にできるところでやっていくしかないかなというふうに考えているところでございます。

あと、ＡＬＴの人数については課長から答弁させますが、この有効活用を考えますと人数的にはできるだけ多く子供たちが接していくというのは大事だというふうに思いますが、これも先ほどのブリティッシュヒルズの答弁にかぶりますけれども、４技能総合的な発育を考えますと、ＡＬＴさんがやっていただく例えば英語を聞く、あるいは英語を話すような活動だけにとどまるわけにはいかないので、やっぱりバランスを考えて適切な回数というのは設定していくべきかなというふうに考えているところであります。

○委員長（星　　次君）　答弁、こども教育課長、渡部雄二君。

○こども教育課長（渡部雄二君）　ＡＬＴの人数につきましては、ただいま３人のＡＬＴの先生に指導に入っていただいておりますが、人数的には十分間に合っていると思っております。特別、学校のほうから不足しているとか、そういったことも要望もございませんので、我々としましては十分間に合っているというふうに判断しているところでございます。

○委員長（星　　次君）　これで村松尚委員の質疑は終わりました。

次の施策に移ります。施策ナンバー５－２、生涯学習の充実について、４番、荒川佳一委員。

○４番（荒川佳一君）　それでは、95ページ御覧ください。３番、指標の分析の指標２ですが、町民の活動の制限や学習機会が減少したことにより町民の学習意欲が低下しているが、何らかの対策は取ったのか伺います。

○委員長（星　　次君）　答弁、生涯学習課長、福田富美代君。

○生涯学習課長（福田富美代君）　荒川委員の質問にお答えいたします。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大によりまして、公民館や生涯学習センター事業の中止や社会教育施設の利用自粛によりまして、学習機会の減少が学習意欲の低下につながっております。公民館や生涯学習センターにおきましては、感染拡大の状況を見ながらも、基本的な感染症対策を徹底した上で、美里学園や各種教室などを開催しております。また、各地域における町民文化祭については、従来から実施しておりました各種発表などは実施せずに、文芸作品等の展示に絞って開催してまいりました。さらに、高田地域の町民文化祭は、高田生涯学習センター、宮川生涯学習センターの合同開催へ変更するとともに、混雑を防ぐため２部構成とするなど、開催方法を工夫しながらコロナ禍における事業実施に努めてまいりました。今後におきましても、ウィズコロナ、アフターコロナを意識し、生涯学習事業の実施や社会教育及び文化団体の活動を支援しながら学習意欲向上を目指したいと考えております。

以上であります。

○委員長（星　　次君）　荒川佳一委員。
○４番（荒川佳一君）　先ほどお話あって大体分かりましたが、町民のニーズに沿った活動をすることによりまして参加者が意義を持ちまして、多くの方と交流することによりまして得るものが大きいと思っております。その中で、次につながるような活動は何かその中で行わなかったかどうか確認します。
○委員長（星　　次君）　答弁、生涯学習課長、福田富美代君。
○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどの質問にお答えいたします。
　生涯学習事業においては、多くの方が交流してということも一つの目的ではあるところではありますけれども、やはり感染対策を踏まえてということだと大人数を避けるということはこれまでは必須と考えております。しかしながら、１度で行う事業を２回に分ける、また日にちを変えるなど工夫をしながら、まずは学びを止めない、その機会創出に努めてきたところではあります。ただ、今後新たにコロナ禍における事業としましては、やはり町民のニーズということも把握しながら、いろんな形で地域、地域、各地域にこだわらずに全体の合同事業というところで、合同事業ながらも高田、本郷、新鶴、宮川と場所を変えたりとか、そういったことで広く町民がどの地域に参加してもいいような事業ということも計画しておりますので、そういった形で町民の生涯学習の機会の充実に努めてまいりたいと考えております。
　以上です。
○委員長（星　　次君）　荒川佳一委員。
○４番（荒川佳一君）　今ほど例えば２回に分けるというような形で工夫したことについては大変いいことだなということで理解しました。
　令和３年度の活動の中で何か効果があったことを挙げていただきたいと思います。
○委員長（星　　次君）　答弁、生涯学習課長、福田富美代君。
○生涯学習課長（福田富美代君）　実際、今回施策評価の目標値に関しましては、全て大きく下回っている数値にはなっておりますけれども、それぞれ少ないながらも学習に参加した、講座に参加した方の町民の声を聞くと、やはり評価は高い評価を得られているところではございます。ですので、やはり続けるということが必要と考えております。これまで心配されまして全て中止してきたものを、やはり縮小しながらも続けるということが大事なのだなということでこの２年間感じております。ですので、今後文化祭この後控えておりますけれども、それぞれの地域で実施しております。先日、町民運動会ということで、そちらのほうはちょっと断念したところでありますけれども、各地域の中でそれではいけないだろう、やはり交流事業というのも少しずつやっていこうということの地域の町民の方の理解も得られておりますので、先日もおかげさまでウオーク成功して多くの方に楽しんでいただきましたが、地域ごとのスポーツ事業、ウオーク事業であったり、ニュースポーツ教室であったり、また地域の触れ合い交流の場ということも今後それぞれの地域で検討しておりますので、それの実施

に向けて計画的に進めてまいりたいと考えております。

○委員長（星　　次君）　これで荒川佳一委員の質疑は終わりました。

次の施策に移ります。施策ナンバー５－４、地域文化の振興について、12番、根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　では、私の質疑をさせていただきます。

成果指標①、③において、コロナウイルス感染症の影響を受けながらも②では目標値までも超えております。いかに現場に立つ、触れる、知る機会の創出が肝要かなと推察できます。課題取組においては着実なほうを進めていると思われますけれども、認識はどのようにお持ちなのか伺いたいと思います。また、次年度の方向性において述べていますように、これらの施策振興は郷土愛涵養の核心とも言えるといってもいいと思います。認識を伺いたいと思います。

○委員長（星　　次君）　答弁、生涯学習課長、福田富美代君。

○生涯学習課長（福田富美代君）　根本委員のご質問にお答えいたします。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を見ながらも、基本的な感染症対策を徹底した上で、歴史講演会や現地説明会などを実施しております。また、地域住民を対象としました地域再発見事業や各地域の小学生を対象とした天海大僧正を知ろう授業など、地域や学校と連携した事業展開に努めております。課題の取組につきましては、仮称ではありますけれども、新鶴庁舎の郷土資料館への改修に加えまして、歴史資料の展示方針の策定や歴史副読本の一部改訂などを行い、着実に地域文化振興の取組を進めております。今後も、各種事業を通じて、一人でも多くの方々に町の歴史や文化を見て、触れて、感じていただきたいと思っております。子供のときに自分が生まれ育った土地のことを学ぶことは郷土愛醸成のためにも大変重要でありますので、歴史副読本のさらなる利活用や現在開館準備中の郷土資料館、仮称でありますが、整備に努めてまいりたいと考えております。

以上であります。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　それでは、さらに伺いたいと思います。

いわゆる成果指標で①、②、いわゆるＡ、Ｃ、これは下がって低いのですよね。そして、２番では、いわゆるＢですけれども、増えていると。これは何を意味するのかなというところをちょっと考えていく必要があるというふうに思います。そういった中で、可能な限りの事業の課題取組はやっているというふうに私も評価したいと思いますけれども、そこで私は１段進んで、いわゆる知らない人、町民の中でまだまだ知られていない部分が多くあると思っています。確かに関心ある人はその現場にも行きます。資料も求めて持っておられるでしょう。その方以外の町民の方にどう知ってもらうか、ここがちょっと取組望まれるところかなというふうに思っております。ほかの所管の事業もそうですけれども、やっているにもかかわらず、一定程度成果出ているにもかかわらず、アピールが全然されていない。そして、町民の方がこれだけ来ていますよ、これだけ見てもらいましたということで、あっ、こんなに人が行っているのだというところから、では私も今度行ってみようかなというふうに当然気

持ちが、インセンティブ働きますよね。これは、町民であるならばそれは感じてもらえると思うのです。まだまだ知られていないことがたくさんあると私は思っております。その分野でこの地域文化の部分はとても大事。だから、私、核心と言いたいのですけれども、どうぞこのアピールをどんどんしていっていただきたい。どんどん明らかにされてきていることがあるわけですので、その部分はマニアックな部分ではなくて、町民ひとしく知ってもらう必要がある。そこの努力をぜひすべきではないかなと。その部分で３年度どんなことをやられたのか、足りなかったかなという認識をお持ちなのか、そこ伺いたいと思います。

○委員長（星　　次君）　答弁、生涯学習課長、福田富美代君。

○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどの根本委員の質問にお答えします。

まず最初に、Ａ、Ｃの数字が下回ってＢが伸びているというところでありますけれども、コロナ禍におきましても、向羽黒資料館についての開館日数は減ったとしても、やはり多くの方が訪れているということの実績がございます。またさらには、令和３年度におきましては、地元の高校、大沼高生の総合的な探求授業の中で町の文化財に触れる機会に対しまして解説したというところもございましたので、そういったことで大きく数値のほうが実績として上がっているところがございます。委員の言われますようにアピールが足りないではないかというところで、確かに講演会等については文化財に興味を持った方が参加していただいているという実態はございます。いかに知らない方にどのように知っていただくかというところは、これまでの広報等活動についてもやはりもっと一歩進んだような形で積極的にアピールをしていくことが必要とは確かに感じております。実際、町の広報、ホームページを掲載したとしても、そのことが全町民が見ているというところもちょっとない、それだけではやっぱり足りないと感じておりますので、新聞報道や、これから郷土資料館が開館するまでの間その整備状況というところも逐次発信するような形、またいろんな文化財の再発見事業、町民に対して出前講座としてやっておりますけれども、地域再発見事業の周知も全区長さんに周知をして、もっと地元の文化財、身近なものに触れていただくという機会の周知なども必要と考えております。あと、子供たちに関しましては、文化係だけの視点ではなくて、こちら生涯学習は公民館の生涯学習センターございますので、そうした事業で、コロナ禍においてちょっと断念したケースはあるのですけれども、令和３年度については本郷地域では一度子供たちを対象に向羽黒の散策という事業も展開しましたけれども、コロナでちょっと中止としてしまったということもありますので、そういったことを少しずつ事業の中で盛り込んでいきながら、地域の文化に触れる機会というのも拡充していきたいと考えております。さらに、委員のおっしゃられるように、やはり多くの方に知っていただくというところでアピールを続けていきたいと考えております。

以上です。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　私その方向性で異論はございません。よく考えていらっしゃるなというふう

に思います。継続が大事だというお話も先ほどの答弁でされましたけれども、ただ続けていればいいというわけではないです。皆さん一生懸命やっているのです。実際は事業は展開されているのです。それがそれに関わる人だけにしか知られていない。これでずっと来てしまっているというところがあるというふうに思います。アピール不足、これぜひ再認識していただいて取り組んでいただきたい。そして、子供たちへの伝授というか、継承というか、この宝の引継ぎというふうに私言いたいのですけれども、やっぱり学校教育の中でのことに負うことが大きいと思っております。この部分については、３年度の教育行政の評価報告の中で教育長からも十分な答弁いただいていますので、あえて再度お願いするつもりはございませんけれども、しっかり取り組んでいただきたい、この部分。ぜひ進めていただきたいなと、来年度に向けてもしっかり取り組んでいただきたいというふうに思いますけれども、再度の課長の答弁求めます。

○委員長（星　　次君）　答弁、生涯学習課長、福田富美代君。

○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどの委員の質疑にお答えいたします。

しっかりアピールをということで、努めてまいりたいと思います。またあと、子供たちの郷土愛醸成についてでありますが、生涯学習事業のほうにはなりますが、地域学校協働本部ということで子供たちに対する学習支援等行っております。また、総合的学習の中で地域の文化活動ということで、多くの伝承太鼓とか、あと高田中学校におきましては西勝の彼岸獅子であったりというところで、あと太々神楽等についての郷土芸能に触れる機会ということもやっております。話はちょっとそれるかもしれないですけれども、先日、新聞報道にも取り上げていただきました。町内の高校生が伊佐須美神社の太々神楽を中学校２年生のときに学んで、その学ぶ授業の中で太々神楽のほうに興味を持って、さらに後世に残すべく、中学校時代の友達、後輩等を誘いながら、今現在中学校で使っていただくような教材としてＤＶＤを完成させたいということでの活動している生徒さんがいらっしゃるということを新聞報道で知ったところであります。やはりそういった目の前すぐには効果は出てこないにしても、こういった子供たちが育っていくような形についてしっかり生涯学習課としても取り組んでいく必要があると考えております。先ほど伝承太鼓と言いましたけれども、やはり生涯学習センターとか公民館事業において、町民の方が先生となって長年のご厚意によりご指導の下実施している高田甚句の伝承太鼓、また本郷甚句であったり、新鶴の太鼓、あとお琴、茶道教室等、日本伝統文化や楽器に触れる事業も実施しております。こちらも継続しながら、一体的に子供たちの郷土愛ということの醸成に努めていきたいと考えております。

以上であります。

○委員長（星　　次君）　これで根本謙一委員の質疑は終わりました。

以上で政策名、学びあい未来を拓く人づくりに関する質疑は終了しました。質疑漏れはございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（星　　次君）　なしの声がありますので、以上で学びあい未来を拓く人づくりに関する質疑は終了します。

お諮りします。本日はこれにて延会としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○委員長（星　　次君）　異議なしの声がありますので、異議なしと認め、本日はこれにて延会いたします。

延　会　　（午後　２時３４分）

決 算 特 別 委 員 会

（第　５　日）

令和４年会津美里町議会（決算特別委員会）

第５日

令和４年９月２２日（木）午前１０時００分開議

委員長	星　　次　君	副委員長	長　嶺　一　也　君

○出席委員（１４名）

１番	櫻　井　幹　夫　君	９番	渋　井　清　隆　君
２番	大　竹　　惣　君	１０番	星　　次　君
３番	渡　辺　葉　月　君	１１番	堤　　信　也　君
４番	荒　川　佳　一　君	１２番	根　本　謙　一　君
６番	長　嶺　一　也　君	１３番	根　本　　剛　君
７番	村　松　　尚　君	１４番	横　山　義　博　君
８番	小　島　裕　子　君	１５番	鈴　木　繁　明　君

○欠席委員（なし）

○説明のため出席した者

町長	杉	山	純	一	君
副町長	佐々木	吉	一	君	
総務課長	金	子	吉	弘	君
総務課課長補佐	渡	部	朋	宏	君
総務課総務係長	髙	橋	力	也	君
政策財政課長	國	分	利	則	君
政策財政課課長補佐	立	川		昇	君
政策財政課課長補佐	大	竹	淳	志	君
政策財政課政策企画係長	鈴	木	聖	崇	君
政策財政課財政係長	川	田	浩	泰	君

政策財政課 人口減少対策係長	國	分	政	和	君
町民税務課長	猪	俣	利	幸	君
健康ふくし課長	平	山	正	孝	君
会計管理者	松	本	由佳里		君
産業振興課長	小	林	隆	浩	君
産業振興課 課長補佐	宮	下		寛	君
産業振興課 商工観光係長	鈴	木	俊	幸	君
建設水道課長	鈴	木	明	利	君
教育長	歌	川	哲	由	君
こども教育課長	渡	部	雄	二	君
生涯学習課長	福	田	富美代		君
代表監査委員	小	島	隆	一	君

○事務局職員出席者

事務局長	児	島	隆	昌	君
総務係長	歌	川	和	仁	君

開　議　　（午前１０時００分）

○委員長（星　　次君）　これから本日の会議を開きます。

決算特別委員会５日目を行います。昨日に引き続き魅力と個性のある地域づくりの質疑を行います。

まず、施策ナンバー６－１、地域活動の推進について、１番、櫻井幹夫委員。

○１番（櫻井幹夫君）　おはようございます。私は、113ページの記載内容についてお尋ねをいたします。

３、指標の分析①、②でコロナ禍が原因で目標値に達しなかったとありますけれども、それだけの問題なのでしょうか。４、課題に対する取組では、幾つかの取組を実施しているようですので、その成果をしっかりと評価すべきではないでしょうか。問題は別のところにあるのではありませんか、伺います。

○委員長（星　　次君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　おはようございます。それでは、櫻井委員のおただしについてお答えさせていただきます。

成果指標の目標値等につきましては、平成28年度から平成30年度までの実績を基に設定しておりまして、目標値に達しない主な要因といたしまして、令和２年度から数値が減少していることから、新型コロナウイルス感染症の影響により地域活動に参加する機会が減少したことであると考えたものでございます。課題の取組といたしまして、集落支援員による地域訪問活動を実施してございます。この活動は、支援員が直接地域に出向き、自治区長や地域の中心となるような方と地域の現状や課題などを話し合い、課題解決の方向性を探るものでございます。特に地域の高齢化対策や防災対策、農業の後継者問題等について重点的に行ってまいりました。また、まちづくり団体やＮＰＯ法人等の活動を推進するため、様々な中間支援も行ってまいりました。地域全体の課題といたしましては、急速な少子高齢化、人口減少により地域の活動や伝統行事の継続が困難になっているなど、特にコロナ禍によりましてその傾向が強くなっていると考えております。地域の課題は様々でございます。今後も、地域の現状を把握しながら、その地域の実情に応じた様々な支援や対策を実施してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　櫻井幹夫委員。

○１番（櫻井幹夫君）　それでは、課題に対する取組についてお尋ねをしたいのですが、農業後継者問題に対する支援内容の具体的な部分を教えていただけませんか。

あと、地域の中心となる人物の育成を図ったとありますが、地域の中心となる人物とはどんな人なのでしょうか。全ての地域にいらっしゃるのですか。誰なのか教えていただくことは可能なのでしょうか、お伺いいたします。

○委員長（星　　次君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　ただいま２点でございますが、まず農業の後継者問題についてでございますが、これにつきましては地域の区長さん、さらには地域の農業中心となっておられる方に直接伺いまして、相談なり支援を行っているというところでございます。この問題につきましては、やはり少子高齢化によりまして地域の農業の担い手が少なくなっているという現状は、これは町全体の課題の一つでございます。この現状を把握いたしまして、町といたしましては、まず集落支援員につきましては、その地域の状況、例えば農業者、中心となられる方は何人いらっしゃるのか、その地域の状況をまずはお聞きをしながら把握するということが集落支援員の仕事ということで活動をしてございます。その後の展開といたしましては、これ部署は変わりますが、主に産業振興課のほうで新たに今後つくります、集落の営農をどうするのか、そういった計画に結びつけるというようなことで動いているところでございます。

次の中心となる人物についてでございますが、まずこの人物の方々の把握につきましては、やはり地域の自治区長さん、さらにはその地域の中で活動していらっしゃる方に直接お話を伺いながら、そういった方について当たりまして、相談なりお話をさせていただいた状況でございます。全ての地域の中でそういった方がいらっしゃるのかということでございますが、地域によってはそういった中心となるような方が少ないということがやはり大きな課題になっているということでございます。それが誰なのかということでございますが、例えば昨年度ですと全46地域のほうで訪問活動なり支援活動を行っておりますので、具体的な名前については現在、その地域によりますので、そこにつきましては、申し訳ございませんが、そこまでの把握はしてございません。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　櫻井幹夫委員。

○１番（櫻井幹夫君）　ごめんなさい。今ちょっと聞いていてもよく分からないので、あと自分でちょっと整理しながら次の展開に進めていきたいと思います。

最後にもう一点だけ。地域おこし協力隊の検討会に参加されている専門家というのはどなたなのでしょうか。また、その人はどんな人なのか教えていただけませんか。

○委員長（星　　次君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　専門家ということでございますが、昨年度につきましては、弘前大学の教授の方をお招きして、いろいろお話をさせていただいたところでございます。

○委員長（星　　次君）　これで櫻井幹夫委員の質疑は終わりました。

次に、同じく施策ナンバー６－１、地域活動の推進について、12番、根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　私の質疑をさせていただきます。

コロナ禍によって成果指標は激減となっております。しかし、その中でもやれることに取り組んできたことは評価したいと思います。そこで、人材の育成については、どんな取組をして、問題意識はいかがお持ちなのか伺いたいと思います。

また、次年度の方向性で述べております地域おこし協力隊の継続的な受入れ態勢整備、活動拠点の検討とはどういうことを想定しているのか伺いたいと思います。

○委員長（星　　次君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　それでは、お答えいたします。

地域の中心となる人材の育成につきましては、集落支援員による訪問活動をしていく中で、地域活動の中心となり得る方に直接訪問を行い、制度の必要性をご理解いただきながら、人材の育成、確保に取り組んでまいりました。問題意識といたしましては、地域活動の機運の高まりとその活動の中心となる人材の確保でございます。引き続き地域の課題に対する支援活動を継続しながら、地域住民の地域活動への参加意識の高まりとその中心となる人材の育成、確保に取り組んでまいりたいと考えてございます。

次に、地域おこし協力隊の継続的な受入れ態勢の整備についてでございますが、令和３年度の反省を基に、これから採用すべき協力隊を年次でいかに受け入れていくかを５か年程度の想定をいたしまして、受入れ人数、受入れ分野の選定等、関係者との調整を行い、計画的な受入れを図ってまいりたいと考えております。活動拠点の検討についてでございますが、現在、隊員はこの本庁舎及び各受入れ団体等で活動をしております。協力隊員数や業務量の増加が今後見込まれることなど、より地域に密着した活動、隊員相互の連携、さらには自己研鑽が図れる活動拠点として今後整備を検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　まず、前段の人材育成の取組ですけれども、どこにでもお願いできるような、いわゆる仕事、役割ではないわけでして、先ほどの同僚委員の質問の中でも答弁ありましたように、人口減少の中でそういう意識を高めたいと思ってもなかなか難しいことは、本当にここ数年著しく困難になってきているという現実がございます。そういう中で、広域的な取組の中で人材の確保あるいは意識の醸成を図っていくということは当然念頭にあるかとは思いますけれども、人材の育成と簡単に言っておられますけれども、これほど難しいことはないのです。でも、大切なのですというところで、中間支援の方々に努力していただいているわけですよね。そういう中で、本当に可能性として地域的にしっかり見えているのか、まだまだそこには至っていないということなのか、どういう捉え方をしているか伺いたいと思います。

次、後段の部分ですけれども、拠点整備をしていくという言い方をされています。地域おこし協力隊の皆さんを本庁舎に集めて、そこからあちこちに活動で散らばっていっていただくというイメージなのか、５年間の計画でというふうに言われましたけれども、地域課題はそれぞれあって、いっぱいあり過ぎて、５年間でそれに取り組んでいっていただけるような人をお呼びしたいという考え方なのか、その辺がはっきりしないのです。これ昨年もたしかこういう書き込み方で、質疑した覚えがござ

います。もうこの拠点整備はこうしますよというのあるのだろうと思っていたのに、検討という文字が入っていましたので、そこのところを確認したいと思います。

○委員長（星　　次君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　それでは、まず１点目でございますが、人材の育成についてでございますが、確かに人材の育成につきましては、我々町といたしましても非常に困難なものであるということは認識しております。ただ、これをなしには地域の活性化なりはないものと考えてございます。現在、集落支援員を中心に、直接そういった方にお伺いしながら進めているところでございます。ちなみに、昨年度でございますが、申し上げましたが、高齢者問題、さらには防災の問題等を中心に行ってまいりました。その一つの成果として１つ紹介させていただきますが、昨年度その活動の中で、いわゆる高齢者対策の一つとして、町は今集いの場というものを進めてございます。この集落支援員の成果ということでございますが、昨年度につきましては、６か所、６地域で新たなそういった集いの場ができたということで報告を受けてございます。やはりそこに至るまでにつきましては、その方といろいろ区長さん、さらにはそういった中心となる方に何度となく訪問し、制度の概要、さらには必要性をお話をしながら設立に向かったということでございますので、これからもそれは継続的に粘り強くやっていかなければならないと思っております。

続きまして、協力隊でございますが、まず協力隊、これまでの反省を基にということでございますが、まず受入れでございます。これまでは単年度、単年度で、次年度はどういった協力隊を募集しようかというようなことで考えてございました。やはりそれでは、長期的な視点に立って、今後５年程度の計画をつくりまして、本年度はこの課題、次年度はこの課題についてということで、まずは受入れのそういった課題の整理をして、受入れの人数なり、どういった課題に対して募集をするのかと、まずは計画をつくりたいというのが１点でございます。もう一つの拠点でございますが、現在多くの協力隊がおり、ばらばらで今活動してございます。協力隊というようなことで、目的は様々な課題に取り組んでおりますが、協力隊としては１つの目標に向かって進んでおりますので、やはり協力隊同士の相互の連携、さらには協力隊同士の今どういったことを取り組んで課題があるのかという情報交換の場がなかなかないということが一つの課題でございました。その課題を解決するため、その協力隊が一堂に会して集まれるような場所、いわゆる拠点を今後検討したいということでございます。この場所の選定につきましては、現在様々な、今公共施設の空いている分とか、そういった施設を活用することで考えてございますので、まだこれといって選定はしてございませんが、今後そういった施設などを有効に活用できるように検討してまいりたいということでございます。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　前段の１点の部分ですけれども、人材の育成の部分ですけれども、私も例えばということで集いの場の話をしなければならないかなと思っていたところで今課長が答弁でお話し

されました。課長がそれを成果として見ているならば、どうしてこの施策評価シートにそれを落とし込まないのですか。そうすれば、あっ、そういうことか、それも確かに人材育成の一環ではあるよねというところで、余計なこと質問しなくて済むわけです。そういう書き込みがこの評価シート全体に欠けているところだと私は思います。ほかの所管の部分もそうです。そこはしっかり検討していただきたい。十分に情報をここで提供しておけば余計なこと質問しなくても済むし、ではこのことはこうやることでもっとよくなりますよねという提案もできますし、深化して、議論が活性化されて、よりよい方向に向けるというふうに私は考えるのですけれども、そういうこともぜひ検討していっていただきたいなと。確かに人材育成と簡単に言ってしまいますけれども、難しい課題でもあります。でも、課長が言われたように、継続的に広域的に捉えていかないと、この広い会津美里町ですので、そこは柔軟に発想、地域的にないからしようがないねではないはずですので、しっかり取り組んでいっていただきたいなというふうに思います。

２点目ですけれども、分かりました。先ほどの答弁でようやくイメージが湧いてきました。ただ、単年度で課題今まで募集してきたということありますけれども、５年程度の計画で、長期的視点に立ってとあります。１つの目的に向かってという話しされましたけれども、それは総合政策のことで、最終的なアウトカムの部分言っておられるのかもしれませんけれども、地域おこし協力隊の会議でそれぞれの方々がそれぞれの課題解決に向かっているわけですよね。ですから、１つの目的に向かってというのはどういうことなのか確認しておきたいと思います。それぞれの課題解決のために地域おこし協力隊は頑張っているはずですから、情報交換は大事ですけれども、１つに集めるところがあればいい話では私はないと思っています。そこのところの認識を確認させてください。

○委員長（星　　次君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　まず、１点目の成果の指標についてでございますが、確かにそういった指標について、今後その書き方、どういった成果というようなことで今後検討して、どういったものが成果として好ましいのかという書き方についても、そこは検討させていただきたいと思っております。広域的に取り組むべきだろうということでございますが、確かに地域によっては人口減少が著しいところもございます。当然１つの集落なり地域だけでは補うことはできないというところもございますので、そういった場合についてはやはりもう少し広域的に広げてやるということが必要だと私も思ってございます。

次に、協力隊でございますが、１つの目的に向かってということでございますが、まず各協力隊はおのおのの課題に対して取り組むということでは、その方向では進んでおりますが、やはり目的といたしましては町の振興だったり地域の活性化だったりというのが大きな目標でございますので、その課題に向かって協力隊一丸となって向かっていくということでございます。なお、拠点についてでございますが、常にそこにずっといるというわけではなくて、定期的に集まって情報交換、今の自分が行っている仕事の進捗状況、さらには情報交換を行いながら、協力隊として情報交換を行って、さら

に自分の活動がより活発化されるようなことを期待しておりますので、そういったことで活動を行いたいと考えてございます。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　これで根本謙一委員の質疑は終わりました。

次の施策に移ります。施策ナンバー６－２、多様な交流と連携の推進について、２番、大竹惣委員。

○２番（大竹　惣君）　私のほうからは、116ページより質疑いたします。

成果指標のＤにおいて、移住・定住相談窓口を通じた移住世帯数は増加の方向性が示されております。今後も移住者が増える見込みと考えていると思いますが、現状、移住後のサポート体制は整っているのかを伺います。

○委員長（星　　次君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　それでは、お答えいたします。

移住者に対する移住後のサポート体制につきましては、移住定住支援コーディネーターによる定期的な連絡や情報提供等を実施しておりまして、移住前だけではなく、移住後も気兼ねなく相談できるようフォローアップしているところでございます。移住者からの相談内容につきましては、生活する上での不安やどこに相談してよいか分からないなど内容も多岐にわたることから、町と関係機関との連携を図りながら、きめ細やかなサービスの提供に努めているところでございます。また、移住定住支援コーディネーターは、移住前から相談等で関わっていることから、顔が分かるコーディネーターが移住後も対応することで信用と安心にもつながっているものと考えてございます。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　大竹惣委員。

○２番（大竹　惣君）　実は先日、この役場の窓口を通して本町に移住してきた方とお話をした際に、本町の移住、定住対策については、ワンストップ窓口や移住支援を行う移住コーディネーターと連携して行っているということで、他町村よりも移住支援が手厚いとの声も聞きましたが、しかしながら移住後の様々な悩みを相談する相手が分からないとのことでした。本来ならば自治区長や民生委員などに相談するということも考えられますけれども、その区長を紹介していただけないような方もいるようでした。したがって、現状ではまだまだ移住後のサポート体制には課題があると感じますが、こういったお話は所管にも届いているのかを伺います。

○委員長（星　　次君）　政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　その情報が町にということでございますが、確かにコーディネーターのほうからそういった情報は伺ってございます。様々な理由がございまして、理由を確認したところ、何度かその方にアプローチをさせていただいたということでございますが、なかなか日程等がつかなかったということで、結果的には地区の区長さんの紹介には至らなかったというようなことでお話を聞いてございます。でも、その後もやはりアプローチを取りながら区長さんのほうに紹介させる

べきだったなということでは思っておりますので、コーディネーターのほうにはそういったきめ細やかなフォローもお願いしたいということで相談してございますので、なお今後におきましてもきめ細やかな相談に応じるよう対応してまいりたいと考えてございます。

○委員長（星　　次君）　大竹惣委員。

○２番（大竹　惣君）　しっかり対応していただきたいと思います。今は、よいうわさも悪いうわさもＳＮＳ等などで簡単に広がってしまいます。移住後の満足度が今後の本町の移住促進に直結しますので、移住後の支援には力を入れるべきであります。

そこで伺いたいのが、移住後にアンケート調査などで満足度調査などを行って生の声を吸い上げるなど、そういった試みは既にあるのか、もしなければ現状を踏まえてそういった対策を今後検討する考えはあるのか、所感を伺います。

○委員長（星　　次君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　移住後の取組ということだと思いますが、確かにそういった移住者同士の交流だったり、情報交換は非常に有効なものだと思っております。これまでそういった取組は行っておりませんでした。やはりこのコロナ禍ということもございまして、こういったことも必要だねというお話はコーディネーターのほうと以前にお話をさせていただいた経過もございます。やはり移住者同士かなり人数も多くなってきているということでございますので、今後そういった交流会等も検討をさせていただきたいというようなことでございます。なお、アンケート等の調査につきましては、本年度ではございますが、県と一緒になりまして移住者に対してのそういったアンケートを実施してございますので、また結果については、行ったばかりでございますので、今後出るのかと思いますが、そういったことで調査も実施しているという状況でございます。

○委員長（星　　次君）　これで大竹惣委員の質疑は終わりました。

次に、同じく施策ナンバー６－２、多様な交流と連携の推進について、７番、村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　それでは、お伺いします。

指標の分析②において、就学や就職のため、若い世代が転出し、その後の転入減は希望する職場（職種）が少ないためとあるが、その分析を基に転入を増加させる方策があるのか伺います。

○委員長（星　　次君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　それでは、お答えいたします。

転入を増加させる方策につきましては、本町のみの課題ではなく、多くの市町村並びに県が抱えている課題と捉えてございます。転入者を増やすための方策は、単一の事業ではなく、様々な事業や施策を組み合わせて取り組むものと考えてございます。一つの対策といたしまして、若い世代が本町に戻り、そこから生活圏が同じ近隣市町村へ通勤していただけるように、住宅取得に対する支援や子育て支援を充実させていきたいと考えてございます。近年におきましては、コロナ禍の影響もございましてテレワークを常態としてできる企業も出てきておりまして、テレワーク施設の整備やテレワーク

に必要なネットワーク、特にＷｉ－Ｆｉ環境の整備を進めてまいりたいと考えてございます。また、本町で新たに起業される方や新規就農に取り組む方に対しては、各種支援制度も充実しておりますので、関係機関と連携しながらＰＲに努めてまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　それでは、お伺いします。

確かに職種が少ない、職場が少ないという課題を考えていらっしゃると思うのですけれども、まず１点目とすれば、希望する職種というのは、今所管で考えているものではどういった職種、どういった職業というものが求められているというお考えなのかが１点と、あと希望する職種、これ世代別に見ると15歳から29歳が48％を占めているというふうにして具体的に世代別も分けてあります。そういった中で、これから例えば町を出ていく立ち位置になる17歳、18歳程度の方々が将来的に見据えてこれからどういったことをやっていきたい、どういう職場に就きたいというようなアンケート調査をやっているのかどうか、現実的な数字も踏まえながら所管として行動しているのかが２点目と、もう一つは今ほどお話ししていましたが、確かに県を含めた総合的な広域的な単一の事業ではないというお話もありました。そういった中で、広域的な市町村を超えた枠組みの中で、この問題に対してどのような問題意識を共有課題として話し合っているのか、その３点お願いいたします。

○委員長（星　　次君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　３点でございますが、まず１点目の希望する職種、町はつかんでいるのかというようなことでございますが、まだ特に対象者に対してのアンケート等の調査はしてございませんので、具体的にこの職種がということでは情報はございません。しかしながら、現にこういった若い世代がこの本町、さらには会津に戻ってこないというのは、やはり希望する職場がないということが大きな課題と、問題であるということで考えてございます。

次のアンケート等でございますが、やはりこういった職種に関しましては、アンケート等の調査して、具体的にではどういう職種なのだという調査が必要なのかなとは思っております。この調査方法については様々な課題があるということは考えてございますが、これはぜひ実施したいということで、ちょっと調整はさせていただきたいと考えてございます。

３点目の広域的な取組なりを話し合っているのかというようなことでございますが、広域的にという具体的な話というのは現在はないところでございますが、ただ取り組んでいる内容といたしましては、この会津管内で広域的に、例えば就職の相談会を全会津で実施してございます。会津管内の企業が一堂に会しまして職業のＰＲなり紹介をしてございますので、そういった中でいろいろな課題が出てきているということでございますので、今後も広域的に取り組んでいき、人口の減少を止めていきたいということで考えてございます。

○委員長（星　　次君）　村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　ぜひともアンケートは取っていただきたいなと思います。

また、１点目の希望する職種というのを明確につかんでいない。やはりこれはアンケートとどうしても連動してしまうのかもしれないですけれども、今の若い方々がどういった職種を希望しているのか、それがイコール企業誘致だったり、そういったものにも反映される。また、３点目にありましたその共通課題を広域的な市町村、県レベルで情報を出し合うことによって少しでも若い方々が県、各市町村に戻ってくる要因になると思うので、その辺はしっかりとスクラムを組んで、私たちの町だけではなくて、県内各地域全て、会津なら会津管内でもいいですけれども、せめてやはり会津管内だけでもスクラムを組んでぜひやっていただきたいと思うのですけれども、最後にその点だけお願いいたします。

○委員長（星　　次君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　先ほど私、広域的な会議は行っていないということで答弁させていただきましたが、実は定住関係で様々な課題を、県、さらには会津管内でそういった課題については相談をしてございます。そこの中で、この会津、福島にどういった方策が必要なのかという協議会がございますので、そこの中で連携を図りながら事業を進めてまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　これで村松尚委員の質疑は終わりました。

次に、同じく施策ナンバー６－２、多様な交流と連携の推進について、12番、根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　では、私の質疑をさせていただきます。

課題取組において、移住、定住の推進では一定の評価がされると思っております。③についての分析は、もう少し分けるべきではないのか。

また、次年度の方向性では、交流について「姉妹友好都市等と町民の関わり方や、事業内容の見直しを行い、関係人口を増加させる」と述べております。本町として従来の考え方から変化、改革があったのか伺いたいと思います。

○委員長（星　　次君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　それでは、お答えいたします。

年間出生数の分析につきましては、目標値に達しなかった一つの要因といたしまして、子育て世代の減少であると捉えております。そのほかにも、子育てに対する不安やライフスタイルの多様性など様々な要因が考えられます。町といたしましては、ネウボラ事業をはじめとした各種事業を展開し、結婚から出産、子育てまで切れ目のない支援を行い、様々な要因に対応していきたいと考えてございます。また、出生数の減少は少子化を招きますが、それは未婚化や晩婚化の進行も大きく影響していると思われますので、結婚・子育てコンシェルジュ事業を充実し、出会いの機会の創出などきめ細かい支援を行い、安心して出産、子育てしながら働くことができる環境づくりに取り組むことで出生数の減少抑制に努めてまいりたいと考えております。

都市交流の考え方につきましては、これまでも姉妹、友好都市との物販交流や文化交流などを軸に展開しておりました。今後も基本的には従来の路線を継続してまいりますが、町が主導する交流から住民が主体的に交流する取組につなげることにより、町民の関わり方や事業内容の見直しを図ってまいります。そのためには、相互に町の魅力の情報発信に努め、観光分野での交流を進めていくことにより関係人口の増加につなげてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　まず、前段の部分ですけれども、これぞという課題解決策は私はないと思っています。その中で、ここに住んでおられる方々が、特に若い世代の方々が何を望んでいるのか、何に不安を持っているのか、これは昨日の質疑の中でも出てきたと思いますけれども、アンケート調査せっかくやっているわけですので、少し分け入って具体的に述べていただくと、これが大変重要だと思っております。いろいろ分析するにしても、きめ細かな資料がなければ分析に向かえないというふうに考えると、今までのやり方では不十分ではないのかと。そこに課題を見つけていないのか、あるいはどういうふうに考えるのか伺いたいと思います。

後段の部分ですけれども、これは関係人口を簡単に使われますけれども、関係人口って幅が広いです。取り組み方は多種多様です。過去五、六年になります。先進事例、好事例を度々議会の質疑の中で提案してまいりました。その都度に検討していく、検討していくと、すばらしい事例を検討していくという、参考にするという答弁あったと思います。ここに至ってもそこには全然踏み込んでいっていない。私は、すばらしい事例があるのに、そのエッセンスすら取り入れようとしない姿勢の中で、同じことを５年、６年言ってきているのはどういうことかなというふうに常々思います。テレワークの話もされておりましたけれども、テレワークでどれだけ人口減少歯止めに効果があると思っているのか。私は、首をかしげます。私は、大きな発想の転換、取組の転換が必要だと思うので、こういう伺い方をしました。ただの変化ではなくて、そもそもから改革する必要があるのではないかなという、そこはどのように考えるか伺っておきます。

○委員長（星　　次君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　まず、１点目でございますが、その課題を探るにはアンケートがやはり最も有効な手段の一つであると考えてございます。現在、町民アンケートを毎年実施しております。そこの中でもこの子育て関係の項目はございます。さらに、自由記載欄の中で様々な記載があることも承知してございます。確かに原因を探ることが必要でございますので、今後そのアンケートの中身を少し精査をさせていただいて、よりその原因を探れるような仕組みづくりも考えたいと考えてございます。

２番目の関係人口でございますが、委員おっしゃられるとおり、なかなか進んでいない、さらには変わっていないのではないかとご指摘だとございます。確かにそこの中でのテレワークだけで増える

のかというご指摘ではございますが、テレワークも施策の一つと考えてございます。こういったＩＴ化の推進によりまして働き方も大きく変わってございますので、そういった関係人口の在り方も、対面から、そういったインターネット等を介したＩＣＴの技術を活用した交流というのも盛んに行われているということから、そういったテレワークの環境も必要であろうということで町は考えてございますが、その交流の在り方も大きく変えなくてはいけないということではございますが、やはりこれまでの取組もございますので、そこを継承しつつ、新たな取組にもチャレンジしてまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　２点目についてですけれども、テレワークも時代の要請ですから、有効な手段であることは私も認めたいと思います。そこを否定しているつもりはありません。ただ、この体制づくりに取り組んでいるから交流人口、関係人口を増やすことの重要な事業だみたいな言い方されるから、私はちょっと違うでしょうと。日常的にもっと美里町の観光も含めて魅力を外に向けて発信して、来ていただく、そしてお金落としていただく、それが今喫緊の課題だというふうに考えれば、まず人流を増やさないと。そして、ふるさと納税をあれだけの方々からいただいている。このご縁をもっともっと貪欲に果敢に私は引き寄せる必要があるという意味合いで先進事例、好事例を紹介してきた経緯がございます。その都度検討したい、検討したいと言いつつ、もう五、六年たってしまっているということを先ほど申し上げた次第です。ですから、今までのつながりもある、それも分かります。でも、大胆にここはひとつ変革する時期にもう来ているというふうに考えるか考えないかでまた時間をただ流すだけになってしまうおそれがありますから、再度の認識を伺いたいと思います。

○委員長（星　　次君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　このテレワークというようなことで今回書かせていただきましたのは、やはりこの２年間コロナ禍ということで、これまでの対人流なり交流がなかなかうまくいかなかったという一つでございます。このコロナ禍によりまして、新たな交流の方法として、こういったＩＣＴを活用した交流もあるのではないかということでございますので、交流の基本は直接町民がそこに訪れ、さらに相手側の町民の方なり市民の方がこちらに来ていただくということがやはり一番肝要だと思っておりますので、当然デジタルだけではできる問題ではございませんので、その辺はそういったこれまでの在り方も含めて検討しながら、直接行ったり来たり、さらにはデジタルも活用しながら交流も深めていくというようなことで取り組んでまいりたいと考えてございます。当然、そこの中でのふるさと納税という話も今出ましたが、ふるさと納税も多くの方にいただいてございますので、この方についても積極的な関わりを持っていただけるよう、ぜひこの美里町に訪れていただけるような仕組みも考えていきたいと考えてございます。

○委員長（星　　次君）　これで根本謙一委員の質疑は終わりました。

次に、同じく施策ナンバー６－２、多様な交流と連携の推進について、15番、鈴木繁明委員。

○15番（鈴木繁明君）　それでは、質疑をさせていただきます。

５、次年度の方向性についてでありますが、「人口減少対策については若い世代の転入促進が重要であるため、テレワーク環境の整備や就業環境の改善等を、他市町村と連携を図りながら進める」としておりますが、連携によって人口減少対策にどのようにつながるのかということで伺います。

○委員長（星　　次君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　それでは、お答えいたします。

人口減少の要因の一つといたしまして、高校卒業時や大学卒業時に町外の企業等へ就職することで本町に戻ってこないことが挙げられます。また、希望する職場や職種が少ないために、戻りたくても戻れないことも理由の一つと考えております。そのため、地元の企業だけではなく、会津管内企業の情報発信やＰＲ等の機会をつくり、合同で就職フェアなどを開催するなど、他市町村との連携を図りながら就職を支援することが重要であると考えております。また、近年、ＩＣＴ技術の発達やコロナ禍の影響によりまして、会社に出勤せずに自宅にいながら仕事を行うテレワークを導入している企業も多くなっていることから、通信環境の整備も人口減少対策において重要な施策と考えてございます。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　鈴木繁明委員。

○15番（鈴木繁明君）　就業環境の改善等を他町村と連携して図りながら進めるということで、就業環境の改善をということで、もう少し詳しく説明をお願いします。

○委員長（星　　次君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　就業環境の改善と、具体的にということではございますが、まず１つは、先ほどお答えいたしましたが、テレワークなり、そういったＩＣＴ技術の発達がございますので、そういった環境を整備するということが町で今最も重要なことの一つとして考えてございます。そのほか様々な課題もございますが、あともう一つは、やはり就業環境の中で、本年度ですか、法律が改正になりましたが、育児休業制度等の改正がございましたので、町内企業に対しましてはそういった制度の周知なども図ってまいりたいということで考えてございます。そういった環境を整備することで、この美里町、さらには会津に戻っていただき、仕事をしていただき、さらにはここに住んでいただくということで考えてございます。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　鈴木繁明委員。

○15番（鈴木繁明君）　まず、他町村となっておりますが、この他町村はどこまでの町村を指しておりますか。

また、この連携によって移住、定住者の取り合いというか、そういったことも考えられることもあると思いますけれども、その辺についてはどうなのか伺います。

○委員長（星　　次君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　会津管内というようなことで、まずエリアでございますが、この会津管内全市町村が加盟しております協議会がございます。そこの中で企業のＰＲなりをしてございますので、会津管内全域の市町村が加盟しているということでございます。

次に、取り合いになるのではないかということでございます。確かにこちらの会津のほうに戻ってこられた場合、どこに住むかというのが一つの問題であると思っております。そこの中で、美里町につきましては、移住後の定住に関する例えば住宅を建てるときの支援、さらには移住する際の支援が他市町村と比べても十分であるというようなことで考えてございますので、そういった支援制度をより周知、さらには充実させることでこの町内に人口を呼び戻すことができるものと考えてございます。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　これで鈴木繁明委員の質疑は終わりました。

以上で政策名、魅力と個性のある地域づくりに関する質疑は終了しました。質疑漏れはございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（星　　次君）　なしの声がありますので、以上で魅力と個性のある地域づくりに関する質疑は終了します。

ここで11時５分まで休憩いたします。

休　憩　　（午前１０時５１分）

再　開　　（午前１１時０５分）

○委員長（星　　次君）　再開します。

これより政策名、町民に信頼される行政の推進の質疑を行います。

まず、施策ナンバー７－１、健全な財政運営の推進について、12番、根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　健全な財政運営の推進について質疑をさせていただきます。

成果指標の目標値が経常収支比率と将来負担比率は平成29年ローリングからのようでありますが、実質公債費比率はどこからの数値か。令和３年ローリングしたばかりにおいて、その数値を用いての指標化、分析を載せない理由について伺いたいと思います。

また、①の分析において、「歳出経常一般財源の増加割合の抑制により目標値を下回ることができた」と述べておりますけれども、成り行きではなく自制ゆえの結果なのか改めて伺いたいと思います。

○委員長（星　　次君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　それでは、お答えします。

長期財政計画の指標、分析を載せない理由でございますが、施策評価は第３次総合計画後期基本計画において設定した各年度の目標値に対する評価及び分析でございますので、第３次総合計画後期基

本計画策定後の実施計画に基づき策定した長期財政計画の指標との分析は実施していないということでございます。

経常収支比率の減少は、成り行きではなく自制ゆえの結果なのかにつきましては、令和３年度は、コロナ禍における各種事業の自粛、医療機関の受診控え等による補助費、さらには扶助費等の減少や、歳入においても物価高騰等に対する普通交付税の追加交付などにより経常収支比率の減少につながったことが大きな要因と考えております。また、財政運営につきましても、令和３年度の当初予算編成時から経常一般財源の上限額の設定など、一般財源ベースの歳出抑制に取り組み、職員一人一人がコスト意識を持って取り組んだ結果も要因の一つであると考えてございます。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　まず、前段の部分ですけれども、それならば平成29年度ローリングの数字と、これが経常収支比率と……

○委員長（星　　次君）　根本委員、もう少しマイクを。

○12番（根本謙一君）　成果指標の数値です。経常収支比率と将来負担比率は、平成29年度ローリング時、いわゆる総合計画を使っております。ところが、実質公債費比率はどこから持ってきたのか私は見当たらない。それを聞いているのです。その点を伺いたいと思います。令和３年のローリングしたばかりですよね。これを基にして分析しないでどうするのですかと私は思います。せっかくローリングしたのに。これだけの分析して、これだけの立派なものを作って我々に説明しておいて、これに基づいた分析をしっかり説明しないで、過去の、その以前のローリング、前の数値を基にして分析して説明するというのはどういうことなのですかと私は思います。お金は当然不用額がたくさん増えていますよね。このことについても問題だと思っておりますけれども、それは理由があります。コロナ禍だと。一定程度分かりますけれども、その点は別にして、令和３年度のローリングどうしてしないのか。だから、その理由を伺っています。

後段の部分ですけれども、「歳出経常一般財源の増加割合の抑制により目標値を下回ることができた」と言っているのです。これは、明らかに自制が働いたということだというふうな表現だと思います。ところが、先ほどの説明ではやっぱりコロナが一番影響していますよね。コロナ禍が。ですから、私はこれは成り行きに近いのではないですかという問題意識です。それにもかかわらず、上限を制限して、コスト意識を高めて、しっかり予算づくりしたその結果だみたいなことを堂々と言う。私は、ちょっと違うのではないかなという問題意識がありますので、再度答弁お願いします。

○委員長（星　　次君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　まず、１点目でございますが、まず総合計画の指標の設定の方法でございますが、過去の数値を基にしまして、毎年下げていくというような指標で試算をしてございます。ただし、長期財政計画におきましては、やはり直近のローリングも行っておりますので、より実

績に近い、実数に近いものを計上してございます。特に公債費についてでございますが、今般、長寿命化計画を策定してございます。それは、大きな公共施設を今後どういった方法でしていこう、さらには年次で何年度にどの程度の費用を支出してやっていくのだという計画もその後つくってございますので、いわゆる公債費につきましては、長寿命化計画、公共施設のこれからの在り方が非常に大きく影響したということでございますので、それにつきましては長期財政計画のローリングの中には加味してございますが、この総合計画策定時においてはまだ策定していなかったため、それを反映することができなかったため、そういった差が出ているということでございます。

次の経常一般の収支でございます。できたということでございますので、それは成り行きではないのかというようなことでございます。確かに結果としましては、交付税が増加されたこと、コロナ禍によってそういった扶助費、補助費が結果的には減少になったことが大きな要因とは考えてございます。しかしながら、当初予算の編成時におきまして、先ほど説明いたしましたが、一般財源の上限枠を設定して当初予算の編成なり査定に臨みました。あくまでも当初予算ベースでございますが、令和２年度と令和３年度の結果を見ますと、予算策定時に約2.3ポイント程度の縮減が図られたことから、こういった表現にさせていただいたというものでございます。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　１点目ですけれども、これはこれで当然、施策評価シートのこの数値、目標値も含めて、これはこれに基づいて一定程度評価していくというのは、それはあり得ることだと思いますけれども、でも先ほど言いましたようにわざわざ令和３年度にローリングして立派なの作って、これでやっていきますよというふうに我々に出したのですから、やっぱりこれに基づくちゃんと分析もしっかりして、それを説明していただかないとおかしくなりませんかというところです。では、再度確認しますけれども、これらの数値に基づいての、令和３年度ローリングに基づいての分析も一応されているのか。数字が大きく変わってきております。その点についての分析はしているのかどうなのか伺っておきます。

２点目ですけれども、自制努力は私はされているというふうに認めたいと思いますけれども、やはり説明するときの書き方は丁寧にしてもらわないと。いかにも努力してこうなりましたという書き方は、私はちょっと違うと思っています。両方書かないと。今質疑していますからそういう説明されましたけれども、この書き込みだけではその部分は読み取れない。私は、ですから丁寧な書き込みというのはとても大事ではないですかと。今の説明で理解できる人と、それからなかなか難しい人、いろいろいるはずです。ですから、丁寧な説明は大事です。書き込みももっとよく検討していただきたいというのは、そこを言っているわけですから、再度の確認をお願いいたします。

○委員長（星　　次君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　まず、１点目でございますが、まず総合計画の策定につきましては、

これスタートしたのが令和元年度からスタートしてございます。その数値を出しまして、町民へのパブリックコメント、説明会を開いて、その後令和３年４月から始まったというものでございます。その前段の説明においては、当然令和元年度から始まっておりますので、その間のやはり数字を使用するしかないということでございます。ただし、長期財政計画におきましては、令和３年度に改正なり見直しを行いましたので、なかなかこの総合計画の中の指標として捉えることは難しいと。いわゆるスケジュール的に無理だったということが一つの要因でございますので、そこはご理解いただきたいと存じます。ただし、やはり委員ご指摘のように同じ数字が２つの計画によって２つございますような状況に現在なっております。確かに一方は総合計画、一方は長期財政計画、お互いに町が目指す指標でございますので、この指標の取扱いについては現在同じ方向で同じ数字にできないかということで内部検討させていただいておりますので、こういった２つがあることについてはやはり違和感を私も感じておりますので、そこについては同じになるようにちょっと検討はさせていただきたいということでございます。

あともう一点、そこの中のいわゆる分析でございますが、当然分析は単年度のみではございますが、分析もしてございます。あと、次の経常収支の話でございます。もう少し詳細に記載するべきではないかということでございます。確かに我々といたしましては、当初予算編成時のそういった取組によって若干削減したものとは思っておりますが、やはり大きな要因としてはコロナ禍の、さらには交付税が増加されたというようなことが大きな要因であることを我々も分析してございますが、内部の評価としましては、職員に対してのそういった上限枠を示したり、各予算編成時に各部署、各職員においてコスト意識を持って取り組んだ結果、指標が下がったというようなことも成果として見ていただきたいということがございました。今後、そういった表記の際には、ぜひそういったことも含めましてできるだけ正確に書けるようなことで取り組んでまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　これで根本謙一委員の質疑は終わりました。

次の施策に移ります。施策ナンバー７－２、効率的な行政運営について、12番、根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　効率的な行政運営について質疑させていただきます。

成果指標①の分析において、職員の各研修等の効果、成果としておりますけれども、私は総合案内係を含む民間委託の効用が大きいとを考えております。認識を伺いたいと思います。

また、成果書指標②において、確かに現状値より増加しておりますけれども、目標値よりは随分低いと見えます。何がどんな無駄と思われているのかリサーチはしていくべきと考えるが、どのようにお考えか伺いたいと思います。

○委員長（星　　次君）　答弁、総務課長、金子吉弘君。

○総務課長（金子吉弘君）　それでは、お答えさせていただきます。

成果指標①の分析における認識についてでございますが、職員自体も接遇研修を通しまして窓口応

対力の向上に努めておりますが、窓口業務を受託している職員につきましては、町民と接する機会が最も多く、総合案内や各課への案内、また町民税務課での窓口対応などをその任務としておりまして、来庁時に最初に接する窓口応対者として丁寧な住民対応をいただいております。そうしたふだんの対応が指標の向上につながったものと認識しております。我々職員といたしましても、総合案内をはじめとする委託業者と相互に連携をしながら、継続して町民の立場に立った対応を行っていると感じていただけるよう、引き続き研修等を通じまして意識改革に努めてまいりたいというふうに考えております。

無駄のない行政サービスの提供のリサーチにつきましては、町民アンケートの自由意見や地域創生人口減少対策有識者会議をはじめとした町開催の会議等、機会を捉まえてご意見を頂戴しているところでございます。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　前段の部分ですけれども、町民皆さん、それから来庁される皆さんにとって、総合窓口は民間委託あるいは窓口の、いわゆる住民皆さんに対する窓口業務が民間委託だからどうのこうのという意識は全くないと思います。みんな町の職員だと思われているに違いないでしょう。そういう中で、これだけ評価が上がっているということは、私の耳には、総合案内の丁寧さ、腰の軽さの評判はすばらしいものがあります。私も当初、民間委託には賛成していませんでしたけれども、本当に成果は上がっているというふうに実感しております。ただ、実際に各課に行かれた後の住民の皆さんのあるお声の中にやっぱり厳しい意見はあります。この違いは課長も聞いているか聞いていないか確認したいですけれども、お耳に届いているかどうか確認させてください。

２点目ですけれども、ここが私不思議なのです。何を無駄だと思われているのかなというところがなかなか見えてこない。所管としては、そこをどう捉えているのかというところを私は伺ったつもりです。具体的に分からなかったら、やはりそこも分け入ってお聞きするしかない。皆さんは、無駄があるとは思っていないと思います。私どももそう多くの人思っているはずです。しかし、町民からすると無駄ではないのというところも感じるからこういう数値になっているわけですので、そこは少し分け入っていくべきだろうというふうに思いますけれども、考え方を伺います。

○委員長（星　　次君）　答弁、総務課長、金子吉弘君。

○総務課長（金子吉弘君）　それでは、再度のおただしにお答えをさせていただきます。

まず、１点目のいわゆる苦情、さらには厳しいご意見というふうなものが耳に届いているのかというふうな部分でございますが、これにつきましては委託業者のほうから毎日日報等を上げていただいております。さらには、エリアマネジャーを含めまして定期的に協議の場を設けさせていただいて、接遇に関してのいわゆる意識向上のための情報の共有と、さらには改善策を検討しているところでございます。ですので、そういった厳しいお声というものは確かに実感しているところでございます。

町職員の対応につきましても、厳しいご意見、さらには苦情等については承知しているところでございます。ただ、やはり我々職員といたしましても、そうした定期的な情報共有の中で、何が足らないのかというのを意識的に各課のほうに情報提供いたしまして、改善に向けて取り組んでいるところでございます。いずれにいたしましても、この接遇に関しましては、相手を思いやる、町民の方々を思いやる、そういう気持ちを持って接することが信頼関係の構築につながってまいるというふうに考えておりますので、今後につきましてもしっかりと研修等を通じましてそういう意識の啓発に努めてまいりたいというふうに考えておるところでございます。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　それでは、２点目でございます。

無駄のない行政サービスについてでございますが、これにつきましては先ほど答弁したとおり町民アンケートの自由意見などで伺っているというところでございます。そこの中には様々な意見がございます。我々職員の定数の話、多いのではないか、さらには夜中でも電気がこうこうとついているよというような情報なりの書き込みもございます。もう一点、地域創生人口減少の有識者会議におきましては、我々が今実施しております事業の効果検証を産官学の構成をもって検証をしてございます。そこの中でこの事業は有効であったのかどうかを検証していただくという組織ではございます。おただしのリサーチの仕方、アンケートの仕方でございますが、どういったことが無駄になるのかというようなことでございます。これ非常にアンケートの取り方は難しいのかなと思っております。自分に関心する事業、関心のない事業というのがございます。いわゆるそれは世代、年代によって異なります。なので、このアンケートについては非常に難しいのかなと思っておりますが、このアンケートはやはり町民の声を直接我々がいただくという一つの手法でございますので、この内容についても少し調査させていただきたいと考えてございます。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　根本委員に申し上げますが、質問事項を簡潔、明瞭に、答弁者に分かるようにお願いいたします。

根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　簡潔、明瞭と言われますけれども、具体的な事例的な内容も話ししないと私は伝わらないと思っています。ましてや窓口業務ですから。町民が感じている、あるいは見ている、体験していることによってのこの成果指標の結果ですから、それを言わなければ私は伝わらないと思っていますので、職員がそれでも分からないと言われればまた……

○委員長（星　　次君）　根本委員、それは根本委員の感じ方なので、それでなくて、体験したことでなくて、何が聞きたいのかということをもっと簡潔にお願いします。

○12番（根本謙一君）　では、この議論はやめます。

では、前段ですけれども、民間委託これからも進める検討をたしかされておりますよね。どこまで考えているのか伺いたいと思います。

２点目ですけれども、これは町民アンケートによる成果指標ですから、無駄があると思っているというところの数値ですから、やっぱりそこは調査の仕方はアンケート等で十分私は可能だと思います。そこをどう考えるかを伺いたいと思います。

○委員長（星　　次君）　答弁、総務課長、金子吉弘君。

○総務課長（金子吉弘君）　それでは、お答えいたします。

まず、１点目の民間委託の拡充についてのお話かと思いますが、これに関しましては今現在打合せの中でも拡充に関していかに広げられるかというふうな部分については検討しているところでございますが、ただどうしても役場の業務というものはなかなか委託にそぐわないような部分もございますので、それにつきましては相手方としっかり相談をさせていただいて、できる範疇での拡大というのは計画をしているところでございます。ただ、どこまでというふうな部分に関しましては、しっかりと相手業者と打合せを行い、決めていくというふうなことになりますので、今のところどこまでというふうなことについては申し上げられないというふうなことでございます。ご理解をいただきたいと思います。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　それでは、アンケートでございますが、確かにアンケートの質問の仕方、内容によってはかなりもう少し深く入った内容が聞けると思っておりますので、先進事例と申しますか、他の自治体の参考事例を基にしながら、もう少しこのアンケートの内容、調査の方法を検討させていただきたいと考えてございます。

○委員長（星　　次君）　これで根本謙一委員の質疑は終わりました。

次の施策に移ります。施策ナンバー７－３、町民参加の推進について、12番、根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　町民参加の推進について質疑をさせていただきます。

情報発信において、ホームページが核的であっても万能ではありません。成果指標の分析からも、より多くの町民の声を丁寧に聞き、分かりやすい説明を重ねる町民説明会の大事さを認識させられます。住民自治意識向上の仕掛けと涵養は、これからのより住みよいまちづくりに肝要と考えます。まず、このことについての認識を伺っておきたいと思います。

課題取組において、広報紙１日号と15日号の統合を決定しております。統合後の検証は考えているのか、また効率的かつ効果的な情報発信の意図は何かを伺います。

次に、ライン活用の意見募集について、実績と効果を伺いたいと思います。

○委員長（星　　次君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　それでは、お答えします。

町の様々な情報等の発信につきましては、現在ホームページと広報紙を中心に行っております。ＩＣＴ技術が発達した現在において、ホームページは必要なときに必要な情報を町民へ発信することができること、また町民が情報を取得することができるため、その重要性は年々高まっていると考えております。また、町民に対し直接説明し、声を直接聞くことができる町民説明会も、住民自治意識の向上やまちづくりにおいて非常に大切なものであると認識しております。情報には、災害情報など逐次状況が変化するものや長期的なまちづくりに関するものなど、様々なものがございます。それぞれの利点を生かしながら、効果的な情報の発信に努めてまいりたいと考えております。

次の広報紙１日号と15日号の統合後の検証につきましては、現在広報モニター３名の方からの意見や広報委員会内での問題点等を洗い出し、改善を行っているところでございます。また、今後におきましては、町民アンケートにおきまして、町民の皆様からのご意見を伺いながら、よりよい広報紙となるよう検証してまいりたいと考えております。

次の効率的かつ効果的な情報発信の意図につきましては、より多くの町民の方へ読んでいただける広報紙を目指しまして、イラストや写真の活用、文章のスリム化など、見やすい紙面構成にするとともに、広報紙内にホームページのＱＲコードの掲載や町公式ラインからホームページへつなげることなど、広報紙とホームページの連携を図りながら、効率的かつ効果的な情報の発信を行っていくものでございます。

次に、ラインの活用による意見募集の実績と効果につきましては、５件のパブリックコメントにおいて配信しております。広報紙、ホームページと併せ、より多くの方にお知らせできたものと考えております。なお、現在ラインの登録者数は９月上旬におきまして1,424人でございます。ラインは、町の情報をリアルタイムに、しかもダイレクトに配信できるツールであることから、今後も登録者数を増やし、有効に活用してまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　まず、１点目についてですけれども、広報紙統合して確かに内容はその分やはり分厚くなりましたし、中身は濃くなっております。ただし、町民側からすると、紙媒体による情報が月に１度に限られることから、リアルタイムな、あるいは地域的に必要な周知図りたいときの不便さ、その声をいただいております。この点については、どのように受け止められているか伺いたいと思います。

それから、この統合後の検証ですけれども、モニター３名の方、それから広報委員会のほうでしっかりやられる、それから町民からの意見もいただいていくということでされるのだなということで、その結果を待ちたいと思います。

３点目ですけれども、この効率的かつ効果的な情報発信、効果的な情報発信は分かるのですけれども、この効率的なというところで、ややもすると情報発信のタイムラグ、それを私はちょっと懸念さ

れるのではないかなというふうに思いますけれども、所管としてのご認識はいかがかなというふうに思います。

最後、４点目、ラインですけれども、この効用は私はまだまだ周知が不十分だというふうに思うところございます。1,424人の登録の方、私はもっともっと活用していただく必要があるのではないかなと思いますけれども、一層の努力が必要かなと思います。ご認識を伺いたいと思います。

○委員長（星　　次君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　それでは、お答えいたします。

まず、１点目の広報紙がいわゆる２回を１回にしたことによってタイムリーな情報が出ないのではないかという話でございますが、現在、先ほどもお答えしましたが、３名ではございますが、モニターさんのほうからいろんな意見はいただいております。町のほうには、そういったお声はちょっと聞いていないというのが現状でございます。例えば１回になったことによるそういったタイムリーな情報が届かないのではないかというのは、ちょっと声が届いていないというような状況でございます。これは、今後の町民アンケートによってもう少し分かるのかなと思ってございますが、そういったお声があるのであれば、ぜひ町のほうにもおつなぎいただければ幸いでございます。

あと、ダブりますが、モニター今３名の方お願いしております。各地域に１名ずつということでお願いしておりますが、紙面の内容、さらには造り、毎月いろいろな様々な意見をいただいております。ちょっと一例を申し上げますが、２回が１回になったことによってやはり情報量が非常に多くて、もう少し見やすい紙面にするべきだろうというのが多い意見でございました。そのため、町は先ほど広報委員会の中でもう少し分類の仕方とか文章のスリム化を進めていきたいということで今取り組んでいるところでございます。

あと、効率的、ここタイムラグというようなことではございますが、やはり広報紙で全ての情報というのは担当課としても無理であるというようなことは考えてございます。ただし、これまで１日号と15日、２回やっておりましたが、職員のほうには事前に、これまでであれば15日でも広報で載せていた内容も１日に載せることにしたことにより、より先の計画なり紹介ができているというような状況でございます。ですので、タイムラグというのについては町内においてはないのかなと思ってございます。

最後のラインの活用でございます。現在1,400人少し今なっているところでございます。始まって約１年半くらいを今過ぎているというような状況でございます。そして、もう少し多くの方にラインを登録していただければ、こちらから直接発信もできますので、このラインの普及に関しては積極的に取り組んでいきたいと考えてございます。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　１点申し上げたいと思います。

いわゆるホームページ、よく町のほうでホームページに載せていますという常套句言われますけれども、ではインターネット使える人口がどれだけあるのだかというので正確な数字はつかんでないはずですよね。想定の中でのお話だというふうに過去の質疑で伺っていると思います。特に高齢者の方々にとっては、紙媒体も重要な情報元だと。町としての情報提供の大事な部分だという認識があるのとないのではやっぱり対応が違ってくる。そこのところもう少し丁寧に考える必要があるのではないかなというのが趣旨でございますので、再度の確認そこはさせていただきたいと思います。

○委員長（星　　次君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　確かに先ほどお答えしましたが、広報紙とホームページの連携を今現在積極的に進めております。実際ホームページを御覧いただけない方もいらっしゃるというようなことでございます。確かに広報紙だけの紙面では、全ての情報を載せるということは、これは不可能でございます。現在の広報紙の形態になったのは、令和２年、３年度におきまして会津大学の短期学部の調査研究により報告で上がったものでございます。そこの中で、町民の多くの方にとっては、広報紙はやはり一番情報を得るツールであるということで報告をいただいております。ただし、その内容でございますが、あまり詳しい内容であるとなかなか読んでいただけないというのも調査結果で上がったところでございます。当然必要な情報は広報紙のほうで流します。さらにそれ以上の詳しい内容については、ホームページ、さらには直接我々職員のほうにお電話なりお越しいただくなりの対応をしていただければという対応で考えてございます。今後も、広報紙、さらにはホームページの内容の充実には努めて、情報の発信には努めてまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　これで根本謙一委員の質疑は終わりました。

以上で政策名、町民に信頼される行政の推進に関する質疑は終了しました。質疑漏れはございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（星　　次君）　なしの声がありますので、以上で町民に信頼される行政の推進に関する質疑は終了します。

以上で通告された質疑は全部終了いたしました。

ここで施策に対する質疑を終了いたします。

説明員入替えのために暫時休憩いたします。

休　憩　　（午前１１時４４分）

再　開　　（午前１１時４８分）

○委員長（星　　次君）　再開します。

続きまして、総括質疑に入ります。質疑者は挙手にてお願いします。

12番、根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　１点お願いしたいと思います。

不用額の分析についてです。分析する際に款と節のクロス表を作って、本当に適切な予算の執行あるいは予算の積算根拠に基づくものをされているのかなというところ大事だと思います。そういう意味合いで分析をされているのかどうなのか、されているとしたら令和３年度は何が課題で何が特徴的に見えるのか答弁をお願いします。

○委員長（星　　次君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　それでは、お答えします。

不用額でございます。本年度も多額の不用額が発生しているという状況ではございます。それの分析でございますが、確かに不用額の分析はしてございます。この一つの課題といたしましては、やはり当初予算の編成時に分析をしながら、予算計上額の根拠、さらにはその内容を踏み込んで予算を作成していくということが肝要であると考えてございます。

以上でございます。

〔「課題と特徴」と言う人あり〕

○政策財政課長（國分利則君）　失礼いたしました。課題と特徴というところでございますが、課題、特徴でございますが、１つは扶助費、さらには補助費等の残が非常に多かったというようなことが特徴的だと思っておりますので、それにつきまして次年度の予算編成時に再度検証しながら、なるべく不用残が出ないような方法で予算をつくっていきたいと考えてございます。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　私は、分析をしているのか、いないのか、クロス表を作っているとよく分かりやすいと思われるけれども、分析をしているのか、していないのか、しているとしたらどういう課題を見ているのか、どんな特徴を捉えているのかということを聞いたのです。今の答弁になっていますか。

○委員長（星　　次君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　委員長、１点よろしいでしょうか。

○委員長（星　　次君）　はい。

○政策財政課長（國分利則君）　クロス表というのはどういったことを表現しているのか、ちょっとお願いします。

〔「款と節で数字を落とし込んでいくんですよ。そうすると、款の部分ね、款に対して何が一番予算化されているにもかかわらず執行率が低いのかとか、そういうのが一覧で見れるわけですよ。クロス表。存じ

上げなかったら仕方ないですけど。ですから、じゃクロス表云々よりも、分析をしているのか、していないのか」と言う人あり〕

○委員長（星　　次君）　再度答弁、政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　それでは、款と節、クロス表というようなことでは分析はしてございませんが、確かに分析はしてございます。その結果、特徴的なものとして扶助費、補助費等の残額が多かったという結果に至っております。なので、次年度につきまして、来年度の当初予算編成時にその辺を詳しく積算をして予算編成に臨みたいということでございます。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　根本謙一委員。

○12番（根本謙一君）　私どうしてこれを質疑させてもらっているかといいますと、３年度は４億2,000万です。コロナ禍の影響もあってということ。２年度は、当然コロナ禍ですので、４億2,000万、不用額。令和元年度は、たしか３億円台だったと思います。そして、その前は１億4,000万ぐらいの額だったと思います。だから、特段にどんと上がっているのです。これは、コロナ禍の影響多いのですけれども、ただし需要額とか物件費とか、そういう部分で細かく見ると、本当に積算根拠ちゃんとやれて上がってきているのかという、その検証が必要になってくると私は思っています。だから、その部分でクロス表は有効な一つの基礎資料になるので、伺った次第です。再度。

○委員長（星　　次君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　ただいまのご質問でございますが、まず今般の議会に際しまして、令和３年度の決算資料として、委員長、資料を提示させていただいてよろしいでしょうか。

○委員長（星　　次君）　できますか。

○政策財政課長（國分利則君）　はい。よろしいですか。

○委員長（星　　次君）　はい。それでは、お願いします。

○政策財政課長（國分利則君）　こちらの、ちょっと見づらいのですが、認定第１号としまして、決算の資料ということで、不用額の執行状況に関する説明書というのを提出しております。ここの中で、先ほど説明いたしました不用残額が多いものについて、ここにその残の金額、さらにはその説明ということで書かせていただいております。これは、我々としましては分析の一つと考えてございますので、ご理解をいただきたいと思っております。

以上でございます。

○委員長（星　　次君）　ほかに質疑ございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（星　　次君）　なしの声がありますので、以上で認定第１号　令和３年度会津美里町一般会計歳入歳出決算認定の質疑は終了いたします。

お諮りします。本日はこれにて延会としたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○委員長（星　　次君）　異議なしの声がありますので、異議なしと認め、本日はこれにて延会いたします。

延　会　　（午前１１時５５分）

決 算 特 別 委 員 会

（第　６　日）

令和４年会津美里町議会（決算特別委員会）

第６日

令和４年９月２６日（月）午後２時００分開議

委員長	星　　次　君	副委員長	長嶺一也　君

○出席委員（１４名）

１番	櫻井幹夫　君	９番	渋井清隆　君
２番	大竹　惣　君	１０番	星　　次　君
３番	渡辺葉月　君	１１番	堤　　信也　君
４番	荒川佳一　君	１２番	根本謙一　君
６番	長嶺一也　君	１３番	根本　剛　君
７番	村松　尚　君	１４番	横山義博　君
８番	小島裕子　君	１５番	鈴木繁明　君

○欠席委員（なし）

○説明のため出席した者

町長	杉山純一	君	
副町長	佐々木吉一	君	
総務課長	金子吉弘	君	
政策財政課長	國分利則	君	
町民税務課長	猪俣利幸	君	
健康ふくし課長	平山正孝	君	
会計管理者	松本由佳里	君	
産業振興課長	小林隆浩	君	
建設水道課長	鈴木明利	君	
教育長	歌川哲由	君	
こども教育課長	渡部雄二	君	
生涯学習課長	福田富美代	君	
代表監査委員	小島隆一	君	

○事務局職員出席者

事務局長	児	島	隆	昌	君
総務係長	歌	川	和	仁	君

開　議　　（午後　２時００分）

○委員長（星　　次君）　これから本日の会議を開きます。

決算特別委員会６日目を行います。令和３年度会津美里町一般会計歳入歳出決算認定に係る提言書（案）についてお諮りいたします。

お手元に配付しました提言書（案）について、委員間討議により共通認識を図りたいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○委員長（星　　次君）　なしと認めます。

それでは、配付してございます提言書（案）について何かご意見ございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（星　　次君）　なしの声がありますので、以上で委員間討議を終了いたします。

ここで執行部入室のため、暫時休憩します。

休　憩　　（午後　２時０１分）

再　開　　（午後　２時１５分）

○委員長（星　　次君）　再開いたします。

町執行部の政策財政課長、庁舎外におりまして、まだ戻る可能性ないので、戻り次第再開したいと思いますので、引き続き休憩いたします。

休　憩　　（午後　２時１６分）

再　開　　（午後　２時２２分）

○委員長（星　　次君）　再開いたします。

皆様にこういうふうに遅れた事態について詳細に町長及び本人から答弁していただきますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。

それでは、町長、杉山純一君。

○町長（杉山純一君）　委員の皆様には、特別委員会の開会定刻まで、政策財政課長、議場に到着しなかったと、私も大変遺憾でありますけれども、詳しい内容については政策財政課長から申し上げますが、このたび大変申し訳ありませんでした。おわびを申し上げます。

○委員長（星　　次君）　それでは、政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　このたびは、遅れてしまいまして大変申し訳ございませんでした。公務といいまして、１日の只見線開通に向けての公務が若干延びてしまいまして、大変申し訳ございませんでした。貴重な時間を遅らせてしまいました。以後このようなことがないように徹底してまいります。本当申し訳ございませんでした。

○委員長（星　　次君）　根本委員。

○12番（根本謙一君）　今の政策財政課長の釈明ですけれども、マイクから離れていることもありまして、あまり聞き取れていません。しっかり再度マイクを使って皆さんに分かるように釈明すべきだと思います。本来の理由が分かりません。

○委員長（星　　次君）　ただいまの根本委員の意見を尊重し、再度、政策財政課長からマイクを使って説明を求めますので、よろしくお願いいたします。

政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　それでは、改めましておわび申し上げます。

本日は、時間に遅れてしまい、誠に申し訳ございませんでした。本日、只見線開通の準備のため遅れてしまいまして申し訳ございませんでした。皆様の貴重なお時間をこういった形で割いてしまったこと誠に申し訳ございません。以後こういったことのないように注意してまいります。申し訳ございませんでした。

○委員長（星　　次君）　令和３年度会津美里町一般会計歳入歳出決算認定に係る提言書（案）についてお諮りいたします。

お手元に配付しました提言書（案）を議長に報告したいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○委員長（星　　次君）　異議なしと認めます。

それでは、提言書にあります「(案)」を削除し、議長へ報告することに決しました。

それでは、これより認定第１号に対する討論を行います。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（星　　次君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより認定第１号を電子採決によって採決いたします。

本案を原案のとおり認定することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各委員投票〕

○委員長（星　　次君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（星　　次君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり認定されました。

これで本委員会に付託されました議案の審議が終了しました。

○副委員長（長嶺一也君）　これで令和４年会津美里町議会定例会９月会議決算特別委員会を閉会します。

閉　会　　（午後　２時２７分）

定 例 会 ９ 月 会 議

（第 ５ 号）

令和４年会津美里町議会定例会９月会議

議事日程　第５号

令和４年９月２７日（火）午前１０時００分開議

第　１　常任委員会委員長の報告
第　２　決算特別委員会委員長の報告
第　３　認定第　１号　令和３年度会津美里町一般会計歳入歳出決算認定について
第　４　認定第　２号　令和３年度会津美里町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について
第　５　認定第　３号　令和３年度会津美里町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について
第　６　認定第　４号　令和３年度会津美里町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について
第　７　認定第　５号　令和３年度会津美里町工業団地造成事業特別会計歳入歳出決算認定について
第　８　認定第　６号　令和３年度会津美里町住宅用地造成事業特別会計歳入歳出決算認定について
第　９　認定第　７号　令和３年度会津美里町水道事業会計決算認定について
第１０　認定第　８号　令和３年度会津美里町下水道事業会計決算認定について
第１１　認定第　９号　令和３年度永井野財産区特別会計歳入歳出決算認定について
第１２　議案第５４号　会津美里町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例
第１３　議案第５５号　会津美里町税条例等の一部を改正する条例
第１４　議案第５６号　会津美里町地方活力向上地域における固定資産税の不均一課税に関する条例の一部を改正する条例
第１５　議案第５７号　会津美里町議会議員及び会津美里町長の選挙における選挙運動の公営に関する条例の一部を改正する条例
第１６　請願第　１号　只見線が地域に活力を与えるような列車運行をめざし、ＪＲ東日本により良いダイヤ改正を求める請願について

本日の会議に付した事件

第１６まで同じ

追加日程第１　発議第３号　只見線が地域に活力を与えるような列車運行をめざし、ＪＲ東日本により良いダイヤ改正を求める意見書

○出席議員（１６名）

１番	櫻井幹夫君	９番	渋井清隆君
２番	大竹惣君	１０番	星次君
３番	渡辺葉月君	１１番	堤信也君
４番	荒川佳一君	１２番	根本謙一君
５番	山内豪君	１３番	根本剛君
６番	長嶺一也君	１４番	横山義博君
７番	村松尚君	１５番	鈴木繁明君
８番	小島裕子君	１６番	横山知世志君

○欠席議員（なし）

○説明のため出席した者

町長	杉山純一	君	
副町長	佐々木吉一	君	
総務課長	金子吉弘	君	
政策財政課長	國分利則	君	
会計管理者	松本由佳里	君	
町民税務課長	猪俣利幸	君	
健康ふくし課長	平山正孝	君	
産業振興課長	小林隆浩	君	
建設水道課長	鈴木明利	君	
教育長	歌川哲由	君	
こども教育課長	渡部雄二	君	
生涯学習課長	福田富美代	君	
代表監査委員	小島隆一	君	

○事務局職員出席者

事務局長	児島隆昌	君	
総務係長	歌川和仁	君	

開　議　　（午前１０時００分）

○開議の宣告

○議長（横山知世志君）　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりであります。

○常任委員会委員長の報告

○議長（横山知世志君）　日程第１、常任委員会委員長の報告を議題といたします。

初めに、総務厚生常任委員会委員長、星次君、報告願います。

〔総務厚生常任委員長（星　　次君）登壇〕

○総務厚生常任委員長（星　　次君）　それでは、令和４年９月会議総務厚生常任委員会委員長の報告を申し上げます。本委員会は、９月５日に論点抽出を行いましたが、論点はありませんでした。さらに、９月９日の総括質疑応答後にも論点整理表は提出されませんでした。よって、論点はなしとしました。

令和４年９月16日午前10時より本庁舎議場において委員全員、所管課、議会事務局同席の下、総務厚生常任委員会を開催しました。本委員会に付託された案件は、認定５件、議案４件、請願１件であります。審査の結果はお手元に配付されているとおりでありますので、件名を省略し、認定及び議案番号にて報告いたします。

初めに、認定第２号では、委員より、特定健診委託料で全体の受診者数は何人かという問いに、当局から、集団健診は1,658名、施設健診については334件となっているとの答弁されました。また、予備費の内訳の問いに、高額となる給付費に充当するとの答弁がされました。ほかにも質問がありましたが、討論はなく、採決の結果、賛成全員で原案のとおり認定されました。

認定第３号では、委員より、要介護委託料の不用額についての問いに、当局から、コロナ禍のために調査ができなく、書面で更新したとの答弁がされました。また、保険者機能強化推進交付金と関連して保険者努力支援交付金の内容についての問いに、当局から、高齢者の自立支援、重度化予防事業に関する取組について支援する交付金であります。また、保険者努力支援交付金については、介護予防、健康づくり等に資する取組について支援する交付金であるとの答弁がされました。ほかにも質問がありましたが、討論はなく、採決の結果、賛成全員で原案のとおり認定されました。

認定第４号では、質疑はなく、採決の結果、賛成全員で原案のとおり認定されました。

認定第６号では、委員より、土地売払い収入が１件ありましたが、どこの場所なのかの問いに、当局から、番号で申し上げますと66番で、南側に位置したところですとの答弁がされました。ほかにも質問がありましたが、討論はなく、採決の結果、賛成全員で原案のとおり認定されました。

認定第９号では、委員より、どこの場所をどのように管理しているのかの問いに、当局から、蛇喰地区で23.5ヘクタールを管理しているとの答弁がされました。討論はなく、採決の結果、賛成全員で

原案のとおり認定されました。

議案第54号では、委員より、育休の該当者は何人なのか、またその職員の代替はどのような措置をしているのかの問いに、当局より、該当者は３名で、会計年度職員の採用で対応していますとの答弁がされました。討論はなく、採決の結果、賛成全員で原案のとおり可決されました。

議案第55号では、質疑はなく、採決の結果、賛成全員で原案のとおり可決されました。

議案第56号では、委員より、標準税率はどのくらいなのかの問いに、当局より、1.4％ですとの答弁がされました。

議案第57号では、委員より、改正により町の負担はどれくらい増えるのかの問いに、当局より、正確な数字は把握していないとの答弁がされました。

請願第１号では、紹介者の大竹惣議員より……

〔「結果言っていない、結果。56、57結果」と言う人あり〕

○総務厚生常任委員長（星　　次君）　56号では、採決の結果、賛成全員で原案のとおり可決されました。

議案第57号では、採決の結果、賛成全員で原案のとおり可決されました。

請願第１号では、紹介者の大竹惣議員より内容の説明を受け、その後、委員より、請願書の文書の中で「最終列車を利用した場合、降車時間帯が児童生徒にとって深夜徘回の時間帯」とあるが、ここの文章を訂正できないのかの問いに、紹介者より、請願者へ内容を見直せないのか話しますとの答弁がありました。また、学生がもっと利用しやすい時間帯に改正してはどうか、そして高校のＰＴＡからの意見も聞いたらよいのではないかの問いに、請願者に伝えますとの答弁がされました。討論はなく、採決の結果、賛成全員で意見書案のとおり採択されました。

以上で令和４年９月会議総務厚生常任委員会の委員長の報告を終わります。

○議長（横山知世志君）　これより委員長報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　質疑なしと認めます。

続いて、産業教育常任委員会委員長、根本謙一君、報告願います。

〔産業教育常任委員長（根本謙一君）登壇〕

○産業教育常任委員長（根本謙一君）　それでは、これより産業教育常任委員会の報告を申し上げたいと思います。

去る９月16日午前10時より常任委員会室において、委員７名、所管課、議会事務局出席の下、委員会を開催いたしました。議案の審議に入る前に、議会選出監査委員である山内豪委員には、申合せにより決算特別委員会に準じて退席をしていただきました。さて、本委員会に付託されました案件は認定３件です。なお、今回の付託案件について論点整理表の提出はなく、論点がなかったことを報告申

し上げます。審議の結果については、お手元に配付されているとおりでありますので、案件名を省略し、認定番号にて報告いたします。

まず、認定第５号について、委員より、歳入の不動産売払収入4,500万円が減額になっているが、販売予定先に売却できなかったからか、同じ事業者に固執している必要はないのではないか、いかがかとの問いに、当局より、当該用地については町内製造業者から申込みをいただいているが、今年７月の話合いでは、コロナ禍において事業拡大の見通しが立たないとのことで購入が遅れている。今年は難しいので、来年には結論を出したいとのことです。なお、この事業者に固執する必要はないのではないかとのご指摘には、そのとおりだと思うので、ほかに購入希望がある場合は、既に申請済みの事業者に確認しながら進めていきたいとの答弁がありました。また、委員より、売却の見通しはいつ見極めるのか。見通しがつかないのであれば、ほかの対応、呼び込みも必要ではないかとの問いに、当局より、そのとおりだと思うので、当該企業に確認しながら進めていきたい。当該企業は、県の補助金交付決定を受けている。期限は令和元年度から令和５年度までになっているので、今後確認しながら適切に対応していきたいとの答弁がありました。ほかにも質疑ありましたが、討論はなく、採決の結果、賛成全員により本案は原案のとおり認定となりました。

次に、認定第７号について、委員より、前年度と比較して有収率が減少しているが、漏水が原因なのか。漏水調査をしているが、どうなのかとの問いに、当局より、有収率は76.02％であり、前年比で4.46％下がっている。高田地域8.52％減少、本郷地域1.64％増加、新鶴地域1.65％減少である。漏水は頻発していて、毎年地域別に調査を実施している。特に漏水の多い高田地域で２回調査を実施している。原因は特定できず、毎年検査しながら有収率を上げていきたいとの答弁がありました。さらに、委員より、責任水量については範囲内か。受水量が超過したのは何回あったのか。漏水調査を徹底し、全力を挙げて有収率を上げていくべきではないかとの問いに、当局より、夏場に超過となることが多い。昨年は高田地域で１回あり、原因として考えられることは11月８日の高田西勝地域においての本管漏水と思われ、責任水量5,400立方メートルのところ、82立方メートルの超過量でした。漏水を止めることが一番なので、地域に合った対応で有収率の向上に努めていきたいとの答弁がありました。また、委員より、有収率が広域で高いところは96から98％である。本町の低い原因は何か。原因特定のため調査、分析をしてもらいたいとの問いに、当局より、本町は有収率80％を目標にしている。漏水は一つの原因だが、工事の在り方、老朽化などが考えられるが、原因の特定は困難である。これからも調査、検討していきたいとの答弁がありました。次に、委員より、以前は厳しかった経営が努力をして利益を出している。今後の水道事業経営の見通しはどうかとの問いに、当局より、経営は資金も増加し、今のところよい状態だが、今後老朽管更新工事も20年程度かかり、機械設備等の更新も控えており、今から積立てをしていく。５年間は大丈夫かと考えているとの答弁がありました。ほかに質疑はなく、討論もなく、採決の結果、賛成全員により本案は原案のとおり認定となりました。

次に、認定第８号について、委員より、固定費はかかるのに接続率が伸びていない。これを上げな

いと固定費とのバランスが取れなくなる。農業集落排水事業は、接続人口における接続率でマイナスになっている。原因は何かとの問いに、当局より、接続率は水洗化人口を処理区域内人口で割ることで算出します。域内人口の減少によって接続率が伸びていない状況であり、収入減にもなっている。機会を持って接続を進めているが、コロナ禍の経済情勢もあり厳しい状況で、接続率が伸びない一因と推測していますとの答弁がありました。さらに、委員より、常々の接続促進ＰＲを進めていくべきではないかとの問いに、当局より、毎年少しずつではあるが、接続件数は増加しています。接続促進については、建設水道課のみならず、職員全体、議会議員の協力を得ながらＰＲしていくよう努めたいとの答弁がありました。ほかに質疑はなく、討論もなく、採決の結果、賛成全員により本案は原案のとおり認定となりました。

以上をもって産業教育常任委員会の報告を終わります。

○議長（横山知世志君）　これより委員長報告に対する質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　質疑なしと認めます。

以上で常任委員会委員長報告を終わります。

○決算特別委員会委員長の報告

○議長（横山知世志君）　日程第２、決算特別委員会委員長の報告を議題といたします。

本件についての委員長報告は、別紙報告書のとおりであります。

お諮りいたします。委員長の報告は、会議規則第41条第３項の規定により省略したいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

よって、決算特別委員会委員長の報告は省略することに決しました。

○認定第１号の議題、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第３、認定第１号　令和３年度会津美里町一般会計歳入歳出決算認定についてを議題といたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより認定第１号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を委員長報告のとおり認定することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり認定されました。

○認定第２号の議題、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第４、認定第２号　令和３年度会津美里町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定についてを議題といたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより認定第２号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を委員長報告のとおり認定することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり認定されました。

○認定第３号の議題、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第５、認定第３号　令和３年度会津美里町介護保険特別会計歳入歳出決算認定についてを議題といたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより認定第３号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を委員長報告のとおり認定することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり認定されました。

○認定第４号の議題、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第６、認定第４号　令和３年度会津美里町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定についてを議題といたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより認定第４号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を委員長報告のとおり認定することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり認定されました。

○認定第５号の議題、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第７、認定第５号　令和３年度会津美里町工業団地造成事業特別会計歳入歳出決算認定についてを議題といたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより認定第５号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を委員長報告のとおり認定することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり認定されました。

○認定第６号の議題、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第８、認定第６号　令和３年度会津美里町住宅用地造成事業特別会計歳入歳出決算認定についてを議題といたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより認定第６号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を委員長報告のとおり認定することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり認定されました。

○認定第７号の議題、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第９、認定第７号　令和３年度会津美里町水道事業会計決算認定についてを議題といたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより認定第７号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を委員長報告のとおり認定することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり認定されました。

○認定第８号の議題、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第10、認定第８号　令和３年度会津美里町下水道事業会計決算認定についてを議題といたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより認定第８号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を委員長報告のとおり認定することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり認定されました。

○認定第９号の議題、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第11、認定第９号　令和３年度永井野財産区特別会計歳入歳出決算認定についてを議題といたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより認定第９号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を委員長報告のとおり認定することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり認定されました。

○議案第５４号の議題、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第12、議案第54号　会津美里町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例を議題といたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより議案第54号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を委員長報告のとおり決することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

○議案第５５号の議題、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第13、議案第55号　会津美里町税条例等の一部を改正する条例を議題といたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより議案第55号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を委員長報告のとおり決することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

○議案第５６号の議題、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第14、議案第56号　会津美里町地方活力向上地域における固定資産税の不均一課税に関する条例の一部を改正する条例を議題といたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより議案第56号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を原案のとおり決することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

○議案第５７号の議題、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第15、議案第57号　会津美里町議会議員及び会津美里町長の選挙における選挙運動の公営に関する条例の一部を改正する条例を議題といたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより議案第57号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を委員長報告のとおり決することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

○請願第１号の議題、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第16、請願第１号　只見線が地域に活力を与えるような列車運行をめざし、ＪＲ東日本により良いダイヤ改正を求める請願についてを議題といたします。

これより討論に入ります。

まず、請願に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより請願第１号を電子採決システムにより採決いたします。

この請願を委員長報告のとおり採択することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、請願第１号は原案のとおり採択されました。

ただいま10番、星次君より追加議案の申出がありました。ここで議会運営委員会及び全員協議会開催のため、暫時休憩いたします。

休　憩　　（午前１０時３３分）

再　開　　（午前１１時３０分）

○議長（横山知世志君）　再開いたします。

○日程の追加

○議長（横山知世志君）　ただいま追加送達された事件は、10番、星次君からの発議第３号の１議案であります。

お諮りいたします。本日はこれを日程に追加し、議案を別紙追加付議事件一覧表のとおり上程し、提案者からの説明を求めたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

よって、ただいま宣告のとおり議事を進行いたします。

○発議第３号の議題、説明、質疑、討論、採決

○議長（横山知世志君）　追加日程第１、発議第３号　只見線が地域に活力を与えるような列車運行をめざし、ＪＲ東日本により良いダイヤ改正を求める意見書を議題といたします。

本件に対する提案者からの趣旨説明を求めます。

10番、星次君。

〔10番（星　　次君）登壇〕

○10番（星　　次君）　それでは、私から趣旨説明をさせていただきます。

発議第３号　只見線が地域に活力を与えるような列車運行をめざし、ＪＲ東日本により良いダイヤ改正を求める意見書について、別紙のとおり会津美里町議会会議規則第14条の規定により提出いたします。

趣旨を申し上げます。来る10月１日は、いよいよもって只見線が全線再開通となる運びとなり、只見線沿線の住民はもちろん、会津地域、福島県民の大きな喜びとなったところであります。しかしながら、ダイヤが発表されたところ、豪雨前のそれとほぼ同様の内容であり、今回のダイヤは利用者のニーズには合っていなく、同時に観光利用客には乗車しにくいダイヤであります。只見線は、日本を代表する観光路線鉄道であり、通学者をはじめ、地域住民にとって欠かせない、かけがえのない重要な生活路線であります。よって、地域住民をはじめ、通学者、さらには観光客のニーズに合ったダイヤの実現に向け、地方自治法第99条の規定に基づき、意見書に記載の３項目について提出するものです。

提出先に当たっては、福島県知事、福島県議会議長、会津総合開発協議会会長、只見線活性化対策協議会会長、福島県鉄道活性化対策協議会会長であります。

以上、議員各位のご賛同のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

○議長（横山知世志君）　説明が終わりました。

これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。

まず、本件に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより発議第３号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を原案のとおり決することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり決しました。

○散会の宣告

○議長（横山知世志君）　以上をもちまして本定例会９月会議に付議されました案件の審議は全て終了いたしました。

これで令和４年会津美里町議会定例会９月会議を散会いたします。

散　会　　（午前１１時３５分）

上記会議のてんまつを記録し、相違ないことを証するため署名する。

令和４年　　月　　日

議　　長　　横　　山　　知　世　志

議　　員　　荒　　川　　佳　　一

議　　員　　山　　内　　　　豪